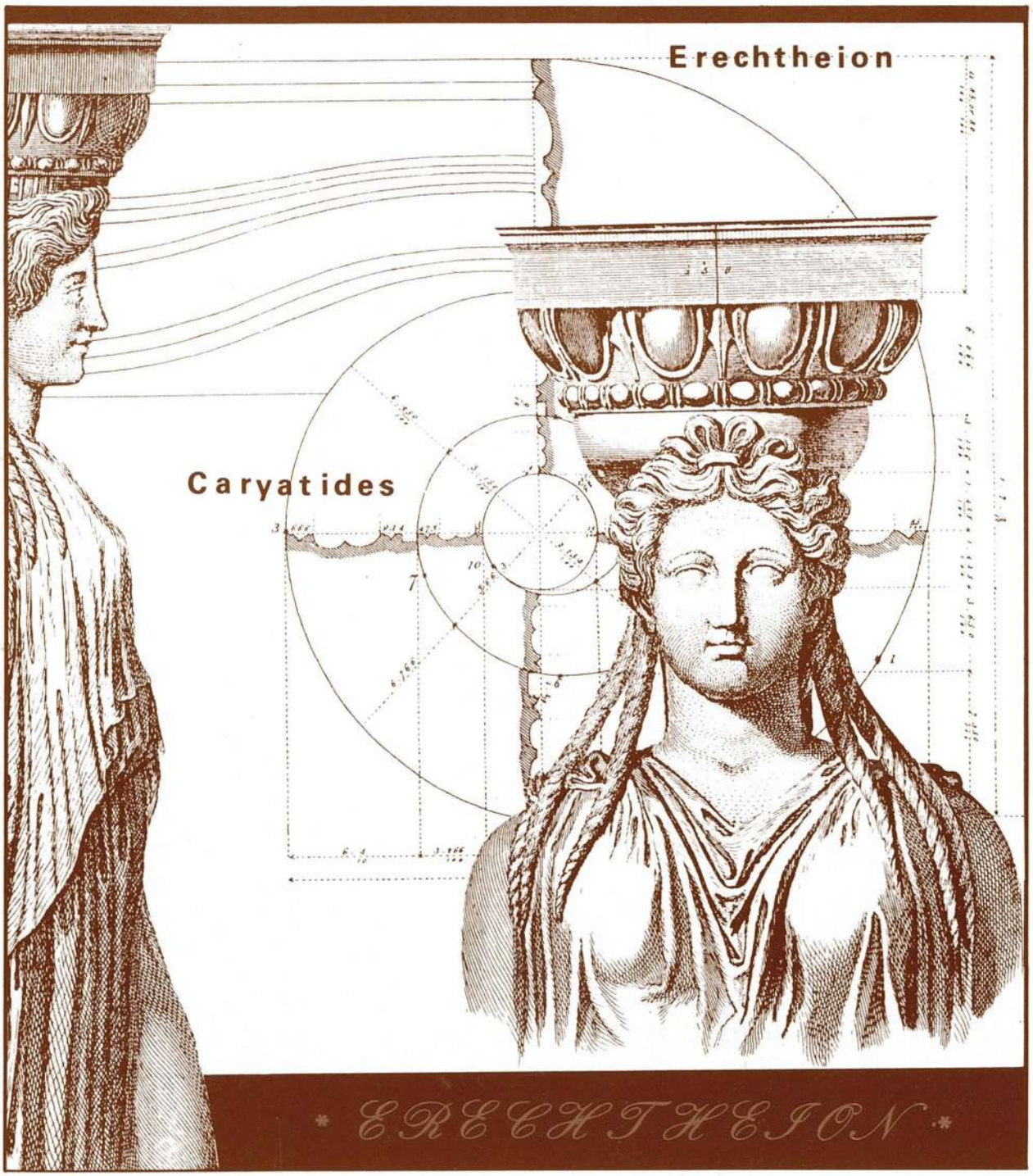
昭和55年7月25日発行　毎月1回25日発行　昭和24年3月19日第3種郵便物認可

建築と社会

特集●都市景観とアメニティ

1980
VOL.61
通巻
700号
7



ARCHITECTURE AND SOCIETY

日本建築協会

日本の住まいにエックス

プラスXの時代



給湯も暖房もやっぱりガス

お湯と暖房をひとまとめにしたエックスは、
総合熱効率の優れた都市ガスを
ムダなく上手に使うエコノミーシステムです。
そのシンプルなしくみでご好評をいただき、
マンションなどの集合住宅をはじめ、
一戸建の分譲住宅、それに注文住宅と、
ご採用件数もすでに40,000戸を数えています。



給湯 暖房
ガス & シンプルシステム
エックス

大阪ガス

エックスでまとめてみませんか、お湯と暖房。

●シャワーが使えて、10室まで暖房できます。

お台所はもちろん、シャワーやお風呂、洗面所などでお湯が使えて、同時にお部屋では清潔な温風暖房が楽しめる…。「エックス」は日本の暮らしに合わせたひと味ちがう給湯・暖房システムです。しかも、新配管方式の採用で、あとからでも簡単に暖房する部屋を増やしていけます。

●ムダをはぶいて、ガスを効率よく使います。

「エックス」は暖房や給湯の使用状態に合わせてガスの消費量を自動的に調節する新しい燃焼方式を採用。また、使わない部屋まで暖房するといったムダもなくなりました。このように、システムの効率をアップすることで、暖房費を極力おさえています。

●お求めやすいパック価格で発売します。

〔パック価格の例〕 13号タイプ放熱器は固定型〔49-875型〕

暖房室数・給湯箇所	新築の場合	既築の場合
2室暖房・3カ所給湯	540,000円	610,000円
3室暖房・3カ所給湯	625,200円	695,200円
4室暖房・3カ所給湯	710,400円	780,400円

※上記のプラン以外に暖房室数や給湯箇所にあわせて各種パック価格があります。

※パック価格に含まれないガス工事や電気工事などの別途工事もあります。

※エックスについてのご相談は、大阪ガス住設機器特約店、大阪ガスサービスショップ、大阪ガス風呂ショップをご利用ください。

資料請求券
エックス
雑誌K

カタログをご希望のかたは、
請求券をハガキに貼り、
下記までお送りください。
〒541 大阪市東区平野町5-1
大阪ガス営業開発部「エックス」係

建築と社会

©1917年創刊

通巻700号・第61集・1980

7

●エレクティオン神殿のカリアーテード

エレクティオン神殿は前421～405年に建造されたものであるが、アテネのアクロポリスにパルテノン神殿と並んで建っている。エレクティオンの南側の柱廊に女身柱カリアテードが附されている。これはペルシャ戦争のときギリシア軍への協力を拒んだカリアの人達に、ギリシャ側の勝利で終わった戦争の後、カリア人への罰として生涯頭の上に重いものをのせ、また女性は死ぬまで着ている衣服は取ってはならないとしたもので、その姿を柱に彫っている。

作品作風●

特集予告

■8月号/屋内体育施設の設備
■9月号/水ぎわのまちづくり
■10月号/今後の外装吹付仕上材
■11月号/第27回青年技術者・マンション

編集委員会（昭和55年度）

編集委員長
三輪　泰司

編集理事
秋田　満
井上　滉
今西　祥郎
窪田　祐
小林　清
竹中　錬一
武田　恭一
前野慶太郎
松村　慶三
松本　亮二
三輪　泰司
渡辺　忠

編集委員
（特集小委員会）
○酒井　貞
●計画分科会
小川　義夫
加藤　力
河目　浩吉
塩谷　寿翁
田中　直人
千葉　桂司
＊富樫　穎
中瀬　勲
中馬　博良
村上　元康
森　薫
山本　善積
吉岡　忠純
●構造分科会
河村　廣
小島　達男
佐藤　哲夫
坂　寿二
棚橋　秀光
＊横井　元昭
●設備分科会
表　康雄
梶井　宏宣
＊河津　隆之

澤柳　健
本田　陽保
森山　正和
●施工材料分科会
荒川　治徳
浦田　道広
岡田　善弘
＊三浦　康夫
村上　元彦
●法令分科会
＊隠岐　一三
桑田　繁男
（投稿欄小委員会）
大戸　寛
嘉積　俊一
木崎　博
○小北　博一
橋本　憲夫
（広告企画小委員会）
岩橋　一豊
上田　哲夫
岡本　弘之
鳴　昭夫
島田　民彦
棚橋　和夫
徳持　律夫
中河　克則
原田　常介
平松　利一
松尾　恭治
松本　亮二
山田　雄祐
○渡辺　忠
（作品作風小委員会）
○間野　洋三
小野　為一
喜多　隼紀
栄　真樹
田中　信重
高崎　尚昭
根来　淳一
能丸　弘毅
三宗　司郎

○印副委員長　＊印幹事

編集人　松井昭光
印刷　昭和55年7月20日
発行　昭和55年7月25日
発行人　吉田悦二
発行所　（社）日本建築協会
大阪市東区北浜3－37
電　06－231－9648
振替口座　大阪 39975
印刷所　大信印刷株式会社
電　06－451－7631㈹
日本写植印刷株式会社
電　06－606－1111㈹
売価　750円（送料別）

法令コーナー150
新建材紹介コーナー50
読者の頁
建築と社会ニュース
風土と建築
建築の眼
会告
特集●
総論
各論
紹介
若い会員の集いレポート
構造の頁72
設備の頁71
施工材料の頁70
月報

CONTENTS

JOURNAL OF THE ARCHITECTURAL ASSOCIATION OF JAPAN

ARCHITECTURE AND SOCIETY

特集・都市景観とアメニティ

SPECIAL FEATURES ON THE TOWNSCAPE & AMENITY

住友信託銀行千里事務センター……設計監理：日建設計……2
施工：鹿島建設・フジタ工業・鴻池組・住友建設共同企業体
姫路市新庁舎……設計：安井建築設計事務所……4
施工：本館：鹿島建設・新日本製鐵、別館：神崎組
神戸市新勤労会館……設計監理：神戸市住宅局営繕部・昭和設計……6
施工：熊谷組
友紘会病院……設計：東畑建築事務所……8
施工：淺沼組
芦屋春日コーポラス……設計施工：長谷川工務店……10
ジークレフ浜田……設計施工：長谷川工務店……14
メゾンフローラ……設計：泉沢建築設計事務所……16
施工：吉岡工務店
大阪市火災予防条例の一部改正について／渡辺紘一…17
『セレシット防水工法』／三河祐雄…19
中之島まつりの後で／高田昇．大阪をあんじょうする会／高田昇．書評「建築徒然草」「続建築徒然草」／山田修…21
ポートピア・トピックスその12－パビリオン建設工事始まる／田中直人．
第34回近畿地区卒業設計コンクール…23
自然発生的建築をめぐって－4－技術・その1／本多友常…24
地方都市のジレンマ／島村昇．ターミナル違法人／望月秀祐．
建築界の鎖国から開国へ／矢野克己．タイルの「ライフサイクル・コスト・調査」／柴辻政彦…28

会員の受賞．支部だより．通常総会決議報告．建築技術選書講座シリーズ（第7回）－医院・診療所の計画と設計．太閤園・迎賓館の新築工事見学会．完成間近の大阪・上六・市街地再開発事業を見る(2)．第27回青年技術者特集号の応募規定．日本建築協会の展示窓ご紹介．建築技術選書第18号・第19号・第20号発刊．建築技術選書第1期20巻セットセール．日本学術会議第12期会員候補者の推せん．昭和54年度決算報告．昭和54年度事業報告書……29

都市景観とアメニティ

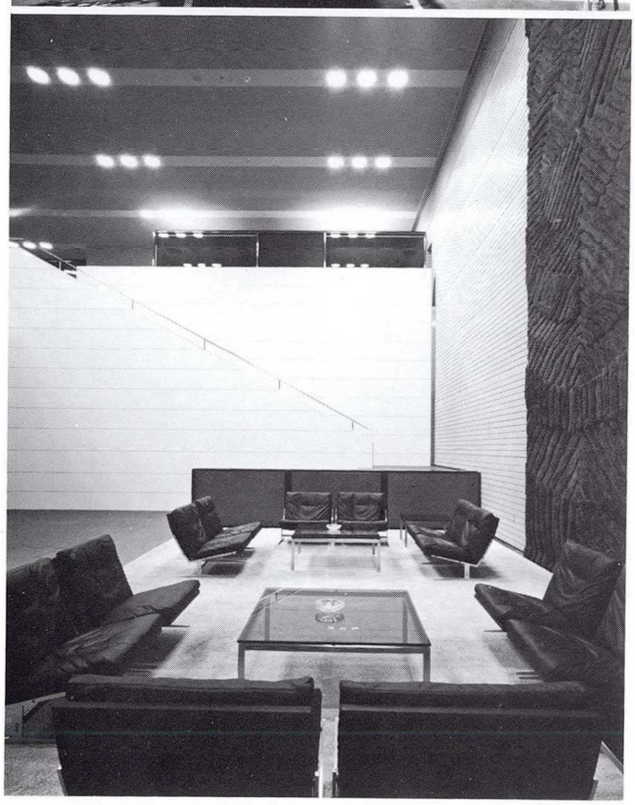
てい談・都市景観とアメニティをどう考える？
……久保　貞・向井　正也・三輪　利英…46
アメニティと行政……坂口　治…58
大阪市戦前の市街地構成―界隈と日常生活の一端……光崎　育利…64
都市の中の戦前長屋―負性にささえられた快適さ
……藤本憲太郎・富樫　穎…70
都市景観へのビヘビアラルアプローチ
……久保　貞・杉本　正美・安部　大就・中瀬　勲・平岡　順一…76
大阪市堺筋の美化……木村　賢一…62

1980年・新春放談－80年代に向けて建築を語る（その1）石井和紘／石山修武／木島安史／渡辺豊和…85
建築構造と様式／平田定男…91
電気配線の耐火壁貫通方法／中島勅夫…93
ドライパイルによる深層地盤改良／杉　智光・片岡宏治・安藤　豊…94
日本建築協会月間の動き（昭和55年5月分）／建築家・城戸武男先生を悼む／黒川巳喜…96

住友信託銀行千里事務センター

設計監理　日建設計／大阪





施　　工	鹿島建設・フジタ工業・鴻池組 住友建設共同企業体
所 在 地	大阪府豊中市新千里西町１－１－２
敷地面積	9,191.82㎡
建築面積	3,409.50㎡
延床面積	28,790.84㎡
構造規模	SRC（一部RC） Ｂ３、11Ｆ、Ｐ１
工　　期	昭和52年８月～昭和54年９月

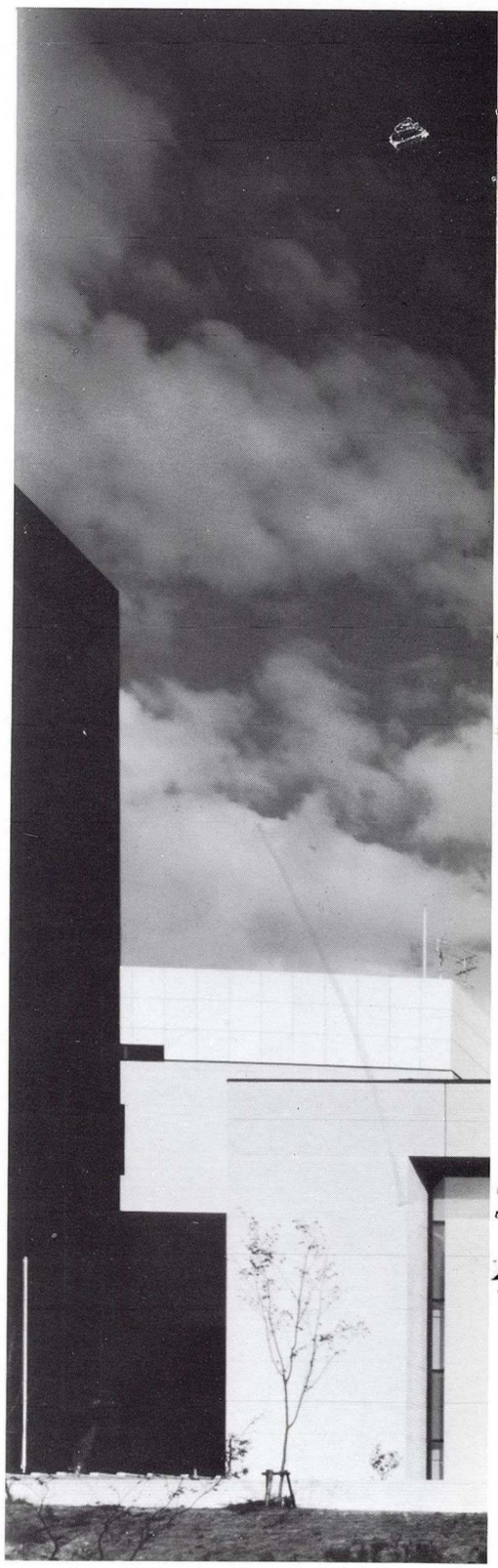
新御堂筋と中央環状線とのインターチェンジに近く、本格的地域冷暖房設備を整えた敷地は、この建物にとって最適の条件を備えている。敷地の地形を素直に利用したアプローチは、写真に見られるように、歩行者はブリッジを経て地上１階より、自動車は地下１階より、吹抜けの玄関ホールに導かれる。

高層の事務棟の、単純明快な基準階平面は変化する機構に柔軟に対応できる内容を持ち、外観は、新しい街のランドマークにふさわしい表情を有する。

一方、コンピューター機器を中心とする機械部門のＥＤＰＳ棟は、防災上の配慮から低層とし、機器の増設や機種の更改に追従できるよう設備計画を行うとともに、十分余裕のある無柱空間が確保されている。

微妙な陰影をつくりだす磁器質タイルの肌と、反射ガラスの窓面との単純な構成の内側に、事務センターとしてのフレキシビリティー、機能性、安全性などを可能な限り追求した設計姿勢が見い出されるであろう。　（日建設計）

1．玄関回り
2．玄関ホール
3．南面外観

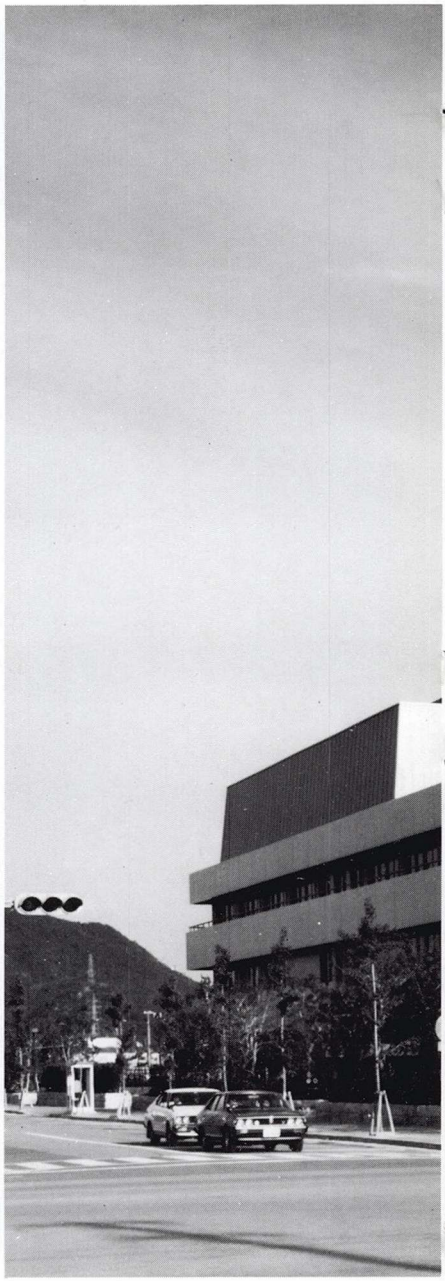




姫路市新庁舎

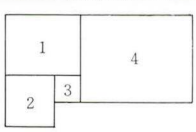
設　計　安井建築設計事務所





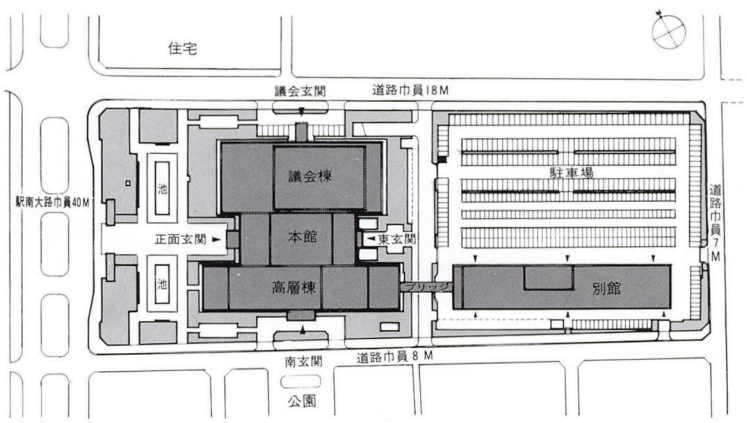






1．市民ホール
2．市民課窓口
3．議場
4．全景

撮影　STUDIO A・T
島　修一



配置図（1：3500）

施　　工　本館：鹿島建設・新日本製鐵
　　別館：神崎組
所 在 地　姫路市安田５番地
敷地面積　31,600㎡
建築面積　本館：　5,584㎡　別館：2,010㎡
延床面積　本館：34,482㎡　別館：6,053㎡
構造規模　本館：SRC、10F、B１　別館：RC、３F
工　　期　昭和53年１月～昭和55年４月



姫路市新庁舎の敷地は、国鉄姫路駅の南約１キロ・メートル、市の中心軸上で姫路城と相対峙する位置にある。新しく街区が整理された駅南地区は将来の発展に大きな可能性を保有しており、新庁舎を核として広域播磨圏の行政・業務の中枢としての整備が期待されている。

新庁舎の設計作業は、昭和51年１月から９月までの基本計画と、昭和52年４月から10月までの基本および実施設計の２段階に分けて行なわれた。基本計画では、ブロックプランの展開、基礎データーの整理と将来予測、ファクシミリや電算機の導入による事務近代化、設備および維持管理計画など基本的指針をまとめ、基本設計ではこれらをうけて詳細な検討を行った。建物規模および各室所要面積の算定については、各課の人員配置予測、家具レイアウト、事務室の適正奥行の決定など市独自の手法を開発して行った。

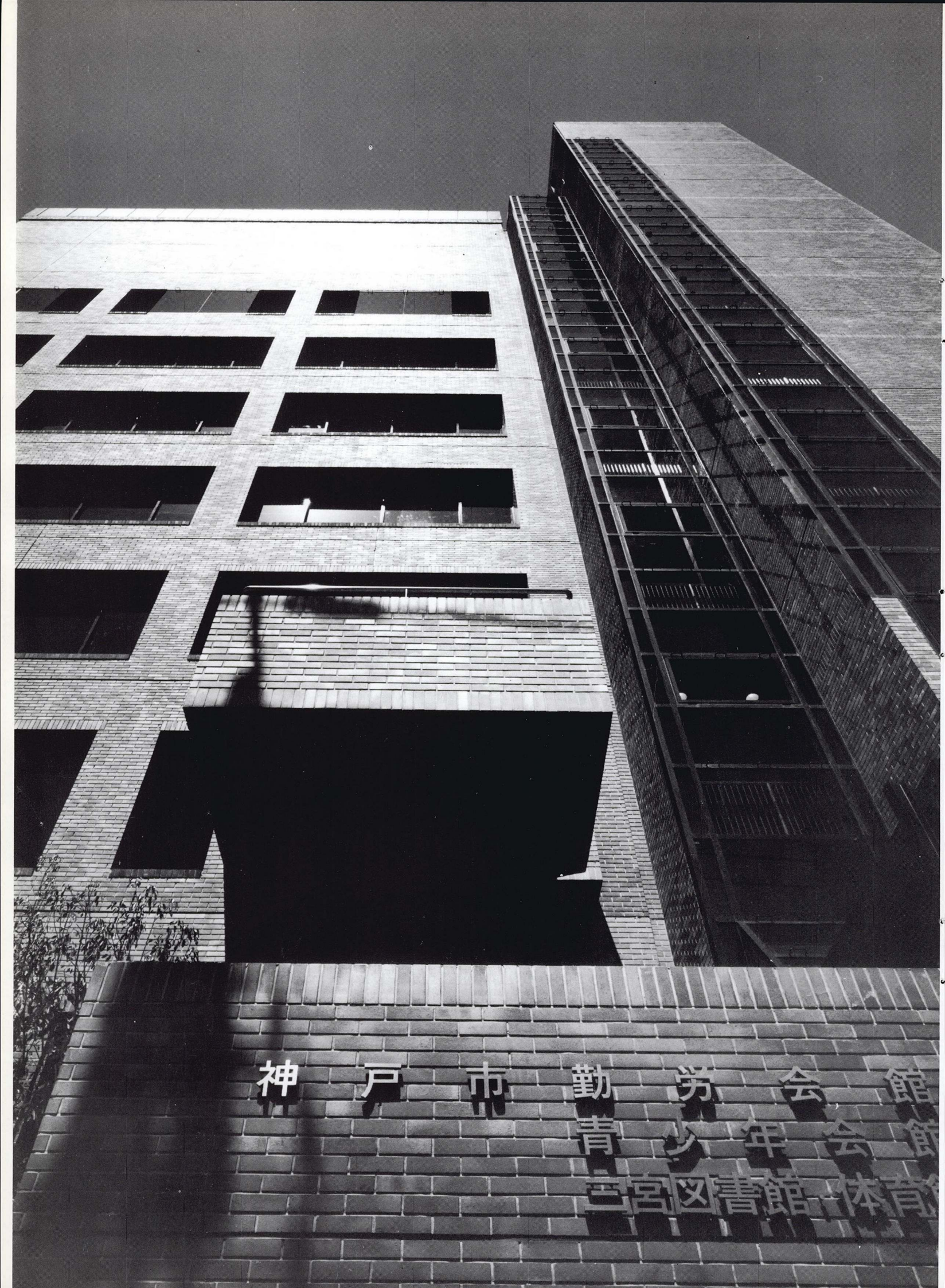
敷地は農業用水路によって二分されているが、地域の幹線道路である飾磨幹線に面する西半分に本館を、残りの東半分に現業部門を収容する別館と屋外駐車場を配置した。

本館は中央部に独立した市民ホールを設け、その南側に地下１階地上10階の高層事務棟、北側に地下１階地上４階の窓口および議会棟を配した明快な構成とした。東西および南側の各玄関からの来庁者は、まず市民のための象徴的空間である市民ホールに導かれる。二層分の吹抜をもつ広大なホールは、天井の古代中国伝説守護神「四神」をあらわしたステンドグラスと、正面壁面の古代播磨のロマンをモチーフにしたレリーフ「播磨の詩」が明るく簡潔な空間に彩りを添えている。３階には市長関係諸室と議会部門をまとめて配置し、それぞれの独立性を失わずに連絡を良くする工夫が施されている。

別館は地上３階建て、将来屋上へ２層の増築が可能な計画とし、本館高層棟と渡り廊下で接続しており現業部門と福利厚生諸室を収容している。

本館および別館を通じて基準の柱間隔は 7.2メートル、最小室巾は3.6メートルとし、1.2メートル巾の可動間仕切を全面的に採用した。

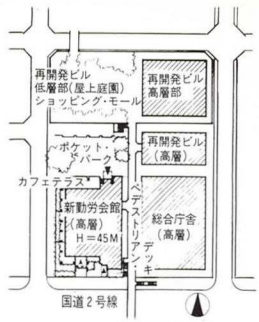
外装に浅黄色のタイル打ち込みのＰＣパネルでバルコニーの横帯を強調した簡潔な構成とし維持管理の省力化にも留意した。本館の前庭は新しく発展する市の中枢地区のモデル都市公園として性格づけられ敷地外周とともに密度の高い緑化修景計画を行い、敷地東側の河川公園と一体となって市を代表するグリーンベルトの重要な一画を形成している。（安井建築設計事務所）


神戸市勤労会館
青少年会館
三宮図書館・体育

神戸市新勤労会館

設計監理　神戸市住宅局営繕部
　　昭和設計
施　　工　熊谷組

所 在 地　神戸市葺合区雲井通５丁目
敷地面積　2,250㎡
建築面積　1,300.90㎡
延床面積　11,402.77㎡
構造規模　ＳＲＣ、Ｂ１、10Ｆ
工　　期　昭和53年３月～昭和55年３月



街区計画図

この会館は、勤労会館・青少年会館・三宮図書館の３つの公共施設の複合建築物である。敷地は、国鉄三宮駅の東側であり、国道２号線に面している。この一帯は戦後の混乱を残した木造バラックの密集地域であったが、三宮駅周辺の膨張にともない活性化が求められ、土地区画整理事業・再開発事業が施行されるとともに、三宮ターミナルビル・新交通システム三宮駅等も着工し、地域全体にダイナミックな動きが始まっている。

街区計画は、南側を公共施設とし、当会館と市総合庁舎が配置され、北側にはショッピング・モールを持つ再開発ビルが配置される。中央にはポケット・パークが設けられ、高層ビル街の緩衝空間として機能する。

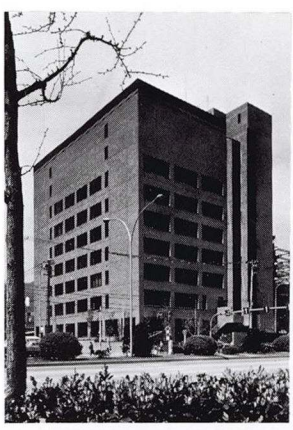
さらに当会館と総合庁舎の間を縫ってペデストリアン・デッキが国道南側へと延び、街区全域の有機的利用を可能とする。

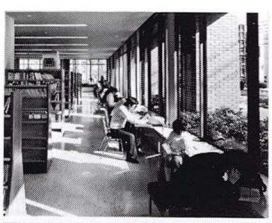
当会館のメイン・アプローチがポケット・パークに面しているのは、上記の計画を前提とし、ショッピング・モール、ペデストリアン・デッキの賑いに対応させる意図による。街区全域の建設ラッシュのなかで、当会館は最初に竣工したが、全域が完成して始めて当会館は完結するといえる。

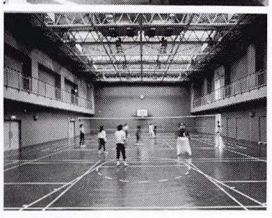
設計上の特徴は、軒高45M に近い高層公共複合建築物であるため、防災避難計画に特に留意したことと、技術面での体育館床の防振対策を挙げることができるが、デザインの基本姿勢については平明さを心掛けたという点につきる。外装材は、ソフトさと重厚感をねらいレンガ質としたが、隣接総合庁舎においても同じテクスチュアーが検討されており、街区の大きな特長となるであろう。

（宮田照久／昭和設計）

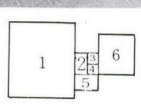




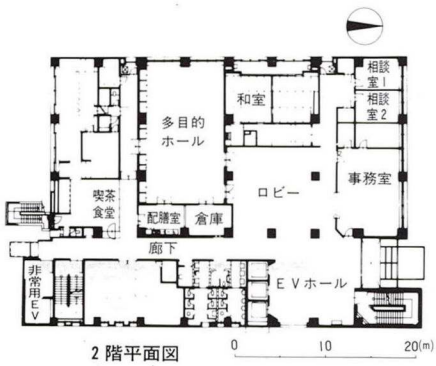








1．南面外観　4．８階体育館
2．全景　5．１階エレベーターホール
3．１階図書館　6．５階ホール
撮影　河野　豊



2階平面図



断面図

（50音順）

空　調	ナミレイ 神戸支店	神戸市兵庫区七宮町１丁目10－12	TEL078－651－7171
エレベーター	フジテック 神戸営業所	神戸市生田区北長狭通４丁目１－26	TEL078－391－4795
給排水衛生	本庄商会	神戸市東灘区住吉宮町７丁目４－１	TEL078－851－4291
電　気	六興電気 神戸支店	神戸市生田区中山手通１－18山手ビル	TEL078－241－5358

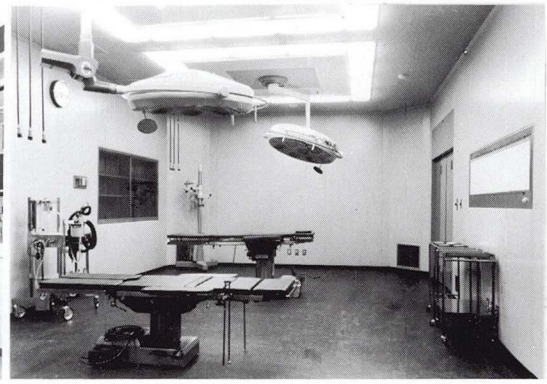
友紘会病院

設計　東畑建築事務所
施工　淺沼組









	1	
2	3	4

5
6

1．南面をみる
2．航空写真
3．玄関より待合ホールをみる
4．大手術室
5．東面をみる
6．ＩＣＵ

撮影　SS

所 在 地　茨木市清水１丁目34番１号
敷地面積　3,508㎡
建築面積　1,521㎡
延床面積　7,147㎡
構造規模　RC（一部SRC）、B1、7F、P1
病 床 数　215床
工　　期　昭和54年６月～昭和55年４月

千里丘陵の北外れ、国道 171号線沿いの旧名茨木市大字宿久庄の一帯は、近くに団地開発やマンション建設が進み、近年急速に人口がふえつつあるが、一方では、茨木市・箕面市の中心から遠く、医療施設の不足という問題を抱えた地域でもある。この地に、医療施設不足の解消により地域医療の向上を図り、夜間診療および24時間救急体制を実施し、外科を中心とする総合病院を目指す友紘会病院が、５月１日開院した。

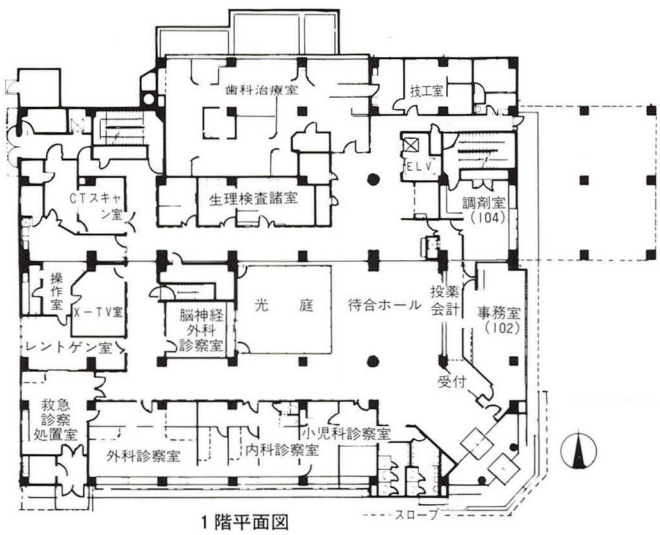
本病院の設計に当たり、１階の外来部門・２階の中央診療部門・４～７階の病棟部門の面積は極力削らず、各部門の面積バランスを保つこと、また、前面道路からの騒音を配慮して、病棟は敷地の北側に配置することを基本として、１階では、救急時に動き易いプランとするため、救急処置室を要に外科診察室・レントゲン諸室をＬ字型に配置し、２階では、手術室を要として中材・ＩＣＵ（５床）およびＣＣＵ（３床）をＬ字型に配置して、中央診療部門の中心を構成している。建物の中央部に設けた光庭は、１階においては待合スペースに面しており、この病院を訪れる患者やその家族に、光と安らぎを与える場として所期の目的を果している。本病院のユニークな部門の一つである歯科は、将来10台の治療ユニット（現在６台）を予定し、府下歯科病院中最大の規模となるが、身障者用の治療ユニットをも備え、今後の活動が期待される。

施工に当たっては、保険診療実施の諸手続のため実質９ケ月半という短い工期の中で、地下・鉄骨建方を含めて、躯体の工期短縮・変更の多い医療機器等諸設備への対応・病院特有の細かい納まりへの対応等が、特に施工側において苦心された点であろう。

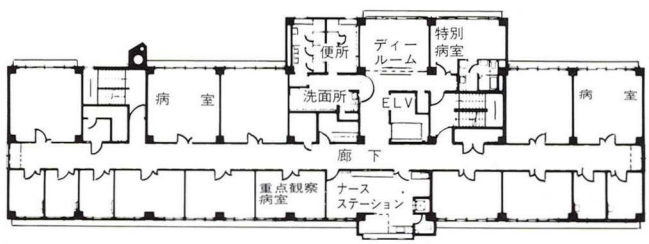
開院後１ケ月余を経過して、夜半に車で駆け付ける患者も多く、入院・外来患者数共に当初の予定を上回っている。高校時代の同級生という若い外科医と歯科医をオーナーとして〝よろこばれ、頼られ、望まれる〟の合言葉のもとに建築されたこの病院が、各医療スタッフの情熱と努力により、今後、地域医療の中核をなす病院として育つことを念願している。（松村孝治／東畑建築事務所）







1階平面図



5階平面図


ASHIYA KASUGA GORDENS

芦屋春日コーポラス

設計施工　長谷川工務店

古くから緑豊かな高級住宅街として知られている『芦屋』。この地域性を考慮し、『住む』というだけでなく『ゆったりと暮らすGraceful Life 』ということを念頭に設計した。

当計画地は、東洋古美術 3,500点余を所蔵する財団法人黒川古文化研究所の跡地であり、敷地内には当時の土塀、大坂城築城時に使われたものと同じ刻印のある石垣、樹木が残されている。これらを計画に折り込むことにより、近代的な建造物であるマンションをしっとりと落ち着きのあるまわりの街並みとを異和感を感じさせない様に全体計画としてまとめあげた。

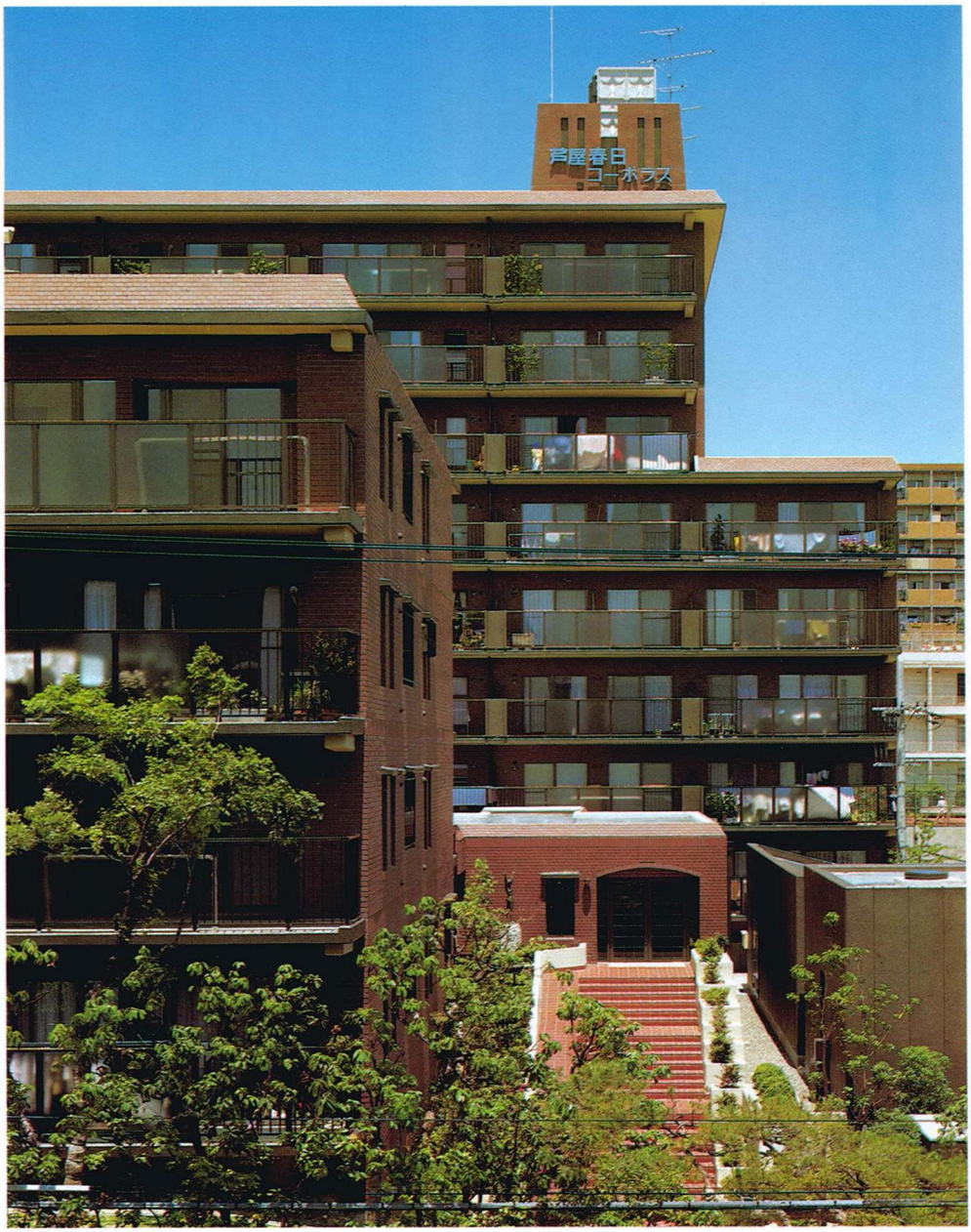
ブロック計画としては、全住戸南向きに配した。南の敷地には、将来の都市計画公園を一体となる開発公園を配し、将来性を考慮した。また当敷地よりの北の敷地への日影を考慮し、敷地レベルを下げることによりより多くの日照確保を配慮した。北の敷地には２棟を南向きに配し、残されている土塀、石垣並びに既存している貴重な樹木群を、ブロックに支障の無い限り、できるだけ残すことを大前提とし、特に石垣は当初のままとし、樹木の中に現代的なアーチを設けることにより、古さと新しさを一体としたメインアプローチとした。また間取りも家族の団らんの場であるリビングルームをメインに考え、主婦の仕事場である台所にも自然採光をとり入れ、毎日楽しく働いてもらえる様設計した。

外観は、しっとりと落ち着きのある芦屋の街並みを考慮し街全体の調和をくずさない様、代赭色を基調としたタイル貼りとした。

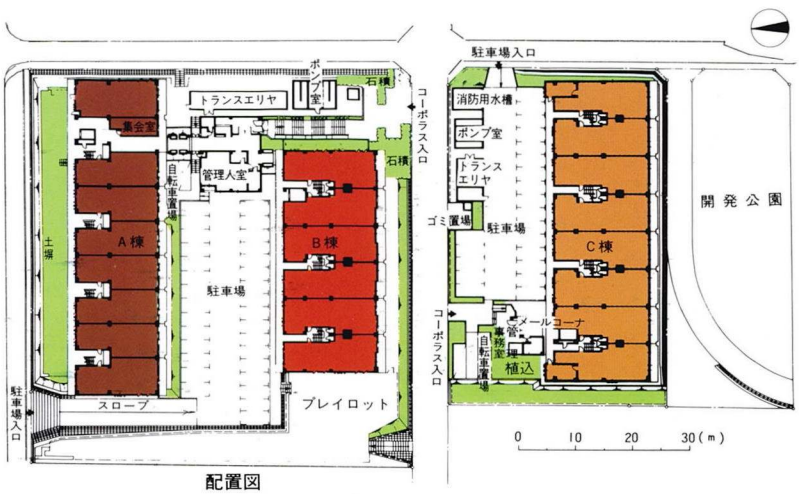
（竹内　徹）

外部仕上

- **外壁**：巾木/モルタル刷毛引き　壁/小口タイル貼
- **屋上**：床/コンクリート金コテ押えの上アスファルト防水(非歩行)
- **開口部**：窓/カラーアルミサッシ（セミエアタイトサッシ）　住戸玄関/塩ビ鋼板ドア
- **バルコニー**：床/コンクリート金コテ押え　天井/コンクリート打放しの上アクリルローラー塗　手摺/アルミ製手摺(カラー)　一部網入りガラス嵌殺し
- **開放廊下**：床/コンクリート金コテ押え　天井/コンクリート打放しの上アクリルローラー塗　手摺/アルミ製手摺(カラー)



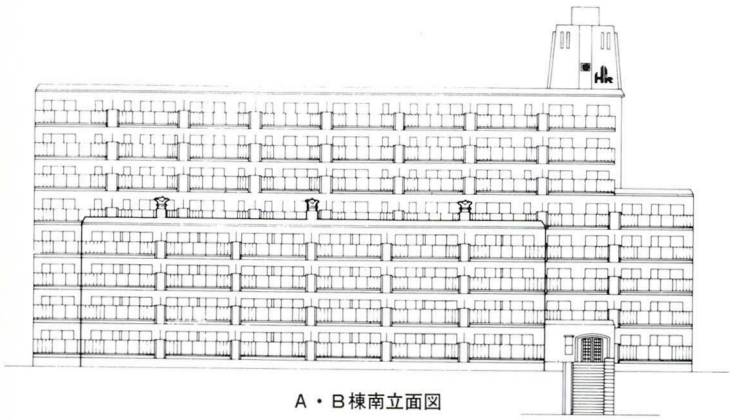




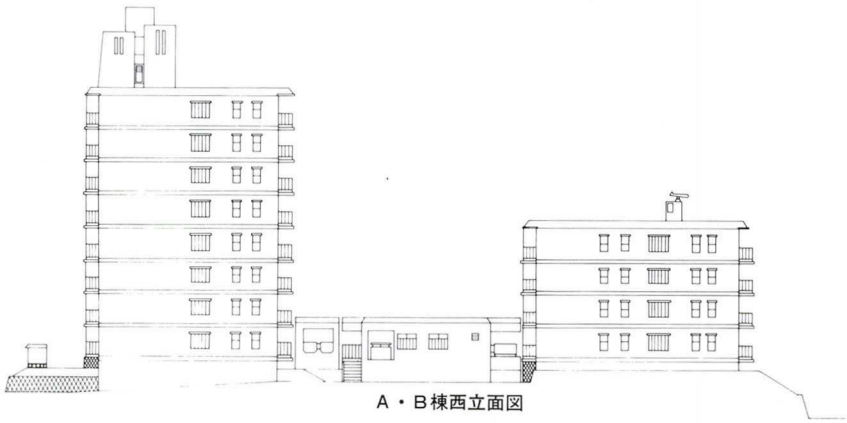
配置図

芦屋春日コーポラス





A・B棟南立面図



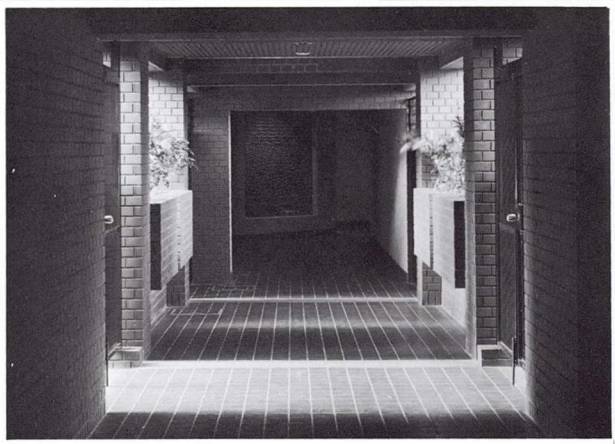
A・B棟西立面図

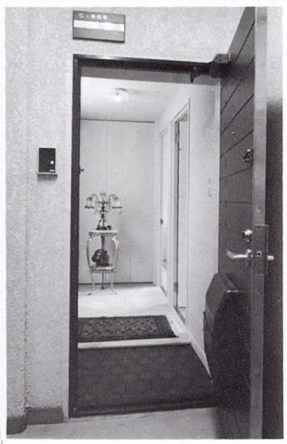
施　　主　星和地所
所 在 地　芦屋市打出春日町34－1他
敷地面積　6,881.10㎡
建築面積　2,863.77㎡
延床面積　13,468.75㎡
構造規模　A棟：SRC、8F、B棟：RC、4F、C棟：RC、5F
工　　期　昭和54年3月～昭和55年3月

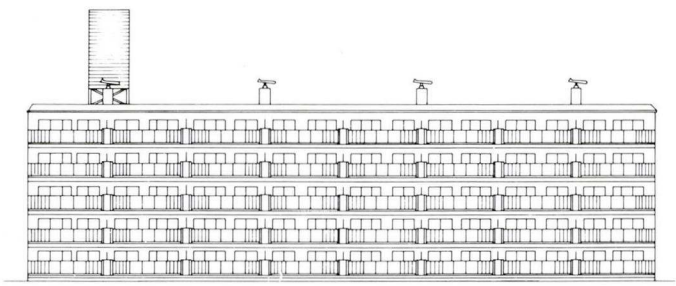




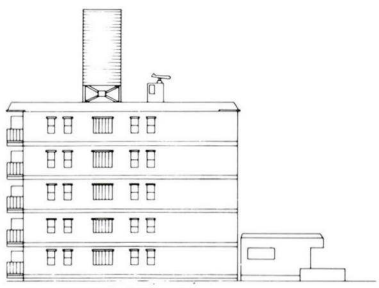




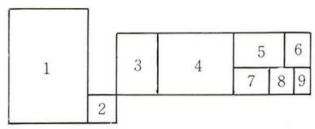




C棟南立面図



C棟東立面図



1．エントランスアプローチ(アーチ)
2．外観全景
3．エントランスアプローチと外観
4．エントランスアプローチ
5．リビング
6．洋室と寝室
7．ダイニング、台所およびリビング
8．エントランスホール
9．玄関

撮影　長谷川工務店提供

ジークレフ浜田

設計施工　長谷川工務店

施　　主　神鋼興産
所 在 地　尼崎市大庄川田町73
敷地面積　4,890.29㎡
建築面積　1,624.46㎡
延床面積　9,691.37㎡
構造規模　SRC、8Ｆ
工　　期　昭和54年6月～昭和55年4月



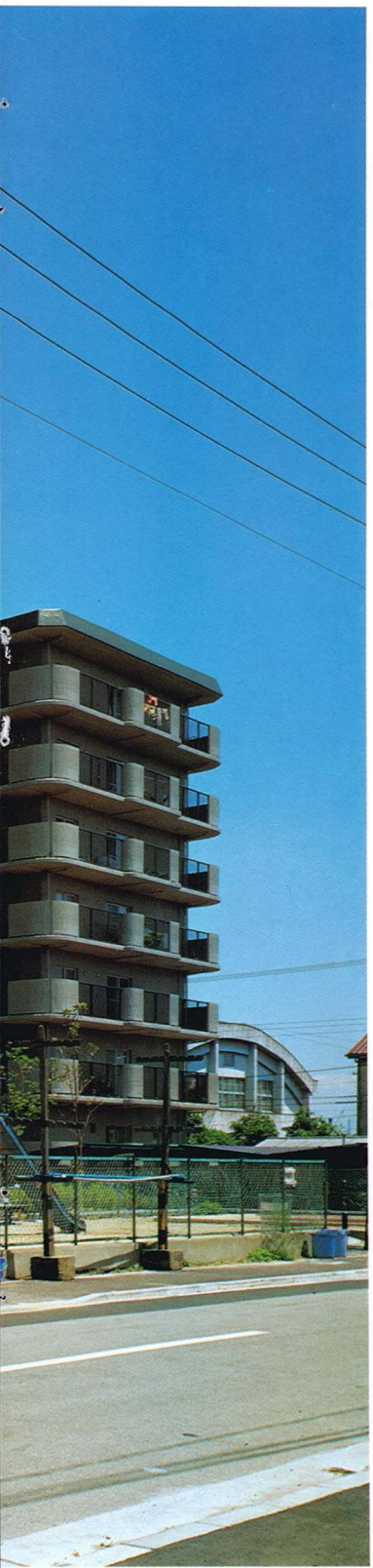
「六甲おろし」のこだまする阪神タイガースのグランド近く、当マンションは尼崎市内大庄川田町に位置している。

ブロック計画としては居住性の良い片廊下形式をコの字型に配し、公園・学校・防火施設・周辺建物等の周辺既存環境施設との調和・連続・発展を目ざし、植樹およびプレイロットは公園・学校側に重点を置き、また色彩においてもやや濃いクリーム系を主体とし、地域特有の退色性に配慮した。

近年の集合住宅のメインテーマになっている、維持管理、コミュニティ形成に対しても広い集会室、管理人室の設置および共用部分のグレードアップを計り、共用廊下にウレタン系塗床材を塗り、建物外周には庇を回し、漏水対策にも万全を期した。

一方住戸計画としては、好評を博しているＨＫ CONBUS SYSTEM を生かし、３ＬＤＫを主体に４ＬＤＫまでバラエティに富ました。各住宅玄関には、ファッションドアの採用により、明るい玄関とし、専有部でありながらセミパブリック的な性格を持たせた。住宅の狭小化、貧困化、高価格化、遠隔地化が改善されるべく、メインタイプで市街地マンションの価格として、民間マンションとしてはギリギリの接点を見い出し好評を博している。市民権を得たマンションという居住形態が、今後より一層地域社会に根付いて定住権を獲得することを希望してやまない。

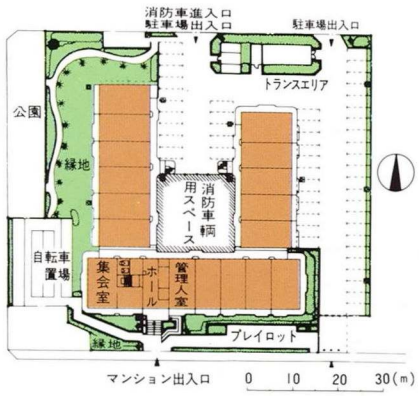
（浅野貴志・山口清治）



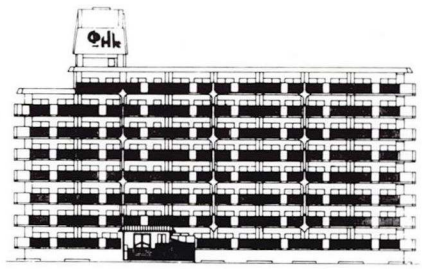








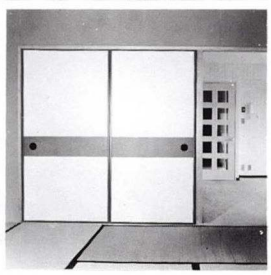
配置図

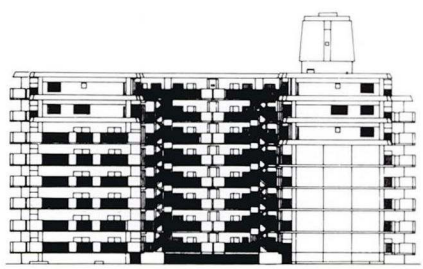


南立面図

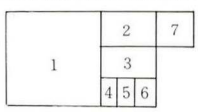








北立面図



1．西面全景
2．エントランスアプローチ
3．外観
4．開放廊下（玄関廻り）
5．玄関（ファッションドア）
6．和室とリビング
7．外観全景

撮影　長谷川工務店提供

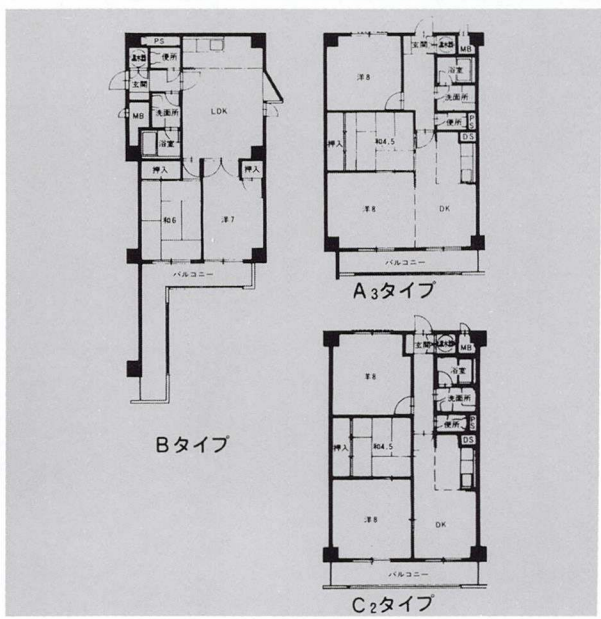
メゾンフローラ

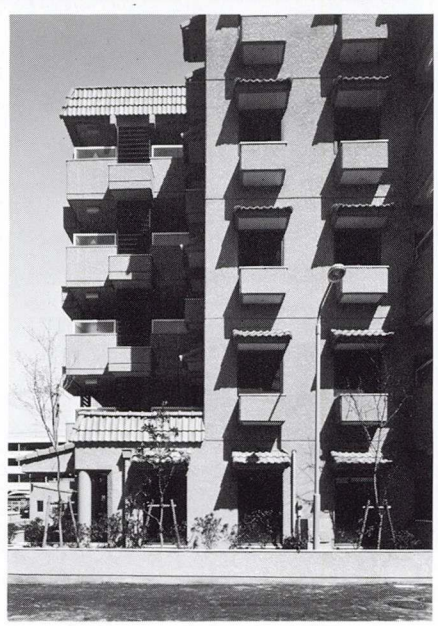
設　計　泉沢建築設計事務所

施　　工　吉岡工務店
所 在 地　箕面市半町３丁目 405－１、406－１、
　　407－４
敷地面積　1,810.80㎡
建築面積　　604.11㎡
延床面積　2,579.775㎡
構造規模　RC、５Ｆ、Ｐ１
工　　期　昭和54年６月～昭和55年３月









日本建築協会法規委員会

法令コーナー

質疑などの投稿をお待ちしております。

150

大阪市火災予防条例の一部改正について

大阪市火災予防条例（昭和37年４月１日大阪市条例第14号）の一部を改正する条例が本年３月１日に公布され、昭和55年６月１日から施行された。

今回の改正は、昨年発生した合成樹脂製品加工場の火災事例等に鑑み、合成樹脂類の貯蔵、取り扱いに関する基準を強化したほか、火を使用する設備・器具の構造の複雑化、機種の多様化に対応して、その設置方法等の基準を具体的に示すとともに、消防法令の改正に伴う条文の整備、その他所要の措置を講じたものであり、その概要はつぎのとおりである。

1　火を使用する設備及び器具に関すること（第３条～第23条の２）

(1)　従来、炉及びかまどの基準が適用されていたふろがま及び温風暖房機について、新たに独立した基準を設け、液体燃料を使用するふろがま及び温風暖房機のうち、入力60,000キロカロリー毎時未満のものは、建築物等の内装仕上材の別により建築物等の部分、可燃性物品又は防熱板から一定の離隔距離を保つこととし、このうち温風暖房機については炉内の温度が過度に上昇した場合に自動的に燃焼が停止できる過熱防止装置を設けなければならないものとした。

(2)　液体燃料を使用する温風暖房機に付属する風道は、建築物の可燃性の部分及び可燃性物品から、一定の式により算出した数値以上の離隔距離を保つこととした。

(3)　液体燃料を使用するストーブ（移動式を除く）のうち、入力60,000キロカロリー毎時未満のもの並びにボイラーは、建築物の内装仕上材の別により建築物等の部分、可燃性物品又は防熱板から一定の離隔距離を保つこととした。

(4)　給湯湯沸設備について、従来の離隔距離に関する基準を改め、建築物等の内装仕上材の別により、建築物等の部分、可燃性の物品又は防熱板から一定の離隔距離を保つこととした。

(5)　液体燃料を使用する移動式ストーブ及びコンロについても、建築物等の内装仕上材の別により建築物等の部分、可燃性物品又は防熱板からの離隔距離基準を定めた。

(6)　火を使用する設備及び器具の位置、構造、管理及び取り扱い等に関する基準の特例を定めた。

2　火の使用に関する制限等に関すること（第26条～第29条）

(1)　溶接、溶断等の作業を行ってはならない場所の規制を強化した。

(2)　増改築等の工事、溶接等の作業、危険物等を使用する作業等を行う場合に、防火対象物の関係者及び工事等の施工責任者が防災計画を定めなければならない防火対象物の範囲を拡大するとともに、建築物の新築工事を行う場合も防災計画を定めることとした。

3　指定数量未満の危険物の貯蔵又は取り扱いの基準に関すること（第31条～第34条）

(1)　従来、移動タンクから他のタンクへ危険物を注入する際は、給油ホースとタンクの注入口を緊結して行うこととしていたが、引火点が40度以上の液体の危険物に限り給油ホース先端部に手動開閉装置を備えた給油ノズルを用いる場合は緊結を要しないこととした。

(2)　屋外のタンクにおいて、引火点が 130度未満の第４類の危険物を貯蔵又は取り扱う場合に限り、その周囲に有効な流出防止措置が必要とされていたが、液体の危険物を貯蔵又は取り扱う屋外タンクについては、すべて周囲に流出防止措置を講ずることとした。

(3)　危険物を取り扱う配管は、金属管、陶管等耐熱性を有するものとされていたが、すべて鋼製その他の金属性とするとともに、地上に設ける配管は地盤面に接しないものとし、防食措置を施すこととした。

(4)　地下埋設する配管には防食措置を講じ、かつ、溶接接合以外の配管接続部には、危険物の漏れを点検することができる措置を講ずることとした。

(5)　地下に埋設するタンク及び移動タンクを除き、屋外に設置するタンクの底板を地盤面に接して設けるものは、底板外面に防食措置を講ずることとした。

4　特殊可燃物の貯蔵又は取り扱いの基準に関すること（第36条）

(1)　特殊可燃物のうち合成樹脂類の規制の範囲を明確にするとともに、合成樹脂類を「発泡させたもの」と「その他のもの」に区分し、貯蔵又は取り扱いに関する規制数量を「発泡させたもの」は20立方メートルに、「その他のもの」については3,000 キログラムに改め、規制の強化をはかった。

(2)　合成樹脂類を集積する場合は、一集積面積を500㎡以下ごとに区分しなければならないこととし、一集積部分の面積に応じて集積部分相互間に一定の保有距離を確保しなければならないこととした。

(3)　屋内において合成樹脂類を貯蔵又は取り扱う場合は、貯蔵場所と取り扱い場所間に難燃材料以上による区画を設けることとし、規制数量の 100倍以上の貯蔵又は取り扱い場所には内装制限を義務づけた。

5　消防用設備等の付加基準に関すること（第37条～第47条）

(1)　従来、条例で規制していた事項のうち、消防法令の改正により法令でも規制されることとなる事項に関して条文の整備を行った。

(2)　映画スタジオ又はテレビスタジオの用途に供する防火対象物について、スプリンクラー設備の設置の要否に係る部分の基準を明確にした。

(3)　スプリンクラー設備の設置を要する防火対象物の床面積の算定方法を、主たる用途に供する部分の面積に限定せず、その用途面積により規制するものとした。

(4)　水噴霧消火設備の設置を要する防火対象物のうち、「自動車車庫」の用途に供する防火対象物を、「すべての防火対象物」の「駐車の用に供する部分」の面積により規制することとした。

6　避難及び防火の管理等に関すること（第48条～第55条の３）

(1)　一時的に劇場等、展示場又は物品販売の用途に供する防火対象物についても喫煙、裸火の使用、危険物の持ち込みを制限したほか、避難管理等に関する規制を行うこととした。

(2)　非常用エレベーターを設けた防火対象物の乗降ロビーについて、消防活動を容易に行うため、新たに維持管理に関する基準を設けた。

7　届出に関すること（第56条～第62条）

(1)　火を使用する設備等の設置に際して、消防長又は消防署長に届出なければならないものとして、新たに風道を使用する温風暖房機を加えたほか、劇場等及びキャバレー等に設ける温風暖房機については風道の有無にかかわらず届出を要するものとした。

(2)　合成樹脂類のうち「発泡させたもの」については20立方メートル以上、「その他のもの」については 3,000キログラム以上の貯蔵又は取り扱いを行う場合は届出を要することとした。

(3)　小量危険物、準危険物又は特殊可燃物の貯蔵又は取り扱いを廃止した場合も届出の対象とした。

(4)　消防用設備等の点検を業として営もうとする者も、届出を要することとした。

8　罰則に関すること（第64条～第65条）

(1)　小量危険物又は準危険物の貯蔵又は取り扱いの技術上の基準に違反した者に対する罰金を、従来の20,000円以下から40,000円以下に引き上げた。

(2)　特殊可燃物の貯蔵又は取り扱いの技術上の基準に違反した者に対する罰金を、従来の15,000円以下から30,000円以下に引き上げた。

(3)　水素ガスを充てんする気球の設置又は煙火の打ち上げ等の届出を怠った者に対する罰金を、従来の10,000円以下から20,000円以下に引き上げた。

9　附則に関すること

(1)　改正条例の施行日を昭和55年６月１日とした。

(2)　改正条例の規定の適用に際し、液体燃料を使用する温風暖房機の風道、指定数量未満の危険物の貯蔵又は取り扱い、屋内における合成樹脂類の貯蔵又は取り扱い、現に存する防火対象物又は現に工事中の防火対象物に対する消防用設備等の設置に関する技術上の基準、合成樹脂類の貯蔵又は取り扱いの届出、消防設備等点検業の届出、施行日前の違反行為に対する罰金等の規定の適用について、それぞれ経過措置を講ずることとした。

（大阪市消防局予防部設備課　渡辺　紘一）

フリントコート®
マスチックフローリング
無公害な弾性床材



東京シューズ足立流通センター
設計監理：㈱ＫＯＡ設計事務所　施工：前田建設工業㈱
使用場所：床　仕様番号：Ｆ－９

特　長

1　耐久性：耐久性にすぐれている。
2　耐摩性：摩耗の度合が低く、ホコリなど生じない。
3　すべり抵抗性：すべり抵抗性にすぐれている。
4　弾力性：弾性があり、万一亀裂ができても使用している間に復元する。
5　粘着性：多少湿っていても、コンクリート、金属、木など、どんな面にもよく粘着する。
6　不燃性：引火のおそれがなく、ガス工場、爆薬工場の床に使用されている。
7　無毒無臭：完全無毒で各種食品工場、貯蔵庫に多く使用されている。

フリントコートについてのお問合せは下記へ

FLINTKOTE®

株式会社シエル石油大阪発売所
フリントコート部

大阪本部　〒530 大阪市北区堂島浜１丁目２の６(新大ビル９Ｆ)☎(06)343－0441
東　　京　〒104 東京都中央区京橋２丁目９の２(第一ぬり彦ビル)☎(03)562－4676
福　　岡　〒810 福岡市中央区舞鶴町１－１－５(舞鶴ビル３Ｆ)☎(092)771-1961

日本建築協会建材委員会

新建材紹介コーナー

《新建材紹介　No.72》

『セレシット防水工法』

昭和電工株式会社建材部土木剤

本　　社　〒105　東京都港区芝大門１－13－９　TEL03－432－5111

大阪支店　〒541　大阪市東区今橋５－23－１　TEL06－231－8286

■ はじめに

セレシットは無機質浸透性塗布型の防水材であり、西ドイツのセレシット社が開発したものを昭和電工㈱が輸入、販売権を保有している。

ここに紹介する「セレシット防水工法」はセレシット社の固有技術と昭和電工㈱の最新の技術・材料とを組み合わせて確立された新タイプの防水工法システムである。

このセレシットは上下水道・貯水池をはじめ、地下室等の常時水に接しているか、または、湿潤状態にある地下構造物の防水に適している。

■ 防水機構

セレシットの主成分である可溶性シリカがコンクリート躯体中の遊離石灰と反応して極めて微細な針状結晶：$3CaO \cdot SiO_2 \cdot 3H_2O$（トバモライト：$C_3S$）をつくることにより、コンクリート躯体表層が緻密となり防水性を高めるものである。

■ 特　長

無機質浸透性塗布防水剤には、一般に

１）コンクリートが湿潤状態でも施工可能である。

２）躯体面に直接塗布するので、塗布剤が躯体内に浸透し、躯体と一体層を形成してコンクリート表層を保護する。

３）砂・セメントを使用しないため、現場管理が容易である。

４）工場生産品であるため、品質が均一で、配合が正確である。

５）防水工事の工期が短縮できる。

６）施工が容易で高性能な防水層が得られる。

以上のような特長があげられる。

セレシットも無機質浸透性塗布防水剤に分類されるが、昭和電工㈱は材料のみならず工法についても研究を重ねて、次の特長をも持っている。

７）木コン部、打継部、豆板部等の下地処理（部分防水）が確実にできる。

８）施工後の散水養生を原則として必要としない。

９）防水層だけでも、きれいな仕上面が得られる。

10）防水層の上にモルタル仕上げが可能である。

11）コテ塗り、ハケ塗りのみでなく吹き付け工法も可能である。

■ 材　料

防水に使用する材料は表－１の通りである。特殊ペーストの材料調整には次の事項に注意を要する。

●40ℓ程度のポリ容器を使用する。

●混練にはハンドミキサーを使用する。

●容器には所要量の強化剤と水を入れ、ミキサーで撹拌しながら粉末を添加する。

●混練は十分行う。（約５分）

●練り量は１回に多くても25kg／袋が好ましい。

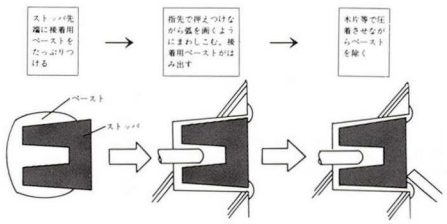
●練り水量は水温・気温・塗布工法等により差異がある。

■ 工　法

コンクリート躯体の均一化を目的とした部分防水（下地処理）と、躯体の養護・防水を目的とした全面防水よりなるシステム防水を採用している。

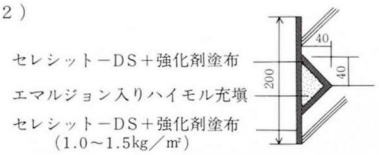
A．部分防水

●フォームタイ木コン部……ストッパ（この場合、面落ち用を使用する）と称する防水性を有する特殊モルタルの成型コーンの先端に接着用ペースト（セレシット－ＤＳ）を塗りつけ、これを木コン穴に埋め込み止水する。（図－１）



図－１　フォームタイ木コン部の処理

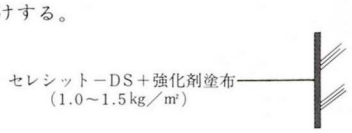
●打継部・豆板部……打継部はＶカット、豆板部は斫り除去した上で特殊ペースト（セレシット－ＤＳ＋強化剤）を塗布し、エマルジョン入ハイモル充填後、表面に再度特殊ペーストを塗布する。（図－２）



図－２　打継部の処理

B．全面防水

コンクリート躯体表面が十分湿潤していることを確かめて、特殊ペースト（セレシット－ＤＳ＋強化剤）をコテ塗りやハケ塗り、あるいはガンにて吹き付けする。



図－３　一般部の防水

■ 性　能

●木コン穴処理部分の防水・止水性（透水試験）

表－２　透水試験結果（透水圧３kg／cm²）

木コン穴の処理方法		水圧 (kg/cm²)	加圧時間	漏水状況
水圧方向	無処理	0	０分	漏　水
水圧方向	砂モルタル充填	0	２分	漏　水
水圧方向	ストッパ充填	1	１時間	異常なし
水圧方向	ストッパ充填＋セレシット塗布	3	10時間	異常なし

●セレシット－ＤＳ塗布層の防水性（透水試験）

表－３　透水試験結果（透水圧３kg／cm²×１時間）

養生条件	種　別	透水量(g)	透水比
湿　空	プレーンモルタル	38　35　34	100
	セレシット塗布	3　2　3	7.5
水　中	プレーンモルタル	25　23　20	100
	セレシット塗布	1　0　2	4.4
乾　燥	プレーンモルタル	70　75　73	100
	セレシット塗布	14　10　12	16.5

●下地コンクリートとの接着強さ

表－４　接着強さ試験結果

養生条件	接着強さ（kg／cm²）	破断状況
湿　空	平均　22	界　面
水　中	平均　18	界　面
乾　燥	平均　10	界　面

■ 在来のモルタル防水に比較して

１）薄塗りで施工が単純であるため、施工能率が良く、約２倍の施工速度となり、工期短縮が可能である。

２）防水業者が材料搬入を含め一括施工するため、現場で砂・セメントなどの資材調達が不要である。

３）耐透水性に優れている。

４）強化剤の併用により、接着性が良好である。

■ 施工体制

防水施工業者の責任施工で、材料については昭和電工㈱が保証する。なお、昭和電工㈱は防水施工業者に対して技術指導を行なっている。

建材委員／三河祐雄（鹿島建設㈱大阪支店建築部）

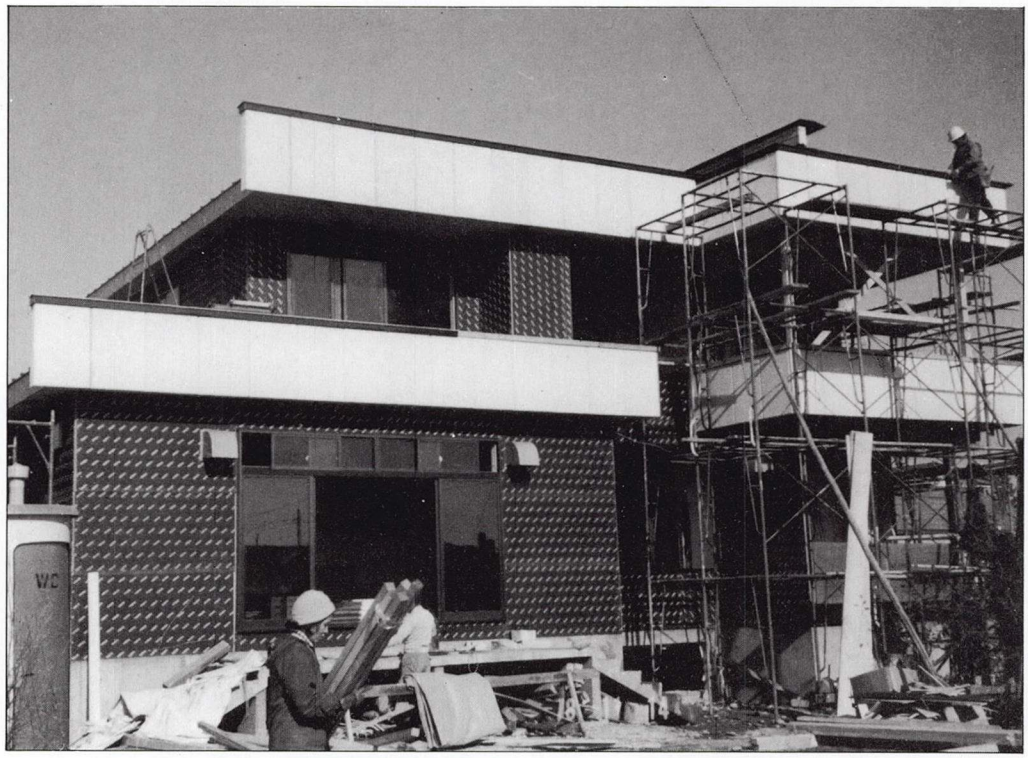
表－１　材料の種類と使用法

種　類	セレシット－ＤＳ	セレシット用強化剤	セロマックス－１	ス　ト　ッ　パ	ハイモルエマルジョン	ハイモル（補修用）
用　途	一　般　防　水	セレシット－ＤＳ混和剤	止　　水	木コン穴処理用	モルタル接着増強用	補　修　用
使用分野	湿気をおびたコンクリート躯体の防水	セレシット－ＤＳと併用	漏水個所の止水	コンクリート軀体の木コン穴埋め	コンクリート躯体の補修	
外　観	無機質系の灰色微粉末	合成高分子エマルジョン	無機質系の灰色微粉末	防水性セメント系の成型体	エチレン酢ビ系エマルジョン	軽量プレミックスモルタル
可使時間	60分	――	1分	――	――	
荷　姿	25kg ポリ内袋クラフト３層袋	18kg 18ℓ缶入り	25kgポリ内袋クラフト３層袋 2kg、６kgプラスチック容器	段ボール箱入	18kg缶入り	28kg ポリ内袋クラフト３層袋
標準配合比（重量比）	100 ： 10 これに水30を加える		100：40(水)	――	1 ： 14	

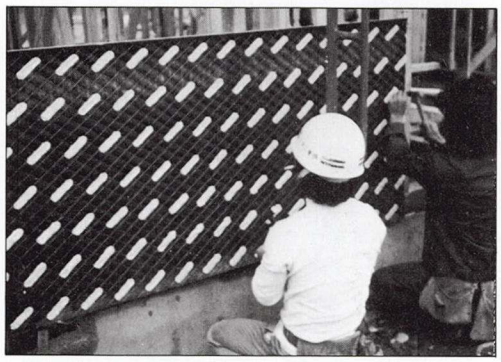
省エネルギー・省力化/新製品

アキレスワイヤラスボード

あ、4工程が1工程になった!



《外壁モルタル下地断熱建材》
アキレスワイヤラスボードを使えば、
従来の4工程が1工程に…。
すぐにモルタル塗りができ、簡単です。



アキレスワイヤラスボードは厚さ15㎜、20㎜、25㎜。防水材と硬質ウレタンフォームそしてワイヤラスが一体になった断熱ボードです。現在、木造住宅は、一般的に柱・間柱の間にグラスウール断熱材をつめこみ、下地板を打ち、アスファルトフェルトとメタルラスを取付けてモルタル塗りという4工程を行なっておりますが、「ワイヤラスボード」はグラスウール、下地板、アスファルトフェルト、メタルラスの4工程を1工程に短縮しすぐにモルタル塗りができ、工期の短縮と工事の簡略化に役立ち、木造住宅建築に画期的なメリットをもたらしました。

アキレスワイヤラスボードの特長

①断熱性が抜群で省エネルギー住宅が実現します。②モルタルの施工が容易にできます。③モルタルの亀裂が発生しにくい製品です。④特殊防水材付です。⑤工事の省力化ができます。⑥軽量で、取扱い・加工が簡単、しかも丈夫な製品です。

Achilles アキレス

興国化学工業株式会社

断熱資材部

本　　社／東京都新宿区大京町22 ☎03-341-5111(大代)
大阪支店／大阪市西区西本町1-14-15 ☎06-534-2170
札幌011-704-5825　仙台0222-95-0219　足利0284-72-1115
名古屋052-612-6544　福岡092-573-6860

読者の頁

中之島まつりの後で

高田　昇（ＣＯＭ計画研究所・大阪都市環境会議事務局長）

今年も５月の連休の３日間、大阪のど真中・中之島には青空の下、若者の驚くばかりの創意と、大人も子供も入り混じっての笑いがあふれんばかりに集まった。公会堂の前には露天古本市がならび、クルマをシャットアウトした交叉点には「笑の会」のステージが設けられていた。堺筋にむかってまっすぐのびる道路上には、淀川のアシで作られた大木馬がゲートがわりに立ち、その両側はデザイナー達の「新製品」手づくりおもちゃの店が開店している。川岸の野外ステージでは全関西のフォーク・グループ、ロックグループが３日間、朝から夜まで続々と競演し、その横では若手の木材業者のグループが木ぎれを提供しての木工コーナーを開き子どもたちが汗を流し、ボーイスカウトが見事な砦を築いている。この全くの手づくりフェスティバル・第９回中之島まつりには、のべ40万人もの人が参加しただろうか、いずれにしても、この様子を10年前に言い出しっぺの一人である私自身も含めて誰が予想できただろうか。

「君は都市計画家らしくもない……、今どき中之島に市民広場を！なんていうのは通らないよ。今や人びとは業務機能ばかりで息苦しくなり、景観も荒れ放題の都心から離れ、郊外に、ニュータウンに新しいいこいの場、文化拠点をつくろうと求めている。第一、今の若者にそんなしんどい目をして手づくりのまつりを創り出すことが期待できるだろうか。」と先輩に言われたことを思い出す。しかし、だからこそ都心を再生させねばならないと考えた。中之島が朽ち果てて行くのを「時の流れ」とながめていることは「計画」ではない、時流にのるばかりが能ではない、と疑問と挑戦の想いをもったものである。今、このまつりに、1000人以上の若者達が主人公として関わっているだろう、 200以上のグループが参加しているだろう、そして数百万円におよぶ準備と運営にかかる費用はすべて一人一人のわずかなポケットマネーとボランティアな労力奉仕によってまかなわれている。コーディネートさえ確かであれば年に３日だけの集団の勧喜を演出することに、これほどのエネルギーと創造性が発揮されることが証明されたのである。その中心となって一貫してささえてきたのが新家政延氏をはじめとする大阪の若手建築家群像であり、その仲間に多くの建築学生の輪があることを見逃したくない。一瞬の花火のようであったＥＸＰＯ70などおよびもよらない都市づくりの妙である。これほどの秀れた建築家の集団創造はかって見られない。大阪の都市と建築に希望を語るとすれば、この実積は欠かせない素材の１つであろう。

大阪をあんじょうする会

高田　昇（ＣＯＭ計画研究所・大阪都市環境会議事務局長）



昨秋生れたばかりの「大阪をあんじょうするための集まり」と自ら愛称を名のる大阪都市環境会議が、着実にかつユニークな運動スタイルで動き出している。これは約 100人の学者、文化人、弁護士、デザイナー、住民運動のリーダー、といった多分野の人たちで、大阪の現状を憂い、大阪をよくしよう、よくしたいと思う者なら誰でも一緒に考え、行動しようではないかと呼びかけたものである。関西復権論も一応でそろったが、一体どこが本気で、何から始めるのかもう一つよく分からない。例の中之島芸能センター構想なんかも、その後どうなっているのか、幻のビジョンが次々に打ちあげられたところでどうなるものでもない。それより、生活者の立場から、大阪の都市再生運動を一歩一歩進めることの方が今大切ではないか、との想いから寄り集まったものである。そもそも、今日の大阪をはじめとする大都市の病根はその根が深く、小手先の対症療法で立ち直れるような事態ではない、と見るべきなのだろう。

大阪をあんじょうする連中は、まず大阪を歩くことからはじめることにした。ディスカバージャパンならぬディスカバーマイタウンへの旅立ちである。１～２ヵ月に１度は１日をさいて、天王寺から新世界へ、あるいは船場、また公害の町西淀川、都心に生きる自然・淀川、と歩き回わる。そして必らずそのまちの人たちと交わり生の声を聞き取る。知らないまちを良くも悪くもできないからである。大阪の良いところ、悪いところを徹底的にあばくつもりである。そして、失われたもの、残されたもの、活用することのできるもの、をはっきりさせ、大阪人の多くが共通にもつことのできる「原風景」を見出し、創り出すことではないかと思う。今秋には、みんなでワイワイやりながら「おおさか原風景」を著したいと取材も開始された。

２つ目の行動はサロンづくりである。暇と金を持て余した人たちだけがサロンをもつことはないだろうし、いつも同じ職場の狭い付き合いのサロンに閉じこもることもない。いろんな分野、考えの人たちが自由に意見を出し合い交わえる場があり、そんなところから新しい流れが生れることも大いに期待できるような時代ではないだろうか。芥川賞作家の宮本輝や同じ作家仲間の眉村章らが大阪の都市環境の絶望を語り、女優の高森和子が大阪の言葉を賛える。もちろん「講師料」はゼロで語る方も聞く方も「会員」の一人である、そんな「大阪を語る会」をやはり１～２ヵ月に１回はもつようにしている。建築や都市づくりにたずさわっている多くの人にもぜひご参加を呼びかけたい。

書評『建築徒然草』『続建築徒然草』

山片三郎著　㈱学芸出版社刊　1,200円

山田　修（大阪市立工芸高校）

徒然草は、兼好法師が書いた「鎌倉時代庶民の生活随筆」である。わたしは、この書がとても好きだ。

あたかも、この徒然草のような内容のある書物が今回、２冊の分冊で出版された。当書は、建築に関する60話が一冊にまとめられた「昭和時代庶民の建築随筆」である。

読んでよし、眺めてよし、保存してよしの芸術味の高い「建築人の教養書」で、他に類書を見ない秀作といえよう。

著者は、日本建築に造詣の深い篤学の士で、数かずの名著を世に送ってこられた“町の発明家„でもある。その年令より判断して、物の考え方は「兼好法師と同じ開悟の持主」と、お見受けした。

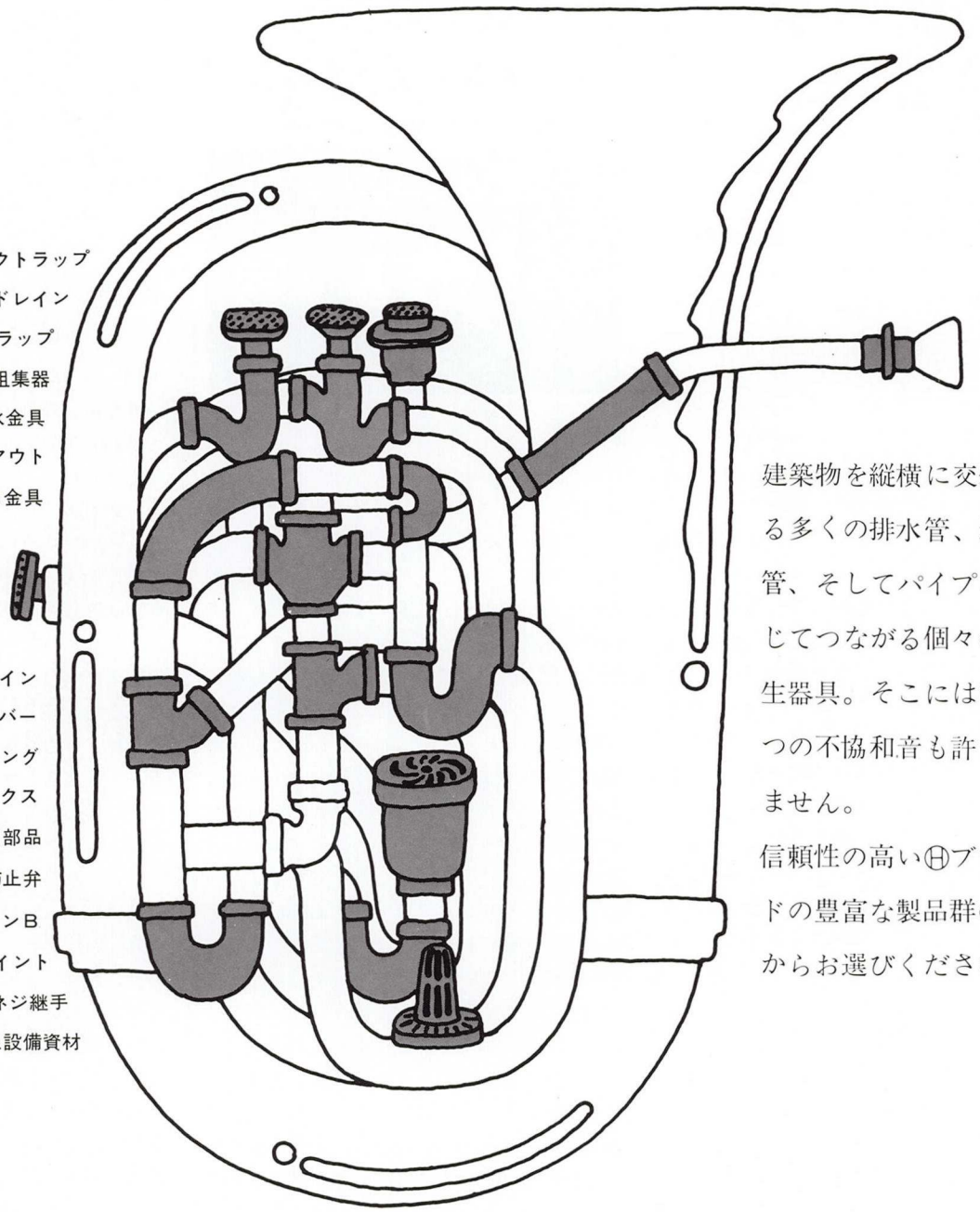
当書は、本のどの頁からでも気軽に読める。独立した一つひとつの話しが巧みで、蘊蓄（うんちく）があり、わたしも随分と味のある話題を本書より知りえた。各話しの始めには、著者の直筆になる額形の意匠と、和風住宅に関する各種の姿図がカット風に描かれている。それを流し見るだけでも楽しい雰囲気になってしまう。欲をいわせてもらえば、横長の意匠図が、前冊と後冊とで同じものを使っている部分が、目についた。次回増刷の節には、差しかえて新しい意匠図を見せていただきたい、と願う。これは、山片先生の意匠図が、余りにもすばらしいので「少しでも多くの新しい作品を見たい」というわたしの厚かましい希望でもある。

世の建築士の皆さんや、建築を学ばれている学生諸君の知恵袋として、ぜひとも本書を活用されることをおすすめする。

さらに、建築の話題を広げ、続々・建築徒然草として 244話（徒然草は 244段ゆえ、それにあやかる）までの続刊をお願いしたい、と思った次第。

㊍は信頼のブランド

すべてのハーモニーのために♪



シンクトラップ
フロアードレイン
各種トラップ
各種阻集器
排水金具
クリーンアウト
通気口金具

ルーフドレイン
マンホールカバー
グレーチング
バルブボックス
オイルタンク用部品
排水用逆流防止弁
ワンマンB
MDジョイント
ドレネジ継手
その他建築衛生設備資材

建築物を縦横に交差する多くの排水管、通気管、そしてパイプを通じてつながる個々の衛生器具。そこにはひとつの不協和音も許されません。
信頼性の高い㊍ブランドの豊富な製品群の中からお選びください。

㊍ 株式會社 長谷川鋳工所

本社/東京都千代田区神田淡路町1-2〒101☎(03)255-4051(代)
大阪営業所・横浜営業所・川口工場

建築と社会 ニュース

ニュース原稿をお送りください。



建設の準備のすすむ会場東南部（55年6月撮影）



建設中の恒久建築群（55年6月撮影）
左：ポートピアホテル
右：国際交流会館

海のまち 新しい世界——
ポートピア'81
1981年春開催 神戸ポートアイランド博覧会

トピックス その12
―パビリオン建設工事始まる―

田中直人／(財)神戸ポートアイランド博覧会協会事務局

ポートピア'81開幕まで8ヵ月余り。会場予定地では、基幹となる土木設備工事もほぼ終了し、今やパビリオン等の建築工事がいっせいに開始されようとしています。既に「神戸館」（神戸市）や「神戸プラネタリウムシアター」（太陽神戸銀行他）については、博覧会期後に恒久施設として整備される方針で着工されています。国内関係の出展は、特別館3館、特設館17館、共同館2館となっています。（公社等の公的団体、地方公共団体は除きます。）出展者・出展グループの参加企業は、現在22館、3団体、568社となっています。出展参加契約は6月末までに締結し、7月からは別表のスケジュールで各パビリオンの起工式（地鎮祭）が開始されています。

博覧会協会では、別表のパビリオンとは別に案内所や食堂、トイレ等からなる各ブロック毎のサービス施設、催し物のメイン会場になる国際広場、諸外国の出展を受け入れる国際共同館群、中国天津市からの友好使節パンダ（オス「サイサイ」メス「ロンロン」）のパビリオン等の建設にあたるため、施設部のスタッフは現地に新しく設けられた協会建設事務所へ、7月から移転しました。

（電話 神戸078－302－2515㈹）

各パビリオン別起工式（地鎮祭）予定表

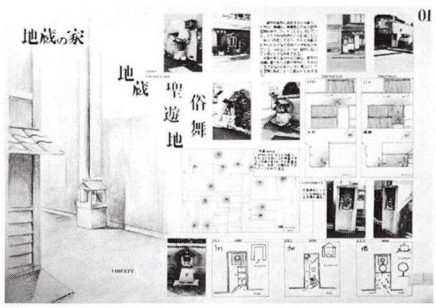
月日	展示館名	建築施工業者
7/1(火)	川鉄地球館	清水建設
	神鋼ポートラマ館	大林組
	住友館	鹿島建設、住友建設、鴻池組
	フレッシュライフ'81	三井建設
7/2(水)	ポートピアみどり館	大林組、東洋建築、銭高組
	松下館	竹中工務店、鹿島建設
7/3(木)	大阪ガスワンダーランド	大林組
	美善グループパビリオン	大成建設、他
	三井グループ館	三井建設
7/7(日)	ダイエーパビリオン	竹中工務店、第一建設工業
	三菱未来館	竹中工務店、戸田建設、三菱建設
	UCCコーヒー館	竹中工務店
7/10(木)	サンヨーソーラリアム	大林組
7/14(日)	兵庫県館	熊谷組
	外国館	岡工務店、播磨工業、山田工務店JV
7/17(木)	サントリー「ウォーターランド」	銭高組
	ハートピア	清水建設
7/23(木)	関電未来エネルギー館	竹中工務店
7/19(土)	IBMパビリオン	奥村組
7/25(金)	ファッションライブシアター	竹中工務店

第34回近畿地区卒業設計コンクール（短大・工専・専修学校・工業高校・大学）

昭和55年5月26日、日本建築学会近畿支部主催による標記コンクールの表彰並びに展示会が大阪科学技術センターで行われ、短大・工専・専修学校の部（応募2点）で1点、工業高校の部（応募7点）で2点、大学の部（応募16点）で3点が優秀作品として表彰された。（紹介順不同）

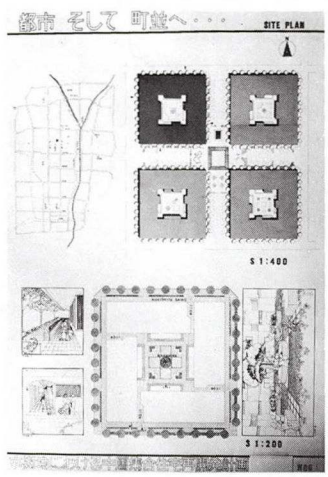
地蔵の家
山田雅巳
大阪工業技術専門学校

伝統的な庶民信仰の対象である地蔵を祀る空間をあらためて都市の一隅に確認しようとする試みであるが、抽象的概念にとどまることなく具体的な建物と関連づける姿勢は評価できる。



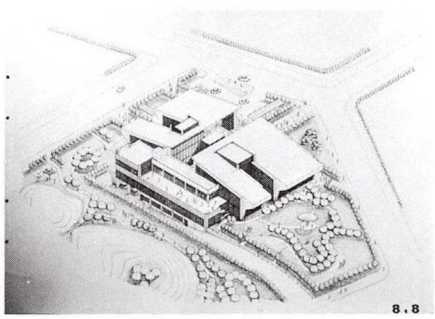
都市そして町並へ
―市街地における中層集合住宅再開発計画―
黒田一弘・丸山尚一・藤田桂子
京都府立大学・住居学科

囲みの中の空間の処理や小路の扱いにも、もっと若者らしい夢のあるアイデアが組込まれていたら素晴らしかっただろうにと惜しまれるが、作品の内容は面白い構成をとっており、作図もしっかりしており、デザインも良い。



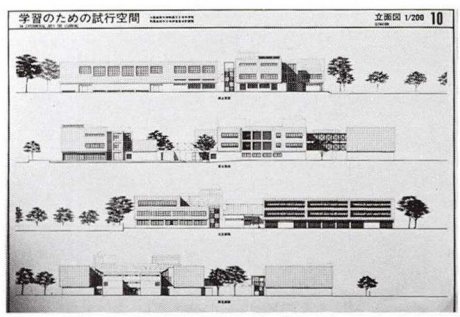
A PUBLIC LIBRARY
播磨政弘
大阪府立今宮工業高校

この計画では1：100の縮尺は必ずしも必要ではなく、むしろ1：200にすれば周辺環境との関連も容易に示すことができたであろうが、堅実な計画とすぐれた製図技術との示す実践性が高く評価された。



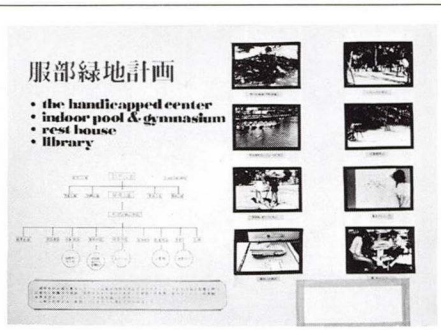
学習のための試行空間
瓦田伸幸
京都工芸繊維大学・住環境学科

派手さはないが、テーマの取り上げ方が適正で、表現手法も解り易く、図面の密度も高く美しい。一瞥して端正で卒業設計らしいオーソドックスな作品と、作者の真面目な努力が好感を呼んだ。



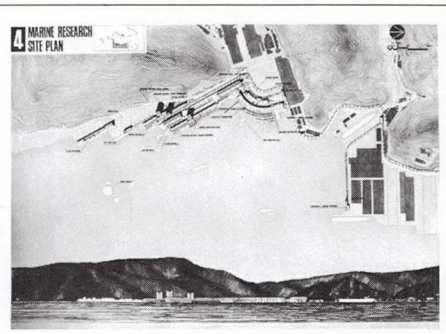
服部緑地計画
立見公志・根本 孝
林 克彦・藤田義貞
大阪市立工芸高校

全体計画との関連が不十分であるが、多数の建物に共通する統一感が感じられ、共同設計の利点を生かした大きな計画でその意欲は高く評価できる。



MARITIME SCAPE
―marine reserch & marine life
木内 誠・辻村祥之
古田和夫
大阪大学・環境工学科

広域的な環境施設をも含めた対象と取組んだ着眼点の良さ、表現手法として色彩を施した図、写真、イラストなどを配し、楽しく絵を主体にまとめ上げた表現努力に評価が集った。



自然発生的建築をめぐって—4—

技術　その1

本多友常（㈱竹中工務店大阪本店設計部設計課）

構法の地方性

腰折れ屋根の民家は、フランス南西部からピレネー山系にかけて形態が整理され様式化する。肌をひきしめる冷気にたちこめた朝靄の切れ目は静寂のうちに一瞬の緊張をむかえ、やがて約束された太陽の光晃は堰を切ったように緑の斜面に降りそそぐ。高い教会の塔を囲む村々にも朝の祝福は等しく訪れて、みずからを見おろす多くの視点に囲まれた清楚なたたずまいは、明け方の新しい光に蘇り、屋根の軒先に近いところでは反射角の違いが腰折れ屋根の跳ね上がりをいっそうリズミカルなものにみせている。背後に迫った山の稜線はやさしさといつくしみを湛え、白いふくらみをせいいっぱいに大きくした羊が、草をはんでメルヘンの世界は完成する。ここはピレネー山系の渓谷バレーダスプ（Vallée d'Aspe）である。(写真－1)もしコースを逆にとっていたならば、腰折れ屋根の民家は甘美な思い出に旅情を添える以外の何ものでもなかったかも知れない。正確に言うと「この屋根の跳ね上がりはなるほど生活の知恵か」と勝手に了解した記憶がうらぎられることによって疑問は喚起されることになった。それはピレネー山系の裾野へ連なるはるか遠くの平野部バンードウーブルターニュ（Bain －de －Bretagne）の民家にまで(写真3)遡る。変調を嫌うかのように微かな起伏のうねりを見せる耕作地の中を執拗なまでに直線にこだわった道路が走り、町の近くでは剪定されて幾何学形を保った樹路樹が並び小さな気取りを見せるのがフランス平野部の田園風景である。バンードウーブルターニュ付近ではこの規則性をさらに強調するかのように一定の間隔をおいて独立農家が点在し、そのほとんどが居住部分、貯蔵庫、畜舎など居住の基本的機能部分によって中庭を取り囲む典型的な分棟型式によって構成されている。当初は日本の曲り屋やスイスの農家にみられるように、一つの大きな屋根のもとに全機能が集約される形式との対比において興味の対象として見ていたため、屋根裏の貯蔵庫に案内されても特別な注意を払うことはなかった。しかし次第にこの屋根裏が屋根裏らしからぬ明るさをもっていることに気づくこととなる。桟の上に直接かけられた屋根瓦の裏面が、壁と交わるあたりで淡い光を乱反射しながら勾配に沿って登り、屋根裏全体をぼんやりと照らしているのである。干草や穀類の乾いた匂香が新鮮な外気にゆらぐのは、その部分の屋根勾配を変化させることによって得られたスリット状のすきまによるものであった。この勾配の変化による腰折れ屋根は外観としてもごくさりげない表情をもって長い年月を経て来ているのであろう。図－1のAの部分のみが1877年当初の建物であり、以後歳月の経過にともなって増改築が行われたらしく、石積の壁の継ぎ目は時代の変遷を物語っている。増築部分にはこの勾配の変化がみられないことから推して、腰折れ屋根は時間的に先行したタイプとしてもともとは分棟型式の体裁をとってはいなかったことが想像される。すると基本的な点ではピレネー山系の民家と大きな差違はないことになる。肥沃な土地と恵まれた気候を背景に、大規模農業への移行の過程でこの中庭形式が生まれたのであろう。

さて、この腰折れ屋根はピレネー山系の裾野にあたる丘陵地帯にかけて目につくようになり、次第にデザイン上の要素として洗練されていくのであるが、気がついたときには本来採光換気の用であったはずのスリットは消えて山間の冷気を遮断しているのである。この変移点がどのあたりにあったか定かではないが、振り返るに大規模農業に対応した分棟形式としての中庭の扱いが丘陵地に入るあたりからくずれはじめ、それに呼応していたように記憶する。それでは何故、スリットをとる必要を失った腰折れ屋根が、ピレネーの山間地において存続し様式化されていくのであろうか。そこにはもう一つの合理性が介在する。構造およびそれにともなう構法上の理由である。石積の厚い壁に屋根を架ける場合図－2のAの方法では予期しがたい力が水平部分にかかることになるためBのように一点支持を実現しなくてはならない。しかしそのままでは水の侵入が防げないため、勾配の違う屋根で壁を覆う必要が生じ、結果として腰折れ屋根が出現することになる。(図－2－C)これは屋根面を流れる水の勢いを減じ、方向転換させるための工夫としても合理的だと思われるのだがさらによく調べてみるとDのような工夫によって、構造的な問題が簡単に解決して腰折れを持たない事例も同時に数多く存在しているのである。ここに到ってこの腰折れ屋根はその分布上の連続性に反して、それぞれに異なる建築上の合理性と結びついて、相互関係の上では機能上の断絶を示していることになる。つまりまず「かたち」があるのだ。アモス・ラポポートによれば「材料、構法、技術は形態決定要因としてよりも（建築上の）変形要素としてとらえられ、何がどのようなかたちで建てられるべきかを決定するものではない。」(1)と述べているように、建築上のハードな面を一種の適応の手段として考えている。しかしこの腰折れ屋根の一例はその即物的範囲を越えてある種の形態表現指向をもった意味的な事象として現象していると言える。人々の建築的空間形成における感覚的核の形成を先験的なものとみるか、あるいは形や素材に対する長年にわたる感情移入の潜在的な蓄積によるものとみるかは、論の分れるところであるが、少なくともそれはすでに適応という即物的範疇を起えて、空間的表象としての独立的な世界を形成していると考えられる。

近代技術の発展ぶりに慣れているわれわれは、技術を多種多様な外的条件の変化に対応していくものとして、いわば変幻自在に革新の栄光を受けて発展していくものとする進歩思想の中で捉えがちであるが、実は深く心的感受性と結びついて、外的与条件に対応する整合性の獲得とは別の系譜を持つものとして観察されることを忘れてはならない。大黒柱が主構造体としての機能と同時に宗教的な意味での「憑代（よりしろ）」として、あるいは社会的な面におけるシンボリズムの任い手として、構造的機能が単なる力学的世界にとどまらず、ある種の儀式性と結びつくことはこのことをよく示している。これについてはいくつかの実例に則して考察する予定であるが、ここではもうひとつ構造的な面での興味深い例としてスイスのシャーレーを紹介しておこう。(写真－5,6)一般に建築の外観は内部構造の瞬間的了解を伴うものであり、その点からしてこの屋根の構造を束立て、あるいはトラスと考えるのが普通であろう。ましてや校倉は木材による組積造であり、荷重を壁面に伝えていくものとするのが、私達の了解の仕方である。ところが参考までにと内部のスケッチをしようとして印象的なことは、内部に使われている部材の多さであった。理由は斜材が床から直接棟木を支えるように登っているために特別な印象を与えるためである。ここで思いおこされるのが、このシャーレのみられる地域に隣接してスイス北西半分を占める農家の原型が、いわゆるテントポール構造をもっていることである。(2)図－3これはその発展型としてRündiと呼ばれるアーチ状の妻を持つベルン型の農家へと発展していくわけであるが、(図－4)スイス南東半分にみられる校倉造の基本的構成が、隣接する地域の全く異なる型式を発展させている農家にみられることは極めて暗示的な現象といわなくてはならない。

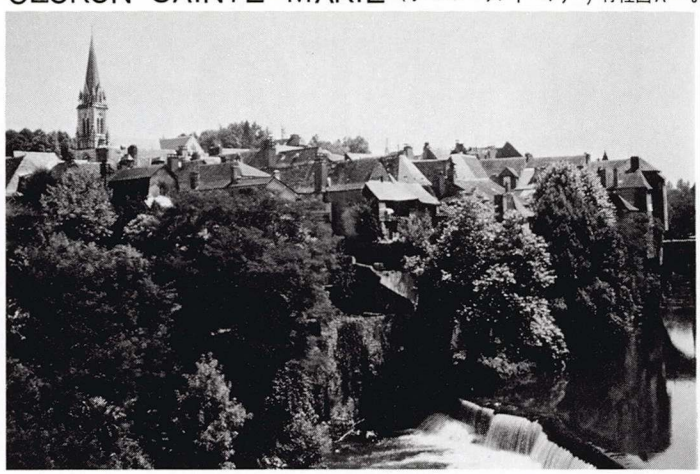
参考文献 (1)HOUSE FORM AND CULTURE P25. AMOS RAPOPORT 著
(2)SHELTER AND SOCIETY P49～P65 edited by Paul Oliver
ADRIAN ATKINSON 著 BARRIE & JENKINS

BORCE（ボルス）　行程図A－5付近



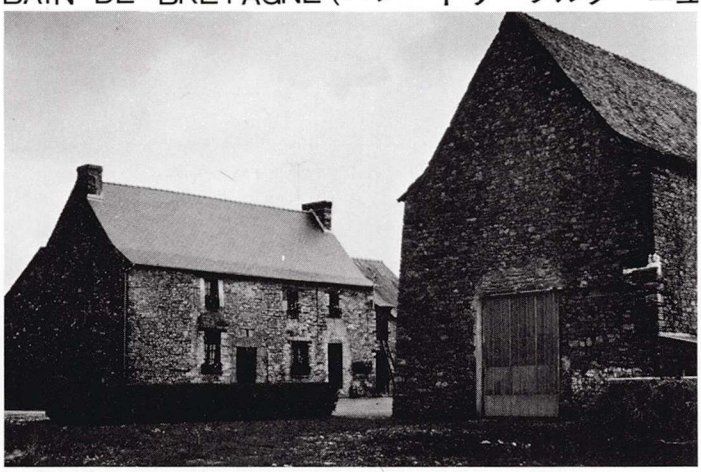
写真－1　バレーダスプ渓谷の村、全景

OLORON-SAINTE-MARIE（オロロン-サント-マリー）行程図A－5



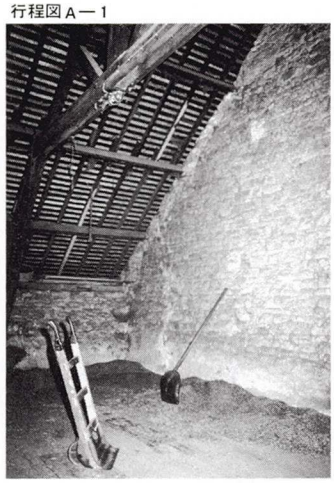
写真－2　ピレネー山系の裾野にある町

BAIN-DE-BRETAGNE（バン－ドウ－ブルターニュ）

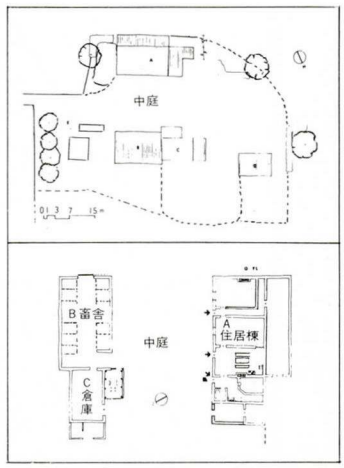


写真－3　農家の中庭　正面は住居棟、手前は畜舎

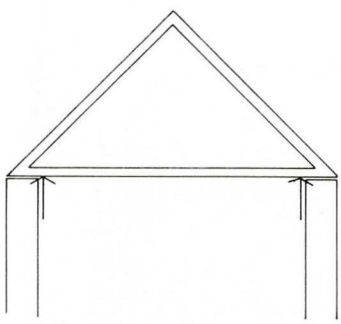
行程図A－1



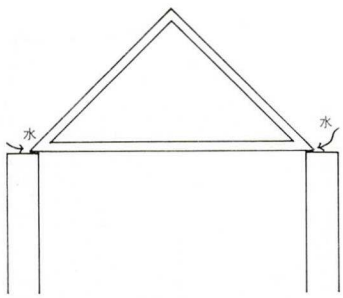
写真－4　屋根裏



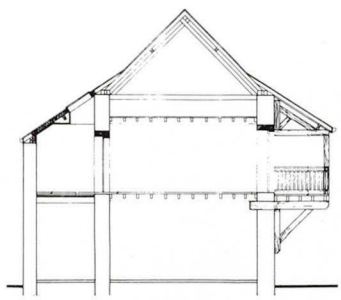
図－1　（上）配置図、（下）平面図



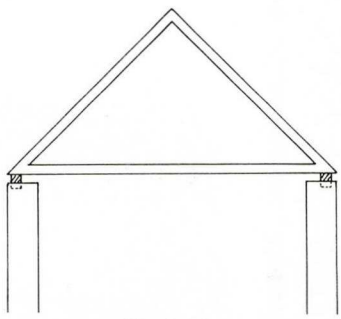
図－2－A



図－2－B



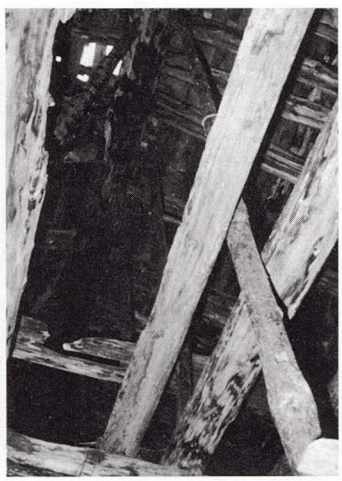
図－2－C



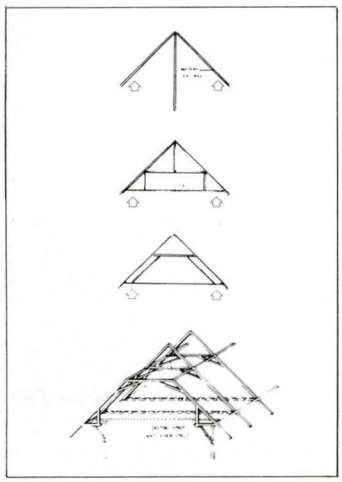
図－2－D



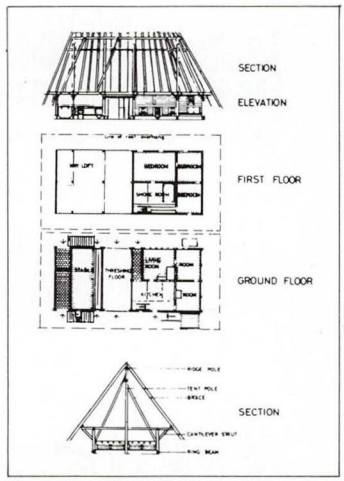
写真－5　スイスのシヤーレー



写真－6　シヤーレーの内部



図－3　テント型農家
SHELTER　AND　SOCIETYより

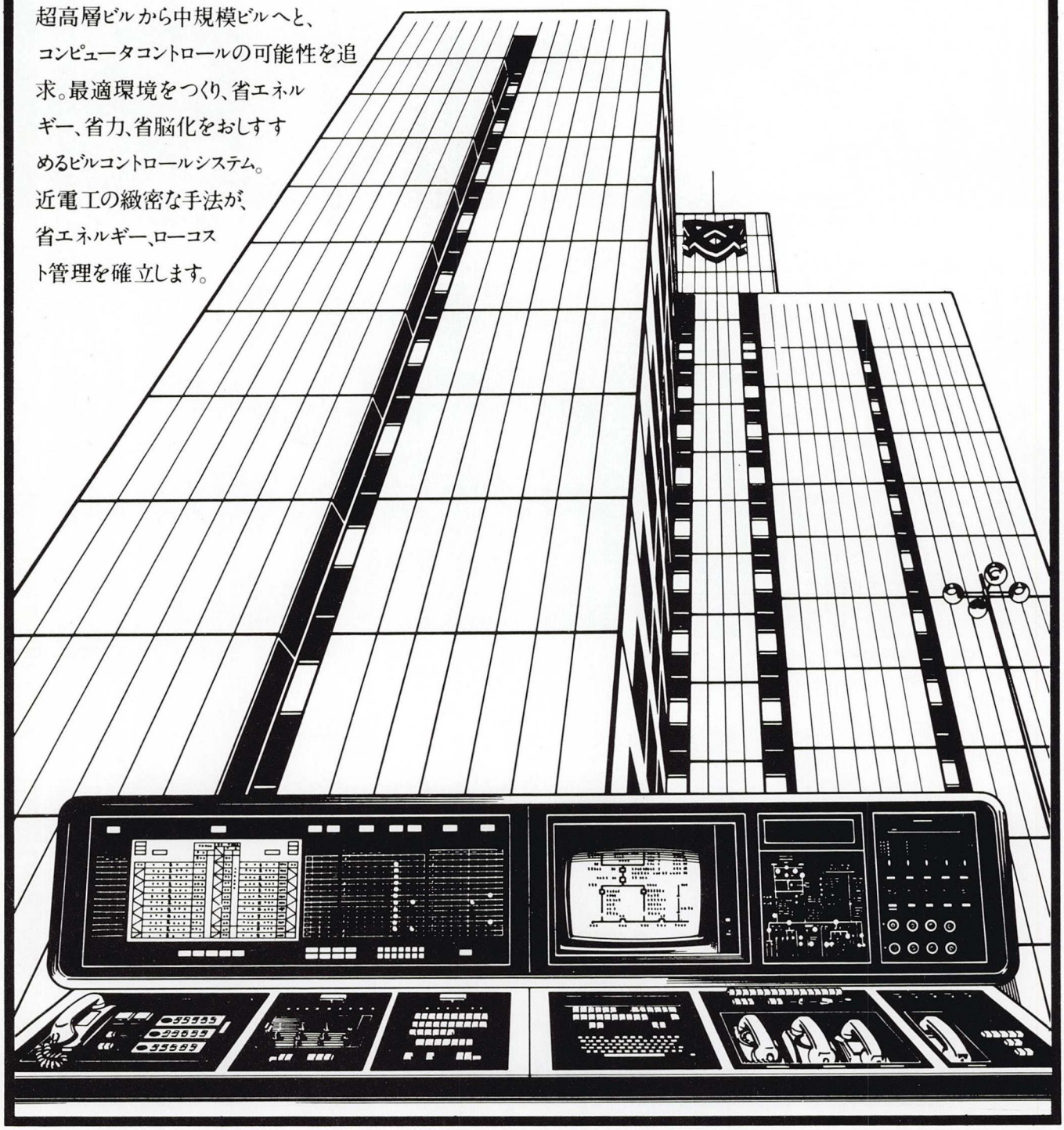


図－4 テント型農家における構造の発展
（出典同左）

ビルのローコスト管理をめざす!!

近電工の省エネ制御システム

超高層ビルから中規模ビルへと、
コンピュータコントロールの可能性を追
求。最適環境をつくり、省エネル
ギー、省力、省脳化をおしすす
めるビルコントロールシステム。
近電工の緻密な手法が、
省エネルギー、ローコス
ト管理を確立します。



電気・計装・空調・管・防災・土木

システムの信頼を高める
近電工

●取締役会長　岡本繁一
●取締役社長　武田恭一

近畿電気工事株式會社
大阪市大淀区本庄東2丁目3番41号　〒531　☎06(375)6000

北海道・東北・東京・名古屋・滋賀・京都・奈良・和歌山・大阪・神戸・姫路・広島・四国・九州・沖縄

青年技術者のみなさまへ

「建築と社会」昭和55年11月号の「第27回青年技術者特集号」の応募について

日本建築協会誌「建築と社会」は毎年「青年建築家特集号」もしくは「青年技術者特集号」を企画し、すでに26回にわたって優秀な青年技術者を紹介してきました。

今回も、「青年技術者選衡委員会」を設けて、選衡の上掲載することにしております。

その選ぶ分野も、建築に携わる技術者層の多面化傾向を考慮して、設計だけに限らず、計画、構造、施工、設備およびその他広く建築に関連する分野から、優秀な青年技術者を選んでその不断の研究努力とすぐれた業績を「建築と社会」に掲載して顕彰することにしております。

ついては、下記応募規定を参照の上、ふるって応募されんことを希望します。

応募提出規定

1. 応募される人は満35才までの青年技術者であって、本会会員に限ること。
2. 原則として、本会会員であるすいせん者を通じて応募のこと。すいせん者は被すいせん者（青年技術者）の勤務する組織の上司なり上長であること。すいせん者が学校教官である場合はこの限りでない。また本人が組織の代表者である場合は自せんとする。（すいせん用紙は事務局にありますので、ご請求ください）
3. 応募者は、設計（住宅･インテリアを含む）、計画（都市計画など）、施工、構造、設備、その他の分野にあって、なしとげたすぐれた実績について、すいせんをうけ、下記の所要の資料を本会に期日までに提出すること。
4. 提出された資料は「青年技術者選衡委員会」にかけて選衡する。
5. 「青年技術者選衡委員会」において選衡されたものは「第27回青年技術者特集号」(昭和55年11月号）に掲載するとともに、記念品を贈呈する。
6. 提出資料

(1) 略歴

本人の氏名、生年月日、最終学歴、業歴、作品経歴など。

(2) 選衡資料

A 資 料

(i) 建築設計の場合（住宅設計・インテリアを含む）

鮮明な写真、配置図および主要平面図、概要、設計要旨、その他設計内容を説明するに十分な資料

(ii) 計画の場合（都市・地域の計画など）

計画図、計画要旨、その他上に準じた資料

(iii) 施工、構造、設備の場合（それぞれの設計計画なども含む）

上に準じた資料

(iV) 上記以外の分野の場合（プロジェクト等の調査・企画・調整、コンサルティング、コーディネイト、プログラミング、部材・材料の開発、造園等、その他）

それぞれにふさわしい資料

B 資 料

上記A資料の各業績において、応募者本人が関与した程度、役割・立場等を明らかにし、A資料中、本人が特に貢献した部分、または力量が活かされたと思われる部分の詳細な説明、考え方および将来的展望などについて、400字詰原稿用紙8枚以内に平易簡明にまとめたもの（必要に応じ図・表を用いて差し支えない)。ただし応募者・本人の自筆に限る。

(3) すいせんのことば

原則として、すいせん者によるすいせんのことば(120字ていど）を添付のこと。自せんの場合は不要。

（註） 「青年技術者選衡委員会」において選衡し、採択されたものについては、後日、本人の写真、青年技術者としてのことば(青年技術者としての抱負、考え方、信念、建築観等々を、400字ていどで執筆）の提出をお願いすることにします。

7. 提出期限 昭和55年9月1日
8. 提 出 先 大阪市東区北浜3－37 〒541
日本建築協会「青年技術者選衡委員会」
9. 青年技術者選衡委員会（昭和55年度）

委員長 三輪泰司（地域計画建築研究所所長）
委 員 松村慶三（浦辺建築事務所副所長）
〃 加藤邦男（京都大学助教授）
〃 前田治（大阪市建築局営繕部長）
〃 酒井貞（都市科学研究所副所長）
〃 横井元昭（大林組技術部長）
〃 鈴木計夫（大阪大学助教授）
〃 河津隆之（河津隆之事務所所長）
〃 簾谷清二（新日本空調技術部副部長）
〃 天道一（竹中工務店技術部長）
〃 竹中啓介（近畿日本工機建設部長）

●アンダーラインの部分は、前回から新たに修正・追加された規定ですので、ご留意の上、応募下さるようお願い申しあげます。

建築の眼

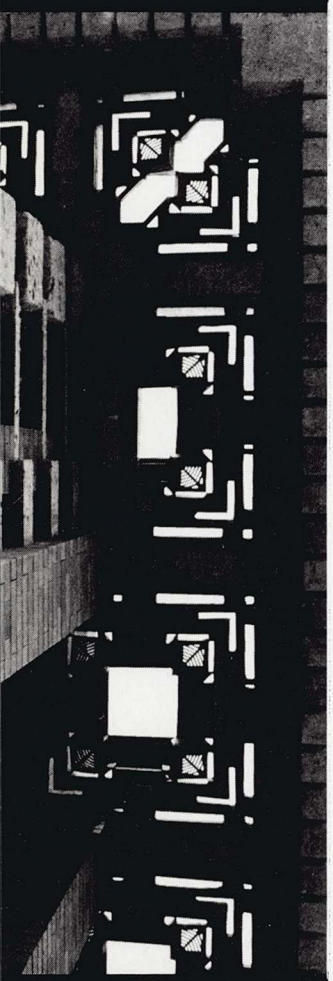
島村　昇
金沢工業大学教授

望月秀祐
京都市計画局長

矢野克己
日建設計取締役
東京本社副代表

柴辻政彦
志野陶石代表取締役

7月号から12月号まで
上記4氏が担当



地方都市のジレンマ

近年地方都市がクローズアップされて、都市・住宅・建築などの分野でもそれらの地方性ないし地域性といったテーマがよく登場するようになった。われわれ地方都市の住人にとって、大変ありがたいことである反面いろいろ考えさせられることも多い。

地方都市の特色は、その歴史性・風土性にあるといわれるけれども、いざそれを具体的に都市・住宅・建築の分野で展開するとなるとなかなかおもうようにいかない。その理由のひとつは、地方都市の後進性、つまり明治以来の中央崇拝思想がいまだに尾をひき、足元のところを客観的に評価できにくい体質にあることである。

ある会合で、「地方の個性を大切にするには、まず地方のプランナーを起用すべきだ」という意見が出、もっともなことだとおもっていると、それに対して「この地方にそれだけ力のあるプランナーはいない、やはり中央に頼まざるをえない」と。つまりこの場合には、足元をよくみ考えようとする努力ないし姿勢がない。地方の時代は、地方でも時間をかけて力を蓄積する時代ともいえるようだ。　（N・S）

ターミナル違法人

ターミナル附近の路上に放置する自転車は増える一方で重大な社会問題となってきている。これに手を焼いた京都市では、このほど、自転車不法駐車追放ポスターを製作してＰＲしようと計画している。そのポスターのキャッチフレーズが「ターミナル違法人」なのである。アルベール・カミュの小説で知られている異邦人と違法人をゴロ合わせしたものである。

バイコロジー運動にはじまり、最近の省エネ運動が拍車をかけ、自転車利用者が激増している。全国的にみると、自転車保有台数は昭和25年ごろの１千万台から、今では５千万台をこえている。京都市内の場合も、放置自転車は１万２千台をこえている。この対策として、駐輪場を行政の手で整備することが基本であるが、収容能力の限界があり、集団的違法行為に対して不感症な日本人の習性は簡単に直るものでない。郊外地はともかく、都心のバス運行が整備されている鉄道駅ターミナルに、その90％が通勤通学用といわれ、終日置き放し、しかも、１平方メートル当り百万円以上である土地に数万円の自転車を置くことが当然であると言えるだろうか。市民みずからも税金の公平な使い方を見直してほしい。

（H・M）

建築界の鎖国から開国へ

戦後の復興と日本経済隆盛の波にのり、日本の建築界は大発展を遂げることができた。その間に出来上った業種・会社間のバランスが、ここ数年で大きく変貌しつつあるように思える。その要因は主として海外工事の増加にあるのではなかろうか。海外の場合、まず発注者が日本と違いプラント関係では生産技術・建設技術の両分野を含めたフルターンキイ方式の発注が多いこと、それぞれの国の法律で日本業者が施工出来なかったり、リスクが大きいために日本のゼネコンがＣＭ（コンストラクションマネージメント）業務をする場合が多いこと等々による影響と考えられる。

建築界を巾広く理解し、建築技術者の多く働いている業界と考えると、プラントエンジニアリング業界も含まれる。こうした眼で見てゆくと、設計業界では近年利益のトップは東電設計であり、鉄鋼・造船・化学系のエンジニアリング部門での建築エンジニアの活躍は眼を見張らせるものがある。施工業界でも日揮・千代田化工・東洋エンジニアリング等のプラント建設各社の受注伸び率は、一般建築請負業者の伸び率を大きく引きはなしている。日本経済が高成長より低成長の時代へと移行し、世界経済のバランスの変化がこのまま続くならば、建築界もこれらの変化はますます進行してゆくものと考えざるをえないのでなかろうか。　（K・Y）

タイルの「ライフ・サイクル・コスト調査」―アメリカで発表

建築にとってインフレは大敵である。おまけに、近頃では「省資源・省エネ」が絶叫される。当然だ。こうした事情を背景にして建築仕上材の見直し調査がアメリカで実施された。アメリカのタイル諮問機関が、例のあの権威を誇る「ROBERT・G・SCHARF　AND　ASSOCIATES」に「建築仕上材のライフ・サイクル・コスト調査」を依頼し、さきほど結果が発表された。

ここにいうコストとは、建築を40年とみて、それに要した材料、施工、維持、取替えに関する諸経費の全額を含んでいる。例外的条件は除かれている。

詳細は省くがライフ・サイクル・コストをこの調査では３通りに分類している。つまり①永久使用仕上材PERMANENT　FINISH　②長期使用仕上材LONG　USE　FINISH　③非耐久使用仕上材LIMITED　USE　FINISHである。

タイルの結果はどうか。永久使用仕上材のうちで、断然１位である。壁床とも、他のレンガ。大理石。プラスチックラミネート。繊維壁材。テラゾー。樹脂加工テラゾー。カーペット。ワックス無しビニール。ビニール混合材などを凌駕している。

外壁タイルは１Ft^2当り 40年間コストで$9.91。床タイルは１$Ft^2$当り40年間コストで$29.10となっている。建築の永久使用仕上材としてタイルはますます日本でも見直されることであろう。　（M・S）

◀会員の受賞

このたび下記会員諸氏は、建設界における多年の功績によって建設大臣より表彰を受けられました。

ここに誌してその栄誉をお慶び申し上げます。

記

淺沼茂夫 氏（淺沼組社長）
木下正利 氏（清水建設副社長）
小林四郎 氏（太陽工藤工事社長）
島村忠男 氏（西日本建設業保証社長）
中原　茂 氏（中原茂建築事務所社長）
深江　実 氏（大装社長）
森　茂樹 氏（森設計代表取締役）

◀支部だより

各支部選出の昭和55～6年度評議員が、下記のとおり決定いたしました。

記

（和歌山）貴志満二 氏（貴志工業）
野島育夫 氏（野島建設）
（東海）小坂忠勝 氏（東海設計）
水野金市 氏（中部工業大学）
（京都）鈴木覚也 氏（大朝組）
森島章光 氏（森島建築設計事務所）
（中国）香取禮三 氏（米子工業高等専門学校）
福永敏男 氏（福永建設）

中国並びに和歌山支部では役員の改選により、新役員が下記のとおり選出されました。

（中国支部）

支部長	青盛　巖氏（青盛建材ＫＫ社長）		
副支部長	松本　正夫氏	松田　実氏	
幹事	武藤　享氏	横田　昇三氏	
常議員	佐藤　重夫氏	古林　敏郎氏	山中　道三氏
	西山　高明氏	細川　義夫氏	柴田　修身氏
	河内　義就氏	北山　雄三氏	江上　一雄氏
	中居　建三氏	西田　芳栄氏	繁松　盛男氏
	増岡　重昂氏	和田　精一氏	
	佐藤　公三氏	前西　菊人氏	

（和歌山支部）

支部長	北山　俊氏（日新建設工業）		
副支部長	寺地　清氏	阪本　良二氏	
監事	岩脇　数馬氏		
幹事	北野　常夫氏	野島　育夫氏	田村　隆資氏
	児島　政信氏	広田　雅男氏	富松　助六氏
	雑賀　孝夫氏	貴志　満二氏	東野　信義氏
	辻本　豊氏	岡　隆氏	
相談役	島村佐次郎氏	井崎　梁次氏	栂野　正春氏
	薮本　芳一氏	加山　増一氏	

◀建築技術選書講座シリーズ（第７回）
――医院・診療所の計画と設計――

病院の建築といえば、設計のむずかしいものの一つに数えられています。しかし、それなりに今日まで多くの研究の積み上げがあり、実際の計画と設計にも反映されてきました。

一方、医院・診療所はもっと見近な建築施設でありながら、その計画の方法論については案外とりあげられてはおりません。住宅同様の規模で、その施設内容が医師個人の意見に左右されて定められ、計画・設計上決め手となる建築理論的、建築技術的要素に乏しいように思われます。

そこで今回は、『医院・診療所の計画と設計』の著者である池田有隣・船越暉由両先生を講師として、数多くの事例に基づき、実際的な面で設計者・施工者・建築主のそれぞれに役立つ内容を講義していただくことにいたしました。

多数のご参加をお待ちしております。

日　時　昭和55年 8 月19日(火)　開場13:00
開会13:30→閉会16:30

会　場　薬業年金会館・４階・402号室
（大阪市南区谷町６丁目36番地・ＴＥＬ06―768―4451）
ただし、大阪、地下鉄・谷町線「谷町６丁目」駅下車→ホームより天王寺寄りの改札口を出て、右側よりの階段を地上に出たところの建物。

講　師　池田　有隣氏（京都工芸繊維大学教授・工学博士）
船越　暉由氏（京都工芸繊維大学助教授）

定　員　50名

聴講料　会　員 3,000円
会員外 4,000円
} 当日受付にて徴収します。
（別にテキスト代「医院・診療所の計画と設計」〈特別頒布900円〉入用。ただし、ご持参の方は不要）

申　込　往復はがきに限ります。はがきは１名に１枚限りとし、氏名・年令・勤務先名・所在地・連絡電話番号・返信用宛名郵便番号・会員・会員外の区別を記入し、「講座：医院・診療所の計画と設計」と明記の上、８月13日(水)までに建築協会事業課（大阪市東区北浜3-37）へお申し込み下さい。
参加者には本会より受講券をお送りいたします。
なお、申し込みの取消しは、ご容赦願います。欠席されても聴講料をご負担いただきますのでご了承下さい。（欠席の場合は代人でも結構です。ただし、事前に氏名を事業課までご連絡下さい。）

お願い　●当日テキスト有用の方は、必ずはがきに「テキスト有用」とお書き下さるようお願いします。

◀通常総会決議報告

昭和55年６月26日開催の通常総会におきまして、下記議案がそれぞれ原案のとおり承認されましたので、ここに会告いたします。

記

1　昭和54年度　事業報告（別掲）
2　昭和54年度　決算報告（別掲）
3　昭和55年度　収支予算（４月号にて会告済）

◀太閤園・迎賓館の新築工事見学会

大阪・都島の名園、太閤園に新しく《迎賓館》が増築され、この秋、オープンいたします。

太閤園は、旧藤田男爵邸の当時は網島御殿といわれた淀川畔20万㎡の広大な敷地内の東部一画にあり、市内では稀有の美しい緑につつまれた庭園を有し、築造当時そのままの純日本様式の建物を使用した宴会、各種パーティ場として名声を博しております。

この度、竣工される新館は、伝統ある旧館の落ちついた風格のある名園にマッチした茶褐色のスクラッチタイルによるシックな外装と、近代設備をあますところなくとり入れた大小宴会場をはじめ、結婚式場、ガーデンレストランなど、迎賓館の名にふさわしいゴージャスな建物といえます。

今回、太閤園の特別のご厚意で、森京介建築事務所並びに清水建設株式会社のご協力により、美しいみどりと由緒ある歴史に彩られた太閤園新館《迎賓館》を見学できる機会を得ました。多数ご参加をお待ちします。

日　　時　8月23日(土)　集合14:00→解散16:00
（解散後、太閤園庭園自由散策）

集合場所　太閤園・本館　会議室（大阪市都島区網島町9－10
ＴＥＬ06－351－8201）
ただし、京阪電車「京橋」駅より西へ徒歩10分、又は大阪市バス「片町」停より徒歩3分

定　　員　30名

参加会費　会　員　500円
会員外　700円　（飲物代、その他・当日徴収）

申　　込　往復はがき1名1枚限りとし、氏名・勤務先名・連絡電話番号・返信用宛名・郵便番号を記入し、8月15日(金)までに「太閤園・迎賓館」の見学と明記の上、建築協会事業課へ。準備の都合上、定員を超過した場合は会員優先にて抽せんの上お知らせいたします。

◎藤田観光㈱の事業と太閤園新館計画

藤田観光㈱は、ホテル業、リゾート開発、結婚式場などの諸事業を多目的に経営しているが、特記すべき点がある。それは、旧華族などの所有した歴史的雰囲気を有する日本古来の建築物や庭園を率先して保存しながら営業施設に順応させて行くという点である。このことはヨーロッパに比して甚しく難しい諸情勢を伴うわが国では貴重な施策と云える。この計画もその顕著な一例である。

1．現存する太閤園（淀川邸）は、関西財界で盛名を馳せた藤田伝三郎男爵が淀川畔に築造した東邸を、藤田美術館とともに、築造当時そのままに活用している。これは70余年前の建築物であるが、その豪壮華麗さは、日本建築様式の建物として一級品である。

そこで新館を設計するにあたっては、婚礼、宴会、各種パーティ場、高級レストランなど、その目的を踏まえたうえで、その淀川邸（隣接する桜宮公園、大阪市長公館、藤田美術館を含む）との調和を充分に考え、また格調高い意匠を街なかの一角に置きたいとデザインした。

2．計画上の具体的問題

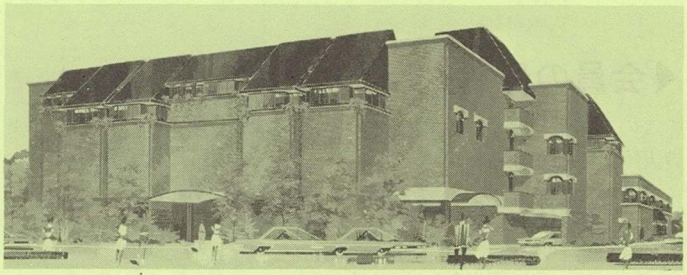
本設計をするにあたっての大きな問題は、

(1) 既存建築物との動線上、形態上、構造上、設備上などのとりあい。

(2) 庭との有機的結びつきと、建物の計画。

(3) 人と車の動線の処理。

(4) 365日フル稼働のレストラン、バー、割烹などと、婚礼を主体とした100日稼働の宴会場との共存共栄の計画。



などである。これらの問題は出来上がった建物を見ていただければ、ほとんど解決されていると考える。　㈱森京介建築事務所・記

〔建築概要〕

所在地	大阪市都島区網島町9－10
建築主	藤田観光株式会社
設計監理	㈱森　京介建築事務所（本社・東京）
施　工	清水建設株式会社
構造規模	ＳＲＣ造、地下1階、地上4階、塔屋1階
敷地面積	20,929.37㎡
建築面積	2,880.64㎡
延床面積	11,130.66㎡
工　期	54．6．1 → 55．8．31

◀第27回青年技術者特集号の応募規定

本誌11月号予定の青年技術者特集号の応募規定は「青年技術者のみなさまへ」と題して27頁に掲載していますので、ご参照の上、ふるって応募下さいますよう、お知らせいたします。

なお、すいせん用紙は日本建築協会事務局にありますので、ご請求下さい。

■日本建築協会の展示窓ご紹介

第47回展示写真「街を緑に・第10回」

昭和55年度　大阪市の緑化表彰建築物

―帝塚山セントポリア・平野町センチュリービル―

大阪市においては昭和45年より毎年〈建築物に附属する緑化施設に対する表彰〉がおこなわれていますが、本年度は「帝塚山セントポリア」（阿倍野区帝塚山1丁目482―3）と平野町センチュリービル（東区平野町3丁目6－1）の2点が優秀施設として表彰されました。

今回は「街を緑に」のテーマのもとに、この2点の表彰作品をご紹介いたしました。

展示期間は下記の予定です。お近くをお通りの時は是非ご覧下さい。

▶展示期間　昭和55年7月11日より約2ヵ月間予定

▶展示場所　京阪電鉄・地下通路（北浜寄り南側ショーケース）



◀完成間近の大阪・上六・市街地再開発事業を見る(2)

（日本建築協会・大阪府建築士会・大阪建築士事務所協会・共催）

民間施行による都市計画事業として注目されている大阪・上六・市街地再開発事業の建設は順調に工事が進み「うえほんまち・ハイハイタウン」と命名されて９月18日オープンをめざして最後の仕上工事が進められております。

事業の内容は、上六交叉点に接する一街区、約0.9haの地域の整備（土地区画整理事業）と、地下２階、地上15階、延床面積60,000㎡に及ぶ大規模なもので、赤色花崗石につつまれた外観と、上町台地にふさわしい階段状の広場がビルの特徴となっており、施設は住宅（日本住宅公団の参加による）、事務所、診療所、店舗の複合体で、そのうち店舗の約70%は権利床、その他が処分床となっています。



このほとんどの施設は竣工前に分譲がほぼ完了済みで、再開発事業としては、非常な成功をおさめた例であるといえます。

本会では、昨年５月に引き続き、第２回目として竣工間際の建物の見学会を開催いたします。この企画にあたり、上六市街地再開発組合、日本住宅公団、安井建築設計事務所、鴻池・フジタ・モリタ共同企業体に多大のご協力をいただきました。多数ご参加下さい。

なお、今回は大阪府建築士会並びに大阪建築士事務所協会との３会共催になりましたので、ご関係の各会へお申込み願います。

日　　時　８月29日(金)　集合13:30→解散16:00

集合場所　近畿日本鉄道「上本町」駅・１階コンコース・ブロンズ時計の下付近の通路（近鉄バファローズサービスセンター前付近）・目標会旗。

ただし、大阪、地下鉄・谷町線「谷町９丁目」駅下車→地上へ出て東へ徒歩５分。または近鉄・難波駅より乗車→２ツ目の「上本町」駅下車→１階コンコースへ出て右側すぐ。

定　　員　60名（内、本会割当20名）

参加会費　無料（ただし参加証持参者に限ります）

申　　込　往復はがき１名に１枚限りとし、氏名・勤務先名・所属部課名・連絡電話番号・返信用宛名・郵便番号を記入し、８月20日(水)までに「うえほんまち・ハイハイタウンの見学」と明記の上建築協会事業課へ。申込み多数の場合は抽せんにて決定して参加証をお送りいたします。

なお、今回は会員以外のお申込みはご遠慮願います。

建築概要

事業地区名	上六地区第一種市街地再開発
所在地	大阪市天王寺区上本町６丁目、同７丁目 東平野町３丁目の各一部
施行者	上六市街地再開発組合 （参加組合員 日本住宅公団関西支社）
設計	建築、構造、設備、 ㈱安井建築設計事務所
監理	日本住宅公団関西支社(住宅) ㈱安井建築設計事務所(施設)
施工	(建築)鴻池組・フジタ工業・モリタ建設共同企業体
構造	ＳＲＣ造
規模	敷地面積　7,130㎡ 建築面積　5,937㎡ 延床面積　60,956㎡ 建ペイ率　83.00% 容積率 794.00% 階数　地下２階、地上15階、塔屋３階 軒高　45.00m 最高　55.80m
工期	昭和53年４月→昭和55年９月

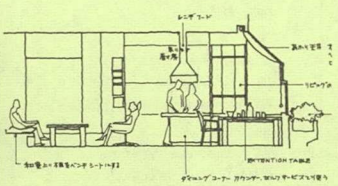
建築技術選書19

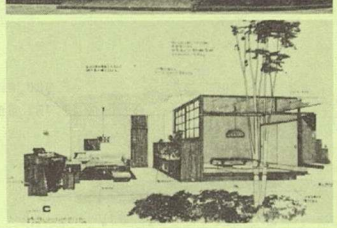
住宅設計とインテリア

福岡喜久雄著　Ａ５・160頁・1000円

住まいの外観が様々に違うように，住まいに対する考え方や住まい方も様々である．本書は第一線の設計家でありデザイナーである著者が，住まいの在り方を，その形の上から見直したコメント集である．設計者はもとより，日頃住まいに心を砕いている人々に対し，豊富な写真と独特の図によって，具体的な新しい住まい方とインテリアを詳しく提案する．









● 建築技術選書 20

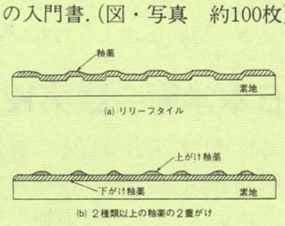
企画：日本建築協会

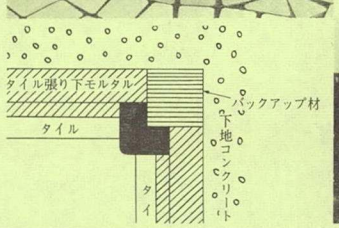
タイルの話

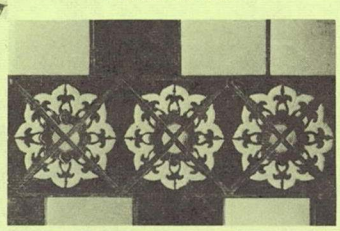
田中　弘著　Ａ５・160頁・1000円

建築装飾材料の中でもひときわ光るタイルの美しさの秘密は，自然の手によって仕上げられていることにある．このタイルのほんとうの魅力と使い方を知っていただくために，タイル界の第一人者が豊富な経験を生かし，タイルの歴史やつくり方から形と性質，施工や監理の注意点にいたるまで，懇切丁寧に語ったはじめての入門書．(図・写真　約100枚)









第１期20巻完結記念・特別セットを用意しました．詳細はP. 44 に.

学芸出版社　京都市下京区木津屋橋通西洞院東入　☎075-343-0811

◀建築技術選書第18号・第19号・第20号発刊

18 ショッピングセンターの計画（西脇顕正著）
19 住宅設計とインテリア（福岡喜久雄著）
20 タイルの話（田中弘著）

●日本建築協会企画、学芸出版社発行で刊行中の標記建築技術選書の第18号（6月20日発行）・第19号（7月20日発行）・第20号（7月20日発行）が相ついで発刊されました。

●第18号の「**ショッピングセンターの計画**」は、商業施設の複合性がクローズアップされている折柄、その施設を生み出すに至る原因や背景を知り、それを計画上に生かす必要があります。また、これからの複合化された大型商業施設の計画をすすめる上で、その配置設計、建築設計、設備等のポイントを示しているので身近で、最適の参考図書となっています。著者西脇顕正氏は西脇設計・都市開発研究所所長、西脇商業計画研究所所長であり、しかも日本店舗設計家協会副理事長をしておられるこの道のベテランであります。

●第19号の「**住宅設計とインテリア**」は、住まいのあり方を、その形の上から見通したインテリア集で、豊富な写真と独特の図によって、具体的に住宅設計のメソッド、住宅の形、住まい方の機能とインテリアの在り方を提案しています。著者福岡喜久雄氏は、大阪芸大教授で、デザイン事務所を主宰しておられる第一人者です。

●第20号の「**タイルの話**」は、タイルの本当の魅力と使い方を知っていただくための分かりやすい本であり、タイルの歴史やつくり方から、形と性質、施工や管理の注意点にいたるまで、親切にのべられている入門書として最適です。著者の田中弘氏は淡陶の前社長で、このタイル業界で活躍しておられる代表者のひとりです。

●以上、いずれも定価￥1,000ですが、事務局までお求めにこられた方には1割引の￥900で頒布いたします。ご購読をおすすめいたします。

◀建築技術選書第1期20巻セットセール

建築技術選書は、建築協会60周年記念事業の一環として、昭和53年7月に第1号を発刊して以来、この7月をもって第20号を数えるにいたりました。第1期20巻完結を記念して、特価のセットセールをいたします。2割引の￥16,000です。送料は無料で、本号44頁に挿入してあります振込用紙でお申し込みいただければ、発行所・学芸出版社より直送いたします。セットセール期間は8月31日までです。なお、分冊（定価の1割引1冊￥900）も受け付けております。送料は無料ですので、この機会をご利用下さいまして、振込用紙でお申し込み下さいますようお願いいたします。

◀日本学術会議第12期会員候補者の推せん

来る11月に行われる日本学術会議の第12期会員選挙に際し、本会では建築学部門の全国区候補者として、下記の方を推せん申し上げることになりましたのでお知らせいたします。有権者は棄権せぬようご注意下さい。

記

全国区第五部建築学部門会員候補者
小堀（こぼり）　鐸二（たくじ）氏（京都大学工学部建築学第二学科教授）

訂正とお詫び
本誌6月号P25「最近の防水工法」特集目次の特集編集幹事【得持律夫】となっておりますのは、**徳持律夫氏**の誤りですので、謹しんで訂正するとともにお詫びいたします。

◀昭和54年度決算報告

貸借対照表　昭和55年3月31日現在

（単位：円）

科目	金額	科目	金額
（資産の部）		（負債の部）	
流動資産	**28,036,922**	**流動負債**	**19,179,478**
現金	36,387	未払金	8,329,171
普通預金	17,051,147	仮受金	200,307
郵便振替	226,639	前受金	10,650,000
有価証券	16,880	**固定負債**	**7,000,000**
仮払金	58,499	退職給与引当金	7,000,000
未収金	10,647,370	**基金外**	**22,751,685**
固定資産	**20,987,340**	基本金	609,560
建物	16,933,740	会館基金	8,637,616
什器	1,053,600	建物償却準備金	12,512,134
退職給与引当預金	**3,000,000**	什器償却準備金	992,375
無形固定資産	**89,280**	収支勘定	**550,384**
電話加入権	89,280		
前期繰越	**368,005**		
合計	**49,481,547**	合計	**49,481,547**

財産目録　昭和55年3月31日現在

（単位：円）

（資産の部）			
Ⅰ流動資産		**28,036,922**	
1.現金預金			
(1)現金			
現金手元有高	**36,387**		
(2)普通預金	**17,051,147**		
三和銀行　瓦町支店	1,704,268		
大和銀行　北浜支店	5,820,203		
住友銀行　高麗橋支店	7,187,522		
中央信託銀行　大阪支店	2,339,154		
(3)郵便振替口座	**226,639**		
大阪 39975			
2.仮払金　（切手、ハガキ代）	**58,499**		
3.未収金	**10,647,370**		
会誌収入	10,016,780		
事業収入	70,000		
集会収入	6,300		
講演講習会収入	3,000		
広報収入	140,000		
住宅相談所収入	400,000		
建築技術選書収入	11,290		
4.有価証券	**16,880**		
電信電話債権			
Ⅱ固定資産		**21,076,620**	
(1)建物　大阪市東区北浜3丁目37番地ノ2	**16,933,740**		
(2)什器	**1,053,600**		
(3)電話加入権	**89,280**		
(4)退職給与引当預金　住友銀行高麗橋支店	**3,000,000**		

（負債の部）			
Ⅰ流動負債			
1.流動負債			**19,179,478**
(1)未払金	**8,329,171**		
会誌発行費	7,560,921		
会員名簿発行費	18,500		
住宅相談所費	645,550		
事業費	91,200		
広報事業費	13,000		
(2)仮受金	**200,307**		
職員に対する源泉所得税外			
(3)前受金	**10,650,000**		
個人正会員会費収入	4,000,000		
団体正会員会費収入	6,400,000		
寄付金収入	200,000		
会誌収入	50,000		
2.固定負債			
退職給与引当金	**7,000,000**		**7,000,000**
Ⅱ基金外			**22,751,685**
(1)基本金	**609,560**		
(2)会館基金	**8,637,616**		
(3)建物償却準備金	**12,512,134**		
(4)什器償却準備金	**992,375**		
前期繰越金	**368,005**	**368,005**	
	計	**49,481,547**	**48,931,163**
	差引		**550,384**
	合計	**49,481,547**	**49,481,547**

収支内訳表

昭和55年3月31日現在

収入の部

（単位：円）

大科目	中科目	予算額	決算額	増△減	備考
		62,000,000	**66,921,988**	**4,921,988**	
事業収入	会誌収入	36,000,000	40,154,649	4,154,649	
	契約々款売上収入	1,500,000	1,760,430	260,430	
	建築データシート収入	1,400,000	0	△ 1,400,000	
	会員名簿収入	7,500,000	8,589,180	1,089,180	
	建築技術選書収入	2,400,000	2,802,810	402,810	
	住宅相談所収入	5,000,000	6,020,000	1,020,000	
	集会収入	3,900,000	3,304,900	△ 595,100	
	講演講習会収入	2,100,000	1,395,000	△ 705,000	
	広報収入	1,200,000	860,000	△ 340,000	
	雑入	1,000,000	2,035,019	1,035,019	
		48,360,000	**45,582,404**	**△ 2,777,596**	
会費収入	個人正会員（本・支部）	26,520,000	24,130,678	△ 2,389,322	
	個人正会員（地方）	2,160,000	1,916,000	△ 244,000	
	団体正会員	19,500,000	19,471,226	△ 28,774	
	準会員	180,000	64,500	△ 115,500	
寄付金収入	寄付金収入	**400,000**	**700,000**	**300,000**	
雑収入	雑収入	**200,000**	**264,449**	**64,449**	
	収入合計	**110,960,000**	**113,468,841**	**2,508,841**	

支出の部

大科目	中科目	予算額	決算額	増△減	備考
		49,870,000	**50,600,283**	**730,283**	
管理費	給料手当	34,020,000	34,558,730	538,730	
	退職給与引当金繰入額	1,500,000	4,000,000	2,500,000	
	福利厚生費	3,690,000	3,109,677	△ 580,323	
	会議費	1,930,000	1,262,544	△ 667,456	
	旅費交通費	1,480,000	1,391,700	△ 88,300	
	通信運搬費	1,200,000	769,411	△ 430,589	
	集金費	1,800,000	1,611,240	△ 188,760	
	消耗品費	300,000	385,009	85,009	
	修繕費	150,000	164,550	14,550	
	印刷製本費	360,000	208,200	△ 151,800	
	光熱水料費	600,000	540,539	△ 59,461	
	賃借料	1,560,000	1,554,600	△ 5,400	
	火災保険料	20,000	14,000	△ 6,000	
	租税公課	300,000	235,910	△ 64,090	
	会館清掃費	360,000	300,000	△ 60,000	
	雑費	600,000	494,173	△ 105,827	
		59,700,000	**61,731,174**	**2,031,174**	
事業費	会誌発行費	34,000,000	38,153,814	4,153,814	
	契約々款費	700,000	846,930	146,930	
	建築データシート発行費	1,000,000	0	△ 1,000,000	
	会員名簿発行費	6,000,000	5,718,793	△ 281,207	
	建築技術選書諸費	2,000,000	2,087,060	87,060	
	住宅相談所費	4,800,000	4,941,218	141,218	
	集会費	4,500,000	3,973,144	△ 526,856	
	講演講習会費	1,600,000	1,004,185	△ 595,815	
	広報事業費	1,000,000	964,775	△ 35,225	
	教育振興費	600,000	723,245	123,245	
	助成金支出	1,500,000	1,142,406	△ 357,594	
	雑費	2,000,000	2,175,604	175,604	
積立預金支出	減価償却積立預金支出	**690,000**	**587,000**	**△ 103,000**	
予備費	予備費	**700,000**	**0**	**△ 700,000**	
	支出合計	**110,960,000**	**112,918,457**	**1,958,457**	

差引剰余金　550,384
前期繰越不足金　368,005
差引　**182,379**……次期繰越剰余金

1．総　　会

(イ) 通常総会

6月28日　　於会館集会室

出席者　16名

議事　(1)　昭和53年度事業報告承認の件

(2)　昭和53年度決算報告承認の件

(3)　昭和54年度収支予算承認の件

(ロ) 通常総会

2月28日　　於会館集会室

出席者　18名

議事　(1)　監事1名選挙の件

(2)　本部所属評議員23名選挙の件

(3)　補選本部所属評議員1名選挙の件

(4)　役員重任承認の件

(5)　細則一部改正の件

2．評　議　員　会

(イ) 定時評議員会

6月28日　　於会館集会室

出席者　委任状共　　45名

議事　(1)　昭和53年度事業報告承認の件

(2)　昭和53年度決算報告承認の件

(ロ) 評議員会にかえて書面表決

11月27日付をもって「昭和55年度評議員選出数決定」についてお諮りした。

(ハ) 臨時評議員会

1月30日　　於会館集会室

出席者　委任状共　　45名

議事　(1)　理事1名補選の件

(2)　細則一部改正の件

(ニ) 定時評議員会

3月25日　　於会館集会室

出席者　委任状共　　41名

議事　(1)　評議員会議長、副議長互選の件

(2)　会長、副会長2名、理事15名選任の件

(3)　役員重任承認の件

(4)　昭和55年度収支予算承認の件

(ホ) 技術部門評議員懇談会　　2回

3．理　　事　　会

(1)	理事会	10回
(2)	編集理事会	2回
(3)	総務会計合同理事会	1回

4．常　設　委　員　会

		委員会	幹事会・小委員会 分科会・打合会等
(1)	事業委員会	7回	68回
(2)	編集委員会	12回	75回
		正副委員長会1回	座談会2回
(3)	教育委員会	2回	11回
(4)	住宅委員会	9回	3回
		正副委員長会1回	
(5)	出版委員会	3回	5回
(6)	法規委員会	7回	4回
(7)	建材委員会	11回	

5．特　別　委　員　会

(1)　四会連合工事請負契約々款改正委員会　1回

(2)　会勢委員会　6回

6．研修会・講習会等

建築技術選書講座シリーズ（第3回）

―構造計画とやさしい力学　1―

6月19日　　於薬業年金会館

聴講者　　20名

建築計画と新耐震設計法についての研修会

―新耐法により建築計画はこんなに変る―

9月12日　　於大同ホール

聴講者　　223名

建築工事実務講習会（第35回）

10月12日　　於大阪府立労働センター

聴講者　　61名

建築技術選書講座シリーズ（第4回）

―建築とコンピューター―

10月19日　　於大阪市立労働会館

聴講者　　22名

7．若い会員の集い

建築家のための〝みどり〟学習会（7）

奈良万葉植物園と春日奥山原始林を歩く

ゲスト　　菅沼孝之氏

5月19日　　34名

都市住宅を考える（3）

…コーポラティブハウスの問題点と展望…

中筋　修氏に聞く

6月23日　　30名　於大阪府立労働センター

備前路を訪ねて……

―耐火レンガ、備前タイルの工場・閑谷学校・備前焼窯元―

9月1日　　51名

キャンパスを訪ねて

―大阪芸術大学の建築群を見る―

ゲスト　　高橋靗一氏

10月13日　　26名

ディスカバー大阪（5）

川面からみた大阪のまち・橋

―中之島・道頓堀を船で巡る―

10月31日　　23名

旧下村邸（大丸ヴィラ）を訪ねる

―建築家ヴォーリズ……その人と作品―

ゲスト　　山形政昭氏

11月17日　　51名

新春放談

80年代に向けて……建築を語る

ゲスト　石井和紘氏　石山修武氏

木島安史氏　渡辺豊和氏

1月26日　　62名　於森ノ宮ピロティ小ホール

都市住宅を考える（4）

明治の香りを残すまちづくりと古都のタウンハウス（北大路高野住宅）を見る

講　師　高木　登氏

2月2日　　35名

8．コ　ン　ク　ー　ル

第25回工高生デザインコンクール

設計課題　　児童図書館

募集〆切　　9月20日

応募数　　18校　97点

審査会　　10月18日

入選作　　10点（内最優秀作1点）

表彰式　　11月24日

9．会誌「建築と社会」

4月号　コンクリートのひびわれ

5月号　日影規制

6月号　ホテル建築と情報システム

7月号　農村施設の変貌

8月号　建物の終局強度の検討

9月号　庄内のまちづくり―今日の到達点と課題

10月号　80年代のインテリア

11月号　第26回青年技術者

12月号　建設業の労務事情

1月号　80年代の都市と建築―まちづくりの歴史と展望

2月号　今後の省エネルギーの趨勢／建築金物
3月号　最近の銀行建築／安井建築設計事務所作品集

10. 出　　版

会員名簿79～80年版
B5判横組　本文上質紙　304頁
頒価　一　般　1,500円（郵送料 250円）
　　会員特価　1,200円（送料共）

日本建築協会創立60周年記念出版
建築技術選書
企　　画　日本建築協会
編集発行　学芸出版社
体　　裁　A5判（図解・写真入）約150頁
定　　価　1,000円
9．エレベータ・エスカレータ・立体駐車場
10．構造計画とやさしい力学2
11．建築と設備の接点1
12．ソーラーハウス
13．医院・診療所の計画と設計
14．設計のコンピューター手法
15．PC建築の話
16．石垣と石積壁

11. 見　　学　　会

高齢者世話ホーム「宝塚エデンの園」、特別養護老人ホーム「栄光園」新築工事の見学
4月10日　36名
茶室見学会（第1回）
大徳寺の聚光院・黄梅院の名席をたずねる
5月12日　36名
大阪・上六・市街地再開発の経過と現状を聞く
（上六地区第1棟市街地再開発事業施設建築物新築工事の見学会）
5月24日　27名
宗教都市・天理を訪ねる
教祖誕生殿・礼拝場・参考館（博物館）・西左第3棟の見学
7月13日　22名
芦屋川パークハイムの新築工事の見学会
7月20日　36名
大阪市立労働会館森ノ宮ピロティホール新築工事の見学会
7月28日　34名
住友信託銀行千里事務センター・協栄生命保険㈱関西総局ビル新築工事の見学会
8月25日　24名
大和銀行久太郎町ビル新築工事の見学会
9月29日　24名
薬師寺・西塔再建工事を見る
10月27日　42名
神戸・元町・パルパローレを見る
10月30日　43名
茶室見学会
京の詩仙堂と芭蕉庵を訪ねる会
11月10日　27名
大阪四天王寺・昭和の夢殿（太子殿）と中心伽藍の見学
11月20日　25名
灘の清酒・菊正宗嘉宝蔵と記念館の見学
2月13日　26名
梅田郵政互助会ビル新築工事の見学会
2月22日　32名
神戸女学院・タルカット記念館と聖和女子大学記念館の新築工事の見学とヴォーリズの作品を見る
3月29日　31名

12. 午 餐 会 ・ 懇 談 会

建築7団体会長懇談会（東京）
8月10日　於　東京会館
出席者　18名
建築クラブと合同忘年懇親会
12月14日　於　太閤園
出席者　226名
建築8団体合同新年交礼会
1月4日　於　大阪コクサイホテル
出席者　495名

13. 展　　覧　　会

第16回よろず相談住宅展
自2月21日　至2月26日（6日間）
　　於大丸百貨店南館7階催場
相談件数　374件
新しい建築写真展示窓
展示写真
(1) 街を緑に・第9回
　阪和記念館・エバーグリーン第2住吉
(2) 芦屋浜シーサイドタウン
(3) 明るく住よい街へ
　駅前市街地再開発事業
　「国鉄吹田駅前、高槻駅前」

14. そ　　の　　他

(イ) 他団体との共同活動
建築国際連絡協議会
建築関係団体連絡会
建築業務基準委員会
「四会連合」工事請負契約々款改正委員会

(ロ) 会計監査
5月8日、9日の両日、公認会計士富島一夫氏によって昭和53年度の会計監査を受く。

15. 本会が入会している団体

大阪商工会議所
関西経済連合会
大阪市街地再開発促進協議会
建築行政協会大阪市支部
建築関係団体連絡会
建築業務基準委員会
建設関係公益法人協議会
建築国際連絡協議会
四会連合工事請負契約約款改正委員会
東区納税協会
大阪府社会保険協会

16. 後援または協賛した会

「事故・災害実例スライドによる建築構造の設計および施工」講習会
主催　大阪建築設計監理協会
5月1日　於薬業年金会館
神戸ガウディー展
主催　神戸ガウディ展委員会・さんちかタウン
5月22日　於さんちかタウンさんちか広場
映画と新建材説明会
主催　日本建築材料協会
8月2日　於兵庫県民会館
映画と新建材説明会
主催　大阪府建築士会・日本建築材料協会
8月3日　於大阪科学技術センター
建築積算学校関西校（第3期）開設
開設者　日本建築積算協会関西支部
設置場所　玉造会館
54年10月～55年3月
「病院建築の計画と設計」講習会
主催　日本建築学会近畿支部
11月8日　於大阪科学技術センター
「住宅の省エネルギー化の基準と指針」講習会
主催　住宅・建築省エネルギー機構
　財団法人大阪住宅センター
2月28日　於大阪科学技術センター

祝 建築と社会700号

暑中お見舞申し上げます

昭和55年盛夏　(50音順)

阿部暢

東洋土建株式会社 取締役社長
〒546 大阪市東住吉区田辺東ノ町6丁目33 電話06(692)1331～5
〒546 自宅・大阪市東住吉区田辺東ノ町5丁目24 電話06(629)1008

浅沼茂夫

株式会社 浅沼組 取締役社長
〒543 大阪市天王寺区東高津町8番地の1 電話06(768)5222

井上秋次

井上窯業株式会社 代表取締役
〒543 大阪市天王寺区生玉町40番地 電話06(771)2825代
〒659 自宅・芦屋市川西町4番23号 電話0797(22)5930

名誉正会員

青盛繁男

青盛建材株式会社 取締役会長
〒733 広島市中区舟入幸町19－10 電話0822(92)3200
〒734 自宅・広島市南区翠町1507の10 電話0822(51)6730

浅沼誠夫

株式会社 浅沼組 専務取締役
〒543 大阪市天王寺区東高津町8番地の1 電話06(768)5222

井上正一

名古屋建築設計事務所 所長
〒453 名古屋市中村区椿町20の15 国鉄会館内 電話052(451)2025直通
〒464 自宅・名古屋市千種区下方町4の30 電話052(711)9400

青山幸夫

株式会社 青山建築積算事務所 代表取締役
〒550 大阪市西区京町堀1-10-19江南ビル 電話06(443)0430
〒610-11 自宅・京都市西京区大原野上里勝山町14－6 電話075(331)8082

浅海正雄

浅海電気株式会社 代表取締役
〒530 大阪市北区西天満3丁目7番4号 電話06(362)8701～8
〒665 自宅・宝塚市御殿山2丁目31－50－109号 電話0797(85)0745

名誉正会員

井上福蔵

株式会社 井上組 代表取締役
〒534 大阪市都島区網島町6番25号 電話06(352)4031～4 電話06(351)0530
〒577 自宅・東大阪市東石切町6丁目4番4号 電話0729(81)2526

安藝元清

株式会社 日建設計 取締役社長
〒541 大阪市東区横堀2丁目38番地 電話06(203)2361

新昭一

株式会社 新工務所 取締役社長
〒530 大阪市北区曽根崎2丁目8番7号 電話06(313)1331

井上達明

株式会社 井上達明建築事務所 代表取締役
〒530 大阪市北区鶴野町1番3号 安田ビル 電話06(372)2821代
〒555 自宅・大阪市西淀川区竹島3丁目7の4電話06(473)1069

浅井泰

株式会社 笠谷工務店 専務取締役
〒659 芦屋市春平町4－1 電話0797(22)0703
〒659 自宅・芦屋市翠ヶ丘町13－5 電話0797(22)5291

姉川正男

東光電気工事株式会社大阪支社 専務取締役(大阪駐在)
〒541 大阪市東区高麗橋5丁目28番地 電話06(202)0325
〒565 自宅・吹田市藤白台4の30の12 電話06(872)3214

石渡年雄

株式会社 石渡康三郎塗装店 取締役社長
〒545 大阪市阿倍野区播磨町2丁目6-1 電話06(693)2031代
〒545 自宅・大阪市阿倍野区帝塚山1丁目5-8 電話06(621)8110

浅野真澄

株式会社 浅野建築設計事務所 代表取締役
〒543 大阪市天王寺区城南寺町9－27 電話06(768)0201
〒572 自宅・寝屋川市成田西町4－21 電話0720(31)1750

安部恒夫

安部建設株式会社 取締役社長
〒559 大阪市住之江区西住之江2丁目7番5号 電話06(678)3212代
〒559 自宅・大阪市住之江区西住之江2丁目7番5号 電話06(671)7774

礒岩武

大機建材工業株式会社 専務取締役
〒561 豊中市庄内栄町5丁目5番16号 電話06(333)2137
〒665 自宅・宝塚市中山台2－18－9 電話0797(88)3698

浅沼猪之吉

株式会社 浅沼組 取締役会長
〒543 大阪市天王寺区東高津町8番地の1 電話06(768)5222

諫早信夫

フドウ建研株式会社 相談役
〒110 東京都台東区台東1－2－1 日本地所第二ビル 電話03(835)2661
〒157 東京都世田谷区南烏山2－18－4 電話03(300)3705

伊地知堅一

大鉄工業株式会社 取締役社長
〒532大阪市淀川区宮原4丁目4番44号 電話06(394)1281大代
〒661自宅・尼崎市南武庫之荘5丁目13番15号 電話06(438)2148

祝 建築と社会700号

暑中お見舞申し上げます

昭和55年盛夏　(50音順)

伊藤三郎

大栄電気株式会社大阪支店　取締役副社長 大阪支店長

〒550 大阪市西区京町堀1－12－14　電話06(443)0631
〒560 自宅・豊中市北桜塚3－8－7　電話06(854)7747

飯田精次郎

共同設計株式会社　代表取締役社長

〒530 大阪市北区西天満5丁目10番14号　電話06(364)5836
〒105 東京事務所・東京都渋谷区渋谷1-10-1 八千代ビル内　電話03(407)0912　03(409)1837
〒520 大津事務所・大津市浜大津4-4-4　電話0775(23)0388
〒620 福知山事務所・京都府福知山市末広町6丁目4番地 福電ビル　電話0773(23)5208

生島道春

社団法人 日本建築積算協会関西支部　支部長

〒542 大阪市南区鰻谷中之町62番地　市川ビル2F　電話06(245)6645
〒573-01 自宅・枚方市長尾西町1丁目6番10号　電話0720(51)5633

生田重政

日本建設株式会社　取締役社長

〒541 大阪市東区安土町4丁目5番地　電話06(261)7591～8
〒659 自宅・芦屋市朝日ケ丘22番11号　電話0797(23)0657

石川良興

日本冷熱工産株式会社　代表取締役社長

〒564 吹田市豊津町40番38号　電話06(384)1201代
〒560 自宅・豊中市蛍池東町4丁目7番12号　電話06(841)0032

泉沢哲史

株式会社 泉沢建築設計事務所　代表取締役

〒530 大阪市北区西天満4丁目12番2号　オオシマビル　電話06(364)9071代

一宮能和

日泉化学工業株式会社　取締役副社長

〒541 大阪市東区北浜3丁目3番地　和光証券ビル　電話06(227)1941
〒657 自宅・神戸市灘区篠原南町2-3-24　電話078(871)3479

市川繁雄

日本管工業株式会社　取締役社長

〒601 京都市南区西九条豊田町20　電話075(681)5101～5
〒606 自宅・京都市左京区下鴨芝本町37　電話075(781)0289

市川宏

株式会社 東畑建築事務所　専務取締役

〒541 大阪市東区伏見町5－19　電話06(202)0391
〒658 自宅・神戸市東灘区住吉山手4丁目4－32　電話078(811)0216

今井忠臣

イマキ建設工業株式会社　代表取締役社長

〒547 大阪市平野区平野北2－9－15　電話06(792)4425
〒573 自宅・枚方市くずは丘2－16－1　電話0720(55)6511

今西茂雄

株式会社 今西建築デザインルーム 代表取締役

〒550 大阪市西区南堀江1丁目22番17号　電話06(541)3051～9

今村騰

取締役会長

平木寛

取締役社長

中央電気工業株式会社

〒530 大阪市北区西天満6丁目9番8号　電話06(312)8881大代

今元康彦

近畿電気工事株式会社　取締役名誉会長

〒531 大阪市大淀区本庄東2丁目3番41号　電話06(375)6000
〒560 自宅・豊中市北桜塚4丁目5番5号　電話06(852)5887

稲畠和治

三機工業株式会社大阪支店　支店長

〒541 大阪市東区北浜2丁目22番地　電話(06)202-3051 代 3071 代
〒662 自宅・西宮市松園町3番11号　電話0798(33)0405

岩崎徹

株式会社 岩崎建築設計事務所　代表取締役

〒630 本社・奈良市大森町57の3 農協会館内　電話0742(22)2283代
〒631 自宅・奈良市学園北1丁目5－11　電話0742(47)2210

専務取締役 岩崎弘

常務取締役所長 寺西禮一

株式会社 教育施設研究所　大阪事務所

〒550 大阪市西区立売堀1丁目13番1号 大信ビル　電話 06(531)0913
〒630 自宅・奈良市法蓮立花町1046　電話 06(541)7301
〒661 自宅・尼崎市常吉字赤田9の5　電話0742(22)2217
　　　　　　　　　　　　　　　　電話 06(431)2101

岩崎善雄

建築用吹付材・壁塗料・土木材料の総合メーカー

恒和化学工業株式会社　代表取締役社長

〒561 豊中市豊南町南6丁目3－13　電話06(332)5721
〒143 自宅・東京都大田区山王2－30－10　電話03(777)7001

岩本義心

野村建設工業株式会社　取締役社長

〒541 大阪市東区高麗橋2丁目9番地　電話06(202)1791代
〒581 自宅・八尾市山本町4丁目5－7　電話0729(22)2908

上田宇三

株式会社 日匠設計　代表取締役

〒580 本社・大阪事務所・大阪府松原市西大塚1－5－6　電話0723(31)3857代
〒520－32 滋賀事務所・滋賀県甲賀郡甲西町大字平松　電話07487(2)1114
〒580 自宅・大阪府松原市西大塚1－5－6　電話0723(31)1554

上西圭治

株式会社 大気社　取締役社長

〒530 大阪市北区中之島3－2－18 住友中之島ビル7階　電話06(448)5871
〒659 自宅・兵庫県芦屋市浜町12－14電話0797(22)5949

植野寿雄

株式会社 寿建築積算事務所　所長

〒542 大阪市南区東清水町48つるのすビル　電話06(244)1561
〒588 自宅・堺市大美野5－9　電話0722(37)1162

祝 建築と社会700号

暑中お見舞申し上げます

昭和55年盛夏　(50音順)

打浪政信

株式会社 新興建材工業所 常務取締役

〒550 大阪市西区南堀江4丁目32番11号 電話06(538)2951代
〒564 自宅・吹田市吹東町43－3 電話06(383)0217

江川好己

株式会社 江川神津設計事務所 大阪事務所 代表取締役所長

〒532 大阪市淀川区西中島4-10-2 ビラ新大阪 電話06(304)7439
〒659 自宅・芦屋市三條町288 電話0797(22)9269

小川正

株式会社 竹中工務店 顧問

〒541 大阪市東区本町4－27 電話06(252)1201

小河吉之助

財団法人 大阪建築防災センター 理事長

〒541 大阪市東区博労町2丁目41番地 中博ビル3階 電話06(261)0212
〒573 自宅・枚方市香里ヶ丘12丁目22番37号 電話0720(54)0690

尾亀清四郎

株式会社 三晃空調 取締役会長

〒530 大阪市北区西天満3丁目13番20号 電話06(363)1371
〒573 自宅・枚方市岡山手町15－4 電話0720(41)3427

大井弘治郎

株式会社 大井建築設計事務所 代表取締役

〒550 大阪市西区京町堀1丁目10－8 福岡ビル 電話06(441)1521～2
〒562 自宅・箕面市百楽荘4丁目4－11 電話0727(21)4113

名誉正会員

大倉三郎

〒606 自宅・京都市左京区下鴨北園町33 電話075(781)0636

岡澤勇

岡澤建築設計事務所 所長

〒567 大阪府茨木市大字清水433 電話0726(43)8953・5230
〒530 大阪事務所・大阪市北区西天満4－3－19 電話06(362)6082代

名誉正会員

岡田孝男

帝塚山学院大学 教授

〒589 大阪府南河内郡狭山町 電話0723(65)0865
〒565 自宅・吹田市千里山西5丁目40－4 電話06(384)3019

岡橋作太郎

株式会社 錢高組 技術顧問

〒550 大阪市西区西本町2－2－11 電話06(531)6431
〒659 自宅・芦屋市打出春日町156－1 電話0797(22)4500

岡本繁一

近畿電気工事株式会社 取締役会長

〒531 大阪市大淀区本庄東2丁目3番41号 電話06(375)6000
〒640 自宅・和歌山市三木町南ノ丁18番地 電話0734(23)0308

岡本行善

株式会社 昭和設計 代表取締役社長

〒550 大阪市西区新町1丁目5番7号 四ツ橋ビル 電話06(532)3421代
〒659 自宅・芦屋市岩園町35－7 電話0797(31)3201

岡本全男

篤組建設株式会社 代表取締役社長

〒543 大阪市天王寺区東高津町14－5 電話06(768)1515代
営業所：名古屋・和歌山・春日出・大阪 工場：豊明・愛知
〒557 自宅・大阪市西成区玉出東1丁目6番15号 電話06(661)3317

岡山竹雄

株式会社 岡山建築事務所一級建築士事務所 代表取締役

〒604 京都市中京区烏丸通錦小路上ル手洗水町670 京都フクトクビル7F 電話075(255)0537～8
〒612 自宅・京都市伏見区深草平田町18 電話075(641)0536

奥野晴弘

株式会社 和光建築設計事務所 代表取締役社長

〒550 大阪市西区北堀江2丁目9番15号 電話06(531)4488代
〒550 自宅・大阪市西区北堀江2丁目9番10号 電話06(541)0261

奥村紘行

奥村重兵衛株式会社 取締役社長

〒530 大阪市北区伊勢町22番地 電話06(312)4131代
〒620 自宅・西宮市南郷町14番34号 電話0798(71)0011

奥村安太郎

奥村組土木興業株式会社 代表取締役社長

〒552 大阪市港区市岡3丁目5番18号 電話06(572)5301
〒552 自宅・大阪市港区市岡3丁目8番3号 電話06(571)0571

音羽倫宏

株式会社 第一サービス 代表取締役

〒556 大阪市浪速区戎本町1丁目3番地 電話06(647)6751
〒584 自宅・富田林市高辺台3丁4番54－202号 電話07212(9)9737

加藤忠三郎

株式会社 平田タイル 代表取締役社長

〒550 大阪市西区阿波座1丁目1番10号 電話06(532)1231代
〒601 自宅・京都市南区東九条北烏丸町24 電話075(691)1334

嘉納伝三

三宝電機株式会社 取締役社長

〒530 大阪市北区西天満2－6－8 堂ビル 電話06(364)1471
〒659 自宅・芦屋市岩園町25番22号 電話0797(22)2191

垣内務

株式会社 団地サービス大阪支社 取締役 大阪支社長

〒536 大阪市城東区森之宮2丁目9番201号 電話06(969)1001

祝 建築と社会700号

暑中お見舞申し上げます

昭和55年盛夏　(50音順)

数井利美

株式会社 西村建築事務所 取締役社長
〒652 神戸市兵庫区荒田町2丁目1番地 旭ビル
電話078(521)0205～0207
〒654 自宅・神戸市須磨区白川台2丁目39－13
電話078(792)5862

神谷新一

〒657 自宅・神戸市灘区五毛通3－2－21
電話078(861)0596

兼高勇

有限会社 兼高設計事務所 代表取締役
〒590 堺市北花田口町3丁1番15号 東洋ビル
電話0722(22)1643
1648
〒590 自宅・堺市御池台3丁1－14

亀井晃治

一級建築士事務所 株式会社 A.R.I.(あり)建築事務所 代表取締役社長
〒542 本社事務所・大阪市南区谷町7丁目12番地の1 新谷町第3ビル2F
電話06(768)1771代
〒104 東京事務所・東京都中央区月島4丁目13-3秀和月島レジデンス108
電話03(531)3954
〒631 自宅・奈良市中町1番地の479 電話0742(43)1226

鎌谷秀男

修成建設専門学校 校長
〒555 大阪市西淀川区大和田5丁目19－30 電話06(474)1644
〒665 自宅・宝塚市千種4丁目8番23号 電話0797(72)1380

亀田六夫

株式会社 増島製作所 大阪営業所 所長
〒530 大阪市北区西天満3－13－18 島根ビル 電話06(364)1951
〒560 自宅・豊中市刀根山元町8－12 電話06(855)5356

柄谷順一郎

株式会社 柄谷工務店 取締役社長
〒660 尼崎市玄番南之町4 電話06(411)1451
〒663 自宅・西宮市甲子園浦風町9－14 電話0798(41)0700

川岸繁夫

株式会社 川岸窯業商店 代表取締役社長
〒550 大阪市西区西本町1丁目13－33 電話06(532)0461代
〒563 自宅・池田市天神1丁目10－10 電話0727(61)8598

川崎敬三

株式会社 近畿建設 代表取締役
〒550 大阪市西区江之子島1丁目2番2号 電話06(448)5601
〒556 自宅・大阪市浪速区新川2丁目666 電話06(632)7369

川瀬啓一郎

扶桑管工業株式会社 代表取締役
〒616 京都市右京区太秦和泉式部町12番地電話075(861)1157
大阪支店 電話06(353)0222 東京支店 電話03(263)0501
〒616 自宅・京都市右京区太秦安井車道町21
電話075(811)1509

河裾和夫

蛍光産業株式会社 代表取締役
〒531 大阪市大淀区本庄東1丁目9番9号 電話06(371)5146

木下國男

内外パーキング施設株式会社 取締役社長
〒550 大阪市西区京町堀1丁目8番5号 明星ビル
電話06(441)0477代
〒665 自宅・宝塚市逆瀬台6丁目15番11号 電話0797(73)3228

木下みどり

株式会社 ナイガイ 代表取締役社長
〒530 大阪市北区堂島2丁目1番18号 電話06(345)9055
〒550 自宅・大阪市西区京町堀1丁目15番18号
電話06(441)2503

汲川圭司

社団法人 全国鐵構工業連合会副会長
大阪鉄構建設業協同組合理事長
大阪鉄構建設業協同組合
〒543 大阪市天王寺区谷町9-27 小山ビル 電話06(772)0182
連合会事務所
〒103 東京都中央区日本橋兜町3-28 日鐵商事日本橋ビル
電話03(667)4695～8

桑田正造

桑田硝子株式会社 取締役社長
〒650 神戸市生田区多聞通4－9 電話078(371)1861代
〒653 自宅・神戸市長田区五位ノ池町3丁目1-1
電話078(621)3807

小北博一

ジャス・アソシューツ 代表取締役
〒565 吹田市古江台6丁目3番1号 健康の森
電話06(833)6611代

小阪永一

大信印刷株式会社 代表取締役
〒531 大阪市大淀区大淀中4丁目13－11 電話06(451)7631
〒553 大阪市福島区福島6丁目20－10 電話06(451)5346

小崎勇

株式会社 ミラノ工務店 取締役社長
〒604 京都市中京区寺川通河原町東入鉾田町310
電話075(231)0177代
〒606 自宅・京都市左京区下鴨北園町63番地
電話075(781)0676

小菅滋夫

株式会社 日建設計 常務取締役 大阪本社代表
〒541 大阪市東区横堀2丁目38番地 電話06(203)2361

小島勝巳

有限会社 小島勝巳建築事務所 代表取締役
〒541 大阪本社・大阪市東区南本町4丁目41番地
イヨビル8階 電話06(252)8088代
〒103 東京本社・東京都中央区日本橋本町4丁目14番地
山本ビル7階 電話03(661)0768代
〒166 自宅・東京都杉並区成田西1丁目16－17
電話03(315)5435

小谷大作

株式会社 田渕建築設計事務所 代表取締役
〒640 和歌山市下町19番地 電話0734(31)0261～2
〒641 自宅・和歌山市堀止西1丁目10－5 電話0734(24)9563

祝 建築と社会700号

暑中お見舞申し上げます

昭和55年盛夏　(50音順)

小西信一郎

コニシ株式会社　代表取締役社長

〒541 大阪市東区道修町2丁目6番地　電話06(228)2811代
〒565 吹田市古江台1丁目15番5号　電話06(831)8455

河内義就

有限会社 河内義就設計事務所 代表取締役

〒730 広島市中区上幟町2番37号　電話0822(28)2271代
〒739-17 自宅・広島市安佐北区高陽町大字梨光台1-237
電話08284 (2)4141

斉藤國義

株式会社 斉藤工業所 代表取締役

〒557 大阪市西成区岸里2丁目6番5号　電話06(661)3325代
〒557 自宅・大阪市西成区岸里東1丁目21番3号
電話06(652)0208

小西岬

株式会社 小西設計 取締役社長

〒550 大阪市西区立売堀1丁目12—16　電話06(532)4051
〒546 自宅・大阪市東住吉区今川3丁目6—6
電話06(701)0297

鴻池藤一

株式会社 鴻池組 取締役社長

〒541 大阪市東区北久宝寺町4丁目27番地
ダイヤルイン電話06(244)3500(受付台)
〒603 自宅・京都市北区平野鳥居前町86　電話075(461)1526

雑賀幸夫

株式会社 大阪雑賀建築事務所 代表取締役

〒543 大阪市天王寺区東平野町5丁目9番地　吉盛ビル
電話06(772)4426・4436
〒573 自宅・枚方市香里ケ丘7丁目11—16電話0720(54)0004

名誉正会員

小早川美武

美工装飾株式会社　取締役社長

〒557 大阪市西成区玉出東2丁目9—41　電話06(651)0105
〒557 自宅・大阪市西成区玉出東2丁目10—17
電話06(653)0023

近藤義雄

日東建設株式会社大阪支店　常任顧問

〒530 大阪市北区天神橋3丁目8—9　新末広ビル
電話06(351)0623～6
〒659 自宅・芦屋市平田町8—5—303　電話0797(31)5880

代表取締役社長 **齊藤久典**
常務取締役支社長 **黒澤太作**

斎久工業株式会社

〒100 東京本社・東京都千代田区大手町2-6-2 日本ビル
電話03(270)7411代
〒530 大阪支社・大阪市北区中之島4—2—38
電話06(443)5041代

小林清

株式会社 新住宅社 代表取締役

〒530 大阪市北区中之島4丁目3番25号 電話06(443)6641代
〒545 自宅・大阪市阿倍野区北畠3丁目1番7号電話06(654)0584

佐治誠次

株式会社 佐治建築事務所 代表取締役

〒662 本社・西宮市苦楽園一番町1—36　電話0798(73)2516
〒550 大阪事務所・大阪市西区立売堀1丁目4番8号
カクダイビル　電話06(541)5831

酒井貞

株式会社 都市科学研究所 取締役副所長

〒600 京都市下京区四条烏丸西入ル 住友生命ビル9F
電話075(221)8161
〒603 自宅・京都市北区西賀茂大深町70　電話075(491)6301

小林三甫朗

小林住宅産業株式会社　代表取締役

〒541 大阪市東区南久宝寺町5—18　電話06(245)2181

佐竹恒夫

佐竹建築事務所 所長

〒604 京都市中京区烏丸通夷川上ル第7長谷ビル9F
電話075(222)0876
〒612 自宅・京都市伏見区深草大亀谷万帖敷町133—50
電話075(642)0396

四方靖郎

四方設計工務株式会社
一級建築士事務所　代表取締役社長

〒612 京都市伏見区深草関屋敷町32-2電話075(641)6091～2 6324
〒851-33 長崎出張所・長崎県西彼杵郡西彼町大谷脇1684
電話09592(7)0172
〒183 東京出張所・東京都府中市白糸台6丁目53—31
電話0423(67)0480・0424(84)0236
〒612 自宅・京都市伏見区深草関屋敷町32—2

小林四郎

太陽工藤工事株式会社　取締役社長

〒553 大阪市福島区福島7丁目22番8号電話06(452)1151大代

佐野正一

株式会社 安井建築設計事務所 代表取締役社長

〒540 大阪市東区島町2丁目7番地　電話06(943)1371代
〒662 自宅・西宮市雲井町4の9　電話0798(72)1569

島田孝治

株式会社　片山鉄工所　取締役会長

〒551 大阪市大正区南恩加島6丁目2番21号
電話06(552)1231大代
〒661 自宅・兵庫県尼崎市武庫之荘3丁目1—1—308
電話06(432)7387

小林得志

株式会社 小林得志建築事務所 代表取締役所長

〒530 大阪市北区堂島 2-4-17 藤田ビル 電話06(341)5658代
〒662 自宅・西宮市丸橋町6—16　電話0798(66)2394

佐野春吉

森井電業株式会社　取締役副社長

〒530 大阪市北区中之島5丁目3番101号 正宗中之島ビル
電話06(443)8381代
〒661 自宅・尼崎市東園田町3丁目85番地—11
電話06(491)9402

名誉正会員

島村佐次郎

株式会社 島村建築事務所

〒640 和歌山市四番丁4　電話0734(22)3338・4335
〒640 自宅・和歌山市四番丁4　電話0734(22)3338・4335

祝 建築と社会700号

暑中お見舞申し上げます

昭和55年盛夏　(50音順)

島村忠男

西日本建設業保証株式会社 取締役社長
〒540 大阪市東区上町5番地　電話06(764)1122

鈴木毅

株式会社 松田平田坂本設計事務所 大阪事務所 所長
〒530 大阪市北区堂島2－2－25　電話06(344)7821
〒185 自宅・東京都国分寺市富士本1-31-15
電話0425(75)1581

橘泰治

東邦パーライト株式会社 取締役社長
〒540 大阪市東区森ノ宮中央2丁目7番15号 電話06(941)9445～9
〒590-01 自宅・堺市若松台3丁26番3号電話0722(91)2267

名誉正会員

白石登喜男

株式会社 藤木工務店 常務理事
〒540 大阪市東区両替町1丁目13番地　電話06(944)1468
〒558 自宅・大阪市住吉区墨江中1の68　電話06(671)3792

相臺淳吉

日新工業株式会社 専務取締役
〒120 東京都足立区千住東2丁目23番4号電話03(882)2424
〒271 自宅・松戸市松戸3の7の3　電話0473(62)9314

立田清

有限会社 柳々堂 (建築専門書店)
〒550 大阪市西区京町堀1－12－3 電話06(443)0167～8
営業所：鴻池ビル　電話06(251)8233

須賀孝

須賀工業株式会社 取締役社長
〒550 大阪市西区土佐堀1丁目2番30号　電話06(441)5171
〒662 自宅・西宮市雲井町6番14号 電話0798(72)0269

仙田四郎

株式会社 カンダン 取締役社長
〒558 大阪市住吉区万代東6丁目3番地　電話06(672)1281大代
〒588 自宅・堺市大美野76番地の6　電話0722(37)6513

立野一郎

株式会社 ユニオン 代表取締役
〒550 大阪市西区南堀江2丁目13番22号
電話06(532)3731～8

須賀好富

近畿大学理工学部建築学科 助教授
〒577 東大阪市小若江3－4－1　電話06(721)2332
内線271
〒577 自宅・東大阪市下小阪172－2
近鉄グランドマンションB－911 電話06(789)8114

田村巍

東洋リノリューム株式会社 取締役社長
〒664 兵庫県伊丹市東有岡5－125 電話06(492)1331

塚本猛次

株式会社 日建設計 相談役
〒541 大阪市東区横堀2丁目38番地電話06(203)2361

菅良春

日本住宅パネル工業協同組合 近畿四国地区担当理事
〒530 大阪市北区西天満5丁目6番10号　電話06(313)3321
〒636-11 自宅・奈良県大和郡山市南井町19－60
電話07435(6)3665

取締役社長 **高橋慶夫**
専務取締役 **上田宏二**
株式会社 高橋上田設計事務所
〒550 本社・大阪市西区新町1－4－21 大幸ビル
電話06(533)0971～3
〒103 東京支所・東京都中央区茅場町2－4
全国中小企業会館4F　電話03(669)6049

辻本豊

株式会社 辻本豊一級建築設計事務所 代表取締役
〒640 和歌山市東長町中の丁12－3 電話0734(26)2030代
〒640 自宅・和歌山市東長町中の丁12－3 電話0734(26)2030代

名誉会長・名誉正会員

菅谷健児

大阪電気暖房株式会社 代表取締役社長
〒550 大阪市西区江戸堀1丁目10番17号　電話06(441)8231
〒158 自宅・東京都世田谷区等々力6丁目24－6
電話03(701)3535

竹腰健造

〒662 自宅・西宮市松園町7番22号 電話0798(34)2650

寺田徳重

大成建設株式会社 常任顧問
〒541 大阪市東区本町4丁目27 電話06(262)1131
〒562 自宅・大阪府箕面市桜井2丁目4－39 電話0727(21)4641

杉田新三郎

シールテックス工業株式会社 社長
(建築総合防水材)
〒640 和歌山市橋丁11番地　電話0734(32)2581代
〒640 自宅・和歌山市園部1670－55　電話0734(53)5066

竹村通世

近畿電気工事株式会社 広島支社 支社長
〒730 広島市南区稲荷町4番1号 住友生命広島ビル
電話0822(62)1471
〒730 自宅・広島市中区中町4番14 チェリス中町905号
電話0822(43)4656

傳馬正明

ムツミ産業株式会社 代表取締役
〒550 大阪市西区靭本町1丁目17番15号
電話06(441)0378大代

祝 建築と社会700号

暑中お見舞申し上げます

昭和55年盛夏　(50音順)

名誉会長・名誉正会員

東畑謙三

株式会社東畑建築事務所代表取締役
〒541 大阪市東区伏見町5－19 電話06(202)0391
〒658 自宅・神戸市東灘区住吉山手4-4-35電話078(851)5043

中出隆俊

(各種防水工事及スレート工事施工請負)
株式会社中出商会 代表取締役
〒652 神戸市兵庫区上沢通6丁目1－1　電話078(511)4501代

西村淀

株式会社 大鳥居工業所 取締役社長
〒615 京都市右京区西院西田町30 電話075(313)2191
〒616 自宅・京都市右京区宇多野御池町40－10
電話075(463)2784

栂野正春

株式会社栂野建築事務所 一級建築士 代表取締役社長
〒640 和歌山市五番丁4番地 電話0734(22)2826

中村正一

中村タイル株式会社 代表取締役
〒550 大阪市西区南堀江1丁目11番5号　電話06(531)7263
〒590-01自宅・堺市若松台3丁17番9号　電話0722(91)5592

信國勝明

株式会社日新プラン 代表取締役
〒604 京都市中京区烏丸通二条下ル秋野々町52番地
電話075(221)1577
〒603 自宅・京都市北区紫竹上本町32番地の3
電話075(491)2323

時岡保雄

株式会社 三和地質 代表取締役
〒550 大阪市西区靭本町3丁目8番6号
電話06(445)2521代～5

中原茂

株式会社 中原茂建築事務所 代表取締役
〒550 大阪市西区靭本町2丁目9番11号 岡崎橋ビル
電話06(445)0039
〒658 自宅・神戸市東灘区岡本2丁目8番3号

橋詰一雄

株式会社 橋詰工務店 取締役社長
〒604 京都市中京区猪熊通三条上ル姉猪熊町326番地
電話075(801)2356代
〒604 自宅・京都市中京区猪熊通三条上ル姉猪熊町326番地
電話075(841)2803

富家宏泰

株式会社富家建築事務所　代表取締役
〒604 京都市中京区押小路通東洞院西入ル
電話075(231)6375代
〒603 自宅・京都市北区平野八丁柳町68－1－704号
電話 075(463)0050

中原英雄

株式会社 創美設計 代表取締役
〒530 大阪市北区末広町17　昱和地所扇町ビル6階
電話06(312)3587代
〒659 自宅・芦屋市打出小槌町1番地405

橋本晃芳

株式会社 鴻池組 専務取締役
〒541 大阪市東区北久宝寺町4丁目27番地 電話06(244)3538
〒659 自宅・芦屋市精道町4－1　電話0797(31)6766

内藤正克

株式会社内藤建築設計事務所 代表取締役所長
〒675-13 兵庫県小野市上本町240小野ビル電話07946(2)4757代
〒675-13 自宅・兵庫県小野市久保木町1063電話07946(2)4668

永井賢城

株式会社 久米建築事務所 取締役社長
〒106 東京都港区西麻布1丁目13番11号電話03(403)0251大代
〒251 自宅・藤沢市鵠沼海岸2丁目8の26 電話0466(36)7706

長谷川武彦

株式会社 長谷川工務店 代表取締役会長
〒107 東京都港区赤坂3丁目21番20号 電話03(586)5451

中川匠

中川匠建築設計事務所　所長
〒530 大阪市北区浪花町1－19 新興ビル 電話06(371)3651
〒665 自宅・宝塚市売布4丁目15－18 電話0797(86)2391

鳴瀬敏雄

鳴瀬建築設計事務所　所長
〒670 姫路市神子岡前1丁目11番15号 姫塗ビル3F
電話0792(96)2091
〒679-41 龍野市神岡町東觜崎216番地　電話07916(5)0008

名誉正会員

浜口幹三郎

株式会社 浅沼組 相談役
〒543 大阪市天王寺区東高津町8の1　電話06(768)5222
〒631 自宅・奈良市二名町南登美ヶ丘3336－7
電話0742(43)1091

中田勝

日新工業株式会社 大阪支店 支店長代理
〒550 大阪市西区新町1丁目12番22号 電話06(533)3191大代
〒663 自宅・西宮市高木西町8 9 電話0798(67)1833

取締役会長 西嶋徳太郎
取締役社長 石中達夫

株式会社 大建企画設計
本社・〒550 大阪市西区京町堀1丁目13－20
電話06(443)8261
東京事務所・〒162 東京都新宿区下宮比町15番地
飯田橋ハイタウン333号　電話03(267)4711

林茂

株式会社林設計事務所 代表取締役
〒531 大阪市大淀区長柄中3丁目1番8号 電話06(351)6831
〒565 自宅・吹田市竹見台2丁目11番5号 電話06(871)8625

祝 建築と社会700号

暑中お見舞申し上げます

昭和55年盛夏　(50音順)

林　唯夫

株式会社 昭和設計 代表取締役副社長

〒550 大阪市西区新町1丁目5番7号　四ッ橋ビル　電話06(532)3421

〒565 自宅・吹田市青山台3丁目41－11　電話06(872)3608

林　昭八郎

菱和調温工業株式会社大阪支店 取締役支店長

〒530 大阪市北区天満2丁目7番3号　電話06(352) 4881

〒663 自宅・西宮市高木東町19番14号　電話0798(64)0324

原　精一

甲南建設工業株式会社 代表取締役

〒532 大阪市淀川区十三本町2丁目4番28号 電話06(308)1551

〒662 自宅・西宮市名次町12番9号 電話0798(72)1504

代表取締役会長 原田重信
代表取締役社長 原田孝太郎

原田セメント化工株式会社

〒554 大阪市此花区西九条4丁目3－34 電話06(465)1212代

〒661 自宅・尼崎市塚口町3丁目41－8　電話06(421)4518

名誉正会員

坂　静雄

財団法人 日本建築総合試験所 理事長

〒565 本所・大阪府吹田市藤白台5丁目125番地　電話06(872) 0391

〒531 大淀分室・大阪市大淀区長柄西2丁目1番18号　電話06(351) 7217

〒592 堺分室・大阪府堺市浜寺石津町西2丁1番34号　電話0722(44)3912

伴　一郎

株式会社 西原衛生工業所大阪店 代表取締役社長

〒531 大阪市大淀区中津6丁目8番4号 電話06(458)3531代

飛弾祐三

株式会社 大気社 常務取締役支店長

〒530 大阪市北区中之島3丁目2-18 住友中之島ビル7F　電話06(448)5871(代)

平城　勧

株式会社 朝日工業社 大阪支社 常務取締役大阪支社長

〒532 大阪市淀川区加島1丁目58番59号 電話06(302)2271～9

〒665 自宅・宝塚市中山桜台4－15－4 電話0797(89)3884

福田朝生

株式会社 双星設計 代表取締役社長

〒530 大阪市北区茶屋町18－21 豊崎ビル 電話06(373)2281

〒677 自宅・西宮市甲子園砂田町2番8号 電話0798(48)0989

福中定三郎

社団法人 日本建築協会参与

〒541 大阪市東区北浜3－37 電話06(231)9648代

〒573 自宅・枚方市香里園町26－68 電話0720(31)0549

福永　薫

株式会社 建設技術センター 代表取締役

〒530 大阪市北区東天満2丁目5番20号 古林ビル5階　電話06(353)0651

〒542 自宅・大阪市南区順慶町通4-61 電話06(251)3102・5189

久田良吉

株式会社 東洋建築設計事務所 代表取締役

〒542 大阪市南区上本町4－610 昭和ビル3F　電話06(768)2029直通　2020直通

〒581 自宅・八尾市山本町南4－10－14 電話0729(22)3095

藤井　稔

阪神不動産株式会社 専務取締役

〒530 大阪市北区梅田2丁目2番25号 電話 06 (346) 1171

藤川忠成

株式会社 創設計コンサルタント 代表取締役

〒733 広島市中区舟入町2－20 第2和興ビル6F　電話0822(91)4495

藤木鐵三

株式会社 藤木工務店 取締役社長

〒540 大阪市東区両替町1－13 電話06(944)1468代

藤田邦昭

株式会社 都市問題経営研究所 代表取締役所長

〒530 大阪市北区堂山町3番3号 日本生命梅田ビル　電話06(315)8455代

〒658 自宅・神戸市東灘区岡本8丁目10番1－605　電話078(411)3989

淵上保夫

三井プレコン株式会社大阪支店 取締役支店長

〒530 大阪市北区中之島3丁目3番3号 三井ビル新館221号　電話06(444)4231代

〒595 自宅・大阪府泉大津市虫取51-1 くすの木団地2-311

前野慶太郎

株式会社 あめりか屋 取締役社長

〒530 大阪市北区中之島4丁目3番25号　電話06(444)1501

〒659 自宅・芦屋市翠ヶ丘町4番18号 電話0797(22)2005

前田平一郎

ゼネラル事務機株式会社 社長

〒550 大阪市西区靱本町3丁目2番7号第1横井ビル　電話06(441)1462代

〒560 自宅・豊中市上野東1丁目16－21 電話06(849)5764

牧田顯治

大建建設工業株式会社 専務取締役

〒564 摂津市千里丘東4丁目9番13号　電話06(381)2421

〒546 自宅・大阪市東住吉区田辺本町2丁目26番地　電話06(713)1469

松永嘉一郎

株式会社 梅彦 取締役社長

〒530 大阪市北区中崎西2丁目1番3号 電話06(312)6171代

〒659 自宅・芦屋市山手町15－25 電話 0797(22)4761

祝 建築と社会700号

暑中お見舞申し上げます

昭和55年盛夏　(50音順)

松丸哲也

豊國建設株式会社 代表取締役社長
〒530 大阪市北区天満橋2丁目3番1号 電話06(353) 1001
〒663 自宅・西宮市甲子園口北町20—21 電話0798(67) 2787

松村志津男

株式会社 松村志津男建築事務所 代表取締役
〒532 大阪市淀川区宮原1丁目6番60号 電話06(395)0264
〒665 自宅・宝塚市寿楽荘15番36号 電話0797(72)7375

松村雄二

株式会社 松村組 取締役社長
〒530 大阪市北区天満2—1—33 電話06(353) 1131
〒665 自宅・宝塚市南口1—3—16 電話0797(72)3032

名誉正会員

松本与作

第一生命保険相互会社 顧問技師
〒100 東京都千代田区有楽町1—13—1 電話03(216)1211
〒145 自宅・東京都大田区田園調布3-17-3 電話03(721)4723

松本六郎

松本金物株式会社 取締役社長
〒543-91 大阪市天王寺区上綿屋町6 電話06(774)2200 受付案内台
〒580 自宅・松原市北新町2丁目3—7 電話0723(31)0158

丸山信

株式会社 丸山建築事務所 代表取締役
〒107 東京都港区北青山3丁目5番25号 電話03(401)2287
出張所：横浜市・松本市

三谷忠義

株式会社 三谷設計 代表取締役
〒694 島根県大田市久手町波根西777の1 電話08548(2)8121代
〒694 自宅・島根県大田市久手町波根西225の2 電話08548(5)8320

三輪泰司

株式会社 地域計画建築研究所 代表取締役
〒600 京都市下京区四条通り高倉西入ル 電話075(221)5132代
〒612 自宅・京都市伏見区桃山南大島町95—45 電話075(601)3962

水野喜一郎

社団法人 日本建築協会京都支部 支部長
〒604 京都市中京区押小路通柳馬場東入建設会館分室 電話075(211)2857・2877
〒600 京都市下京区西七条市部町77 水野建設株式会社 電話075(312)0431

水間義雄

株式会社 水間組 代表取締役社長
〒534 大阪市都島区東野田町1丁目1番4号 電話06(352)3121代
〒538 自宅・大阪市鶴見区今津南4-10-15 電話06(961)0785

宮崎辰敬

宮崎辰五郎建築事務所 所長
〒466 名古屋市昭和区折戸町5丁目13 電話052(751)3096
〒466 自宅・名古屋市昭和区折戸町5丁目13 電話052(751)3096

村石全

浪速合板株式会社 代表取締役社長
〒556 大阪市浪速区幸町3丁目2番地1 電話06(561)2201代
〒659 自宅・芦屋市岩園町25番15号 電話0797(34)0835

村上二郎

サンエス石膏株式会社 代表取締役社長
〒530 大阪市北区堂島2丁目4番17号 藤田ビル本館 電話06(344)6526～9
〒565 自宅・吹田市千里山西3丁目7番5号 電話06(384)1002

名誉正会員

村野藤吾

村野，森建築事務所
〒545 大阪市阿倍野区阿倍野筋2-3-8 電話 06(624)0926
〒665 自宅・宝塚市清荒神2丁目18—27 電話0797(86)2559

室谷山水

室谷商事株式会社 取締役社長
〒650 神戸市生田区北長狭通4丁目1 英和ビル 電話078(331)0881
〒650 自宅・神戸市生田区山本通4丁目108の37 電話078(221)5050

森忠一

村野，森建築事務所
〒545 大阪市阿倍野区阿倍野筋2-3-8 電話 06(624)0926
〒665 自宅・宝塚市武庫山1丁目10-8 電話0797(72)4461

森隆雄

株式会社 間組 大阪支店 取締役大阪支店長
〒541 大阪市東区瓦町5—20—1 電話 06(201)2751
〒562 自宅・箕面市西小路3—17—24 電話0727(22)1601

八木喜美蔵

八木惣株式会社 代表取締役社長
〒593 堺市津久野町3丁2071番地 電話0722(63)4115
〒593 自宅・堺市津久野町3丁2071番地 電話0722(62)0722

八十島健二

株式会社 竹中工務店 専務取締役
〒541 大阪市東区本町4—27 電話06(252)1201
〒663 自宅・西宮市甲子園二番町5—30 電話0798(41)0598

矢持吉隆

株式会社 矢持建築事務所 代表取締役
〒602 京都市上京区今出川通河原町西入ル 竹寿ビル 電話075(211)7938
〒606 自宅・京都市左京区北白川上別当町5—8 電話075(781)8559

安井忠生

株式会社 安井建築設計室 代表取締役
〒550 大阪市西区靱本町1丁目9—18 電話06(448)2765～6
〒662 自宅・西宮市城山町6—12 パークハイム2 電話0798(72)0865

祝 建築と社会700号

暑中お見舞申し上げます

昭和55年盛夏　(50音順)

安田誠一

安田株式会社 会長
(建築金物・アルミ型材製造)

〒542 大阪市南区末吉橋通1丁目17 電話06(251)7091代

山本永造

ヤマト電気エンジニアリング株式会社 取締役社長

〒530 大阪市北区西天満5丁目1番3号 電話06(364)3056代
〒562 自宅・箕面市桜ヶ丘3丁目13－6 電話0727(23)5176

若城光柾

株式会社 若城建築事務所 代表取締役社長

〒600 京都市下京区柳馬場通松原下ル忠庵町309番地
電話075(351)5880
〒600 自宅・京都市下京区柳馬場通松原下ル忠庵町309番地
電話075(351)5880

名誉正会員

籔本弦三

株式会社 笹川組 取締役社長

〒520 大津市打出浜13－15 電話0775(23)2314
〒520-21 自宅・大津市一里山5－9－11 電話0775(45)3966

山本哲夫

昭和鉄工株式会社 取締役社長

〒812 福岡市東区箱崎5丁目11番93号 電話092(651)2931
〒810 自宅・福岡市中央区薬院2丁目11番4号
電話092(741)5095

若林繁吉

二葉屋装備工業株式会社 会長

〒564 摂津市東別府3丁目7番8号 電話06(349)9193代
〒605 自宅・京都市東山区清水2丁目232 電話075(561)6283

山口吾郎

不二建設株式会社 取締役社長

〒550 大阪市西区西本町3丁目1番9号 電話06(541)5534代
〒665 自宅・宝塚市雲雀ケ丘1丁目13番25号 電話0727(59)2018

山本博三

朝陽電気株式会社 代表取締役

〒530 大阪市北区中之島3丁目2番4号 朝日ビル内
電話06(385)1361代
〒565 自宅・吹田市藤白台4丁目23番8号 電話06(831)6100

若山繁

近畿電気工事株式会社 取締役副社長

〒531 大阪市大淀区本庄東2丁目3番41号 電話06(375)6000
〒661 自宅・兵庫県尼崎市武庫之荘2丁目25番11号
電話06(436)1381

山田保

株式会社 山田保建築設計事務所 代表取締役

〒730 広島市中区紙屋町2丁目3番1号 革屋町ビル4階
電話0822(48)2562代
〒734 自宅・広島市西区己斐東2丁目12番27号
電話0822(71)0690

山形幸一

社団法人 大阪建設業協会 事務局長

〒540 大阪市東区京橋3丁目70 電話06(941)3651

渡辺忠

東洋シヤッター株式会社 取締役会長

〒540 大阪市東区両替町1－12日生ビル 電話06(943)6571代
〒560 自宅・豊中市緑丘3丁目21番8号 電話06(856)0983

山田恒治

株式会社 山田工務店 取締役社長

〒651 神戸市葺合区雲井通4丁目7番の8
電話078(232)1800代
〒651-12 自宅・神戸市北区山田町上谷上古々山29
電話078(581)2055

吉岡源治郎

高砂熱学工業株式会社大阪支店 常務取締役 大阪支店長

〒530 大阪市北区芝田1丁目4番8号 北阪急ビル
電話06(372)2511
〒560 自宅・豊中市上野西2－20－36－302 電話06(849)6491

事務局一同

社団法人 日本建築協会

名誉正会員

山田文次

山田工業株式会社 取締役会長

〒550 大阪市西区京町堀1丁目6番8号 電話06(443)8161大代
〒665 自宅・宝塚市南口1丁目2番2号 電話0797(72)2511

米倉豊夫

日本住宅パネル工業協同組合 理事長

〒113 東京都文京区本駒込6丁目15番7号
電話03(945)2311大代

山田義行

株式会社 竹中工務店

〒541 大阪市東区本町4－27 電話06(252)1201大代
〒665 自宅・宝塚市寿楽荘14－11 電話0797(72)5858

和田眞一

株式会社 東和組 代表取締役

〒530 大阪市北区西天満4丁目5番14号 電話06(363)4051
〒659 自宅・芦屋市公光町3番8 電話0797(22)3282

第１期20巻完結記念　**セットセール**　協会会員特別割引

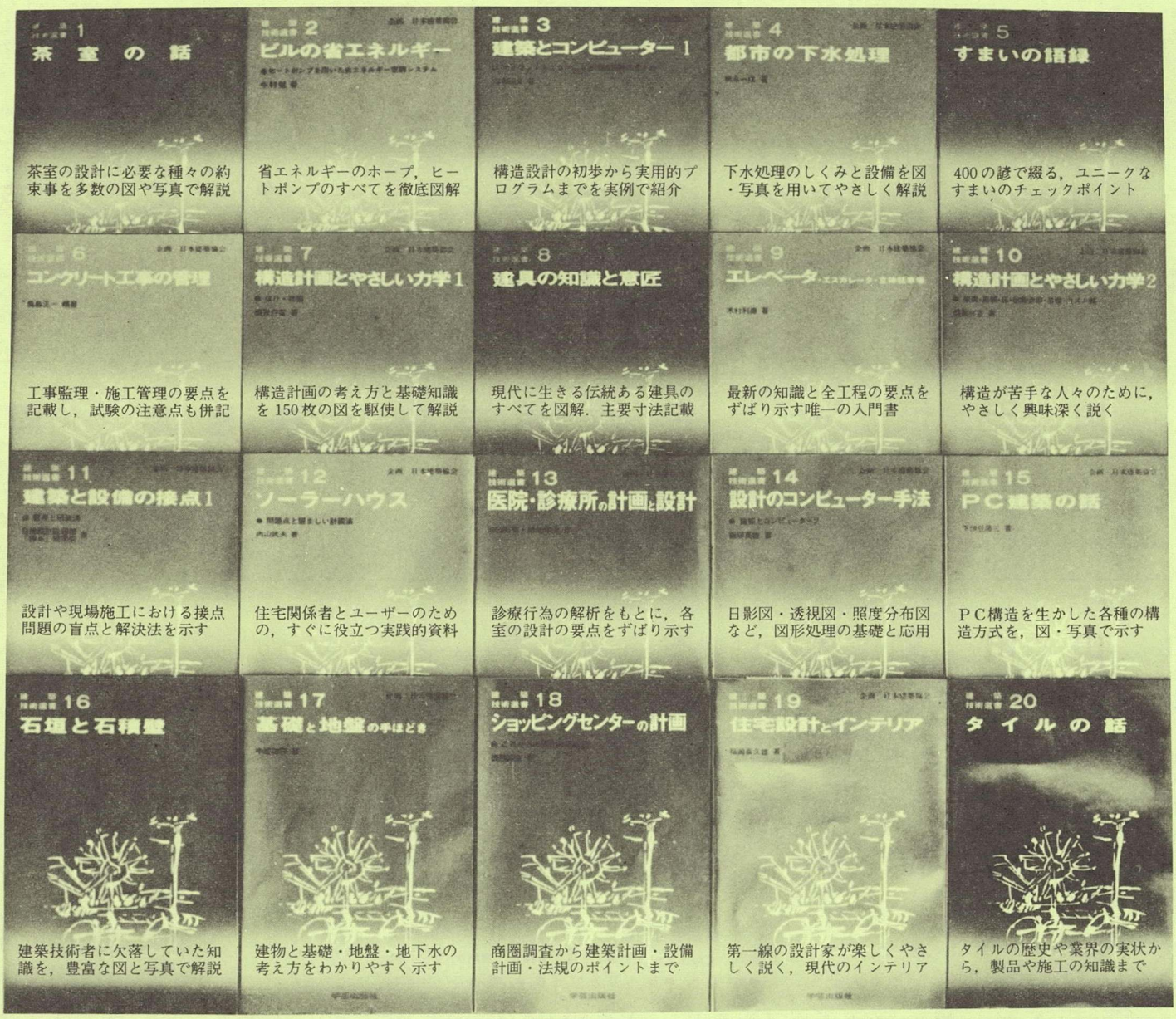
建築技術選書

企画：日本建築協会　　編集・発行：学芸出版社
Ａ５判・136～160頁・定価　各1000円

20巻セットをこの機会に

８月31まで　セット特価
16000円

セットセール期間中はセット以外のお申し込みも１割引（送料当方負担）で頒布いたします．お申し込みは専用振替用紙でおねがいいたします．なお，セット特価，割引販売は書店ではいたしておりません．お問い合せは日本建築協会(☎06－231－9648）か学芸出版社(☎075－343－0811)へ．



■建築技術選書20巻記念セットセール

●20巻で16,000円です。定価の２割引です。送料は無料です。お振込みいただいた方には、発行所・学芸出版社より直送いたします。

●なお、分冊申込みも受付けますので、希望巻号（1 2 ……20）に○印、冊数、金額をご記入の上、お振込み下さいますようお願いいたします。
１冊は、それぞれ定価の１割引の 900円です。この振込利用の方に限り、送料は無料です。発行所・学芸出版社より直送いたします。

●この技術選書は大変好評を得ておりますので、この機会にご利用下さいまして、お振込みいただければ幸いに在じます。

昭和55年

社団法人　日本建築協会
大阪市東区北浜 3−37
電話06−231−9648

通　信　欄

●建築技術選書20巻セット申込み
￥16,000×＿＿部
＝￥＿＿＿＿円也

●建築技術選書分冊申込み

1	＿＿冊	11	＿＿冊
2	＿＿冊	12	＿＿冊
3	＿＿冊	13	＿＿冊
4	＿＿冊	14	＿＿冊
5	＿＿冊	15	＿＿冊
6	＿＿冊	16	＿＿冊
7	＿＿冊	17	＿＿冊
8	＿＿冊	18	＿＿冊
9	＿＿冊	19	＿＿冊
10	＿＿冊	20	＿＿冊

計　　冊×￥900＝￥　　也

●送付先住所氏名

住所

氏名

●払込票をもって本会発行の領収証に代えさせていただきます。

通常払込料金加入者負担

払込通知票

口座番号	※ 大阪	十	万	千	百	十	番	
			3	9	9	7	5	
加入者名	※ 団体法人 日本建築協会							
金額	※	億	千	百	十	万	千	百	十	円
払込人住所氏名	※ 〒									
備考		受付局日附印								

（郵政省）

各票の※印欄は、払込人において記載して下さい。

文字は正確、明りように、数字はアラビア数字を使つてお書き下さい。

通常払込料金加入者負担

払込票

口座番号	※ 大阪	十	万	千	百	十	番	
			3	9	9	7	5	
加入者名	※ 団体法人 日本建築協会							
金額	※	億	千	百	十	万	千	百	十	円
払込人住所氏名	※ 〒									
料金	払込 円 / 特殊 円	受付局日附印								
備考										

（郵政省）　局番号　印

記載事項を訂正した場合は、その箇所に証印して下さい。
各票の記載事項に間違いのないことをお確め下さい。

澄んだ空気・清流・陽光・樹々を渡るさわやかな風・小鳥のさえずり……。都市住民にとってこれらの事象はなんと心懐かしく魅惑的に想起され希求されるものであろうか！　一方、無秩序に林立する高層ビル・その谷間を埋める建て込んだ家並み・騒音と排気ガスを撒き散らしながら走る車の洪水・けばけばしい看板の乱立・狭い住宅・満員電車・無関心で殺伐とした人情……など自分達を取り巻く現実の環境の不快さや街並みの雑然さに気がつき愕然とする。経済性・効率性を第一義に物質的繁栄を追い求めてつくりあげてきたこの壮大にして高度な人工的な生態系の居心地の悪さとみかけの醜悪さに人々はようやく気がつき始めた。地方へのUターン・Jターンとともに都市内でもドーナツ化現象が顕著になり、かつてあれほど多くの人々を惹きつけた都市の魔力も少し衰えかけたようにみえる。しかし、現在もそして将来も圧倒的多数の人々がこの都市に居住すると考えられる今、急務であるのは定住するに足る居住環境の整備をはじめとする魅力ある都市の再生であろう。無表情で画一化された現在の都市を、その都市固有の歴史や伝統・特性を活かし、個性的で風格のある街並みにつくり変えていかねばならない。ゆとり・憩い・潤い・ふれあいなどのある豊かな環境づくりを願う都市住民の多様な創意と工夫に依拠しながら生命の安全・健康はもとより豊かな感性と健全な理性を育む都市づくりをめざさなければならない。このような人権の擁護・尊重、人間性の回復・開花をめざすトータルな都市環境の整備の目標理念に沿った〝都市の景観とアメニティ〟のあり方とその具体化が今、問われている。
さあ、われわれ建築家も視野を広げ、自らのポテンシャルを高め、この困難な課題の解決のために一歩踏みだそうではないか。愛着と誇りをもって〝都市をふるさと〟と呼べるために！

（本号編集幹事　河目浩吉）



特集
都市景観とアメニティ

総論

てい談・都市景観とアメニティをどう考える？

久保　貞／向井　正也／三輪　利英

アメニティと行政

坂口　治

各論

大阪市戦前の市街地構成―界隈と日常の生活の一端

光崎　育利

都市の中の戦前長屋―負性にささえられた快適さ

藤本憲太郎／富樫　穎

都市景観へのビヘビアラルアプローチ

久保　貞／杉本　正美／安部　大就／中瀬　勲／平岡　順一

紹介

大阪市堺筋の美化

木村　賢一

本号特集編集幹事

杉本正美／片倉健雄／藤本憲太郎／池端　猛／中瀬　勲／富樫　穎／塩谷寿翁／河目浩吉

てい談

都市景観とアメニティをどう考える?


久保　貞氏


三輪利英氏


向井正也氏

出席者：**久保　貞**（大阪府立大学教授）
向井　正也（神戸大学教授）
三輪　利英（前・大阪市総合計画局都市計画部長／現・大阪市都市再開発局長）
編集側：片倉健雄（近畿大学助教授）
杉本正美（大阪府立大学助教授）

編集側　「建築と社会」ではちょうど5年前に都市景観の特集を組んだことがありますが、この問題についてはそれ以後、一般の認識も少しずつ高まっていると思います。実際面でも、たとえば、大阪市の例でもみられるように、変化が見えており、本格的な取り組みが始まったといえるのではないかと思います。
一方、アメニティについては、一般論として、あるいは事例の評価といった形ではずいぶん取り上げられておりますけれども、一歩踏み込んでフィジカル・プランニングとの結びつきを強めるというところまではまだなかなかいってないのではないかと思います。
そこで今日は「都市景観とアメニティをどう考える?」という特集テーマに沿って、この2つの問題のつながりを浮き彫りにしていただきたいということと、あわせて、これからの考え方あるいは方向づけについてお話し合っていただきたいと存じます。

1　なぜアメニティか?

三輪　私、市役所におりまして都市計画をやっております。物をつくる側の立場におりますし、今日はいろいろと先生からお話も聞かしていただいて、今後の事業に参考にさせていただきながら、少しずつ都市の景観というのは長期的に進めていかなければならないと思います。
都市計画の推進には非常に長い時間がかかりますし、しかし、ほっておくとだんだんまちは汚れた方向、マイナスの方向にいくものでございます。その辺で、規制をする必要があります。都市計画法のもとでいろいろ私ども具体的に仕事をしておりますが、法律で規制する場合には、あまり市民からは好まれません。強い反対運動にしばしば出くわしている場合があります。都市計画にはそういう問題が背景にございます。
しかしながら、やはりある程度思い切った構想を打ち出し、それを行政に条例等でカバーして、長い時間をかけてアメニティという面もとらえながら進めていく必要があるのではないかと考えております。しかし非常にむずかしい問題が多いので、とりあえず先生方からその辺のところから入っていただいたらいかがかと思いますが、よろしくお願いします。久保先生……。

久保　いや、今日はぼくは向井先生に思っておられることを全部言ってもらおうと思っております（笑い）。

向井　それは話し合いをしたほうがいいですね。

久保　向井先生という方は、一人でしゃべったらあまり上手じゃないけれども、いろんな人と対談しているときはものすごくお上手だと聞いてるんです。そんなことはないですか?

向井　いやァ、とんでもないですよ。

久保　先生、アメニティという言葉ですけどね、よくこのごろ使われているようですけれども、本来これは古い言葉なんですね。

向井　そうですか。古い言葉ですか?

久保　大分前です。それでその古いアメニティという言葉が最近取り上げられてワーワー言われておるということが、ぼくはどうも納得がいかないんですけれどねえ。
アメニティというのは、きわめて簡単なことだと思うのですよ。要するに私たちが都市で住んでいて、そしていろんなことを感じますね、そういうことの集積がアメニティでございましてね。たとえば、簡単な話が、不快感を味わう場合があるわけですが、それもマイナ

スのアメニティです。ですからプラスのアメニティとマイナスのアメニティがありますね。その辺のことから話をしていただいたらいいんじゃないかと思うんですけれどね。

たとえば、きわめて単純なことなんですけれども、まあ三輪さんは土木屋出身ですけれども、この間も大阪市の若い人に言ったんですが、たとえば雨が降ったときに、非常に簡単な路面の処理の仕方を間違えているために（施工上ですよ）雨水がたまりますね、ジャブジャブのところを人々は歩いているわけですよ。不快感を味わいますね、これはマイナスのアメニティです。ですから、そういうケースがね、いまは私、道路のことだけ言いましたけれども、道路だけに限らず、いろんなことが全部あるわけですよ。そういうことすべてを体験しての現在の市民ですわね。

だから私は、たとえばいまの土木工学、建築工学でどういうカリキュラムがあってどんなことを教えているか知りません。知りませんけれども、私のところでもそうですけれども、被害者は住んでいる人々です、ですからその住んでいる人々が不快感を味わうような設計とか計画とかをやってはいけないということですね。その辺のことから話を始めたらいいんじゃないかと思ってるんですが。

この、向井先生のお書きになった「日本建築・風景論」[1]というのを拝見させていただきますと、まあかなりいろんなところでむかついておられる……（笑い）。

向井　いや、そういう書き方しかできないのです、私は。

久保　それで、いろんなご意見がおありだと思いますので、今日は向井先生が日ごろお考えになっていることをとにかく「建築と社会」という雑誌にちゃんと書いてもらったらいいんじゃないかと。

向井　マイナスのアメニティというような言い方は、するんですか？

久保　いや、これは私がつくった言葉ですから……。

向井　アメニティは、部長さんも書いておられる、私もここへ書きましたが、ＯＥＣＤ、ここらのところから出てきた言葉じゃないですかね。経済協力開発機構、その辺から日本でだんだんジャーナリズムなんかで出てきて、そろそろ使いだしたんじゃないですかね。

久保　日本ではね。

向井　それを古い言葉として、いまおっしゃったんでしょうけれど……。われわれがいま問題にするんなら、日本での使い方でいったらいけないんですかね。そういうのが大体通り相場になっていて、いろんな人が大分言うてきている……。

久保　いや、なぜ日本で最近アメニティということが言われだしたのかということでしょうね。それは要するに都市計画にしても、都市の建築にしても、造園にしても、何でも同じことですけれども、いろんな意味で人々に不快感を与えている場合が多いんですね。ということは、そのアメニティを与えていないということですよ。それがぼくは問題だと思いますね。ですから、なぜかということをこの会でお互いに話し合ったほうがいいんじゃないかと私は思ってるんです。

だから日本の教育体制で言いますと、建築は建築、土木は土木、農学部は農学部とやってますね、やってますけれども、お互いの相互連絡というものがありませんね。そういうもので社会に対して責任をとれるのかということです。私はそういうのを一専門家として社会に対してどうやったら責任をとれるのかということを考えていくべきだと思うのですよ。

向井　大体環境論というのはそういうものですわね、いろんな学問の間で学際的にやっていかないかんというふうに前から言われてきているでしょう、だけどそれはいまのところ実を結んでいませんわね。

三輪　なぜアメニティかという議論が久保先生から出てましたけれど、これは行政をやっている側からの考え方ですが、背景としては、戦後とにかく復興するために、質よりも量を重点的に、政策を進めてきた。たとえば住宅にしてもとにかく住む家が大事だというので、数量、たとえば何千戸来年度建てますとかいうことがここ２、30年行われてきた。それで数量においてその辺が充足されてきたけれども、大阪市内ですと、世帯数と住宅の戸数を較べますと、もう６～７万戸余裕ができており、一応数では余裕があります。ところが、まだ住宅難世帯数というのは16％もあるというのは、裏返してみたら、量は足りているけれども質の問題があるわけです。そうするとやはりある程度日本全体が落ち着きかけてきて、そしてやっと人間らしい生き方に気がつきだしたという背景があるわけです。

そんなことが、たとえば、私の場合少し交通をやってきたのですが、交通問題が最近になって社会問題となっていますが、昔はとにかくラッシュ時に満員でもいいから乗れるようにしたいということでした。しかし、それがだんだん混雑率を減らす方向に向いてきている。ところがそのときは、その線路をつくり駅をつくる人は、つくる側の論理でしか物を考えてないんです。乗る人の気持ちまでおよばんわけですね。だから、どうもいままで、久保先生もおっしゃったように、住む人の気持ちでまちづくりやったんでしょうけれども、そこまできめの細かい配慮がなかった。だから今日のこのアメニティの議論も、量よりも質という中味のことが問題となる時代になってきたために、そういう背景があってＯＥＣＤでも問題を取り上げ、日本でも政府あたりが、この問題は大事であると認識して対応していると。まあそんな感じがしているんです。

② これからのアメニティと景観

向井　私は、アメニティは公害の問題の一環につながっていると思ってます。

久保　まあ一部はそうでしょうね。

向井　いままでの公害は、いわば物理的な、人間の肉体を損なうような、はっきりした形の公害ですわね。それがだんだんもっと高度のものに……高度というか、人間の心理的公害のいうようなもの、音とか視覚の問題とかいろいろありますわね、そういうものも問題に当然なってくるので、そういうところからだんだん出てきたんじゃないかと思いますがね。

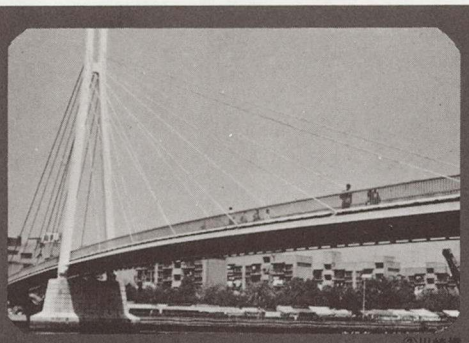
それと、これにはもちろんさっきの、公害問題がからんできますね、ということは、周りの環境が、自然環境をはじめ、いろんなところがものすごくいたんできたわけですね。だからアメニティの問題なんか、一昔というたらおかしいが、戦前なんかそれほどねえ、……まあることはあったんでしょうけれど。いま部長さんがおっしゃったように、住民の立場に立ってつくってませんけれど、それほどひどくなかったと私は思うのですが、このごろはほっといたらどんなことになるかわからんような状態ですからね。

そういうことで、心理公害とはよく言いますわね、その心理的な公害ということで、非常に一般的な見方で見ていったらいいんかと私は思うとるんですがね。

1）向井正也著「日本建築・風景論」相模書房



①町いきいき


②川崎橋

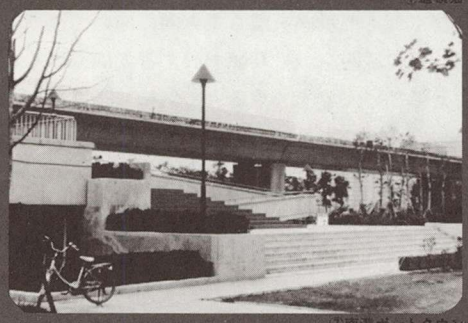

③堺筋美化


④道頓堀


⑤口縄坂入口

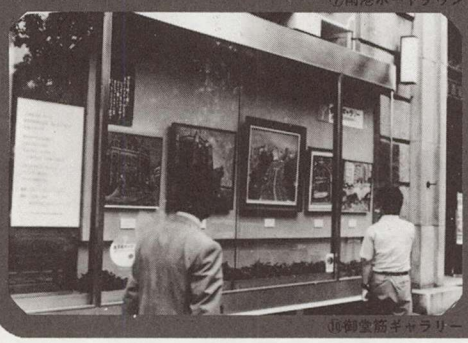


⑥本町駅(中央線)サイン


⑦南港ポートタウン


⑧高島平高速道路


⑨大阪高裁西側、セットバック


⑩御堂筋ギャラリー

スライドの説明は、大阪市の三輪利英氏が話題提供のために、本てい談に入る前に話された内容に基づいている。
❶テーマ「町いきいき」。大阪の景観のＰＲも兼ね、町の美化、モラルの向上についてキャンペーンを展開している。大阪の再発見に役立たせたい。❷川崎橋。桜の季節になると、通称「造幣局の通り抜け」で春の盛りを感じる。この橋は斜張橋で、川と背景のバランスを考えてつくられた。❸堺筋は比較的歩行者が多いが、歩道が狭いのでここを広げ、架空線、電柱類を整理し、舗装、街路樹、安全柵等に工夫を加えた。今後、美しい街路にしたいという願いのひとつである。❹道頓堀川－河水の浄化と噴水による眺望を兼ねた装置。上流の河川浄化が必要。この両岸にも人が歩けるようにできればよいと思う。❺夕陽丘の口縄坂への入口、建物も右は古く、左は新しい。規制と保存と開発の問題がここにある。早く手をつけたい箇所の一つである。❻地下鉄本町駅－人が多く集まる地下鉄の構内もアメニティが必要だ。広告を少なくして、誰にでも分かる案内表示にしたつもりだが、通勤者にしか分からないという批判もあり、工夫を重ねたい。❼南港ポートタウンは新しい町として、いろいろの試みがなされている。ニュートラムの軌道も丸味をつけた。左側は駅になるが、地区センターで一体的構造となっている。❽首都高速道路３号線、高島平付近では橋脚に工夫をこらし、桁もフラットな構造にしている。東京では桁を高く上げ桁下を明るくし、うまく利用しており、高架下の使い方の良い例だ。❾大阪高等裁判所の西側の、芝生を貼ったオープンスペースである。良いようだが、一段高くなっており、なにか親しみにくい。やはり歩行者も通れるようなことも必要なのかなと感じさせられる。❿「御堂筋ギャラリー」といって10月の１～12日間に限り、ビルのショーウィンドウを開放し、市民の絵画を展示した。御堂筋をさらに楽しいストリートにするため、こうした催しを多数く行いたい。

私いつも思うのは、役所では環境庁と文化庁がありますが、それぞれこういう問題、考えてるわけでしょう。ことに環境庁なんかは、直接考えてもらわんと困るわけでしょう。だけど、いままでのところは、もっぱら物としての物理的な公害のことにばかりかかわってきたと思われるので、それをもうちょっと高度のものにもっていこうという、そういう性格がそろそろ出てきたんじゃないでしょうか。

久保　私がこういう専門に入ったいきさつでもあるんですけれど、要するに人間を対象にしないような人間の生活環境の教育体制は間違ってるということを言われたわけですよ。私、学生のときから、確かにそうだと思いましたね。ですから、この間の「都市問題研究[2)]」に書きましたけれど、どういう点で間違えてるのかといいますと、いままでたとえば建築のデザインを教える人は、デザインばっかり教えてて、それを人々に押しつけたわけですね。こういうふうに住みなさい、とか。それで土木をやってる人は土木をやってる人で、同じような方式でやってきたわけですよ。造園をやっている人も造園をやっている人で、同じような方式でやってきた。

ところが考えてみますと、大昔の「作庭記」という秘伝書があるんですが、それには「家主の意趣を心にかけて」ということが書いてあるんです。ということはどういうことかというと、人がどういうふうに反応を示して行動をとるかということをちゃんと考えてやんなさいということなんですね。だからそういう知恵は昔の日本にはあったわけです。それを最近になって初めて、たとえばこのアメニティとかそういう言葉で問題にされだした。

アメニティといいますのは、要するに人間は五感で感ずるわけですから、五感で感ずるときにたとえば快感なり不快感なりいろんなことがありますね。アメニティという言葉自体はむしろその快感のほうなわけです。だから私が先ほど申し上げましたマイナスのアメニティというのは不快感のほう。ですから両方とも同時に、みんな都市の中で生活してて感じるわけですね。そういうものをどうやって吸収して、いろんなケーススタディにもっていったらいいのかということが、私は一番大きな問題じゃないかと思うのです。そういう勉強がいままであまりにも都市のデザインの専門家の人たちに欠けていたんじゃないか。そういう反省がもう……ちよっと遅いんですけれども、もうバッチリやっとかないと、将来に対して禍根を残す

2）「都市問題研究」第32巻第２号（通巻350号）特集：都市の景観と美化、都市問題研究会

ことになるという気がするんですよ。

向井　この表題ですが、景観とか都市美とか、そういう問題と、普通いままでの行き方だとすぐそういう景観とか美の問題ばっかり言ってきましたが、それでいっとったらやっぱりおかしいんじゃないかというような考え方が、アメニティの中に出てくると私は思うのですがね。快適さと美しさというのは、いつも私の持論ですけれど、切り離せないと思うのです。

久保　そうですね。

向井　気持ちよく感じられないようなものは美しくないと思う。だから美というのは非常に個人的なものですわね、だからそういうことですぐ出てくることやけれど、お役所のほうがすぐ美観地区とか何かやってきたでしょう、そういうのがおかしいんじゃないかというような、まず私そう思いますね。一部特定のところだけ指定しましてね、さっきの問題じゃないけれど、部分的に、ここが美観地区であると。それでその他のほうは、いままでのやり方としては、あまりお役所のほうは、ほとんど問題にされなかったですわね。だけどアメニティとなると、ユーザーの側に立って、まあ全域的な問題になってくると思うのです。だから都市の全体の中に住む、さっきおっしゃったように気持ちよく住むというような……。美というような問題はあまり出さんほうがいいんじゃないかと私は思うんですがね。美しさというのは、そういうものとからんだ美しさならいいんですがね。

久保　だからそういうものを全部ひっくるめて集めたものが美、都市美になる。ですから、いままでたとえば建築なら建築、これはきれいだというのと、都市なら都市が生き生きしてて、みんなが喜んでて、おう、これはもうすばらしい全体景観だというそういうものと、ちょっと分けて考えないと……。

向井　だから新しい考え方がもうちょっとはっきり打ち出されてこんとね。だから大阪市なんかも今度そういうことをお役所のほうから……どういうところからそういうふうに出てきたのですか？行政サイドから出していこうという……。

三輪　背景としては、大阪市で手がけるものに、区役所とかいろいろな公共施設物がありますね、それが市民の目にとまりやすいところに沢山できてきます。その場合に、自由勝手な設計をする前に、まずやはりそのまち全体にバランスのとれたものにすべきだという議論がありました。それはランドマークになれば理想でしょうが、そういかなくても、もう少し全体から見て、やはり行政側がやるものみずから一応全体の美観とのバランスを考えながら、外装の問題とか、内装の問題とか、いろいろそういうことを考えていく必要があるのではないか。たとえば建物にしても、行政のやる場合には道路なり公園なりずいぶんありますので、そういうところを十分に今後配慮してやっていく、まず市の内部から始めよう、ということで、私どもは久保先生も入っていただいている景観懇談会というものをまず発足させて、そこで先生方の意見をお聞きしながら少しずつ、市内でやる行政サイドでの建物なり、また南港というプロジェクトなりにも、ご意見をお聞きしながら、都市景観という観点から反映できるものはさせていきたいということで大阪市の場合、話ができ、ある程度の実効もあがりかけてきた。これを民間にどうやってもらうかは非常にむずかしい問題。行政で法的な網をかぶせるのがいいのか、民間のエネルギーをうまく活用してさっきからの全体美を期待するのがいいのか、その辺だと思うのですけれども……。

大阪の場合には、公共に対して、かなりの抵抗感がありますね。たとえば井池あたりで歩道の上に品物を並べて商売しますね。大阪の商人のやり方は、東京の人と比べて関西人、大阪人というのはルールを守らないというのが特徴なんです。隣の人が1メーター歩道に店を並べたから、自分とこは1メーター50出すというふうに、皆が隣の人より少しずつ出す。それが公共施設であれどうであれ、まず問題にしない。だから公共的な問題からそういうような形に広がっていくということで、景観にしても看板にしてもある程度構想なり網をかぶせるなりしないと、なかなか統一美、統一のものができないんじゃないかと考えています。その問題もあって、大阪の場合、懇談会をこれからいろいろうまく運用していきたいと考えているわけです。

③　アメニティと景観の担い手

向井　東京に比べると、大阪のほうがゴミゴミした感じがしますね。一般に。

三輪　と言われていますねえ。それはとくに最近じゃないでしょうか。昔は自分の家の前の道路は自分たちで美しくするものだったですね、最近は……。

久保　京都なんかそうですよね、ちゃんと水をまいて……。

三輪　最近は電話がかかってきて、家の前、汚ないので掃除してもらわないと……。

久保　市に対して電話がかかるわけですか？

三輪　はい。だからこれは市民の一人ひとりの気持ちの持ち方になってきてるんじゃないでしょうか。

向井　確かにそうですね、しつけをせんとあかんような状態ですね、いま。なんで戦後こないなったかと思うのですけれどね。

久保　どっちもどっちだと思うのですよ。たとえば最近マンション公害というのがあるでしょう。あれでも、建築屋さんはいろんなデザインを考えまして、いろいろ構造計画か何かやりますね、だけど、住まわされた人は迷惑をこうむるわけですよ、そのために。建築工学上どういう理由か知らんけれども、とにかく壁を薄くするとか、何かやってますね、そのためにどれだけ住民が、住む人が迷惑をこうむってるかということを調べてみましたら、昔流の普通のコンクリートの厚い壁のほうが安全だという情報を私最近もらったんです。だけど、最近その住宅公団の人に会ったら、住宅公団では壁を薄くする研究をいまやってますというんです、民間にならって。それはとんでもない間違いでございましてね。もしも薄くしてもいける、絶対大丈夫という保証が建築学会なり何なりでできれば、それはいいですよ。そのかわり責任とってもらいますよ。だから上の人がカタカタッと歩くのが全部下まで聞こえるんでは困るわけですよ。ですからそういうことも、これもたとえば都市の中なら都市の中に住んでいる人の一種のアメニティ、マイナスのアメニティですね。静かだったらプラスのアメニティ。

ですからそういうことは、要するに建築をやってる、土木をやってる、都市計画をやってる、造園をやってるということを超えて、一種の専門家としてのモラルがあると思うのです。で、いまの基準はこうだから、はい、これでやったらいいんだ、というふうな調子でやったら、そのうちに住民、怒りだしますよ。

ですから、住民が市役所に苦情を言ってきたとしますね、そういうときには、それはそれなりにやっぱりかなりむかついてるからくるわけですよ。それだけの不快感を与えているのは何かの理由があるわけですね。だから住民の住まい方が悪いとか、そういうふうに片

づけてしまうのは、技術屋としては大変ぼくは無責任だと思いますね。その辺のことを先生どう考えますか？

向井　そうですね……やっぱりしつけができてないという感じはしますね。たとえばレクリエーションへ行っても、あき缶なんかものすごく捨てたりするでしょう、あれなどどうなってきてるのか。ああいう問題がいつもつきまとってくるわけです。自分たちも文句を言いますけれどね。

久保　だけど、捨てる場所がないじゃないですか、日本の場合は。

向井　いや、持って帰ったらいいんでしょう。

久保　いや、捨てる場所をつくっとけばいいんですよ。そういうスペースが少な過ぎる……。

向井　このごろの若い人たちは……こういうデザインの問題でいつも出てくるのはモラルだと思うのですよ。さっきのごみ捨ての問題とか含めて。何かこのごろ全体にモラルが下がってきてるみたいな感じがしますね。

久保　先生、大分お年を召したな。

向井　いやいや……そう思うんですわ。

久保　ぼくは逆だと思うんですよ。ちゃんとしたデザインがどこかで行われていたら、人々は、あ、ここではこうせんならん、というふうに心理的には思うはずですよ。ですからそう思わせるようなデザインがいまのところないというふうに判断したほうがいいんじゃないですか。

向井　この前、阪大の足立さんと話をされたときに出ましたが[3]、それは確かにそうですね、そういうことを言ってましたね。北欧とかあのあたり、非常にきれいですわね、そういうところならもうたばこも捨てられないというようなことを足立さん言ってましたね。そういうことはありますけれども、こちらのほうも非常にしつけができてないと。ことに日本人はね。これも大事だと思います。自分の家の周りだけはきれいにするということは昔から言うんですがね。向こう三軒両隣、この辺だけはね。ところが外へ出たらもう旅の恥はかきすてみたいな形で、平気で物を捨てたり……昔からの日本人の癖ですわね。

久保　そう言ってしまったら日本人はボロンクソなんですけれど、ただ私はそうは思わないんです。そういうふうにさせる雰囲気をどこかでデザイナーがつくってるわけですよ。

向井　デザイナーもつくってますけれど、何か両方でそんな雰囲気があって、まちの形が私は大分悪いことを書きましたけれど、東南アジア的な、香港とか韓国とかああいうものに……日本のまちはその東南アジアの一つですけれどね、中の一画ですから。非常にヨーロッパと違ったムードが出てますわね。

芦原義信さんの本を、わたしはこの間から読んでいるんですが、やっぱり書いてますね[4]、ヨーロッパのまちと東南アジアの、どこが違うかといったら、芦原さんは、看板がゴチャゴチャ出とって、建物の輪郭以外の……あの人は第一次的な輪郭と第二次的な輪郭とか言うてましたけれどね、看板の輪郭でまちができてしもうて……。そういうところからゴミゴミした、東洋的な、東南アジア的な性格が出て来るのじゃないかと。


片倉健雄氏


杉本正美氏

3）「建築と社会」　特集：都市の景観と施設　1975年6月
4）芦原義信著「街並みの美学」　岩波書店

4　景観と社会のしくみ

三輪　いまのお話に、今度は行政側の言いわけみたいになるんですが、久保先生がいまおっしゃった、市民がムカムカした気持ちだからいわゆる役所へ苦情をもっていく。そうすると、そういう施設を役所がつくってるわけですね。まあ橋があり、道路があり、公園があり、学校、市営住宅、ずいぶんあります。で役人というのは、ある決められた枠の中で仕事をするわけですね。それで公共事業の場合にはほとんど国の補助事業です。そうすると国の決められた予算の枠の中でわれわれは設計するわけです。かなり注文がつくわけですね。そこで地方公共団体が自前で、たとえややぜいたくだけれどもこういうデザインでこういうことをやりたいといっても、なかなか受け入れられない。しかしそれを打ち破るのがわれわれのつとめだとは思うんですけれど、いまの予算のあり方の問題、これが一つ問題になると思いますね。

しかしそれは兵庫県さんのように１％アセスメントですか、そういう文化的なデザインその他に設計を入れ込むという考え方、これがこれから次第に広がっていけば、かなりそういう配慮がなされてくるのじゃないか。そうすれば一つひとつ構造物の中でもかなりアメニティといったものを考慮して、ちょっとぜいたくかなァとか、できるんじゃないか。ただあまりにもいま外部の目を気にしすぎて批判されないような構造物をつくろうとする方向にどうしても行政は努力してますんでね、これは考えていかないかんと思いますね。

たとえば地下鉄の駅の色を計画するときには、中途半端な、温かい色と涼しい色というので、ピンク系統、薄青色、二系統を一つ置きの駅につくった時代があったのです。これは地下鉄に入ると非常に人間は心理的に不安だからというのと、あまりけばけばした意匠をやると批判を受けるのではないかというので、建築屋さん、そういったことばかりを考えて、どの駅でも似たようなものになってしまったわけです。そういうのはやはりもう少しアクセントをつけ、いろいろ楽しめるようなものにするという方向にやっぱりしむけていかないかんと思います。

向井　広告物がめったやたらにあるでしょう、ああいうところの節度とかね、そういうところのモラルというたらおかしいけれども、日本人はないですねえ。自分のところのものなら何をしようとおれの勝手だというような……。大阪なんかことにひどいんじゃないですかね。それをお役所のほうでこれから規制されていかれるわけでしょう？それはこっちがやったかって、住民側が協力してくれんことには、なかなかむずかしいんじゃないですかね。

久保　そういう意味では日本の社会というのは非常に仕組みが下手でございましてね。私、友達から聞いたんですが、たとえばドイツでは火災保険をかけようと思ったら、マイスター、要するにライセンスを持った煙突掃除屋が入ってないと火災保険に入れてくれないとか、いろんな仕組みがあるわけですよ。そういう仕組みの仕方が下手だから日本は混乱するんじゃないですかね。私は何となくそういう気がしますね。

向井　こっちから規制するのももちろん大事ですが、向こうからあるルールに従って、ルールの中で市民的に生活をエンジョイしていこうというようなしつけというんですかね、そういうのはゲルマンのほうはものすごくきちっとしてるでしょう、大体北のほうは。南へ行くとだらしないですけれどね。日本は大体だらしないですな、そういう点は。

久保　だけど、日本人というのはかなり優秀ですよ。

向井　いや、優秀ですよ。だからそのゴミゴミした中でのおもしろさというのは、それはまた別なんですが、そういうところもあってもいいと思うのですわ。ゴミゴミした、広告ばっかりみたいな、道頓堀とか、ああいうところがあることももちろん納得できますが。ある地域では、たとえば官庁街とか、格調を保ちたいところがあるでしょう、そういうところでも商業的な何が入ってくるでしょう。たとえば淀屋橋の橋のたもとのああいうような広告ビルとか……。

三輪　いまの先生のお話を聞いてますと、行政サイドはすぐに美観地区をかけたりしたくなるんですよ（笑い）。それを道頓堀でやるつもりはありませんよ。

向井　そういうところでもやったらいいと思うんですがね、私は。こういうなかなかルールを守らんところには、強くいかんならんところがありますね。

三輪　それと、最近の都市計画の仕組みというのは、法律が変わって、住民の意見を聞くように、審議会で意見書がかなり出せるようになっていますね。意見書が多く出ますと、計画案そのものが継続審議ということで、せっかく網をかぶせようとしても計画が流れるケースが多いわけです。そこで、その人はどういう反対をするかというと、土地の値が下がるとか、いまのお話で自由な看板が立てられないとか、そういう反対があると、都市計画というのはなかなか日の目をみなくなるんです。

ただ、都市計画というのは、非常に多くの人が狭いところで肩すりあわせながら生きていくためのルールづくりですからね、自分が土地を持っているから自分が何をつくろうと自由だという発想がまだかなりあるんです。そうでなくて、ここはこういう使い方をしてくださいといっても、なかなか理解していただけない。そうすると都市計画の法的な規制をかける場合に、かけようたって反対が多くてできない。かなりそういう面が現在、日本の場合はありますね。

5 都市景観へのアプローチ

三輪　それともう一つ、話を前へ転ばす意味で、向井先生の本を拝見した中で、「都市のインテリア」[1]というのはちょっとおもしろいと私は思いました。「建築におけるインテリアと同様都市のインテリアとは、何よりも人間の心に憩いや潤いを与える生活文化的諸要素を確保するもの」だということをうまく――うまくというと失礼ですが――おっしゃって、なるほどと思ってメモしてきたんです。

向井　いやいや、そのインテリア的な扱いがもっとふえてきたらと思うんですがね。芦原さんの「街並みの美学」[4]というのはなかなか、ところどころでいいことを書いてますね。たとえば道路がありますわね、そこから中へ一画削ってしまって、あの人は「入り隅の空間」とかいってますが、そういうところに非常に潤いのある、ゆったりとした、いい空間ができます。そういうことはなかなかむずかしいですけれどね、もっともだと私は思うのですわ。そういうところが、小さな公園でもいいんですがね、ベストポケットパークとか芦原さんは言ってますが、そういうふうな一画の小公園というものでもね。

久保　ちょっとスケールを大きくしたクルドサックみたいなものですね。芦原さん、昔からそういうことに興味があるらしい。

向井　それも都市計画のほうでやってもらわんことには……市のほうでたとえばそういうところをバッと買ってしまって小公園をあちこちでつくるとか……。一直線の道路がずっとあると、しようがないと思うんですわ。それは単なる交通空間ですわね。そこで、私はいつも思うんですけれど、ああいう一方通行の……あの御堂筋など何とかならんものかと。あれは車だけでものすごく平静さというのがなくなりますわね、あの空間全体が。ことに一方通行だから、よけいひどいですね。だから、だれでも言うてるけれど、上田君なんかもよく言ってるでしょう。御堂筋だけでも歩行者天国にしたらとね。こんなことはだれでも思うてることかしらんけれど……。

三輪　ただ、いまの、たとえば道路の両側にポツンと公園を確保しようとする場合に、都市計画の法的な網をかけますと、収用法という法律で、土地を買収することはできるわけですが、任意買収の場合が困るわけです。非常にここをほしいなと思っても、このごろの方というのは、何か行政でここへものをつくるんだというと、売るのが惜しくなるんですな。それとだんだん最近皆さん知恵がついてきまして、何とか高い値で―という、その値段の点でつり合わない。われわれあくまで予算をもって仕事をしてますと、実質買えなくなってしまう。大阪市内にはそういうところも、のどから手の出るようなものは実はたくさんあるんです。少しでもそういう方向にいきつつあるんですけれども、その辺が一つの悩みになっている。しかし大企業でしたら、そういうところがあった場合に、何とか公開空地を出してほしいとか、特定街区の法律もあり、それから総合設計制度もあって比較的協力が得られやすいのですけれども、それが連続して集大成にならないと、アメニティにつながるようなオープンスペースとかはなかなか確保しにくい。その辺も問題点の一つですね。それともう一つは、これはさっきちょっと出てましたけれど、たとえば公園なんか見てますと、いったん公園をつくりますと、そこに生えてる植物、芝とか、ああいうものはほっときますとどんどん生育していって、かなりよくなっていく。もちろん水をやり、手入れするわけですが。一方、ストリート・ファーニチュア、たとえば公園の中の人工的な施設とか公共的な建物は、ほっときますとだんだん古くなって汚れてしまう。そうすると、手入れをすることによってその公共施設なり美しい構造物になるものが、みすみす汚なくなる。そうするとこれからの時代は、そういうメンテナンスの費用というのを十分に注ぎ込むことによって都市の景観ならそういう構造物を美しくしていく、そうして全体とマッチしていく、そうでないと、その構造物が汚れてしまうと、どなたかおっしゃってましたが、その周りも汚れてしまう。まあ波及効果といいますかね。だからこれがらはどうも構造物そのものを美しく保ちさらによくする雰囲気づくりのための管理が必要じゃないか。公園にしても何にしても、いったんつくりますと、役所というのはあと維持費というのは、予算の関係でお金ももらいにくい。それでだんだんその周辺の雰囲気が汚なく汚れてしまう。まあそんな感じをしてるんです。

向井　そういうときはやっぱりさっきの市民のしつけの問題もありますね。公徳心がちゃんとあって、きちんと行動してくれたらいいけれどね。

三輪　ただ久保先生のお話では、そういうふうに美しくしようとする設計ができてないという……（笑い）、やはりデザイン屋がそこら、初めにかなり工夫をしていかないかんでしょうね、先を見込んで。

向井　それは久保先生の側から言うたら、日本の、ことに東京は割合われわれ建築側から言うたら全体に建物の質がいいんですわ。金かけてるんです。で大阪のこの辺はいいんですが、ものすごくガ

1）前出　4）前出

タッと落ちるでしょう、落ちるとすぐにゴミゴミした、少々汚してもどうもないというようなことになってくると思うのですけれどね。東京の丸の内辺なんかわね……。

久保　あの辺だけでしよう。

向井　この辺もいいですけれどね。

久保　あの辺でゴミを投げようなんてできませんよ。

向井　そういう考え方は確かにありますけれどね、それだけじゃないとわたしは思うのですわ。

久保　まあ両方ですけれどね。

向井　日本人というのはしようがないと思うのですよ。

久保　いや、日本人しようがないといったら、先生、日本人、あきらめんならんですよ（笑い）。

向井　だから子供の間から何か……。

⑥ 都市景観形成への環境的思考

久保　私は向井先生という人は、関西弁で言ったらおもろい人だと思うのです、専門家として(笑い)。要するにいろんな面を持っておられて、いろんなことを考えておられて、ということはあるんですけれども、これ、何も新しいことじゃなくて、昔の人は知恵として知ってたことなんですね。

向井　そうですよ。

久保　ただ、残念なことには、明治以後の教育体制がどうも技術一辺倒でございましてね、で非常にまずかった、そのために専門家も、それから使う立場にある人々のほうも、両方ともトレーニングできてない。そういうことなんじゃないでしょうかね。

向井　それもありましたね。

久保　昔から日本人はとんでもないやっちゃということは、ぼくはあまり……。

向井　いや、そうじゃない。戦後ことに家庭のしつけもなくなってしまったでしょう。よけいな話になりますけれど、だからこのごろはすぐに学校の先生に全部責任をおっかぶせましてね。子供に対するしつけ、ないですよ。

久保　ああそうですか。

向井　若い人にとくにそういう感じがいたしますね。それは私だけが言うてるわけじゃないですが。
それとさっきの、割合自由に……つくる側からいったら、われわれの建築ですけれど、建築のほうの根本的な行き方は、さっき言ったようにアメニティの方向と違うんですよ。造園の方なんかのほうが、ぼくら本当に考えておられることはよくわかるんですわ。建築というのはかなりハードですよ。土木のほうもそうですけれど。

久保　だけど、このごろソフトに変えようとしてるでしょう。

向井　いやソフトの人も一部おるんですけれどね。うち（神戸大学）なんか今度環境計画というのができましたが、そこで中心になってる人たちは、もっとソフトな物の考え方で環境の問題を中心にやっていこうとしてますが、非常にハードな面が一部にありますからね。とにかくモノをつくっていこう、建物をつくろうという……。

久保　いまだにそうですか？

向井　それはありますね。

久保　ぼくはいつでも、いろんな会議で建築屋さんのことをほめてるんだけど、だめですか？

向井　とくにゼネコンさんとかおられるでしょう、あの人たちの考え方は、やはりもっぱらつくる側ですね。

久保　じゃ、訂正しますわ（笑い）。

向井　それがありますからね、だから中で混乱してますね。それといま言いましたように、若い人たちでデザインしようという人たちは、もっぱら新しい変わったものをつくろうという考えが先行しましてね、何か……そういう線が、非常に近いところで、私の周りでもいっぱいありますからね。そういう人たちは、ややもするとモラルに欠けるんですわ。

久保　専門家としてのモラルがないんですか？

向井　デザイナーとしてのね。かつてはあったんですが、今の建築家の中にはただもう美術家みたいな人がいますよ、美術作品をつくろうというようなのがかなりいるんですわ、そういうのが第一線に出てますからね。あれは教育としても非常に具合悪いです。学生たちはそういうのを見てますからね、非常に華やかな……第一線の建築家というのはそういうのが多いんですよ、いま。でも、その他一般の、90何%の人たちは地道にやってますけれどね。

久保　その割にあまり町並みがよくならない……。

向井　だから彼らはアメニティなんてことは、全く考えてもおりませんよ。作家的な人がおる。有名な建築家というような形で、ことに前衛的なものをつくってるでしょう、ああいう人たちは作品をつくろうと、一つの作品ばっかり……もっと大きく環境的に見ていこうということはしないですね。

久保　人のお金で自分のデザインをやるわけですか。

向井　そうそう。その線はあくまでも変わらないです。

久保　もしそうだとしたら、都市はとんでもないことになりますよ。

向井　そうですよ、好き勝手にやってるんですよ。だからあの人たちはここ当分は変わらないでしょうね。そういう線がずっと……。

久保　あの人たちって、先生もその一人でしょう（笑い）。

向井　いやいや、私はそんなのにいつも反対していますがね。

久保　困りましたね、それは。

向井　ただ、造園という立場のほうは非常によくわかります。

久保　いや、だけど造園でも同じような人もいるわけですよ。だけど、造園というのはね、外部空間というのは、人々の生活の仕方で簡単に壊れるものです。建物というのは一度建ててしまうと、そう簡単に壊せませんわね。ですからその違いだけだと思いますよ。たとえば都市の景観なんてものはトータルなものでしょう。だから建物がある、道路がある、電線がある、電柱がある、排水溝がある、歩道がある、車道がある、そこで人々は生き生きと動いてますね、そういうものを全部見てはじめて都市の景観というのはできるわけですね。ですから都市景観という場合には、非常に大事な側面を人間が負っているわけですよ。だからその辺の研究がいままで非常に不足していたのは、どこか間違いだと思いますね。
だから私に、こういう専門をやって、ということを指導して下さった先生を私は大変尊敬しています。戦争中ですからね、戦争中にそんなことを言う人はまず……だから私は恩師には恵まれたと思ってますよ。だけども、このごろになって考えてみると、どうも都市がめちゃくちゃになった原因は、そういうことの教育が行われていなかったことと同時に、大体私はそういうことは大学卒業してから自分が勉強していく筋合いのことだと思うんですけれども、そういう点がどうも抜けているのじゃないか。単に大学の先生とか専門の高等学校の先生方の責任じゃなくて、個人個人の責任だと思いますよ、プロとしての。それをもってほしいなというふうに思うんですけれ

どね。

向井　建築の世界は、第一線のところはご存じのように非常にあるイデオロギーを持っているのです。建築思想みたいなものを。それが造園とか土木と違うところで、それがずーとかかってきているわけですよ、第一線で。それがいつもジャーナリズムの第一線で動いてますからね。そういう非常に華やかな世界でのみ建築の考え方が一般に示されてきたわけですよ。

いま一番建築の中心になってるのはアメリカですけれど、アメリカの最尖端の辺は、もうちょっと環境的な見方をするようになってきてるんですよ。ところが日本はまだそこまでいってない。一部の人は言ってますけれどね、作家はだめだと。作家のほうでそういう考え方が出てきたら非常にいいと思うんですけれどね。

アメリカなんか、第一線の指導的な建築家がインクルーシブというようなことを言うでしょう、包摂的な見方でいこう、と。いままでは非常にエクスクルーシブで、自分の建物だけつくったらあとは知らんというようなことをやってきましたけれどね。いまでは環境全体の中でインクルーシブに建物をつくろうという考えがもうかなり前から出てきてはいるんですが、どういうものか、日本ではそういう線はあまり受け入れられないですね。

久保　だからそれがぼくは建築屋さんにちょっと不満があるんですけれどね。どうしてそういうことに気がつかないのかということなんだけれど、よう考えてみたら、大都市の中では土地がべらぼうに高いわけですよ、だからそんな余分なスペースは取れないということもあるんですね、それから周りのことなんか考えてられないということもあるわけですよ。

向井　自分がデザインするときですよ、自分が会社の中におっても、個人でも、周りのことは考えられますよ、つくるときに。

久保　いや、だから考えられないというのは、考えることはほんとはできるんだけれども、考えるだけの自分のポテンシャルを持ってないということですよ。

向井　持ってないでしょうね。

久保　ですから、その辺が教育の責任なのか、社会全般の責任なのか、その人個人の責任なのか、それは知りません。知りませんけれども、そのために日本の都市というのはとんでもない姿にいまなってますね、それでこれは混乱状態だと、だれが見てもそう思うわけです。

そういう状態にしておくのは、単に建築屋さんの責任でもないし、日本に都市計画屋というこういう専門家がいるのかどうか知りませんが、それと土木屋さんと造園ですわね、まあ物理的な構造物をつくるのは。ですけれども、そのほかに私が思ってるのは、アメニティということが問題になってくるというのは、生活の質ですわね。ですから私、住宅公団ができたころから言ってたんですけれど、とにかく一戸一戸が狭過ぎる、と。だから将来はここの壁を取っ払ったら二戸が一戸になるような、そういうふうにすればいいんじゃないかということを言ったわけですよ。ですけれども、だれもそういうことを採用しませんね。なぜかというと、コストの計算をしたら、そんなことはできませんという返事ですわ。だけど、そのコストの計算がどないなってるんだということを聞いても、だれからも返事がこない。同じことは土木工事についても言えるし、造園工事についても言えるわけです。そういう計算を、どうやってはじいたらこういう結果になりましたということを出せない専門家もだらしないし、それを要求しない市民もだらしない。

つまり、たとえば私なら私、若いときに結婚しますね、結婚したら子供が生まれるかもしらん、生まれたら家族の人数はふえる、ふえたら当然狭いところより広いほうがいいわけです。それでどんどんエスカレートしていくわけですね。それがいまの……まあ一つの家族にしたらそういう単位になりますけれど、都市だって理屈は同じことだと思うのです。

そういうことを考えておかないというのは、私、よく生物学にたとえて話をするんですけれど、昔は博物学と言った、それが地質学と動物学と植物学に分かれた。私は農学部ですから植物学に例をとって言いますと、植物学になって、それから分類学になって、何という植物、何という名前……。それから形態学。で「都市の形態」なんて大分売れました本ですが、ああいうことは非常に学問的には幼稚なことです。それから遺伝学が出てきて、生理学、それから病理学が出てきて、それからほかのものもいろんなものが出てきますけれど、主流を言うとそういうところです。それから分子生物学というものになるわけです。

そういう発展の経路というのは、都市というものは生きてるものだということを皆さんが了解してくれれば、そういう学問系列が、生き物を扱ってきた学問の発達の系列があるわけですから、非常に参考になるわけです。そういうことを勉強している都市計画屋とか建築屋とか造園家が一体たくさんいるのかどうかです。要するに人数がふえなければだめですわ。いろんなところで、いろんな人が、いろいろやってるわけですから。だからそういうふうなことを考えている人がふえてくることを私は望んでいるわけですからね。非常に、ぼくはそれは大事なことだと思いますよ。

たとえば向井先生なら向井先生、学校で何を教えておられるか私知りませんけれども、建築のデザインを教えておられるでしょう、そうすると、建築というのは一つの建物を建てればそれですむわけじゃないですからね。まあ企業的にはすむかもしれない、しかし周りの景観とどうなんだということを考えることは、どういうふうに教育をしてどうやっていったらいいのか、というふうなことに対する先生個人のご意見を、現在建築学会でこうやってますということじゃなくて、先生個人の、こうやったほうがいいんだけれどな、だけど実際はこうだ、というふうなお話を聞かしていただくと、この雑誌をお読みになる人は、なるほどなというふうにわかると思いますけれどね。

向井　まあ私だけが言うてるわけじゃないですけれどね、建築というのはいままでのやり方、第一線のスターみたいなのがリードしまして——いま日本もそうですが——そういう人たちが変わったもの、変わったものをつくってきたでしょう、だから普通の人でもなんか変わったものをつくらないかん、と。学生もそういうふうに思うのですよ。きのうなんか、うちの卒業設計を見ましたが、やはりどこか変わってないとあかん、と。そういうやり方ですからね。そういうふうな考え方がいかんというふうなことは一部ですでに出てきとるのですが……。インクルーシブにいこうとしたらね、ごくあたり前のものを、という…むずかしい話ですがね。オーディナリーな言い方といってますけれどね、オーディナリーな線で、非常に質のいいのもをどんどんたくさんつくっていったほうがまちとしてはプラスになると思うのです。なかには非常にすぐれて天才的な人が変わったものをつくる場合はいいかもしれませんけれどね。ネコもシャクシもその線でいったら、まちはむちゃくちゃになると思うのです。

久保　ぼくもそう思います。

向井　それが日本が一番ひどいんですわ。住宅なんかでも、一つひとつ勝手なことをやりましてね。あんなものでまちができたら、もうしようがないですからね。まあそんなことにはなかなかなりま

せん、ならんけれども、そういうのが理想の線だと思うとるのです、学生なんか。だからへんてこなものばっかりつくるんですよ。何ぼ言うてもだめなんですわ。われわれが言うより雑誌の力のほうが強いんですよ。いまはジャーナリズムが強いですからね。

三輪　ただちょっと逆な考えもあるんかなという気がしましたのは、私ども市営住宅、よくつくりますね、その近くに公団住宅、それから住宅供給公社があり、それから民間マンション。これは何の順番かといいますと、値段の順番とデザインのバラエティの順番の話です。

内部でどういう話が出たかといいますと、もう少しアクセントつけて、せめて住宅供給公社と民間マンションぐらいの……入りたいという気を起こすようなデザインはできないんだろうかと、こういう要望が出たことがあります。それに対して市営住宅というのは国の予算が与えられて、材料も仕様書も全部決まってます、だから何にもできませんと、こういう話の答えに対して、それじゃ君たちは建築家だろう、じゃ与えられた材料、与えられた条件、シビアな条件から少しはましな……少しはましというよりも、少し変化を持たしたというよりも、もう少し技術屋としてモディファイして、同じ材料を工夫しながら変えられるはずだ、それが建築屋の仕事ではないか、という議論が出ましてね。私はあとのほう、なるほどそうだなという気もしたんですが、先生、その辺はどうでしょうか。

向井　それはさっき私の言ったことと逆ですけれど、これは二極分裂ですね。公団のああいう線とか、そういうところでは非常に無味乾燥というと悪いですけれども、同じようなものばっかりつくってますわね。

三輪　そうするとやはり少しはアクセントをつけて、与えられた材料でもう少しモディファイしていくのが技術屋のあれですか。

向井　そこのところが非常に不思議なことでね、片方では非常にへんてこなものばっかりつくってる線と、片方では非常につまらん無味乾燥なものと、分裂してるんですよ。ああいう組織の中へ入ったらそうなってしまうんでしょうね。役所へ入ったり、公団の中へ入ったりしたら。

三輪　ですから私がお聞きしたいのは、やはり公営住宅、もう少しはアクセントをつけて工夫すべきだとおっしゃるのか、もうそれはやむを得ないと……。

向井　いやいや、そんなことはないですけれどね。

7　建築家の役割

久保　私、向井先生のご趣旨というか、ご主張というのはものすごくよくわかるわけです。

それと同時に、ぼくが一つ先生に、こう言ったら何ですが、賛成したいのは、スターになってる人たちが勝手なことをやってて、それであとあとどういうふうに人間がそれを使ってきたか、どういうふうになったかということをチェックしたのか、しないのか、その辺を聞きたいんです。

向井　しない。しないというよりも、したがらないですね絶対に。

久保　もしそうだとすると、昔の秘伝書にでさえも書いてあるような知恵が、現在の建築屋さんにも都市計画屋さんにも何もないということになるわけでしょう。そうすると、いいものはできませんわね。要するに一つのものをつくったら、それは何年間か続くわけですから、そういうところに対して責任感を感じているのかいないのかということが一つ問題ですね。それはおそらく若い人たちがスターの建築家にあこがれるということになれば、みんな売名的なことばっかりやりますね。

向井　そうですよ。

久保　たとえばある会社なんかは〝建築に緑を〟なんてことを言ってますわね、だけど緑が入ってるかというと、入ってない。で、緑というのは何だといったら、高層のあれを建てたら何階ごとにそういうスペースをつくる……そんなところに緑、生えませんが（笑い）。そういうことを平気で言う建築屋さんに対しては私かなり文句があるんですよ。テーマだけでしょう、うたい文句だけですよ。そういうことをやっているのが一流の建築屋さんにもいるわけですね。だけど、ぼくはそれは社会に対してとんでもない無責任だと思う。つまり、使う人たちのお金でもってその建物ができるわけですね、まあ会社が使うか個人が使うかはそれは別として、とにかくそういうものでしょう。それでやらしてもらうわけですね。それであとあとに対して私はわかりません、というようなことだったら、これは社会心理学のほうでは時間的展望といいますが、その時間的展望を全然持ってないデザイナーということになりますね。だから、それはつまりどういうことかというと、アメニティなんて考えてない人です。だからアメニティということをうたい文句にしてても、たとえば緑ということをうたい文句にしている建築屋さんと同じように、ほんとうはアメニティのことを何にも知らないという場合がたくさんあるわけです。

向井　アメニティなんか全然眼中にないというのが普通ですよ、そのつくる人たちは。

久保　アメニティというのはお金になりませんからね。

向井　それでできたものに対してものすごく評判が悪いこともいっぱいあるんですよ。好きなことをしますからね、造形的に。そういうマイナス面は皆ほおかぶりしてしまってね。

それで一部は、たとえば京都の西山さんなんか追跡調査をしているんですよ。有名な作家がつくった住宅の追跡をしよう、と。そうするととんでもないことになってます、たとえば10年ぐらいたちますとね。そういうことはごく一部の試みであってね。そんなことはほとんどないことでしょう。なかなかむずかしいことですわね。

久保　だけど、会社にしても個人にしても、買わされる立場になったら、ものすごい被害ですわな。

向井　買わされたり設計してもらった人ですね。それはかなり有名な人もそういう態度ですよ。有名というたらおかしいけれど……。

久保　ぼくは毎度毎度いろんな会議で土木屋の悪口ばっかり言ってきたんですけれどね、建築屋さんはもっとデザインに対して良心的だとばっかり思ってたんです。間違いですか？

向井　ことに作品をつくろうという立場の人がおるでしょう、それが建築の世界の……ことに日本の妙なところでしょうね。

三輪　しかしそういう奇抜な建物の作品が賞を受け、で世間もそういうものがいいんだろうと思ってるわけですな、いまや。

向井　そうですね、賞を受けてますね。

三輪　だからその辺が……。

久保　ところが5年なり10年なり住んでみたら、えらいこっちゃということになるわけですね。だからそういう評価というのは、長い時間のあれで考えてもらわないといけませんね。

三輪　それともう一つ、長い時間と多くの人のコンセンサスがあって賞があるならいいような気もするんですけれどね。

向井　だからほかの学会と違って、建築学会はその点が分裂して

ますよ。そういうものにも賞を与えてますからね。だけど、なかにはそういうものにものすごく嫌悪感を持つ人もおりますわね。たとえば、環境計画的な立場の人は、全くそうでない線でずっとやってきてますわね。ところが、その中に一部学会と関係なしにしてるのならいいけれど、学会がそういうものに賞を与えるようなことをやってきてるんですよ、建築学会は。

久保　あれに賞をやったときの審査員はだれだったという記録はあるんですか？

向井　それはわかりますよ。自己矛盾ですね。しかしそれが戦後の状態だと思うのです。戦前はそういうことはなかったと思うのです。中が割れたりね……。方向として、大体機能主義なら機能主義の線でずーときたでしょう。いまは勝手なことになってしまって、なんか収拾つかんような感じですね。

久保　迷惑をこうむるのは市民と住民ですよ。

向井　だから地道にコツコツやってる、たとえば……あんまりほめていいかどうかわかりませんけれど、公団なんかのああいう非常に無味乾燥な……あれは上からのあれがあるんでしょうね、だから予算とかいろんなものでしぼられてああいうことになるんですが、90％はそんなことをやってきてるわけでしょう、組織の中で。で一握りの人たちがそういう勝手なことをやって賞をもらったりしてる……。

三輪　いまの話は極端な話でね、単体主義の賞をもらって、いずれはだんだんだんだん問題が出てくる。一方非常にＪＩＳ化された建物、無味乾燥。しかしもう少し前の方向に向いていく、と。両極端の話があって、両方ともちょっと平均値というんでしょうかね、そういう方向にいかんといかんのでしょうね。

⑧ アーバンデザインの模索と方向

向井　話は違いますが、役所のほうはたとえば公団で、住宅の面積ですが、あれは非常にギリギリですか？

三輪　はあ、ギリギリです。

向井　もうちょっと国民の生活文化をアップできるような……。

三輪　そうですね。やっぱり最近は外観よりも機能的なアメニティということで、部屋の大きさを少し予算を持たせて……それでもまだ十分にまでいってませんけれど。だから少しずつ、広がりから今度はデザインの方向になるんでしょうね。

久保　そうでしょうね。初めは量で、そのつぎは質という……。

向井　そういう低い条件でも日本人は割合平気というのか、案外しんぼうしてやっていくという、そういう何があるんですね。

三輪　これはなぜでしょうかね。住むことについて外国はすばらしい広さを持っています。私達聞いたのは、終戦直後の日本とドイツの根本的な違いは、食糧をとるか住宅をとるかと。ドイツは住をとったから、いまはもう住宅への投資の必要はほとんどなくて、日本はこれから住宅だと。

まあ国土の影響もあるんじゃないですか。ヨーロッパは冬寒くて、日本のような住宅ではすきまだらけで第一住めませんわね。そんなことから日本が食糧をとらざるを得なくて、ドイツは住宅をとらざるを得なかった。その辺もあるんかもしれませんね。

久保　日本のいま、たとえば将来の人々にアメニティを残すようなことといいますと、いつか私テレビを見てましたら、松下幸之助さんが、日本という国は狭いんだ、人口は多いんだ、とにかく平らなところは、いままで水田だったようなところは全部食いつぶされてしまう、だから山を削って島をつくる以外に方法はないんだというふうなことを言ってましたが、私はそれは正論だと思いますよ。私はあの人は、だれか専門家に踊らされてそんなことを言うような人じゃないと思います。私が考えても、それ以外に日本はこれだけの人口を養うことはできません、資源がないんですから。で平らなところは、農地がどんどんつぶれていくわけですから。ですから、まあそういうことになるんじゃないですかね。それが将来の人々に対してアメニティをわれわれの世代が残す唯一の方法じゃないか。だから大阪の新空港ですか、島をつくるというの、あれは私は非常に結構だと思います。ところが、たとえばアメリカならアメリカで、サンフランシスコのあのベイエリアじゃ、空港用の島をつくるということになったら、みんなワーッと反対しますね。だけど日本はアメリカと違うんですから、アメリカがそうだから日本もそう、というふうな発想をする人が多いようですけれども、私はそれは間違いだと思いますね。

三輪　そうですね、国土の基本的な違いですしね。

向井　さっきのアーバン・デザインでも、日本は日本の線を模索せないかんでしょうね。ヨーロッパのまねをしていってもだめですわ。絶対にまねできませんわね。

三輪　とくに、アメリカの都市計画と日本の都市計画というのは、国土の基本的な広さの問題と土地の値段、それから住む住環境の違いですね。だから気をつけないかんのは、アメリカの都市計画は直輸入しても日本では育たないし、日本には日本なりの工夫をしたものができてくるんじゃないか、それを育てる必要があるんじゃないかと、そんな感じがするのです。

向井　それと住民というか、市民の都市環境の使い方といいますかね、ユーザーの都市環境に対する何が違いますわね。日本人の身についたものとしてね。たとえば公園でも、ヨーロッパ人と同じような使い方をしない。なんぼ置いといても、あまり使わんようですね。あれはどうなんですかね。大阪でもそんなに利用してないみたいですね。

三輪　それ、一つぼく気づきましたのは、去年コペンハーゲンのチボリ公園へ行ってきました。夜、10時ごろ着いたんですわ、アムステルダムから鉄道で行きましたんでね。そうするとホテルの前がチボリ公園。で聞いたら、夜中の12時までやってるというので、11時半ごろ行きました。そうしたらみんなが楽しんでるんですね。だから公園局の人と話をしたんですが、これから大阪の公園は、先生には失礼ですけれど、造園屋さんというのは自分の箱庭のような小さい所で自分で楽しんでいる、まず最初に塀や垣をして、その中にいままで公園がありましたが、塀をもう取ろう……。

都市公園というのは、多くの人が入って使ってはじめて本当の都市公園であろうなと思っています。最近、人ができるだけ入りやすいようにしようやという工夫をしだしましたので、あれは一つの前進だと思います。

久保　私その話を三輪さんから聞きましてね、都市計画専門家でチボリ公園を視察して調べてきたという人はぼく初めて聞きました。コペンハーゲンの有名な公園ですけれど、あれは朝から夜までやってますし、花火なんかもやるし、非常に遊園地的な要素も持ってるし……。

三輪　都市公園のあり方をサジェスションしてますね。そんな感じがしてるんですが。

久保　ですから都市部の都市公園のあり方といいますか、そういうふうなものの非常にいい参考になる。

先生、今度ヨーロッパへ行かれるんですか？

向井　ええ。

久保　じゃコペンハーゲンのチボリ……市役所の横ですから。

向井　いま部長さんがおっしゃった公園のことを芦原さんはim-mediacyという概念で説明していますね。結局、造園屋さんというたら悪いけれど、周りを囲むでしょう、でまちの中のたとえば、芦原さんは日比谷のことを言ってるんですが、周りを囲んでしもうて、せっかくあるのになかなか使いにくい、と。だからimmediacyというのは、視覚的な連帯というふうに言ってますね。サッとすぐに手近に使えるという。造園の方にもこの用語はあるんですか？

久保　ないですね。

向井　日本の公園は大体囲んだのが多いでしょう。

久保　日本人、囲むのが好きだから。

向井　だから街路からサッといけるような……私はこれはなかなかいいことだと思いますよ。芦原さんがつくったのかどうか知りませんけれどね。

久保　いや、向こうの都市計画では言われてるんですね。だからたとえばリージョナルパークをつくったとしても、囲いしてるところなんかありませんものね、コマーシャルのところ以外は。

向井　だからさっき言ったように、歩道からちょっと入ったベストポケットパークというようなものが非常に利用されるのですが、だけど日本人はあまり利用をようしないんじゃないですかね。

久保　いやいや、だんだん変わるんじゃないんですか、人間の生活態度というのは。だからそれを気長く、多少何かされても気長く待ってれば、だんだん直ると思いますよ。そういうことを、ああしろこうしろ、ああしろこうしろと言われたら、人間というのは少年時代からそうですけれど、反抗心というのがありますからね、おまえこうしろと言われたら、いや！と言いますわね。だから建築でも、公園でも、道路でも同じことですけれども、そういうふうなことを人々に要求して、それでこの建物はいいんですとか、それでこの都市景観はいいんですとか、そういうことを押しつけたらいかんでしょうね。少しずつ変わっていくことを予期して、少しずつ変化していくことに対応できるような方策を考えるのがわれわれの仕事じゃないでしょうかね。

向井　大阪では靱公園がありますね、あれなんか割合スッと……入れる方ですが、もうちょっと入りやすくしたらいいと思いますけれどね。あれ、なかなかいいですね。あまり大きくなくてもいいと思いますけれど。

久保　だから大阪市公園緑地配置図を見たらわかりますように、大阪市がいかに緑が少ないか……。ということはどういうことかというと、東京を訪ねた人はまず大体皇居周辺の緑を見ますわね、だから東京は緑が豊かだと思うわけです。ところが大阪に来たら、そういうところが少ないですからね。だから非常に大阪市としては損をしてると思いますね。まあ植物が育ちにくい土壌の条件ももちろんあります。それはありますけれど、やっぱりスペースを取らなくちゃいけませんね。

⑨ アメニティ・専門家・住民

編集側　ほぼ時間が近づいてきましたんですけれども、先ほどお話が出たように、日本で都市計画の立場というのが確かにできてきてはいるんですけれども、やはり教育の体系からいっても土木屋であり、建築屋であり、造園屋であるということですね。そこで、その立場をこれからどういうふうにからませていったら少しでもいい実績につながるだろうか、というふうなことに触れていただいて終わりにしたいと思いますが、いかがでしょうか。

三輪　さっき建築屋、土木屋という言葉が出ましたけれど、やはりまだそういう〝建築屋〟、〝土木屋〟、〝造園屋〟という、職人専門的になり過ぎている面がどことなしにある。で建築はどちらかというと単体主義で育ってこられた。

まあ土木は昔からシビルエンジニアリングと言いまして、たとえば人間が集まってそこへ公共的なものを、道路、道づくり、橋、そういった生活に最低必要なものから始まっていったわけですね。そうすると考え方の中に初めから公共的な性格が非常に強い。だから歴史も古いわけです、橋梁工学なんて何百年前からあった。

そういう考え方でいきますと、土木屋の発想というのは、どちらかというと、昔はまちをつくる為政者がそういう道路もつくり、橋もつくるということで、土木屋さんというのは非常にスケールが大まか過ぎて、とにかく機能的なものが先行した。しかしルネッサンス時代からいろいろそういう芸術的なものがあって、橋そのもののあのアーチの橋の美しさとか、だんだんそういう芸術的なものにも生きている。で現代は少しその辺が、先ほども言いましたように戦後は質の問題がちょっと足らなんだ。都市計画全体の中にもその辺があるんじゃないだろうか。

それからまち全体で私どもマスタープランをつくったんですけれども、大きい土地利用構想だとか、地区整備構想という大きいのはあるんですけれど、もう少し細かい地域地域の特性をつかまえた地区計画というようなものがまだないわけです。いま一生懸命やりかけている。その中で先ほどから議論が出ている公園なりの取り方と施設の取り方で、割に市民も親しみやすい、使えそうな問題、そういった計画でないと、まあ構造物をつくって終わってしまうんじゃないかと。そんな感じがしてますので、あともう少しきめの細かいフォローをやっていく心要がある。

いま国でもそういう地区計画に対してある程度法律をつくって、やりやすいようにしてやろうというような動きがありますから、これからは少しずつそういう方向にいくんじゃないだろうか。

ただ、むずかしいのは、もうすでに大阪の既成市街地の中のそういう問題というのは、どうしてもリニューアル、再開発の問題になってきますんでね。行政のやる再開発というのは、やっぱり時間と金と、ずいぶんいろいろなものがかかりますので、一朝一夕にはぼくはできにくい、と。しかしやはり長い目でまちづくりはつくらないかんのじゃないかという感じはしたわけです。まあまあまり結論にはなってないんですけれども……。

向井　私はこの歴史的環境の保全の問題なんか、これ、さっきの話じゃないけれど、歴史の側からきた保全の運動はかなり盛んなんですね。いま一番中心になってるのはそっち側だと思いますがね、それだけでは困ると思うのです。ほんとの環境デザインの人たちが主になってやってくれるんじゃなしに、歴史屋さんが……歴史屋さんというと悪いですが、日本建築史関係が主になった文化財的な見方でしか見ないのは困りますね。

たとえばある建物を保存しようとか、ある歴史的町並みを保存しようとか。周りのことは全然考えない。住民の立場なんか何もないんです。アメニティなんか何もないんですわ。自分の学問の研究対象として見ている。これは抜けがたいですよ。

久保　文化庁がね。

向井　だから、これを一番手短に見ようとするなら、民家の保存ですよ。この間出てましたけれどね、吉村邸のこと。いったん指定されたら、それこそアメニティもへったくれもないわけですよ。だからそれが広がったのと同じことなんですよ、町並みも……。

三輪　だからそこへ住んでる人は、久保先生のマイナスのアメニティ……。

向井　そうそう。マイナスのアメニティ。私はいつも言うわけですよ、アメニティという立場からはあれは全く逆なんですよ。現在の歴史的町並みの保全というのは。

久保　彼らも自分たちの仕事をしたいからやってるだけでしょう。

向井　保全というのは、役所のほうの保全なんだ。中の人たちの生活をもっと保全してやるというよりは、むしろ保護する必要がある。そういう問題が一番……。しかし何ぼ言うても、これはなかなか度しがたいことですよ、文化庁の文化財保護関係の人たちは。

久保　だから英語ではコンサーベイションという言葉とプリザーベイションという言葉がありますね。プリザーベイションというのは、どっちかといったら歴史的なものの保存なわけですね。だから使いわけているわけですよ。だけど日本の場合は環境保全とか何とかいって、ごっちゃにしますね、いろんな意味で。まあ自然保護とも言ってますけれども……。しかし日本ではどちらも非常にむずかしいということは確かでしょうね。

たとえば日本にそんなに保護しなければならない自然があるかというと、とんでもない、山岳以外はないんですね。ですから、たとえば生駒山系にしても何にしても、ちよっとぐらい削ってもいいとぼくは思うんです。

つまり日本は日本のポテンシャルを持ってるし、それから可能性も持っておるわけですね、それから将来に対する見通しもある程度持ってる。そうするといろんなことをやっぱり考え直さんならんと思います。

向井　そこへ復元しようとするんですね。

久保　ああ、あれがいけませんね。

向井　そうするといまの生活を逆にもとへ戻そうとするんですね。何で戻さんならんかと思いますがね。たとえば妻篭の場合がそうでしょう。あんなことはねえ……あれでまた賞をもらった人がおるでしょう。

久保　まあまあ……。

向井　そういうことで、非常にむずかしいと思いますね。

三輪　両立化というのはね。

向井　きれいに町並みが歴史的にそろったまちというのは、めったにないですからね。そんなものは一番貴重品扱いするわけです。妻篭とか角館とか倉敷とか……、そんなものから順番に指定していって……。

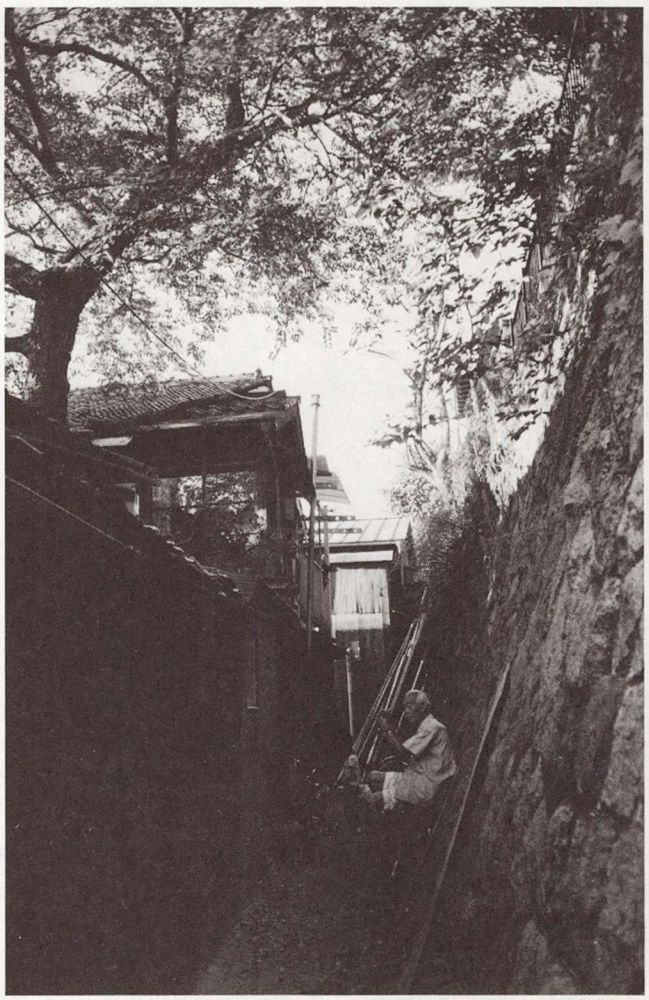
久保　まあ関西だからそういうことは言えるんでね(笑い)、東京でそんなことを言ったら、いっぺんに……(笑い)。

編集側　いまのお話が、こういう都心の問題にも間接的にはまたはね返ってくるんじゃないかと思います。

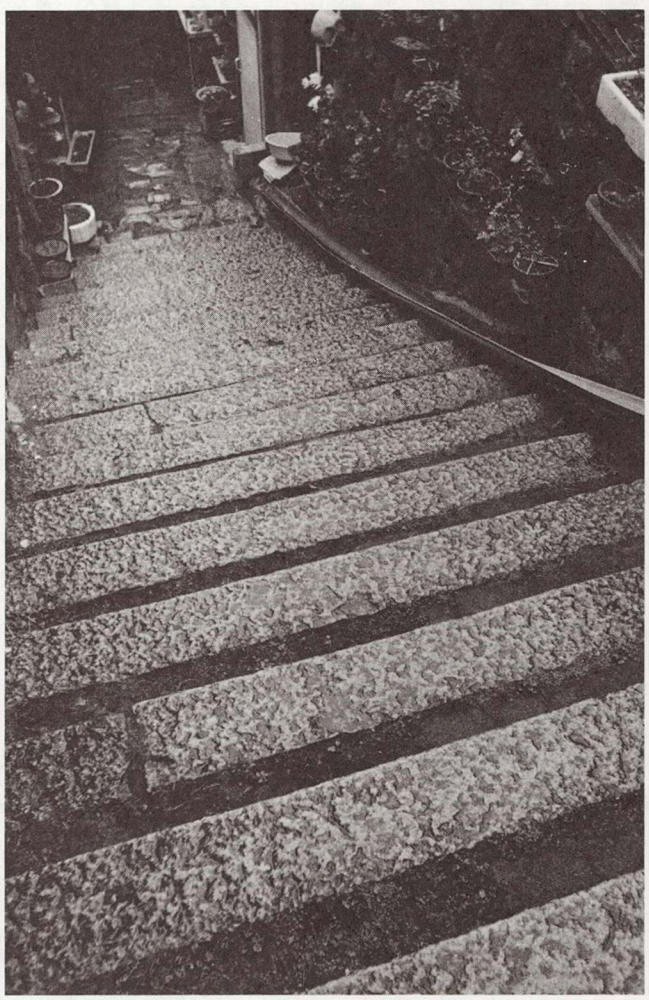
もっと続けてお伺いしたい雰囲気なんですけれども、時間が少し過ぎましたので、大変残念ですが、この辺で終わらしていただきたいと思います。

どうもありがとうございました。

とき　昭和55年3月8日　ところ　日本建築協会会議室



大阪・谷町界隈(45頁の写真とも)　写真●岡本雅央／榊原吉朗／中筋　修



アメニティと行政

坂口　治

はじめに

都市は経済活動の場であるとともに、生活の場であるとされている。経済活動の場としては、効率性や利便性などが重視され、生活の場としては、安全性、衛生的、快適さなどが重視される。

この「快適さ（アメニティ）」は、環境白書（54年版）によれば、「安全、衛生、利便の水準の相互バランスの上に立って求められるという意味で、これら三つの条件を総合的に視野に入れた、環境についてすぐれて包括的な評価を含む概念となっているといえよう。すなわち、安全性、利便性などを単にその観点からのみ追求していくと必ずしも快適性が確保されないが、逆に、常に快適性の観点からこれらの条件を吟味していくことによって、より質の高い環境つくりが可能となるのである」と記述されているように、環境の質を総合的に評価し、個別の施策を環境全体の中で見直し、快適な都市環境を積極的に創造する目標となる概念であると思われる。

都市に住む人々の環境に対する価値観は、近年の生活水準の向上や余暇の増大に伴って、安全性、衛生的、効率性、利便性や物質的な豊かさだけでなく、さらに精神的なものを含めた快適さ、豊かさをも求めるようになってきた。

このような快適さに対する社会的要請に従って、各地で「人間環境つくり」、「快適な都市環境つくり」をめざして、さまざまな研究や施策が行われているが、都市環境全体の質を高めるという観点からみれば、まだまだ問題提起の段階にとどまっており、施策もアメニティの向上を意識してというよりは、個別施策の中の創意工夫といった色合いが濃い。

われわれのアメニティ研究会も、人間らしい感性や行動を損なう性質を持つと言われる現代都市の中に、ゆとりやうるおいを生み出し、人々がのびのびと生活することのできる快適な都市環境を積極的に創造することを目標として、アメニティについて研究を続けているが、具体的な問題点の究明、施策の検討や提案の前の段階にあり、本稿においては、研究会での検討の一部を紹介しながら、アメニティの向上のために行政が関与し得る範囲についての問題提起にとどまることをお許しいただきたい。

§1．アメニティの意味など

アメニティAmenityは最も簡単な和訳では「快適さ」と訳されているが、抽象的かつ主観的で多様な意味を持っている。その語源を求めると、ラテン語のアモエニタスAmoenitas〈快適な、喜ばしい、pleasantという意味〉から派生しており、さらに、アマーレAmare〈愛する、loveという意味〉にまでさかのぼることができる。

アメニティの意味については、まず、**表－1**「アメニティ」からの連想、**表－2**「アメニティ」のあると思われる場所を参照していただきたい。この二つの表は、われわれの研究会が実施した簡単なアンケートの中で、「アメニティ」についての説明を最少限にとどめて自由に記入してもらった結果をとりまとめたものである。

表－1　「アメニティ」からの連想

春。5月。青空。澄んだ空気。清流。ここちよい風。鳥のさえずり。花園。自然。
日あたりのいい散歩道。歩いてすぐのところにある緑豊かな公園・テニスコート。交通の利便性。公害のない安全でここちよい生活環境。街ぐるみの行事を楽しく催すことができること。人工の整理された理想的環境。
楽園。田園風景。祭。人間と自然の調和。愛のある家庭。精神的にゆとりのある人々による文化および自治の進展した状態。きれいに掃かれて打ち水された住まいの周辺。
静けさ。ゆとり。やすらぎ。くつろぎ。満足。人と人の心のふれあい。
日向ぼっこ。陽光の下、そよ風の中、広い野原で昼寝。対話。笑顔。
子供の頃。夢。ドラエモン。人の知恵。

表－2　「アメニティ」のあると思われる場所

金剛山。交野市の丘陵部。大川峠（岬町）。人の手のあまり入っていない山林・丘陵・池・湖・河川。
万博記念公園・中之島公園・府民の森・金岡運動公園など大規模公園緑地。（とくに人があまりいないこととか、自然の姿を出来るだけ残していることとかの条件が付記されていた）
府外では奈良公園の人のあまり行かないところ。姫路城公園。鴨川べり（京都）。武庫川河川敷。
千里ニュータウン（とくに施設面）。帝塚山付近。北新地。難波新地。道頓堀。阪急宝塚線沿線（宝塚～池田）。枚方の新興住宅地。中之島図書館通り。大阪船場周辺（土・日曜日）。
府外では、北海道。沖縄の離島。小海線沿線（長野県）。京都嵯峨野。東山の北部。奈良。神戸の山の手。昔ながらの良いところを残しながら、現代生活のあるところ。
高級ホテル。近代感覚の文化ホール・スポーツ施設。飲み屋。早朝の街（静かな中に活力が感じられる）。
神社仏閣などの文化的資産と美術館・文化会館などの現代的施設。

これらの表には、ここちよい風、鳥のさえずりや昼寝といった感覚的・生理的なものもあれば、くつろぎや満足といった心理的なものもあり、街ぐるみで楽しく行事を催すことができるとか、人間関係が円滑にいくことといった社会的なものもある。

また観点を変えると、公害のない状態、豊かな自然、施設がよく整備されて利便性が高いこと、コミュニティが形成されていること、人間関係が円滑にいくことなどのまとめ方もでき、「アメニティ」は広い範囲にまたがるものであることがわかる。

これらのことと、他のいくつかの資料から「アメニティ」の意味を整理すると、つぎのようになる。

i）気候・気象の快適さ
ii）調和のとれた美しい景観
iii）土地・建物の価値を高めるもの
　利便性、安全性、衛生的環境、周囲の景観、建物の様式など
iv）人の行動・性質の好ましさ・やさしさ

この個々の場合には、楽しさ、ゆとり、くつろぎ、ここちよさ、美しさ、豊かさ、満足、安心、便利、清潔、愛、思いやりなどがふさわしい言葉だと思われるが、その総体としての環境全体が快適であるという意味では、アメニティが高いという言い方が適当であろう。

§2．アメニティの潮流

戦後からのわが国の環境に関する事象、アメニティを考えなければならなくなった背景、アメニティが議論の中に大きく登場した流れなどを概観してみよう。

太平洋戦争の敗戦と戦災は、京都などを除いて都市における数多くの環境資源や文化的伝統、良き習慣などを喪失せしめ、あるいは、中断させた。その後の戦災復興のための生産再建整備事業の推進とそれに続く生産基盤整備のための大型公共投資は、都市の工業化を急激に進め、全国総合開発計画（35～45年）と国民所得倍増計画（36～45年）に基づく工業拠点開発、工業の重化学工業化は、さらにそれに拍車をかけることになった。この「高度経済成長期」からは、国土幹線高速道路、新幹線、都市高速道路、地域幹線道路、都市高速鉄道、臨海工業地帯、下水道、大規模住宅団地などの建設が活発に行われ、ジェット機の乗り入れ、電子・光学機器の導入なども実施されて、交通輸送、情報の大量化・高速化が進み、社会資本の整備をはるかに上廻る人口・産業の都市集中を招き、効率主義、物第一主義、GNP信奉主義が定着するようになった。

当然のように、その間ほとんどかえりみられることがなかったために都市環境は大いに悪化し、深刻な状況に陥っていた。

30年代後半から、公害が社会問題化し、各地で反公害運動が活発化してきた。スモッグの発生、カドミウムによる土壌汚染、硫黄酸化物・窒素酸化物による大気汚染、水俣病訴訟をはじめとする四大公害訴訟などである。OECDレポートは、これについて「経済成長は環境の汚染をもたらしただけでなく、汚染に対する意識をもめざめさせた」と述べている。

40年代に入ると環境の保全に関わる法律が相次いで公布・改正され、45年末の「公害国会」では、公害対策基本法を強化し、14の公害関係法が改正・整備され、翌年には環境庁が発足した。

40年代後半には、社会資本整備の考え方は産業基盤整備から生活環境基盤整備へと変化し、人々の考え方や行動の中にも、失われていくものへの愛着、人間的速度・スケールのものに対する親近感、落ち着いた雰囲気をもつ街に対する郷愁といったものが見られるようになった。とくにオイルショックとそれに並行して起きた物不足騒動と狂乱物価の影響はこの傾向をいっそう強め、それまでに払われた努力とあいまって、公害対策に大きな成果をもたらすとともに、人々に節約と身近なものの価値の見直しを求め、生活環境を大切にしなければならないという認識を植え付けた。

経済社会基本計画（48～52年）は活力ある福祉社会の実現をめざして、政策課題の中に、豊かな環境の創造、ゆとりのある安定した生活の確保を挙げ、これまでの経済計画とは違って、政策の大きな転換期が来たことを表している。

このような背景の中で開かれた51年11月のOECD環境委員会の東京レビューは、アメニティを求める潮流を大きく強くする役割を果たした。このレビューのために準備されたOECDレポート「日本の経験」は、わが国の環境政策について、つぎのように指摘している。

「公害防除に集中した日本の環境政策は汚染を減少させるのに大いに成功したが、環境に対する不満を除去することには成功しなかった。このことは、環境に関する不満の本当の原因が汚染の増大にではなく、環境質の悪化にあることを示している。（中略）公衆は高い環境汚染濃度というよりは、生活環境が徐々に悪化してゆくことに悩まされていたのである。『外見上』の社会的要請と呼ばれるものは公害防止に向けられていたが、『真の』社会的要請は快適さの増大にあったのである」

この指摘は、これまでの環境行政を賞讃する一方で、次代の環境政策についての目を開かせた。当時の石原環境庁長官は、このイベントをきっかけに新聞に投書して「感覚の暴力をなくそう」と訴え、長官の私的諮問機関として「快適な環境懇談会」を設置し、各界の有識者を集めて意見を求めた。その結果は、「日本は快適か」と題されて出版されている。

また、環境庁内においては有志が集まって「環境庁アメニティ研究会」を結成し、アメニティ概念の明確化、何故、アメニティを考えなければならないか、環境行政におけるアメニティの位置付けという3点をテーマに検討を続けてきている。

中央公害対策審議会においてもアメニティについての討議が行われるようになり、環境行政全体が公害対策だけでなく「快適な環境」を考えようという方向に動き始めている。環境白書においても、年次を追って大きく取り上げられるようになり、54年版では、「快適な環境を求めて」と題して一章を設け、快適な環境を求める動きとその背景、環境における快適性の視点、快適な環境づくりの動きと今後の方向について述べている。

以上のように、快適な環境つくりは、環境政策における新しい展開として認識されてきているが、われわれは、もう一歩進めて、環境には街やその周辺地域、さらに人々まで含まれるという考え方で、単に環境行政だけでなく、土木・建築・商工・衛生・教育などの行政分野とも連携して、積極的に快適な都市環境の創造に向けて進められるべきだと考えている。

§3．アメニティと行政

行政は、その目的を人々のためにというところに置き、社会的要請に従って、法制度を根拠とし、あるいは、手段として、人的能力と財政の許す範囲で施策を実施してきている。しかし、それらは同時に制約条件でもあるため、行政の対象や範囲が非常に幅広いことと合わせて、プライオリティを付けながら、人の生命・財産に直接関わる部分を最優先に努力を続け、現在では緊急を要する部門においては、問題点は相当解決し、社会的に満足すべき基準に到達してきているように思われる。

都市環境の快適さ、アメニティの向上については、経済的側面の優先、人々のニーズが比較的小さかったこと、アメニティに対する研究が始まって間がないこと、したがって、法制度・補助制度などが整っていないことなどのために、まだまだ遅れた段階にある。

アメニティの向上は、今後の行政の課題の一つであるが、取り組む際の問題点としては、つぎのようなものが考えられる。

i）アメニティの高い状態、快適な都市環境とはどういうものかの解明
ii）ディスアメニティ（アメニティを妨げるもの）の解明とその原因の究明
iii）ディスアメニティ解消策、アメニティ向上策の探求
iv）ディスアメニティ解消策、アメニティ向上策を実施する主体の判定
v）アメニティ向上のための法制度の整備
vi）アメニティ向上のための補助制度の充実

これらの項目を追いながら、その他の問題点についても触れてみ

表－3　ディスアメニティ事象

・公害

大気汚染：大気の汚れ。車の排気ガス。悪臭：河川・ドブ・工場排煙・養鶏場などからの臭気。水質汚濁：河川の水の汚れ。河川への生活排水の流入。開発による農業用水の汚染。騒音：車・鉄道・航空機・工場などからの騒音。振動：車の通行・工場による振動。

・街並み

密集している住宅。小さなアパート群の密集。町工場の乱立。ごみごみした町並み。画一的な建物群。ブロックべい。電線・電柱。信号機。看板。広告。

・都市計画

交通が不便。道路の幅が狭い。道路の線形が悪い。歩道がない。駐車場が少ない。公園・広場などの不足。水辺環境が未整備。下水道の未整備。スプロール。

・諸施設

医療・文化・スポーツ施設等が少ない。街灯が少ない。休耕田、未建築宅地、公共施設内の雑草。手入れの悪い溜池などの汚れた水面。雨による造成地の土砂の流出。伸び放題の街路樹。道路、公園、駅などに散乱しているゴミ、空き缶、煙草の吸殻。一杯になって溢れているゴミ箱、吸殻入れ。歩道上の駐車、商品の陳列。

・マナー

ゴミ、空き缶、吸殻などの投げ捨て。つばやたんの吐き散らし。満員電車内での態度・行動（新聞や本を広げ他人の迷惑や混雑にかまわない。出入口や通路で他人の乗降や通行の妨害をする。無言で他人にぶつかり、押しのけて乗降や移動をする等）。電車に乗る際の割り込み。迷惑駐車。細街路に入ってくる通過車。近隣騒音（楽器、電気器具など）。ペットの放し飼い、糞などの始末。放置自転車。

・その他

人間関係（コミュニティの未形成。隣人とのコミュニケーションがうまくいってない。狭くてうるさい世間）。人や車の交通量が多い。緑やオープンスペースの減少。風景を楽しめなくなった。田園的なたたずまいがなくなった。

よう。

目標とすべきアメニティの高い状態、快適な都市環境について具体的に明らかにする必要があるが、地域性――自然的条件、歴史的条件、社会的条件など――によって、あるいは、人々の年齢・職業・趣味・立場などからくる価値観によって快適さに差異が生じ、地区ごとに快適さが明確になっても、地域全体での快適さには別の検討が必要となる可能性が強い。そこで、アメニティが高いとされる事例を収集し、分析することによって、カルテという形で蓄積し、いつでも類似の条件を持つ地域の例を参考にできるようにするという方法が適当と考えられる。

ディスアメニティの解明については、アメニティと同様きわめて主観的なものであるから、把握するためにはアンケートが最も有効な手段であると思われる。われわれのアンケートによって得たディスアメニティは、**表－3**に大きく分類して、**表－4**に分類ごとの件数の比率として挙げた。これによると、その他は別にして公害（とくに騒音と大気汚染が多い）が最も多く、都市計画、マナー、街並みと続いて、この三者はほぼ同数である。特徴的なことは、公害（騒音、大気汚染）、都市計画（交通）、マナー（車関係）という件数の多いものには車が関係していることである。また、街並みは都市計画や諸施設とも重複していると考えられるが、件数が多く、景観に問題が多いことが指摘されている。

ディスアメニティ事象の中には、現在の法制度や行政の範囲からにじみ出した、あるいは、少しはずれたところにあってアメニティを妨げているものが多い。たとえば、吸殻やゴミの投げ捨て、近隣騒音、気ままな色・デザインの建物、未建築の宅地の雑草やゴミ、金網で閉ざされた池やコンクリートで固められた小川、その他個人の良識やマナーに帰する行動などである。この少数の例の中からでもわかるように、他の既存行政分野の業務をアメニティの向上という観点から見直し、調整する必要がある。

表－4　ディスアメニティの件数比率

ディスアメニティの分類	内訳	比率 (%)	解消主体の比重 公共	個人・事業者
公害	大気	8.3	85	15
	水質	2.5	62	38
	騒音	9.4	75	25
	振動	0.9	67	33
	その他	0.4	100	0
	計	21.5	78	22
街並み	街並み	11.7	70	30
	広告・看板	2.7	75	25
	計	14.4	71	29
都市計画	交通	8.3	92	8
	公園緑地	5.6	100	0
	下水道	1.4	100	0
	その他	1.3	71	29
	計	16.6	94	6
諸施設	施設整備	1.1	80	20
	維持管理	4.9	39	61
	計	6.0	46	54
マナー	ゴミ・吸殻類	4.3	23	77
	音声等	2.7	47	53
	車関係	6.3	41	59
	その他	1.3	43	57
	計	14.6	37	63
その他	自宅関係	2.2	56	44
	人間関係	2.0	40	60
	自然	6.5	100	0
	その他	16.2	76	24
	計	26.9	76	24
合計		100.0	71	29

表－5　快適な環境つくり（アメニティ施策）の事例

項目	事例	実施主体	所在都道府県
清掃運動	淡路島全島公園化の環境つくり	淡路島島内各市町清掃運動本部	兵庫県
	別府湾の浮遊ゴミ、油処理	（社）別府湾をきれいにする会	大分県
	ミナミを美しくする運動	ミナミを美しくする会	大阪府
美化・緑化	かながわクリーンアンドグリーン（美化と緑化）作戦の推進	神奈川県県民部	神奈川県
	グリーンコウベの推進	神戸市土木局	兵庫県
	公共施設等緑化推進事業	大分県林業水産部	大分県
	花と緑のある町づくり	兵庫県フラワーセンター協会	兵庫県
		各市町花と緑の協会	
水辺環境整備	二色の浜環境整備事業	大阪府土木部	大阪府
	加茂港港湾環境整備事業	山形県土木部	山形県
	淀川河川公園整備事業	建設省近畿地方建設局	大阪府
	市民の水辺事業の推進	神戸市環境局 市民組織	兵庫県
遊歩道整備	史跡連絡遊歩道	大阪市教育委員会	大阪府
	太陽と緑の道、清流の道、異人館の道など	太陽と緑の道建設推進委員会	兵庫県
	神戸市市民局・土木局・都市計画局・教育委員会		
ショッピングモール化	買物公園の拡大整備	旭川市	北海道
	買物公園	青梅市	東京都
	買物道路	久山町	福岡県
再開発	大阪駅前市街地改造事業	大阪市都市再開発局	大阪府
	川崎駅周辺再開発整備事業	日本住宅公団 民間	神奈川県
あき地の環境保持	あき地の環境保持制度	羽ノ浦町	徳島県
	空地管理	神戸市環境局	兵庫県
伝統的都市環境の保存	伝統的文化都市環境保存地区整備事業	竹田市	大分県
	北野山本地区町並保存	神戸市教育委員会	兵庫県
	伝統美観の保存	倉敷市	岡山県

その他、レクリエーション・スポーツ施設等の整備など

われわれのアンケートでは、また、現在の法制度になじまないアメニティ充実策について回答を求めた。その結果は、シンガポールなどのような法規制の強化・罰則を設けるよりは、個人やコミュニティとして対応すべきで、そのための教育、ＰＲや啓蒙を期待するという声が強い。

アメニティを高めるための施策としては、既存の行政分野についてはアメニティの観点から見直すものとし、ディスアメニティ解消策とアメニティ向上策を検討することによって行政としての範囲を考える必要がある。**表－５**は各地で実施または計画中の快適な環境つくり（アメニティ施策）の事例の一部である。これらは、現在の法制度下で創意工夫を活かして、結果としてアメニティの向上に資する色合いの濃いものである。

アメニティ施策の主体については、表－５では大部分が行政であるが、市民団体単独や行政との協同という形も見られ、積極的なアメニティ向上のための市民の動きも出てきていることがわかる。イギリスにおいては、アメニティの確保は都市計画の必要条件であるが、19世紀半ばから市民がその担い手であり、自主的活動を続けながらシビックアメニティ法の成立などの法制度の整備に力を結集している。表－４には、ディスアメニティ解消主体の比重のアンケート結果を載せたが、都市計画や諸施設の整備は全面的に行政側で責任を持つべきだとし、公害や街並みは大部分は行政側だが、個人・事業者も比較的貢献できるとされている。個人的なものと思われるマナーについては、行政側の比重が案外大きく、教育・啓蒙・ＰＲ、あるいは取り締まりなどを期待されているものと思われる。

法制度については、アメニティ施策の実施しやすいものに整備することが望ましい。とくに補助制度については、清掃運動や公共施設の管理への参加という形で、高まりつつある市民運動に対しての助成や、アメニティ施策への補助金の上乗せ、アメニティ資産の保護への助成などが肝要であろう。

おわりに

これまでに、アメニティについての概論のようなものと行政の関わる場合の初歩的な問題点について述べてきたが、思いのほかハードな面よりもソフトな面の比重が大きくなっている。それは、アメニティ向上の主体として、市民の果たす役割が非常に大きくなり、市民と行政が協力して努力する形が最も望ましいと考えられるからである。

行政としては、市民の意向を反映させながらアメニティ向上のための創意工夫を加えたハードな面の施設整備をすすめ、ソフトな面では、アメニティに関する情報収集・分析・研究、市民への情報提供やＰＲ、啓蒙活動や教育、市民運動の指導・援助、法制度・補助制度の整備、その運用の柔軟性の確保、施設の管理運営、アメニティ資産の保護・管理・活用などを行う必要があると考えられよう。

われわれの研究会は、まだ、このあたりの検討を完全に終わった段階ではないが、引き続いて、アメニティ行政の範囲、既存の行政分野との調整やアメニティの視点からの見直し、市民と行政の協力関係のあり方、法規制の強化などのさまざまな問題点の検討を進め、将来は、具体的なアメニティ施策の検討や提案に向けて、技術的な問題、法制度上の問題、財源の問題などを含めたケーススタディを手がけたいと考えている。

アメニティ研究会

今後の街づくりの目標の一つである「アメニティ」について研究し、大阪府の行政への反映を目的として、昭和54年９月に発足した。関係部局の18課から成り、事務局を企画室に置く横断的構成を持っている。

（さかぐち　おさむ　大阪府企画部企画室・アメニティ研究会）



写真１．元茨木川緑地（大阪府茨木市）
廃川敷を遊歩道として整備しているもの。沿道に官公庁・市民グラウンド・神社・小公園などを持ち、堤防の一方を並木道のまま残し、河床を園地・歩行者路に整備することによって、歩行者動線の主軸、市民の身近な憩いの空間にしようというものである。



写真２．御堂筋
早くから大阪を代表するストリートとして有名。沿道の業務ビルの外観と、大きく育った街路樹と、広幅員の道路のかもし出す雰囲気は魅力的である。昼休みに緩速車線を歩行者に開放しているが、もっと憩いの空間として使うことはできないだろうか。



写真３．ビル緑化（ある商社ビル敷地）
都市計画法・建築基準法に基づいて、総合設計制度によってとった公開空地。植栽を施し、坐ってくつろぐことのできる空間を取っている。

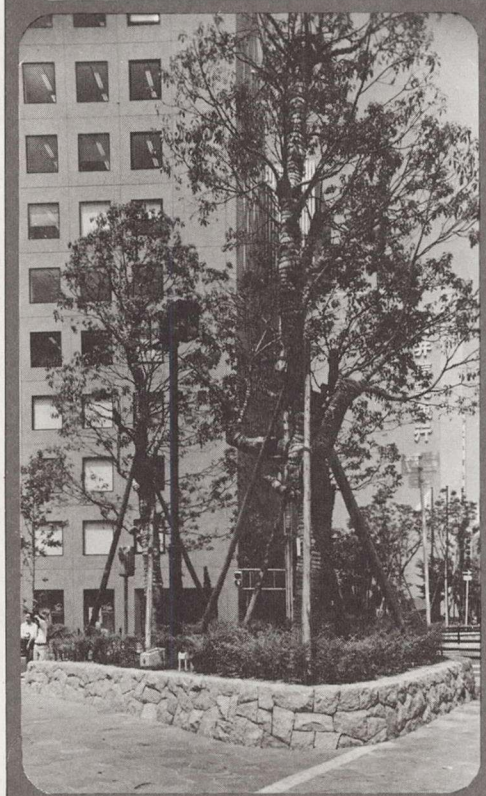
大阪市堺筋の美化

設計監理

大阪市土木局・公園局



北浜２丁目交差点





今橋２丁目附近改善後

改善計画の概要

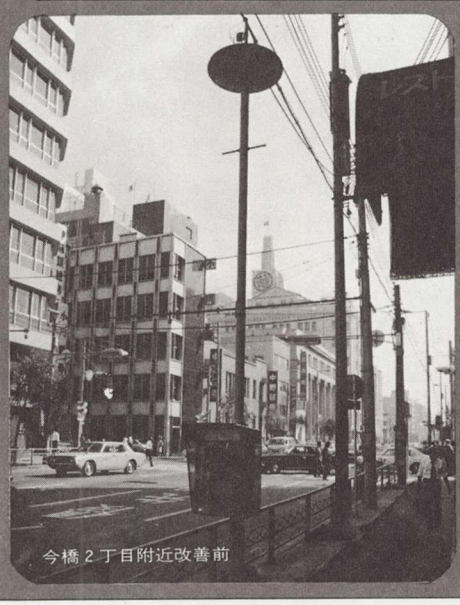
よりよい都市の景観は、自然からなる地理条件に道路、公園、広場など適切に配置し、まとまりのある建物群を形成することにより生みだされるものと考えられる。ゆとりの少いといわれる大阪を、なんとか親しみのもてる美しい町にするために、日夜各分野で検討されているが、われわれとしては道路の環境の改善が町の景観を大きくイメージチェンジすることにつながるものと考え、道路上の諸施設について検討を進めることにした。

かつての道路は、狭いながらも人が歩き語らいまた物を移動させることに本来の役割があった。しかし文明の発展につれて、公共空間としての都市部の道路は利用範囲も広がり、道路照明、防護柵、信号機、道路標識など交通安全上の施設が必要となる一方、上下水道、電気、ガス、電話などのエネルギー施設や、バス、タクシー乗場、電話ボックス、郵便ポストなどサービス施設などの設置場所にも利用されている。またこれらの諸施設のほかに、大きさ、色、形状の異った看板類が種々立ち並ぶようになって、町の景観を著しく悪くすることにつながっている。さらにこれらのものは、ほとんどが余裕の少い歩道上に乱立しているため、とくに歩行者にとっては歩きにくい道路環境となっている。

豊臣時代よりゆかりの深い大阪の代表的道路である堺筋において、たまたま昭和52～53年度にかけて、歩道部分に電話ケーブル、ガス、水道などの管路整備のための埋設工事が実施され、この道路復旧を一つの契機として、市民に親しまれてきた堺筋を、これからの道路環境改善の一つのモデルとしてとりあげた。

歩行者環境を良くすることは道路の景観を良くするだけでなく、交通安全意識の向上にもつながるものと信じて、まず車道を削減し歩道を大幅に拡げることに注目した。しかし現状の都心主要幹線道路の渋滞状況の中では、即時実施に踏み切ることは無理であるとの判断をした。そこで車道５車線を確保しながら、交通に支障のでない程度に歩道幅を2.75ｍから3.15ｍに拡げることで落ちついた。だが、この歩道幅員では歩行者環境を急に改善することにはならない。そこでつぎに着目したのは、歩道上の施設を少しでも整理統合し美装化を行い、道行く人にゆとりを感じていただくように、つぎの３つの基本構想をうちだした。

１）柱類の整理統合により除去する。



今橋２丁目附近改善前

関係工事業者（順不同）

道路改良舗装道 復旧工事その１	常盤工業株式会社大阪支店	大阪市東区谷町1－50　大手前建設会館 ＴＥＬ　06－942－1507
道路改良舗装道 復旧工事その２	大成道路株式会社関西支社	大阪市東区本町４－27 ＴＥＬ　06－262－5426

大阪市堺筋の美化

2）緑のボリュームアップを図る。
3）施設の形状統一と美化を図る。

実施の内容

計画区間は東区北浜２丁目から浪速区霞町まで 4.9kmで、54年度は事業費 3.4億円で東区北浜２丁目から唐物町（中央大通）までの 1.1kmを完成し、55年度も引き続き南へ延伸する。なお堺筋の改善にあたり、施設のデザインは沢村徹先生の御指導のもとにつぎのような内容で実施してきた。

1）柱類の整理統合により除去したもの。
- 電話ケーブルおよび信号ケーブルの地下化による架空線の除去。
- 小型変圧器開発による道路方向の関電低圧線除去。
- 信号灯器、照明灯具および標識の関電カラーポールへの共架による不要柱の除去。
- 公安委員会および道路管理者の標識の相互共架による不要柱の除去。

（54年度区間で柱類約300本が約200本に減少。）

2）緑のボリュームアップを図ったこと。
- 現況８～10m間隔にある高さ４mの柳を、高さ７mのゆりのきに変え４～６m間隔に植栽して高木化と密植化を図り、なお支柱は木製を鋼製に変えた。
- 歩道の車道よりに幅１m程の芝生による連続した緑のベルトを設け、ひろがりとゆとりを感じさせる歩行者空間とした。
- 大きな交差点を改良し、交差点のシンボルとなる緑の広場を設け、歩行者のいこいの場にした。

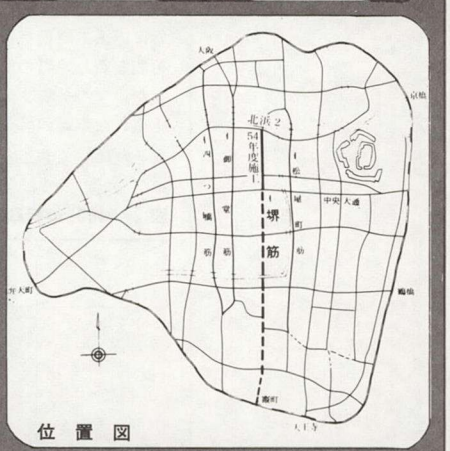
3）施設の形状統一と美化を図ったこと。
- 歩道舗装は、スベリ難く歩きやすい歩道タイル板（セラミック）に統一した。
- 車道の既設舗装老化を防止するために、アスファルトの全面被覆を施し、また路面標示をも改善した。
- 安全柵は老朽化している既設フェンスを除去し、歩行者にゆとりとひろがりを感じさせるおちついたデザインのチェーン式に改善した。
- 信号灯器や照明灯具は、コンパクトな照度のよい器具に改善統一した。
- 公衆電話は、ポール型のものを利用しやすいボックス型に改善統一した。
- 郵便ポストは、コンクリート台座型をゴミのたまり難いスマートな柱上型に改善統一した。
- バス停、タクシー乗場の標示板その他を美化した。

（大阪市土木局主査　木村賢一）



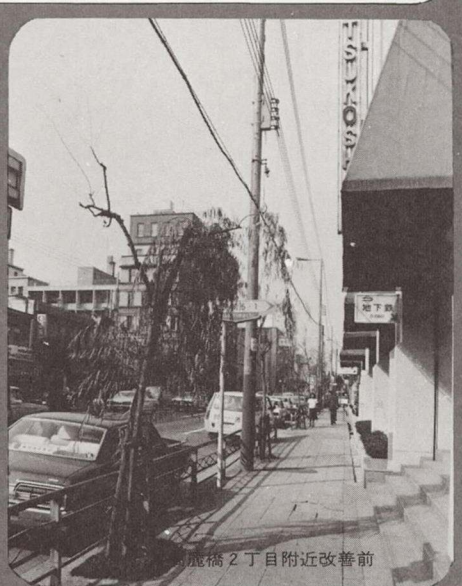
伏見町２丁目附近


高麗橋２丁目附近改善後



位置図




高麗橋２丁目附近改善前

植栽工事その１	住友林業株式会社	大阪市東区北浜５－22 ＴＥＬ　06－227－1481
植栽工事その２	関西植木株式会社	大阪市西区千代崎２－22－21 ＴＥＬ　06－581－3401
クリンセラブロック	佐渡島金属株式会社	大阪市南区鰻谷東之町７ ＴＥＬ　06－244－5603

大阪市戦前の市街地構成

界隈と日常生活の一端

光崎　育利

1．はじめに

織田作之助の随筆に『木の都』がある。その書きだし「大阪は木のない都だといわれているが、しかし私の幼時の記憶は不思議に木と結びついている」は、私の記憶とも重なる。私は織田作が『木の都』でとりあげた夕陽ヶ丘の町の一隅で昭和初期に生をうけた。そして昭和20年3月、米空軍の焼夷弾攻撃によって自宅を失うまでの約15年6カ月をそこで暮らした。

私がこの近隣社会とのつながりの中で記憶する最も古い大事件は、昭和9年の室戸台風であった。幼稚園に進む前年のこのとき、うろうろしていては危ないからと父母に二階に追い上げられた私は、南側の窓から風の強さを眺めていたが、六万堂という奈良漬け屋の庭の巨大な楠の繁みのかなたに、四天王寺の五重塔九輪の尖端が大揺れにゆれるのをみて息をのんだ。つぎに見たときに塔の尖端はなく、「天王寺さんの塔が飛んでしもうた！」と階下に大声をあげたそうである。その記憶から空襲までは11年足らずの期間であった。この期間は、中国大陸での戦場の拡大、太平洋戦争への突入と大変な時代であったが、少年期に国家的規模での大事が家族や近隣社会でのさまざまの緊張をともなってひしひしと感じられたのは、昭和16年以後である。昭和10年頃から15年頃までの約5年間は、当時の友人や家兄らと、くったくなく遊びほうけた記憶のことがらが無数にある。

この原稿をまとめながら、私は町づくりについては、現在もっている、あるいは将来もつであろう条件から築くべき創造的課題と、多くの人々の生活経験の蓄積などからリファインし、みつけるべき伝承的課題の、大きく二つに分けることもできると考えている。前者は過去の時代からつながる現状の否定をも含む活力があってこそ可能な新しい町の創造の課題でもあり、ところによっては必要と思うが、今の私にはなじめない。私は後者の課題追究の立場から、与えられた本誌のテーマを考えたい。

それにしてもこの小論の後半で私の観察の対象とした地区およびその時期は、広い大阪の長い歴史からみると、いずれもあまりにも狭い範囲の事象である。この小論の制約は読んでいただく皆さんに考えていただきたいと思う。この小論は、はじめに「市街地構成の変遷」ということで戦前と戦後を比較する視点からとり上げることを望まれた。しかし資料が増え、所定の紙数におさめ難いので、あえてよく知られた現状の説明を省略した。その点ご理解もいただきたい。

2．第二次大戦前の大阪の粗い輪郭

2・1　面積・人口

1935年（昭和10年）の大阪市域面積は約18,733haであった。この数値は1970年(昭和45年)面積20,560haの約91%に相当する広さであり、そこにすでに2,989、866人、おおよそ 300万人が住んでいたのである。大阪市における戦前人口の最大は1940年の国勢調査が示す約 325万の

表1　大阪市面積内訳

時点＼区分	行政面積 (ha)	民有有租地 (ha)	宅地 (ha)	田畑 (ha)	山林・原野・池沼 (ha)	雑種地 (ha)
1935年	18,728	12,000	5,821	5,325	723	132
	% 100	64	31	30	4	
1970年	20,560	10,731	9,530	890	48	263
	% 100	52	46	4		1
同上差	+ 1,832	− 1,269	+ 3,709	− 4,435	− 675	+ 131

注　1．上記はいずれも該当年度の大阪市統計による数値である。
2．いずれも小数点以下を四捨五入したので合計値は必ずしも合致しない。
3．1935年資料は詳細であるので，1970年資料に合わせて組みかえている。

表2　1935年行政区別人口密度関係指標

行政区＼指標	人口 (1935年)	民有有租地宅地面積 (ha)	民有宅地に対する人口密度 (人／ha)	人口当たり宅地面積 (㎡／人)	世帯数 (件)	平均世帯人員 (人／C)	住宅戸数 (1934.12) (戸)	左の内 表家 (戸)	〃 裏家 (戸)
北	250,269	401.42	623.46	16.04	51,811	4.82	45,869	32,637	13,232
							100	71	29
此花	213,609	398.53	535.99	18.66	45,909	4.65	37,000	27,573	9,427
							100	74	26
東	171,263	316.09	541.82	18.46	29,293	5.73	27,777	17,874	9,903
							100	64	36
西	131,524	252.99	519.88	19.24	23,903	5.50	22,652	15,444	7,208
							100	68	32
港	317,721	370.17	858.31	11.65	71,987	4.41	55,162	39,411	15,747
							100	71	29
大正	131,038	215.98	606.71	16.48	28,169	4.65	21,674	12,309	9,365
							100	57	43
天王寺	124,452	254.53	488.95	20.45	26,234	4.74	24,707	14,144	10,563
							100	57	43
南	119,094	181.59	655.84	15.25	22,186	5.37	21,993	14,360	7,633
							100	65	35
浪速	151,151	255.00	592.75	16.87	31,731	4.76	27,487	17,988	9,499
							100	65	35
西淀川	189,638	499.41	379.72	26.33	41,042	4.62	35,560	11,772	23,788
							100	33	67
東淀川	226,945	626.24	362.39	27.59	49,269	4.61	43,067	19,154	23,913
							100	44	56
東成	306,618	471.49	650.32	15.38	66,369	4.62	59,308	27,131	32,177
							100	46	54
旭	170,135	416.64	408.35	24.49	35,940	4.73	33,759	15,117	18,678
							100	45	55
住吉	282,879	771.67	366.58	27.28	61,582	4.59	57,556	44,954	12,602
							100	78	22
西成	203,530	389.00	523.21	19.11	44,755	4.55	38,280	19,017	19,263
							100	50	50
計	2,989,866	5,820.76	513.66	19.47	630,207	4.74	551,887	328,889	222,998
							100	60	40

規模であったから、この小論で筆者がひき続き述べようとする1935年前後の時期の大阪市は、人口の側面ではほぼ戦前の最盛期を示していたということができる。

その1935年当時の大阪市土地利用の概況は**表1**のようであった。表1によると市域面積の約64%(約12,000ha)が民有有租地であり、民有有租地の半分近く 5,821haが有租宅地であった。また当時は市域内に有租宅地面積以上の、(有租)田畑・山林・原野・池沼・雑種地を合わせて、約 6,180haのいわゆるオープン・スペースが存在していた。ここでこの時期の大阪市民の住宅立地を考えると、民有有租地の区分の外側にある市域面積の約36%(約 6,733ha)をしめる公用地・民有無租地の範域で、当時の公営住宅・神社・寺院などに居住した人々も、約11,000人前後あったと推定できる[註1]。しかし 300万市民の大部分は民有有租地の上に居を構えていたとみるのが適切であろう。市内各行政区について人口比率を民有宅地面積あたりの指標として算出すると、**表2**のようになる。さらに戦後の1972年の資料も同様に操作し求めた有租宅地人口比率を戦前1935年と比較すると、**図1**のようになる。図1については行政区画・面積の変更もあって特定の区を除き厳密な比較は困難であるが、戦前市街地の高密度居住の輪郭は、ほぼ明らかであろう。表2に示したように、東・西・天王寺・南・浪速の中心5区では非宅地のオープン・スペースは皆無に等しい状態でもあった。

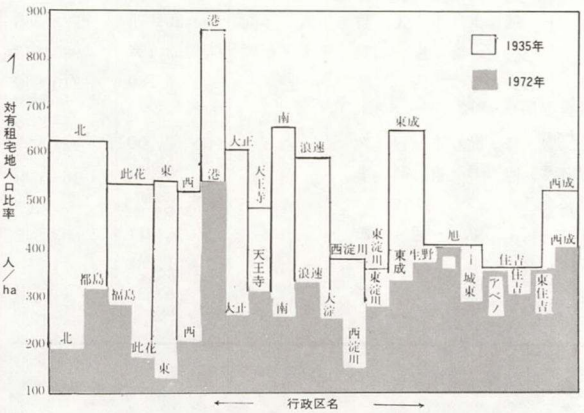


図1　1935、1972年、対有租宅地人口比率

2・2　市街地における露地の分布

戦前の大阪は「水の都」あるいは「煙の都」ともいわれた。このような形容には商工業で殷賑をきわめた市勢を誇示する意図も感じられ、他の都市でいう「水の都」「森の都」などとは趣をやや異にしている。

今や「煙の都」とはいわれないし、大阪のかつての「水の都」は水運の機能を景観・レクリエーションの機能よりも重視したからであろうか、水運に代わる陸運の機能の進展・拡充があって、旧市街地の堀割りも道路に変わり、最近は「水の都」なる表現に出会うこともほとんどなくなってしまった。他の都市でいう「森の都」などと見合う戦前の大阪を表現する言葉として、筆者は「露地の都」あるいは「長屋の都」があったと考えている。それはまた「借家の都」でもあった。

図2はほぼ1930年～1935年の時期の中心市街区部および周辺区部の一部分における露地の分布図である。ここで露地とは幅員9尺（約 2.7m）以下の細街路をさしているが、図2のようにそれは中心市街区部でも大規模の施設用地を除いて、きめ細かく分布していた。図2では表現の都合から露地以外の一般の街路とのつながりが明らかではないので、市街地の一部、上本町2丁目周辺についてより詳細な**図3**を見ていただきたい。この地区でも軍用地・学校用地・寺院敷地など大規模画地を除いた各街区ブロックには、ほぼ全体に露地が設けられていた。これら露地の両側は一般に長屋建借家が櫛立し、その住民は日常生活の安全性、保健性の維持などに関する問題をもつ一方で、虚勢を張ることの少ない長屋界隈での日常生活を送っていたのである。現在いわれる大阪のまちの庶民的色彩の濃厚な雰囲気――これは多くの側面からとり上げられているが――は、この露地・長屋界隈を発生源の主要部分としていると、筆者は考えている。

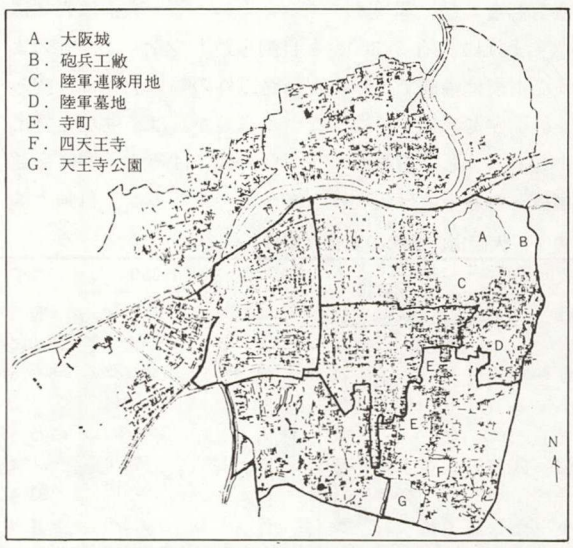


図2　大阪市街地露地分布（1930～1935年頃）

（ただし市域中心部のみ）

資料：大阪府警察部建築課作成(1930～1935年時)の原図（玉置豊次郎博士蔵）より集成

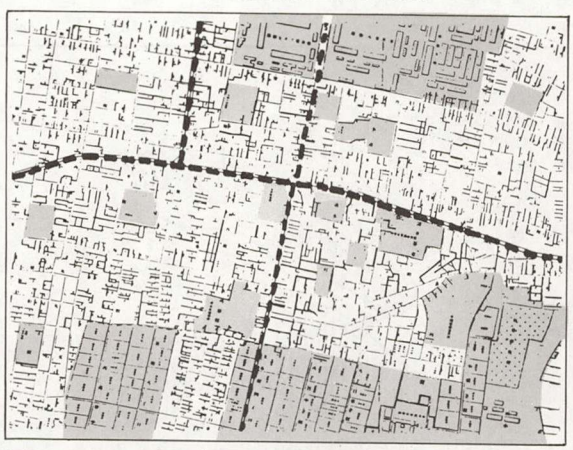


図3　1930～35年上本町2丁目周辺露地分布

注：市電路線交叉地点は上本町2丁目電停

-----市電路線街路　――露地

2・3　市街地の骨組みと界隈

露地・長屋建借家で埋められた界隈の高密度市街地は、戦前の大阪市街地の形態的特性をも示すものである。とするならば、それはどのような骨組みがあって戦前の大都市大阪を維持し得たかを考えたい。

表3は戦前・戦後の市勢を示す指標からいくつかを抜

粋して示したものである。紙数の制限上、ここでは説明資料の提示を省略するが、戦前、戦後の都市日常生活の相違のひとつは、一般に戦後における物的消費生活の豊かさと、それを可能にした生産・技術・流通機構などの革新にあるといわれている。それら戦後に新しく求め得た条件の利害得失を考慮することなく戦前、戦後の大阪の市街地を都市計画の側面から論じても得るところは少ないと思う。市街地の構成に関する条件の一つでも変えると、それは連鎖反応的に他の要因の変化をひき起こし、このような波及が要因・影響面積の両分野で拡大して遂には市街地の形態も変化させるであろう。

この観点からいうと、戦後の大阪市街地は、種々の事象の変革をあえて一つの形態に集約していうならば、自動車の運行範囲を市街地の中でいちじるしく拡大したことを主要な理由として、戦前の市街地とは質的に相違する形態ならびに環境をつくったといえる。戦前は表3に示すように、約 7,300台と自動車数も少なく、図3のような市街地構成では、市電街路以外の幅員6～8m程度の一般街路でも、それにつながる露地からは子供がとび出すであろうし、自動車の少ない時代にはその子供に交通事故への警戒心は現在ほど働かないであろう。自動車はそのような道に入らない方が無難であるということで、一般庶民は少なくとも市電・バスの停留所までは歩いた。タクシーも市電路線および国道レベルの道路が一般に営業の場でもあった。マイカーはまだ稀有の時代である。当時の市民の消費生活からみて、公設・私設市場を除き、貨物自動車で商品を搬入する小売店舗よりも、それ以外の大八車などを活用していた小売店舗の多かったことは確かである。市民日常生活の交通を担う町なかの道が自動車によって現在ほど占有されていなかったことを理由の一つとして当時の市民消費生活の水準の下で行商や夜店も成立したし[註2]、道は子供の遊び場ともなったのである。

この小論の主題である界隈の戦前の形は、周辺の一部高級住宅地を除き、市電、各種自動車などの交通機関通行の主要街路に囲まれた区画の露地を界隈成立の単位としていたと私は考えている。その界隈が集まり、中心市街地を形成し、日常生活の対象となる公共・公益施設も中心市街区部ならびにその縁辺部では立地の密度高く分布していた。

図4は当時の小学校分布を示したものである[註3]。各小学校を中心に半径 600mの円域を描いたときに、その中に小学校3校以上が含まれる地区の連担は図のようになっ

表3　大阪市、市勢の変化（部分）

資料：各年度大阪市統計書，その他

要因(例) ＼ 比較年次	単位	1935年	1972年	要因(例) ＼ 比較年次	単位	1935年	1972年
行政面積	ha	18,737	20,560	市バス乗車人員	千人／年間	72,417	257.690
人口	人	2,989,866	2,885,246	地下鉄営業粁数	km	4.1	67.1
世帯数	件	630,232	899,646	地下鉄乗車人員	千人／年間	20,075	723,065
小学校数	件	244	278	公営交通乗車人員	千人／年間	353,197	980,755
児童数	人	344,868	245,857	乗用車台数（自家用車・タクシー・バス）	台	5,280	210,640（但、登録台数）
校区平均面積	ha	76.8	74.0				
全工場数	件	50,516（但、1934年）	33,415	貨物自動車台数	台	2,000	224,837（〃）
小売店舗総数	件	80,325	51,072	その他の自動車	台	5,631（但、1934年自動自転車）	168,070（〃）
市道総延長	m	2,284,062（但、1934年）	3,445,762				
市道総面積	m²	10,407,541（但、1934年）	22,398,970	自転車総数	台	12,911	603,547
市電営業粁数	km	104.5	—	荷牛車	台	1,281（但、1934年）	—
市電乗車人員	千人／年間	260,705	—	荷馬車	台	5,630（但、1934年）	—
市バス営業粁数	km	173.4	449.1				

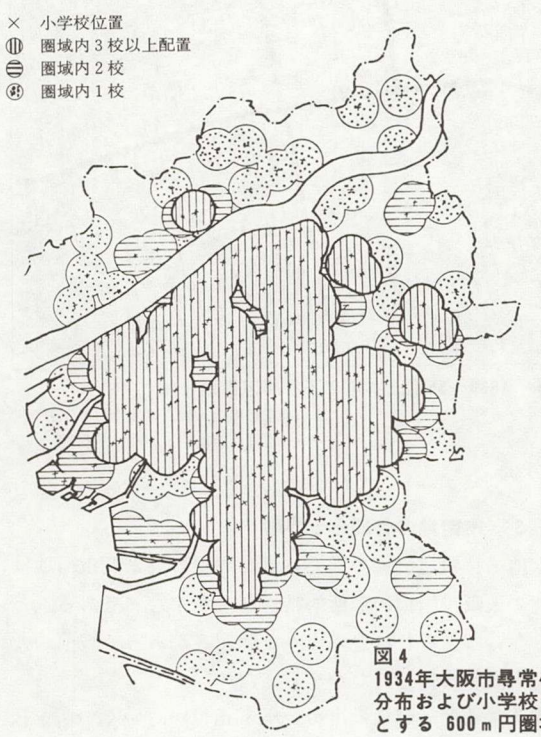


図4
1934年大阪市尋常小学校分布および小学校を中心とする 600m円圏域図



図5
大阪市、市場、小売商店街分布

ていた。また**図5**は同時期の小売市場などの分布である。[註4] 戦前の大阪市は六大都市の中で公設小売市場の経営については抜きんでた熱意、施策をもち、[註5] 市民の利用も活発であった。[註6] これらが私設小売市場、商店街とともに市民の需要に応じていたのである。戦前の大阪市街地の主要な骨組みは、以上の小学校、小売市場などの分布にみられる市街地の土地利用を、図2の露地分布、図3のその詳細と重ねてみたときにも、やや明らかにすることができる。それは形態上は住宅ひいては人口稠密の界隈が、交通事故の危険性などを心配することなく日常生活の進行するよう組織されていた。大阪における庶民居住の今様でいうルーツは、これらの界隈である。大阪はその後の戦災以降、多くの露地・長屋の界隈を失い、現状では建築基準法の規定などにより、残存している露地もいつかは消える方向を辿っているかにみえる。しかし防災的視点での細街路の否定と露地の消滅との間には技術的に克服すべき問題も残されていると、私は考えている。

3．戦前の界隈

ここでは、はじめに述べた筆者戦前の居住地およびその周辺について当時の界隈の検討を行うことにした。

図6はほぼ1935年の時期における天王寺区の道路・公園・寺院・神社などの緑地的土地利用、小学校、中等学校以上の諸学校、公・私設市場など公共的施設の配置を示したものである。[註7] 上町台地の南部にあるこの区域には寺院が多く、比較的緑に恵まれた市街地環境であった。しかし庶民の住む一般の市街地には露地がかなり稠密に設けられ、建築密度も高く、一般の住宅は質の上下を問わず寺院を除いてはほとんど長屋建ての形態であったと〈確認〉できる。[註8]

図7は、図6の区域から当時の市立天王寺第2尋常高等小学校（現・大江小学校）の校区を復元的に示したものである。この小論では、この校区の中で日常生活が営まれた形態を買い物、遊びの行動に限り記すことにする。

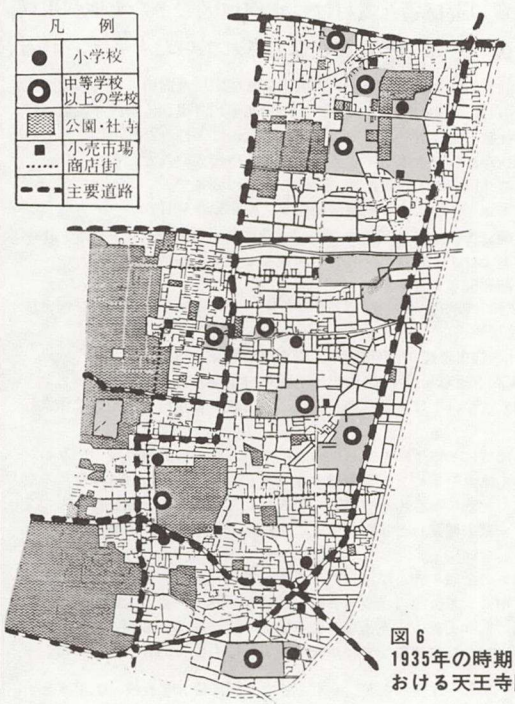


図6
1935年の時期における天王寺区

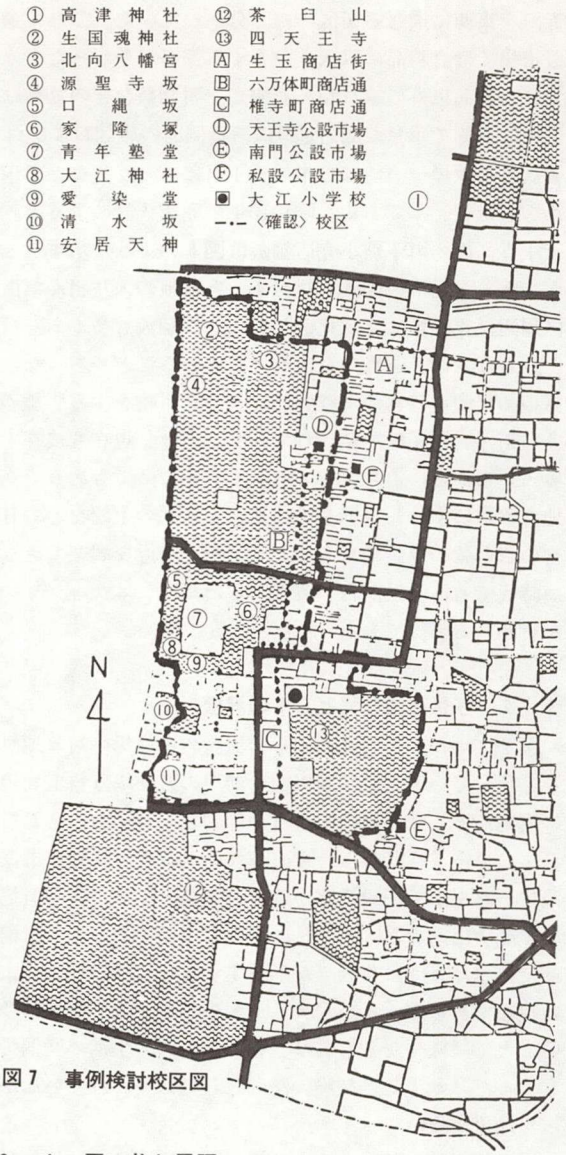


図7　事例検討校区図

3・1　買い物と界隈

図7により復元的観察の協力者およびその関係の家庭がおもに利用した日常購買施設を求めると、それは圧倒的に多くが記号D・Eに示した公設市場であったことが〈確認〉できる。この2公設市場の利用圏はほぼ市電椎

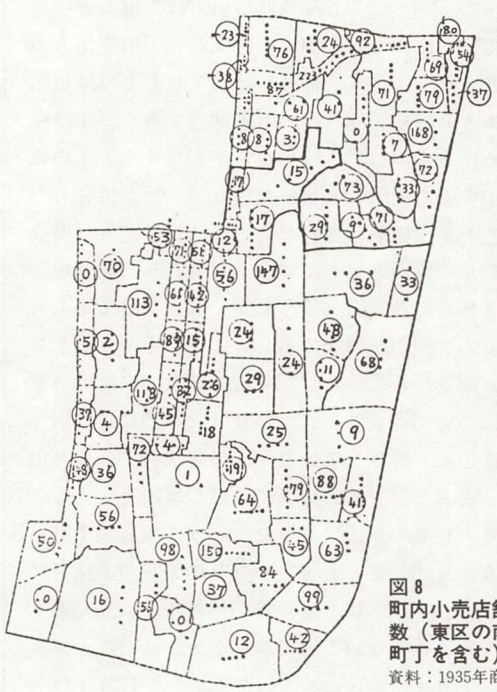


図8
町内小売店舗件数（東区の南部町丁を含む）
資料：1935年商業統計調査

寺町を東西に通じる街区の線で分かれていた。これら公設市場[註9]では食料品の購入を主とする家庭が多かったようで、食料品以外の家具類、衣服類、履物類などの物品は図中に点線で示した商店通りにある個別の店舗および百貨店（松坂屋―当時は日本橋三丁目にあった）などで求められたごとくである。昭和10年の商業統計によると、天王寺区内の町丁別小売店舗数は**図8**のように示すことができる。図7、図8を対照すると露地の入り組んだ街区周辺は露地数にほぼ比例して小売店舗数も多くあったとみられるが、これは全市的にもいえることであった。露地の界隈が日常の消費物品などの買い物をする店舗の多い街路と短距離で結ばれていることは、現在も残存する古い市街地のあちこちで散見できることでもある。露地の界隈はすこし視野を拡げると、家庭の主婦などの日常の買い物の界隈でもあり、ＴＶなど身近な娯楽の乏しい時代でもあったから、雑然としたコミュニケーションが行われる界隈でもあったといえる。

3・2　子供の遊び場としての界隈

図7には1935年の時期の小学児童の遊び場の対象地点をも示している。就学期以前の幼児の遊び場は自宅周辺の露地が多く使われ、そのほかは幼児の行動力に応じてＢ・Ｃ道路（谷町筋）、Ａ道路（生玉商店街筋）、市電路線街路を除く一般道路が適宜遊び場となった。谷町筋、生玉商店街筋などは幅員８ｍ前後の街路であっても、前節で述べたように自動車が通行することは稀といってよい現象であった。しかし大八車・牛馬車・人の往来の多いことでは賑やかさもあり、いわば大人の生活の空間でもあった。幼児の遊び場の空間としては使われていなかった印象が強い。

小学児童の年齢になると共通の遊び場の地点は増加した。図7に示した①～⑬の地点は、この小学校区児童によく使われた遊び場でもある。とくに男子が使い、女子は自宅周辺の露地、空地、道路、友人宅と行動圏域が狭く、男子とは違って自宅に拘束される条件の多くあった時代であった。①～⑬の各場所については季節ごとの利用の変動のほかに、一日の中での時間的利用の変化もあった。たとえば、①②⑧（神社）はいずれも１月はじめの祭り、あるいは初詣的行楽の対象地点であり、①は校区外のために日常のなじみは少ないが、祭りのときの露店の多さが児童の人気をも集め〝遠征〟した記憶をもつ者の多いことが〈確認〉された。これに対して⑨（愛染堂）は夏祭りの盛況とともに蟬、トンボとりの最適地として記憶されていた。⑦（青年塾堂、現社会事業短大）はとくに夏の夕刻の遊び場であり、ここでも多くがトンボとりを〈確認〉している。図7にあげた②～⑪のいずれの場所についても夏のトンボとりは、その周辺に居住した者がほとんど経験しているが、当時活発であった旧友の記憶によると、夕刻には⑦に遊びの場所を変えることが、当時の児童の常識であったという。後者の上町台地寺町の森に飛翔してくる獲物が夕刻の天空で識別されやすく、かつ、ブリと称した独特の捕獲法は天空に枝や電線などの障害物のないことで能率が上がったことによるらしい。⑦はまた地区に少ないグランドでもあったため児童の球戯はよくここを利用した。時には下寺町の子供と場所をとり合う、いさかいも起こしている。⑬（四天王寺）は毎月21日の大師法要日との関連で遊び場として記憶され、その前後の日は「見せもの」もかかって児童の人気も呼んだという〈確認〉がされた。筆者の記憶では春・秋分の日は、現在よりも子供の人出は多かったように思う。境内地の広いこの四天王寺は、遊びの素材が無数にあり、校区北辺の②③④地点周辺に住む児童も等しく遊んだ〈確認〉をしている。⑫茶臼山・天王寺公園は、春から夏にかけての遊びの対象地と〈確認〉されたが、校区外のためにその敷地北部の茶臼山に偏り、河底池での違法の魚とりは一部の児童に人気があったと〈確認〉できた。また©（椎寺町谷町筋）の商店通りには夜店がたったが、その期日は毎月１の日、すなわち１日・11日・21日であった。

以上の検討によると、この上町台地の一画は緑に恵まれたことでは市内他地区の児童に比較して、豊富な遊び場をもっていたことになる。各地点にみられた樹木の多さは、蟬・トンボとり、木登りから発展する活動的な遊びへと、また茶臼山、北向八幡宮はこの地区では少ない水面での趣向のちがった遊びへ、さらに縁日、夜店などは、児童の好奇心をかりたてる種々の催しや、ささやかな消費の楽しみへと児童の心を満たした。これら共通の記憶がなければ、この事例検討は成立しなかったと考えられる。

遊び場の多さは、上町台地の一画だけが典型例として指摘可能とはいえない。筆者がその後の年代に得た大阪市内居住の友人の記憶によると、市街地において緑地的土地利用の極端に少なかった港・大正の２区についてさえも、それに代わる河川沿岸、未利用空地が遊びの場と素材の提供源であったらしい。そのほか市内各地に点在した寺院・神社の境内は祭りなどの行事と関連して活用され、随所に夜店の催しのあったことも〈確認〉できる。港・大正区のような臨海工業地区であっても、自動車交通の進入しない道路は、露地のほかに多く記憶されており、児童の遊び場と素材は、市内地区ごとの土地利用構成の特徴のもとでそれぞれ保有されていたと考えられる。

註１　統計資料によると1935年の大阪市公営住宅用地面積は約 14.62ha（住戸数 1,380戸）であった。また1936年12月現在、市内寺院数 817、神社数 120、計 937件であった。これらに１件当たり平均4.74人の居住があったと仮定すると、その総数は10,983人となる。

註２　光崎「戦前の大阪市街地における夜店の分布」日本建築学会大会学術講演梗概集（昭和53年９月）

註３　光崎「市街地土地利用の時期的変化に関する研究」（その６）小学校および小売店舗の分布　日本建築学会論文報告集第268号・昭和53年６月参照

註４　『昭和大阪市史第４巻』昭和28年３月、大阪市役所刊 P.182付図より転写

註５　『日本都市年鑑６』昭和12年、東京市政調査会刊 P.50

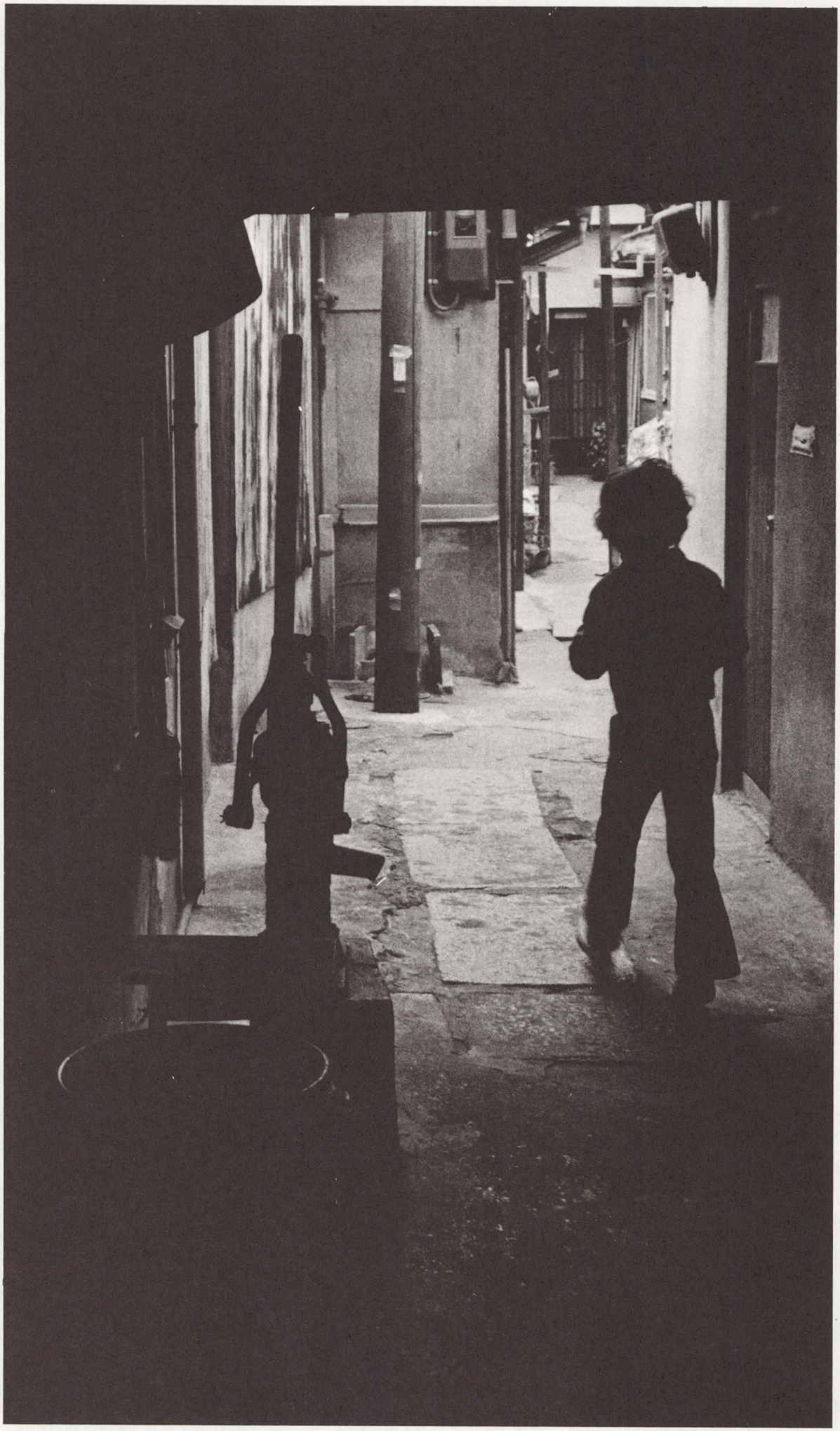
註６　『大阪市政昭和11年』大阪市役所昭和11年10月刊

註７　図６については、当時の市街図、各種統計資料から復元的に作成した。

註８　〈確認〉と以下にも記した事項については、筆者の当時の旧友約20名の協力を求めて記憶事項の復元をしたものである。ほぼ全員の意見の一致したものを〈確認〉と表現した。記憶の一定しないものを〈一部未確認〉としたが、ここでは〈一部未確認〉の事項にはふれていない。

註９　当時の公設小売市場は1921年（大正10年）10月、社会事業調査会の答申による公設市場改善要綱の制約をうけている。大阪市もこの要綱に則り大阪市小売市場条例を定めて規制しているが、食料品を中心にした日常消費物資の販売が経営的にも主目的となっていた。

（みつざき　やすとし　大阪工業大学教授・工学博士）



写真●
岡本雅央/榊原吉朗/中筋 修

都市の中の戦前長屋

負性にささえられた快適さ

藤本憲太郎
富樫　穎

〈露地から露地へとすき好んで歩いているときのじぶんのイメージは好奇心と安堵感で象徴される〉と書いたのは吉本隆明である[*]。われわれもまた、下町や路地に足を踏み入れたとき、ビルの立ちならぶまちや高層団地、あるいは新しくつくられたタウンハウスによる団地を歩くときにはない親しみとなつかしさを感じる。そこに展開される情景やかもしだされる雰囲気に出会ったときの感覚は、長いあいだ会っていなかった友人と再会したときの感じと似ている。しかもこのなつかしさは、必ずしもわれわれがかつてそのまちを訪れたことがあるとか、以たようなまちに住んでいたとかの経験があるかどうかということとは別に、われわれの中で深く眠っていたものを呼び起こされたというべきようなものである。

果たして、このなつかしさや親しみは何に由来するのか、長屋地区の持つ不思議な魅力の正体はいったい何であるのか。

現在われわれの多くは、好むと好まざるにかかわらず、都市で暮らさなければならない状況にある。しかし、その都市は、決して、広くてじゅうぶんな余裕があるわけではない。われわれは、その限られた空間をうまく使って住みこなしていくよりほかはないのだ。もはや独立住宅に住むことは困難であり、集合して住まなければならない。そして、住むからには快適な暮らしをしたいし、好ましい環境を手に入れたいと思う。ところが、われわれはいまだ都市に住むための〈住み方〉や集合して住む〈住み方〉を成熟した文化として持ち得ていないし、物理的な空間としても望ましい型を得ていない。だからこそ、われわれは、この古くて平凡なまちから学ぶ必要があると考えるのである。

大阪のほぼ中心部にあたるところに、戦災を免れた谷町という地区がある。寺社が多く、歴史的な地区として知られているが、ここには、戦前からの長屋が相当数現存しており、下町の情緒が色濃く残っている。私たちは、ここ数年、〈谷町踏査団〉あるいは〈谷町研究会〉と称して、この谷町を対象として踏査・研究を続けているが、ここに書き記そうとするのは、これまでの踏査によって得たことを通じて、長屋あるいは集合住宅のアメニティについて少し考えてみようというものである。

言うまでもないが、まちを歩き、路地に入るといろいろな表情・風景に出会う。ただ外から眺めながら通り過ぎるかぎりでは、長屋は相変わらずやさしい表情である——羽目板の壁、格子、石で舗装された路地、ところ狭しとならべられた植木鉢、そして床机、椅子、たらい、ポリバケツ、洗濯機、三輪車、自転車、等々。ところが、調査員として路地に入るならば、事態は一変する。そこで出会う人たちが親しい態度であったり、よそよそしかったり、それぞれ異なった対応を示すのはあたりまえのこととしても、一見やわらかな風情でならんでいたものたちが、その裏側には決してやさしく心地よいばかりではない、さまざまな情念を隠し持ったものとしてあらわれてくるのである。

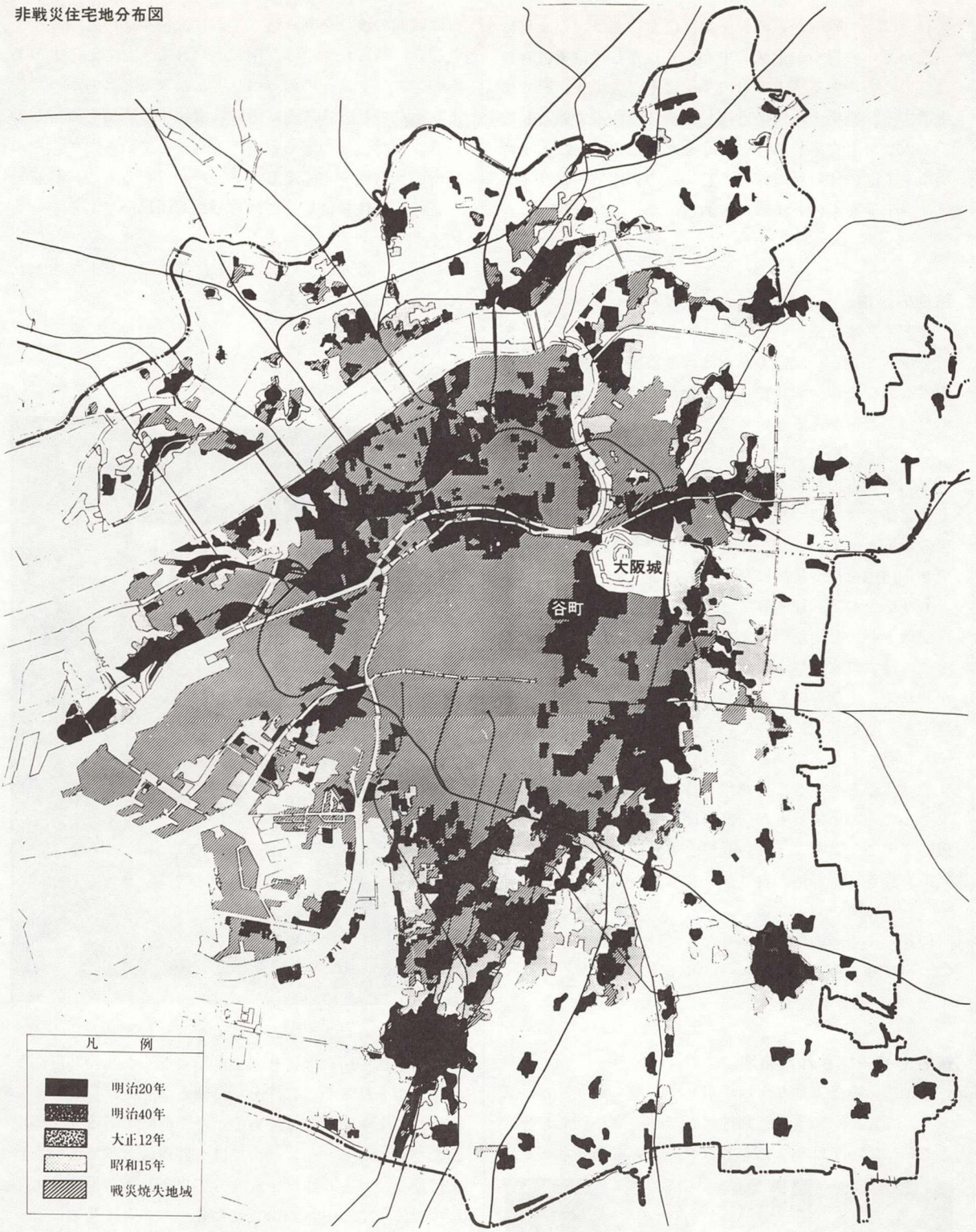
地縁性または生活における焦点の存在

いったい、われわれが古い町屋や長屋をみたときに感じる良さやなつかしさは、単に古いものに対するノスタルジアというのではなく、そこで暮らす人びとの生活と空間がうまくなじんでいることを見てとることができるためではあるまいか。

たとえば、〈つきあい〉。一般に長屋に住む人びとの居住年数は長く、親の代からとかおじいちゃんのときから住んでいるというのはザラである。こういう人びとのあつまりであるから、当然つきあいも長い。したがってそこには、お祭りや旅行から日常の会話までさまざまなレベルでの共有体験を通じて、ひとつのまとまりを持ったちいさな〈コミュニティ〉が生まれる。また、空間的にもコミュニケートする機会が増すように構成されており、われわれはこのことを視覚的に理解することができる。そのようにして、長屋では、集合して住む〈住み方〉を文化として持ち、共同体としての利益を損なうことなく暮らしている。他人と完全に隔絶するのではなしに、また同一化してしまうのでもなく、おたがいがさりげなく気をつかいながら生活しているのである。

現代の都市における交通の発達と機能の分化による職住の分断は、ある場所での生活を部分的なものとし、ひ

非戦災住宅地分布図



ととひととのつきあいの場を多極化し、友人を散在させ、その結果、場所が相対的なものとなり、生活の拠点としての中心性が非常に稀薄になってしまった。本来、生活の中心となるべき場所があって、そこを離れて外に行けば行くほど〈つきあい〉も稀薄になるというのがあたりまえのことではあるまいか——遠くの親戚より近くの他人と言うように。〈つきあい〉や生活の場面が拡がることは悪いことではないが、この都市における人間関係の中心性の喪失は、住む都市としての歪みと考えてよいのではないか。

このような状況は都市を魅力あるものとしなくなった。働くための場所、遊ぶための場所、寝るための場所がすべて別々で遠く離れてしまい、まちが単一の色彩しか持たなくなってしまった。都市の中心部は事務所ビルが立ちならび、副都心はプレイ・ゾーンとなり、郊外が住宅地となる。これではひとは、まちと全体的につきあうことができず、地縁関係も失われてしまうことは当然である。ひととまちの関係は機能の授受を通じてしか成立しない。当然、まちを、その場所を愛することもできないのだ。ひとが愛してもいないまちを美しくしていこう、楽しい場所としていこうなどと思うはずもなく、したがってまちはいつまでもよそよそしいままで、環境は悪くなるばかりである。そこに〈アメニティ〉が感じられるはずもなく、また発生する道理もない。

いっぽう、戦前からの長屋地区においては、いま自分が住んでいる場所が生活の中心、焦点として確実に存在しているのである。人びとの多くはそこで働き、そこで生活する。職場と住居が近接し、自分の住んでいるところの人びとと交感しあうということ、このことは、その場所を人間の住む場所らしくし、その雰囲気をよりインティメートなものとするのである。

路地の表情

ひとくちに長屋といっても、それぞれがさまざまな表情を持っている。規模もちがえば、景観を構成している要素も異なるが、大雑把に言うならば、長屋の表情にはふたつの表情があるといってよい。

ひとつは、格子と植木鉢だけの清澄な景観である。夏の早朝や夕方の打ち水をしたあとの景色の清々しい美しさは言語では言いつくせないほどである。いわば京の町家の風情と似ているが、これは持家や通り抜けることのできる路地を持つ長屋に多く見られる。

もうひとつは、植木鉢にとどまらずバケツやたらい、洗濯機といった生活機器までが外に露出した景観である。そこには、町家の静かなたたずまいはないけれど、そのかわりに、生活そのものの匂いが濃密に漂っていて、生き生きとした活気に満ちている。それがよりインティメートな感じを与えている。こういった景観は、借家や通り抜けることのできない路地を持つ長屋に多く見られる。

そしてそのいずれもが、高層団地やタウンハウスの無機的でどこかよそよそしい表情ともちがって、ある種の気持ち良さ、居心地の良さ——すなわち、〈アメニティ〉——を持っているのである。

つぎに、その表情をつくりだしている要素のいくつかについてみてみる。

■石でペーブされた路地

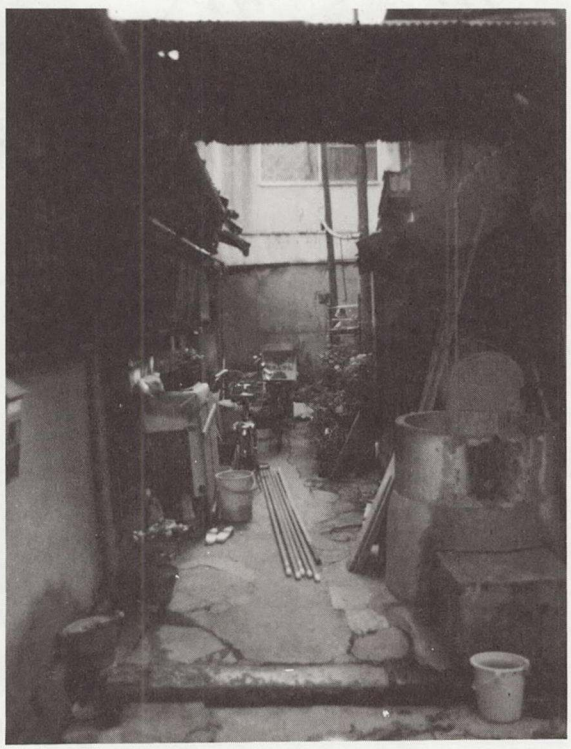
路地に入ると表通りとはテクスチャがちがうことに気づく。たいていの場合、路地は石でペーブされており、ところによってはレンガを敷きつめている場合もある。



石は時間の流れを刻み込んでおり、何年間にもわたって、人びとに踏まれつづけ、雨にうたれてきたことによって、あのアスファルトののっぺりとした表情とはちがった、それぞれのピースごとに微妙に変化する表情を獲得している。また、他のどんな道ともちがっているので、その場所の独自性を主張する。そのため、見るものの目を楽しませ、居住者に対しては自分たちの場所であるというアイデンティティを与える。

しかし、近頃は、残念なことにアスファルトで覆われてしまったところもある。

■井戸



井戸ももう見ることが少なくなってしまった。上水道が整備されてからは、共同炊事場もなくなり、井戸の多くはつぶされるか、フタをして使えなくされるかしてしまった。衛生上のことであるとか、危険であるとかの理由のためであろうが、かつては〈井戸端会議〉という言葉の通り、コミュニケーションの場としての役割は大きかったはずである。つぶされた井戸のあとに花壇になったところもある。

ところが、いまでも井戸を使っているところでは、相変わらず日常のコミュニケーションの場として機能を果たしており、またそこの景観にある種の情緒を与えるのに役立っている。もちろん、そこで炊事をするということはないけれど、打ち水をしたり、植木に水をやったり、そうじ用に使ったり、頻繁に使われており、そのたびに誰かと声をかけあうようになっているのである。

■植木

路地のいたるところには、大小の植木鉢がところ狭しとならべられている。果てはバルコニーをつくり、その



上にびっしりとならべられることもある。長屋の人びとの緑に対する執念はすさまじく、その景観は壮観ですらある。これらのおびただしい数の植木鉢の花や緑は、空間を彩り、見るものの目を楽しませてくれる。本来ならば植物は大地に根ざすべきであり、都市の中にもっと自然が存在しなければならないことは言うまでもないことだが、それでもこれらの植木鉢群はとてつもない迫力をもってわれわれに迫ってくる。まるで圧縮された住環境の恨みを無言のうちに噴きだしているかのように。しかし、それでもやはり、ビルとビルのコンクリート・ジャングルを抜けて、こういう緑に出会うとまるでオアシスのように感じられるのである。

また、居住者にとってみれば、その存在がおたがいの親密さを増すようにはたらく。植木鉢に咲く花をみながら世間話の花を咲かせることもあるし、植木の手入れや水をやる際には必ず外（路地）に出ることになり、顔を合わせる機会を増やす。

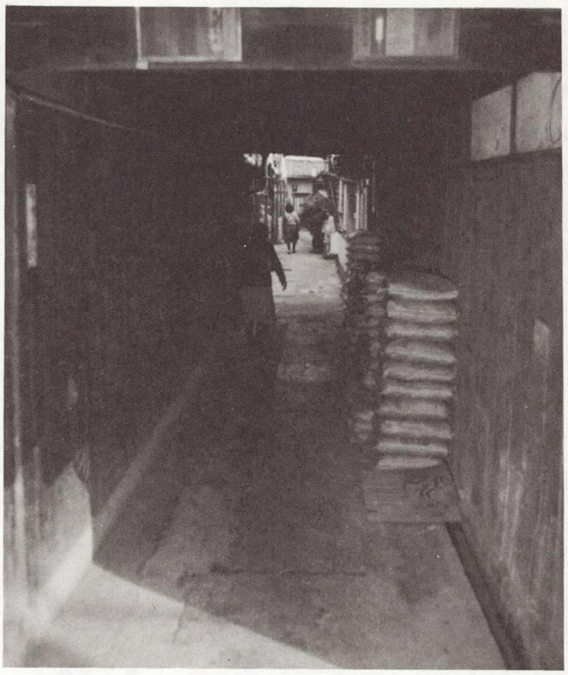
私たちの踏査によれば、植木鉢に限らずいろいろなものが路地に置かれ、それとともに生活の一部が住居の外へ出てくることは、居住者間のコンタクトの密度を高め、そしてたいていの場合何らかの会話が交わされるようになっている。

■床机・椅子

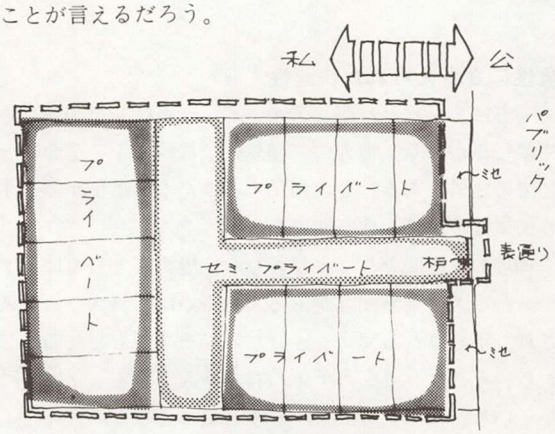


床机や椅子も下町の情緒をしめす光景をつくり出すのに欠かせないものとなっている。たしかに路地の一角には床机や椅子が置いてあることが多い。昼間は子どもたちがままごとなどの遊びの道具として使っていることが多いが、とくに夏の夕方には夕涼みをする大人たちの姿がよくみられる。そのときはたいてい複数の家族のものがあつまって歓談するのだけれど、けっこう長い時間を過ごし、時には1時間を超えてもまだ話しつづけていることもある。

■木戸



たいていの長屋には、路地と表通りの境に木戸があり、長屋全体の門としての役割を果たしている。いまは戸がおろされることはないけれど、完全な公共空間である表通りに対して、私的な空間——その長屋の住人にとっては半公共空間——である路地とを明確に区別している。木戸の内側は、いわば長屋全体を一戸のコート・ハウスとみたときの中庭として存在しており、そのような使われ方をすると同時に、視覚的には一種の共同体としての雰囲気を生み出している。そういった雰囲気が濃密であればあるほど、〈アメニティ〉の度合いが強く、私たちが調査者として木戸をくぐり抜けたとたん、快適さを感じながらも他所の家へ入ってしまったという気にならざるを得ない。そのように空間が、パブリック——セミ・パブリック（セミ・プライベート）—プライベートの三つの段階構成となっているからこそ、路地への生活機器その他のものの置き方や使われ方が可能になり、居住者同士のコミュニケーションが活発に行われるのだということが言えるだろう。



空間の段階構成

不完全な住居

ところで、長屋を個々の住居としてみたとき、その不完全さ、ひどさは相当なもので、果たして住居と呼べるものかということさえ疑わしい。その実情は木賃アパートや文化住宅とほとんど変わらない。第一に広さの絶対的不足である。家族の人数に対して、室数が少なく、かつ狭い。したがって、複数就寝や重複使用が行われており、各人の独立した個室をとることはむづかしいので、家族のプライバシーはほとんどない。そのため、持家・借家に限らず、各家庭ごとにその事情に応じて増改築を実施して、その解消をはかっているが、それでも十分でないことは、路地にはみ出たものを見れば明白である。さらに、この増築は、ただでさえ狭小の、あるかなしかの裏庭をつぶし、環境をさらに悪化させるものになっている。

第二に、プライバシーの無さである。同一家族内でのプライバシーは言うに及ばず、住居相互間のプライバシーもほとんどない。少し大きな声で話したり、テレビのボリュームをちょっとあげれば、たちまち隣家へひびく。また、これとは別のプライバシーの無さがある。それは、こういう地縁性の強い、なかば閉じた社会にはつきものであることだが、「誰かが何かした、言った」という類のことがすぐ伝わってしまうのである。

第三に、過密であり、建物の老朽化が激しいことである。そのため、居住者は常に火災震災がおこったときのことに対して恐怖を抱いている。また、側溝の整備が十分でないためにちょっとした雨がふればすぐ水が上がってきて、はなはだ不衛生である。日照・通風の悪さは言うまでもなく、とくに昼間の生活の中心となる一階部分は、日照はほとんど期待できず、多くの家が朝から電灯をつけている。

このように、近代的な住居としては、長屋はまことに不完全な住居である。いまはやりの言葉で言えば、とても「ストック」に足る良質な住居とは程遠い。しかし、だからといって簡単にクリアランスを行えばよろしいというわけにはいかない。そこには、近代的な建築計画学にもとづいてつくられた高層団地やタウンハウスにはみることのできない雰囲気——これこそ〈アメニティ〉と呼んでよいのではあるまいか——が確実に存在しているのである。これを損なわずに、クリアランスするということは、じゅうぶんな準備と配慮が必要となる。

負性にささえられた快適性

一方に、われわれが〈アメニティ〉と呼ぶなつかしさや親しみがあり、他方に、理想とは程遠い不完全な器としての住居がある。この相反するふたつの事柄が並存する長屋は不思議な住空間である。

物理的な空間としてよりましな住居の例としては、タウンハウスや高層団地がある。(あるいはあの次々に製造され、市販されるマンションだってそうかもしれぬ。)しかし、そこにコミュニティの存在をみてとることはむづかしいし、〈アメニティ〉を感じることもない。

また、長屋と同様に不完全な住居としてはいわゆる木賃アパートがあるけれど、ここにも〈アメニティ〉は存在しない。

これらのふたつの住居に共通する〈アメニティ〉の不在は、われわれ見るものにとってだけでなく、おそらくは居住者自身が最も感じているはずである。

なぜこういう現象がおこるのか。

長屋にあって、計画団地や木賃アパートにないものを大雑把に言うと、つぎのようになる。

Ⅰ．コンタクトの密度の高さ
Ⅱ．地縁性
Ⅲ．集合して住む〈住み方〉

この三つの事柄は相互に絡みあい、影響しあっているが、とくにⅠ、Ⅲは長屋の空間の豊かさのためよりは、逆に貧困に起因していると考えられる。

コンタクトの密度が高いということは、住居が狭小で生活が外にはみ出ざるを得ないということに多くを負っているのである。また、長屋地区や下町に特有の人情や生活共同体的なヨコのつながりも、相互のプライバシーがないために、おたがいのことを気づかいながら暮らすよりほかはなかったせいであると考えられる。そのために、共同体の利益と衝突することのないような住み方が生まれてきた。たとえば、テレビのボリュームを少し絞り気味にすることから、よその家に病人が出たときにみんなでめんどうをみることまで。

庶民的な人情としてよく開放的である、人なつこい、世話好き、といわれるところのものも、一人ひとりの弱さや空間の貧しさから逃れるために、集団で暮らしていこうとすることから出てきた知恵ではなかったか。

地縁性も長屋のコミニュティとしての性格を強く決定づけており、それを成立させるのに非常な有効性を持っているが、これももともとは都市に住む利便性と経済性とのかねあいから出てきていることで、地縁を大事に思っていると同時に多くの人は経済的に余裕があれば広いマンションに住みたいという願望を持っている。

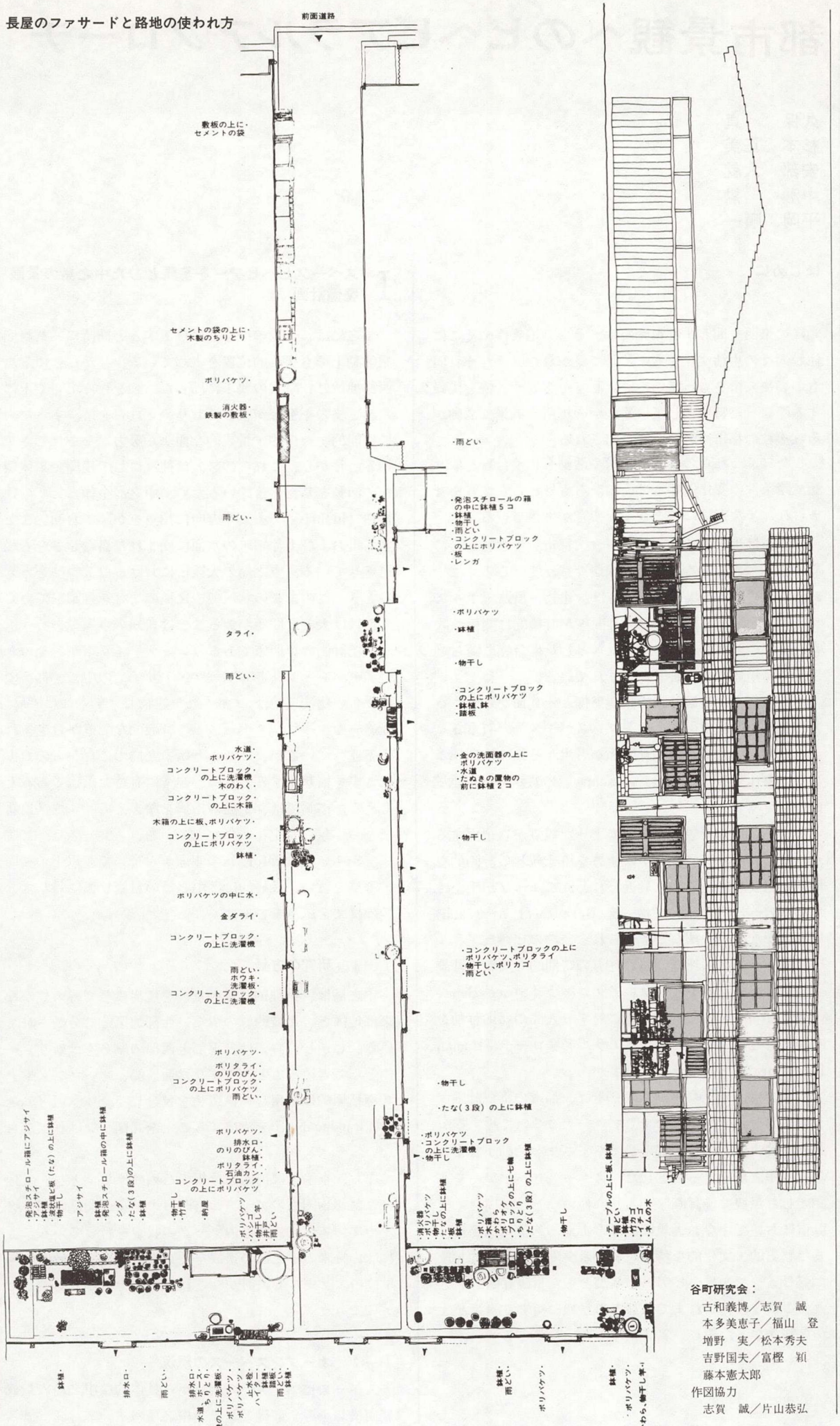
したがって、長屋のアメニティは長屋の住宅としての負性にささえられて存在しているということができる。決して、空間の豊かさや良さがささえているのではないのだ。つまるところ長屋の良さは、その情緒にしか見出せないのかもしれない。そして、その情緒は何度もくり返してきたように、空間の貧しさから生じてきたものである。とするならば、われわれはそこに何を学べば良いのか。

長屋には〈住み方〉の文化があり、借り物ではない生活が生き生きと表出しているが、これを表層的にとらえて、セミ・パブリック空間と称してオープンスペースをつくってみたところで、何の役にも立たないことを知るべきである。問題は物理的な空間だけで成り立ってはいないのである。われわれが学ぶべきことは、その〈住み方〉とそれに対応した〈空間の段階構成〉をいかにしたらこれからの集合住宅に持ち込めるかということではあるまいかと思うのである。

〈出典〉 ＊都市はなぜ都市であるか〈都市創刊号〉

（ふじもと　けんたろう　大阪市立大学大学院
とがし　さとし　大阪市立大学助教授）

長屋のファサードと路地の使われ方



谷町研究会：

古和義博／志賀　誠
本多美恵子／福山　登
増野　実／松本秀夫
吉野国夫／富樫　穎
藤本憲太郎

作図協力
志賀　誠／片山恭弘

都市景観へのビヘビアラルアプローチ

久保　貞
杉本　正美
安部　大就
中瀬　勲
平岡　順一

はじめに

洋の東西を問わず都市や町は、その立地条件やそこに住む人々の生活文化をもとにして築かれた、それぞれ固有の姿や表情をもっている。そしてその姿や表情を代表する際立った特徴としていくつかの場所や風景や活動が、それぞれの都市や町の中に見出される。

しかし、これらの場所や風景や活動も、それらを取り巻く諸条件の変化に伴って、内からも外からも変容をせまられ、また実際にさまざまな変容が生じている。

〝都市は生き物である〟[5]とか、〝都市を生き物として取り扱うべきである〟との指摘がなされているように、われわれの生活の場である都市は、建物・街路・オープンスペース・車・植物・水・人間等が有機的に関係づけられ、その関係を通して生き生きとした生命感に満ちた快適な環境体であることが望まれている。

これを都市の景観計画や景観整備という面から考えると、個々の建物や街路やオープンスペース等の質もさることながら、これらの相互関係から生じる知覚的環境としての全体景観（Total Landscape）の質が非常に重要になってくる。

そこで、全体景観の質をどのような観点から把握するか、すなわち、アプローチの仕方を導く新しい計画的な創意が必要とされるが、最近われわれグループが手がけているビヘビアラルアプローチ（Behavioral Approach）は意にかなった手法だと考えられる。このビヘビアラルアプローチには、空間の使われ方の時間的な更新を基調としたスペースビヘビアラルアプローチ（Space Behavioral Approach）と、環境に対する人間の反応行動を基調としたヒューマンビヘビアラルアプローチ（Human Behavioral Approach）の両者がある。

本論では、2つの事例を取り上げ、都市の景観計画・整備におけるビヘビアラルアプローチについて論ずるが、ひとつは大阪市の都心部としてさまざまな活動が営まれている中之島をケースとした〝スペースビヘビアーを基調とした景観整備計画〟であり、他のひとつは同じく大阪市において今なお大規模な緑と土地の起伏に恵まれ、また歴史的・文化的な特色を有する夕陽丘をケースとした〝ヒューマンビヘビアーを基調とした景観評価〟である。これらは、これまでの都市の景観に対する諸論とはかなり異なった新しいアプローチを示している。

I　スペースビヘビアーを基調とした中之島の景観整備計画

中之島は、大阪の中心部に位置すると同時に、業務商業活動上でも中心的位置を占めている。しかし、中之島西部地域は、時代の要求に即した活動を行っていく上にさまざまの不都合が生じており、それらを解決するために機能的・技術的・景観的な面から努力がなされてきている。しかし、これらの努力は往々にして民間企業体個々の活動を基盤としているため、中之島全体としての独自性（Identity）を失う方向に拍車をかけており、また堂島川および土佐堀川の水面に囲まれた島らしさをも後退させている。中之島の大阪市における位置づけを考えるとき、このままの状況で中之島の変容を容認していくことには大きな問題があることは衆知の事実であろう。

環境計画の専門家であるガレット・エクボが、その著書アーバン・ランドスケープ・デザイン[6]の中で、都市の好ましい物的環境は、「すぐれた建物」、「すぐれた植栽」、「適当なオープンスペース」の有機的な配置から生まれると述べているが、このことは中之島のこれからのあるべき姿を構想化するときに、非常に有益な指摘であると考える。本論では、上述の指摘を踏まえて、「地区更新に基づく景観安定化のプロセス」を、スペースビヘビアー（Space Behavior）の側面から把えて、以下の検討・考察を行い、最終的には中之島の景観整備に対して5つの提案を試みている。

I－1　研究の方針

中之島は、物理的には御堂筋を境界にして緑の豊かな東部地区と、比較的緑の少ない西部地区とに分断されている。しかし、将来は、東部と西部の融合をはかり、一体として考えること、つまり水面、緑、オープンスペースを積極的に活用し、構造物を包含して全体景観（Total Landscape）を構成することを意図しなければならない。

なお、本論では街区を分析のための原単位とし、土地および建物関係のデータ、道路および交通関係のデータ、オープンスペース関係のデータの収集を行っている。これは、将来の中之島の景観を考えるに際して、最低街区単位のスケールで検討がなされるべきであると認識したからである。

I－2　オープンスペースの現況

スペースビヘビアーの観点から具体的な中之島の景観整備構想を導く前提として、中之島のオープンスペース

の現況を認識しておく必要がある。本論では、つぎの視点から検討を試みている。

■樹木分布
■オープンスペース分布
■オープンスペース主要用途

中之島における樹木の分布は、御堂筋を境界に東部と西部で大きく相違している。つまり、東部のいわゆる中之島公園一帯では、防潮堤の堤外地である水面に沿った地帯に多くの樹木の分布がみられる。これは河川の複断面化による結果であり、このような複断面化は、緑やオープンスペースを確保する場合の有効な手法であることを示唆している。一方、中之島の西部では樹木の分布は極端に少ない。

オープンスペースの分布は、中之島の場合、その存在生態から、街区内に分布する建物規模との対応関係で言及することが可能である。分布特性としては、大規模建築物が分布する街区ではオープンスペースが少なく、小規模建築物が分布する街区では、オープンスペースもまたこまぎれ的に分布している点が挙げられる。

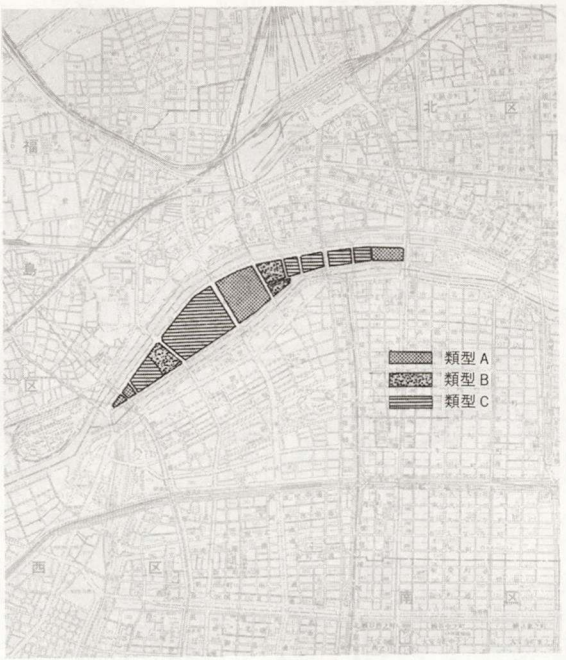
これらオープンスペースの主要な用途に関しては、駐車場、植栽スペース、資材置場等に分類できる。駐車場・資材置場等は相互に隣接して、西部地域に多く分布し、景観的には決して好ましい状態であるとはいいがたい。とくに、河川沿いの街区が未整備な状況に置かれていることは景観上問題を残している。

以上のことから、オープンスペースが比較的多く存在している街区でも、駐車場や荒地といった土地利用が主であることが特徴として認識できる。このことは、人々のための、あるいは景観をサポートするといった意味でのオープンスペースがほとんど存在していないことを示している。しかし中之島の将来に対しては、これらのオープンスペースが景観的に重要な鍵になることはいうまでもない。

Ⅰ－3　地区特性の把握

中之島の将来に対する構想を提案するに際しては、中之島に対する各種のアイデアを最も妥当に導くために、またオープンスペースの創出を計画的に導くために、中之島の各地区が保有する地区特性を明確にする必要がある。このような意図から、ここでは中之島の現況を踏まえて地区の類型化を試み、これを地区特性として把握しようとするものである。地区の類型化による検討は、現存する建物の更新性に留意した類型化と、土地の所有形態からの類型化、さらにはオープンスペースを基調とした類型化を試みているが、本論では前二者を中心に、以下考察を試みる。前者の建物の更新性による類型化は、建物が建て替えられる時点でオープンスペースの確保の遅速が明確になることに立脚するものであり、後者の土地所有形態による類型化は、その土地所有形態の相違により、オープンスペースの確保の容易性が異なることに立脚するものである。

類型化に際しては、建物の更新性に関して建物建築年代、建物素材および構造の資料を作成し、土地所有は社会的要素を示すものとして抽出し、これらの両者によるマトリックスを通じて図Ⅰ－1に示される地区の類型化を行った。



図Ⅰ－1　地区類型

なお、類型化に際して建物構造は木造と非木造に分け、建物建築年代は50年を建ち替わりの目途とし、さらに土地所有は公共、大企業、個人、小企業に分けて指標化を試みている。

ここで、図Ⅰ－1に示される類型Aに該当する各街区は、建物が木造あるいは非木造のどちらであってもよく、建築年数が50年以上経ており、土地は公共が所有する街区である。類型Bに該当する各街区は建物が木造あるいは非木造のどちらであってもよく、建築年数が50年以上経ていて、土地が民間所有の街区である。類型Cの各街区は、建物が非木造でかつ比較的新しく、しかも土地が民間所有の街区である。

Ⅰ－4　地区更新に基づく景観安定化のプロセス

地区の類型化では、建物の建ち替わりの速さを、建物の老朽化の度合い、あるいは土地所有形態より導いたものであるが、ここで示された各類型を将来の中之島が整備されるべき方向性に対応させて考察すると、以下のごとくである。

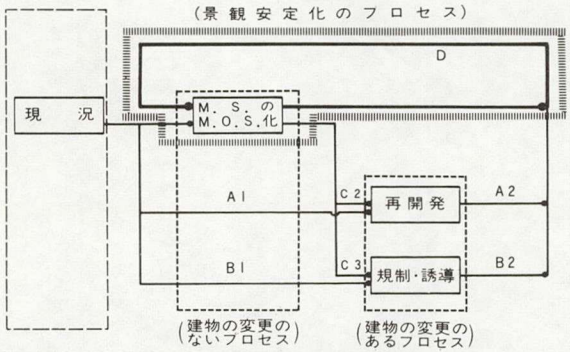
■類型A：再開発
■類型B：規制・誘導
■類型C：ミセレーニアス・スペース（Miscellaneous Space）のミセレーニアス・オープンスペース（Miscellaneous Open Space）化

具体的に各類型と整備の方向性との関係について述べると、類型Aに該当する各街区は、公共の土地所有が中心となったゾーンであることから、全面的な再構成が可能な地区で、オープンスペースの確保も容易にできるゾーンである。

類型Bに該当する各街区は、民間の建築活動を規制・誘導することにより、建築物の単体的な処理ではなく、街区あるいは中之島全域にわたるスケールで景観およびオープンスペースの連続性あるいは統一性を創出することが可能なゾーンである。

類型Cに該当する各街区では、建物の建ち替わりが比較的遅い地区であると考えられることから、現存のミセレーニアス・スペースをミセレーニアス・オープンスペースとして活用していく方向を検討する必要のあるゾーンである。

図Ⅰ－2は、整備の方向性としての再開発、規制・誘導、ミセレーニアス・スペースのミセレーニアス・オープンスペース化の三者の関連性を模式的に示したものである。ここに示されるプロセスに基づいて景観の安定・変更について検討することが可能となるのである。図Ⅰ－2には、主に2つのプロセスが示されている。第一のプロセスは、ミセレーニアス・スペースのミセレーニアス・オープンスペース化といった建物の変更を伴わないプロセスであり、第二のプロセスは、再開発、規制・誘導といった建物の変更を伴うプロセスである。



図Ⅰ－2　地区更新に基づく景観安定化のプロセス

図中に現況のフレームが設けられているが、これは本研究を行った時点の時間的位置を示すためのものであり、当然すべての街区は時間軸上でミセレーニアス・スペースのミセレーニアス・オープンスペース化、再開発、あるいは規制・誘導のいずれかのプロセスに該当している。また、景観安定化のプロセスとしてミセレーニアス・スペースのミセレーニアス・オープンスペース化が示されているが、このプロセスを繰り返すことは、中之島のような地区で良好な景観を維持するために重要なことであると考える。すなわち、このプロセスでは常にオープンスペースと建物等との間での有機化を時間軸上で考慮することが可能であり、全体景観の構成に際して有効であると考えられる。

Ⅰ－5　中之島に対するアイデア―アイデアシート―

前述の景観安定化のプロセスでは、土地および建物の更新性に着目した、いわゆるスペースビヘビアーの側面からの検討であった。ここでは、中之島の将来のあり方を提案する目的で、以下の検討を進めている。

つまり、本研究に参加した全員が中之島の現地踏査および文献調査、そして現況解析を通じて得たアイデアをブレーンストーミング等を通じて提出している。これらのアイデアの中には、大阪都市圏におよぶものから、単体としての一つの建物、さらには樹種に関するものまで、スケールはもちろんのこと、内容についてもさまざまであった。これらのアイデアを詳しく検討すると、アイデアが意図していることや関連することで、いくつかのグループに分けることが可能である。したがって、着眼点をアイデアの有するエレメント（Element）と目標（Goal）に置いて整理すると、以下のようになる。

エレメント（Element）に関しては、つぎの4項目に分類が可能である。

①水に関するアイデア
②緑およびオープンスペースに関するアイデア
③諸施設に関するアイデア
④ポリシーに関するアイデア

また、目標（Goal）は、つぎの5項目に分類できる。

①レクリエーション（Recreation）
②人々を引きつけるもの（Attractive Facility）
③景色（View）
④環境の改善（Environmental Improvement）
⑤島らしさ（Symbol for Island Identity）

なお、アイデアが提示された位置は、中之島西端部、大阪大学敷地、および大阪市役所と日本銀行周辺部に多く該当している。これらのアイデアは全体で30が提出された。それらは以下に示す通りである。

①水面利用
②水の導入
③水面へのアプローチ
④グリーン・システム
⑤両岸の周辺植栽
⑥中央緑道
⑦セットバックおよび前庭の創出
⑧西部に公園
⑨市役所に緑地空間の創出
⑩デッキの設置
⑪建て替えの提案
⑫阪大跡地の文化ゾーン化
⑬防潮堤の修景処理
⑭ピアの修景処理
⑮対岸倉庫の壁面処理
⑯建物付帯設備のコントロール
⑰歩道の整備
⑱自動車交通のコントロール
⑲人と車の分離
⑳梅田地区から中之島へのアプローチの改善
㉑周辺部から中之島西部地域へのアプローチ
㉒地域特性の把握とそれに応じた手法
㉓建物のスカイライン規制
㉔建物壁面（ファサード）の処理
㉕広告物、電線等の規制
㉖建物の方向性、広場のとり方
㉗太陽光線の導入
㉘橋のデザインと演出
㉙中之島のシンボル
㉚広域スケールでの緑のネットワークの確立

多くのアイデアが提出されたが、これらのアイデアをより一般的にかつ共通のアイデアとして整備する目的で一定のフォーマットに基づいたアイデアシートの作成を行った。このアイデアシート（**図Ⅰ－3**）を通じて、個々のアイデアの位置づけ、そして類似した目的および内容を有する複数のアイデアから新たな次元のアイデアの

提出、さらにはより一般的なレベルのアイデアへの変換が可能になる。

具体的には、アイデアシートは病人に対する診断カルテに類似させたもので、アイデアが引き出された誘因ともいうべき地域の有する問題点、その原因および詳細、そして問題点の解決方法を文献等より引用して示している。

Ⅰ－6　中之島構想の提案

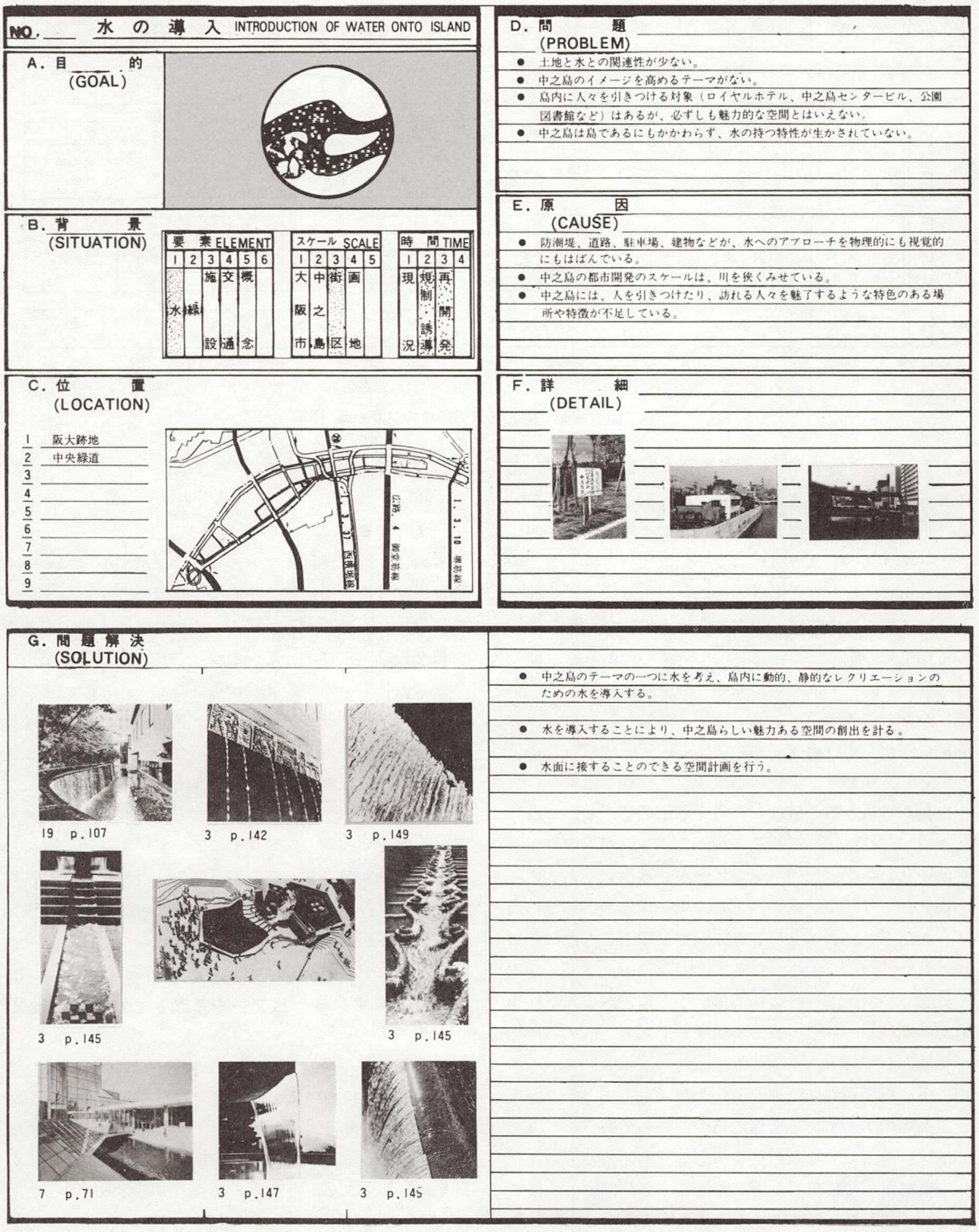
中之島の景観整備に関する具体的な構想の提案は、Ⅰ－3およびⅠ－4で述べた地区特性、すなわち、スペースビヘビアーに基づく検討と、Ⅰ－5で述べたアイデアシート、さらには既存の諸提案を背景に行っている。

図Ⅰ－4には5つの基本構想を示しているが、それらは以下の通りである。

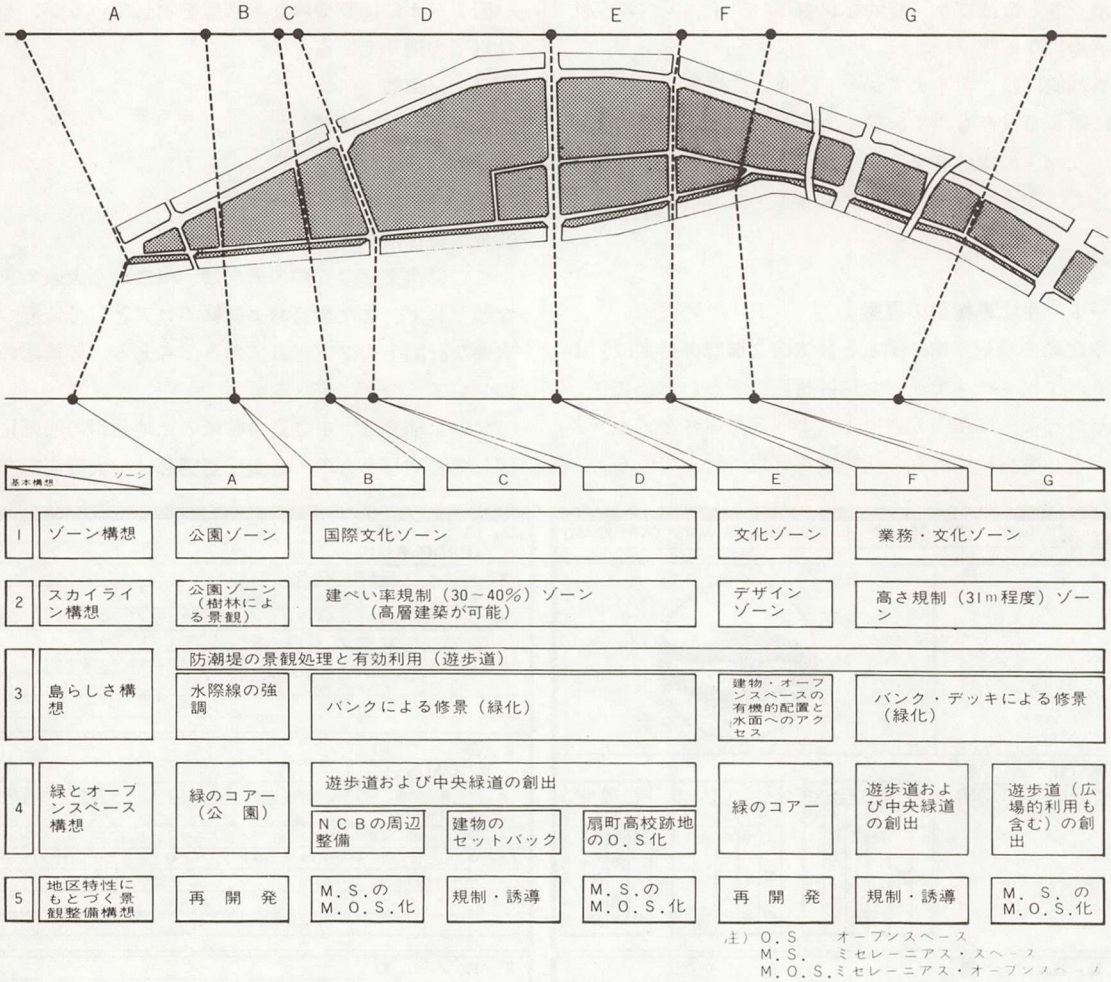
①ゾーン構想
②スカイライン構想
③島らしさ構想
④緑とオープンスペース構想
⑤地区特性にもとづく景観整備構想

ここに提案した5つの構想は、中之島を大阪の象徴的な顔として、また業務および緑のコアとして位置づける重要な計画上のフレームであると考える。各構想の概略について、つぎに述べる。

ゾーン構想は、中之島の将来の土地利用の明確化を意図して提案したものである。本構想は、大阪市総合計画



図Ⅰ－3　アイデアシート



図Ⅰ－4　中之島構想作成のフレーム

局が作成した土地利用の機能構想を受け継いでいる。このことは、本構想が各ゾーンの土地利用の方向づけを明確にしているとともに、各ゾーンでの土地利用に対応したオープンスペースの確保および配置等を考える場合の有効な指標になり得ると考えたからである。

スカイライン構想は、中之島を島周辺部から見た場合の可視景観の統一とオープンスペースの創出に伴う緑の導入等を意図して提案したものである。具体的には、中之島全域のスカイラインを、各ゾーン特性に対応して計画的に演出しようとするものである。

島らしさ構想は、前述のスカイライン構想と同様に、中之島を可視景観の側面から考える構想である。これは防潮堤の改修に伴う遊歩道の整備および防潮堤の修景を目的とした中之島周辺部全域にかかわる構想である。この構想により、中之島の島としての一体感および緑に囲まれた島としてのイメージを向上させることを意図している。

緑とオープンスペース構想は、つぎに述べる景観整備構想と関連していて、緑およびオープンスペースの確保を目的としている。本構想は、前述のアイデアシートの項で示した「西部に公園」、「中央緑道」、「グリーンシステム」等のアイデアの有機的結合の結果である。

地区特性に基づく景観整備構想は、前述の地区の類型化を構想として応用したものである。これは、各地区での建物の建ち替わりの速さと土地所有等からオープンスペースの確保の方向、そして景観整備の方向性などの設定の可能性を検討した構想である。

Ⅰ－7　まとめ

本論は、地域地区スケールの都市景観整備のための方法論の展開を、大阪市の中心部に位置する中之島をケースに行ったものである。図Ⅰ－4に示される5つの基本構想を最終的に提示しているが、これらの構想を提出するプロセスで、つぎの2点が重要な点であったといえる。

つまり、第一はスペースビヘビアーに基づいた地区景観整備のための地区の類型化であり、これは時間的な展望に立った景観整備の方向を示すものである。

第二は、アイデアシートの作成であり、このアイデアシートにより、個人レベルでのアイデアを共通レベルのアイデアに展開することが可能になったと考える。さらに、おのおののアイデアシートが前述の諸構想のより具体的な内容を示すものとして有効である。

II　ヒューマンビヘビアーを基調とした夕陽丘地区の景観評価

大都市大阪において、大規模な自然そのものの緑を保有している地域は、上町台地の一角に位置する夕陽丘地区を除いて他にない。この夕陽丘地区は、土地に起伏があり、しかも古くから政治・宗教の中心であったことから、社寺、遺跡などの文化財が多く存在し、非常に特徴ある景観を呈している。しかしながら、この特徴ある景



写真1　緑豊かな夕陽丘地区



写真2　寺と緑



写真3　口縄坂の景観



写真4　歴史の散歩道



写真5　源聖寺坂の景観

観も近年の道路網の整備などと相俟って地区周辺部からの巨大な開発の諸インパクトにより、徐々にではあるが変化をきたしはじめている。このような状態にある夕陽丘地区の景観を、引き続いて生じるであろう破壊から守るための景観整備の方策を早急に樹立することが、本地区の重要な課題である。

景観整備の方策を樹立する前提に、夕陽丘地区に内在する景観特性としての〝らしさ〟の客観的な把握が挙げられるが、この場合の重要な点は、景観特性としての〝らしさ〟をいかに把握するかにある。一般に、都市および地域の景観特性としての〝らしさ〟は、そこで生活したり、そこを訪れたりする人々の行動の多様性と環境の持つ意味の多様性との相互依存関係から独自の〝らしさ〟として形成されるものである。〝らしさ〟は、人々がそこでの全体景観（Total Landscape）や景観構成要素に対して抱く心的作用と係わり、さまざまな意味づけがなされるものであるといえよう。このような意味内容を持つ景観特性としての〝らしさ〟の把握は、基本的には人間を含めた全体景観に対する人間の反応行動を基調とする、いわゆるヒューマンビヘビアラルアプローチにより考察されるべきであると考える。

以上の観点から本論では、夕陽丘地区の景観特性、すなわち、〝夕陽丘らしさ〟の把握手法を、ヒューマンビヘビアーに基づいて行い、その結果について若干の考察を試みるものである。なおスタディエリアである夕陽丘地区とは、長柄阿倍野線(通称松屋町筋)、長柄堺線(通称谷町線)、泉尾今里線および芦原杭全線（国道25号線）により囲まれた地域を指し、本地区の約⅔は風致地区であると同時に、都市計画公園でもある。本地区を代表する景観は、**写真1～5**に示すごとく、かたまりとしての緑や社寺が傾斜地の中に存在するとともに、一部にはホテル街が立地している。

II－1　有機感覚からのアプローチ

人間が環境あるいは景観にどのように反応しているかを認識するアプローチに、スケールの大小に関係なく人間の視覚面を中心に考察している例は多い。しかし、人間を含めた全体景観に対する人間の反応は、本来人間の知覚機構、すなわち、視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚、想覚、その他の覚などのすべての覚を通して把握されるべきものであると考える。このような観点からのアプローチを、われわれグループは有機感覚からのアプローチと称している。これは、有機感覚が心理学の分野で、「客観的認識として感じられるよりも、主観的に気分として感じられることである」[1]とその特徴を述べていることに着目したからである。また、広辞林によれば、有機感覚とは、「内臓諸器官の活動および状態に伴う多種多様な感じの総称」とあり、人間のあらゆる知覚機構に基づく人々の反応を把握する手だてになることを示唆していることにもよるものである。

しかしながら、この有機感覚からのアプローチの重要な課題は、全体景観に対する人間の反応行動を手法的にいかに把握するかにある。つまり、これは人々がどのようなものに対してどのような反応を示すかを知り、またその反応をどのような手法で把握するかを明確にすることを意味している。一般に、環境あるいは景観に対する人間の反応あるいは意識を把握する手法には、アンケート調査とインタビュー調査があるが、そのいずれを用いるかは調査の目的内容によって判断されなければならない。本論では、有機感覚からのアプローチにより有効と考えられるインタビュー調査を試みている。これは、インタビュー調査がアンケート調査よりも人々の表情や心的反応を正確に把握できることに着目したからである。

II－2　インタビュー調査内容と概要

インタビュー調査の意図が、夕陽丘地区の全体景観に対する人々の有機感覚による反応を把握することにあることから、調査内容もこの意図に基づく考察が展開されるべく、従来の調査内容とはかなり異なった性格のものが必要である。そこで、本論におけるインタビュー調査内容は、基本的にはつぎの視点から作成している。

①現地調査および文献から、〝夕陽丘らしさ〟を表現しているボキャブラリーを抽出する。

②ボキャブラリーは、夕陽丘地区の景観を構成している景観構成要素に関するものと、本地区の全体景観に対する人々の有機感覚からの反応が把握できる具体的な現象

を表現する有機感覚要素に関するもの、に分けて抽出する。

ここで抽出された景観構成要素は、「石段」、「学校」、「坂道」、「自動車」、「神社」、「高台」、「寺」、「ネオンサイン」、「ホテル」、「緑」、「屋根」など26のボキャブラリーであり、有機感覚要素は、「お香のかおり」、「落葉」、「小鳥のさえずり」、「さわやかな風」、「静かな雰囲気」、「花の香り」、「人通り」など24のボキャブラリーである。これらのボキャブラリーに対する質問内容は、前者の景観構成要素については、全体景観に対する各要素の関与程度をインタビューしたのに対し、後者の有機感覚要素については、たとえば「小鳥のさえずり」の場合には、「この地区には緑が豊かですが、樹々を飛びかう小鳥や、小鳥のさえずりを耳にされますか」といったように、各要素ごとに質問内容を作成しインタビューを試みている。

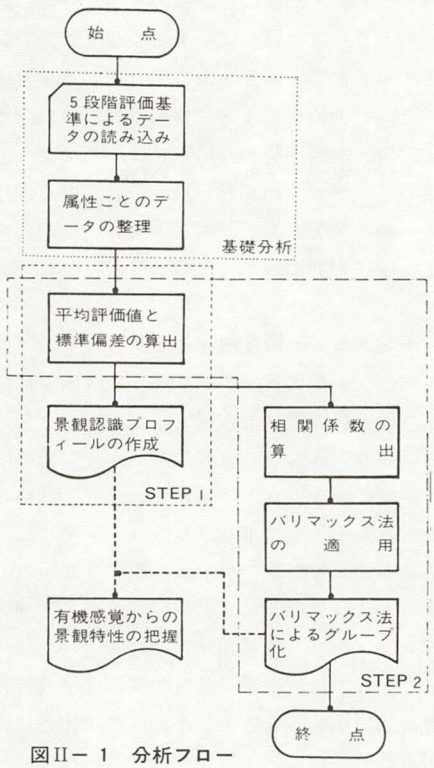
調査対象に関しては、景観に対する人々の反応が、その人の体験や夕陽丘地区に対する認識程度の相違により異なることから、被験者の属性を地区内居住者、通勤・通学者、来訪者に分けてインタビューを行っている。

なお、被験者数は 232名であり、そのうちの有効数は 209 である。また、有効数の属性別の内訳は、地区内居住者65名、通勤・通学者81名、来訪者50名、地区外居住者13名である。

II－3　〝夕陽丘らしさ〟の把握手法

〝夕陽丘らしさ〟を把握するに当たっては、まず分析手法から検討する必要がある。本論では、前述のインタビュー調査内容に基づいて〝夕陽丘らしさ〟の把握を、①全体景観に対する景観構成要素の関与程度の認識からの〝夕陽丘らしさ〟と、②有機感覚要素の感じ方、すなわち、反応程度の認識からの〝夕陽丘らしさ〟とを、**図II－1**に示された分析フローで試みている。

この分析フローから明らかなように、〝夕陽丘らしさ〟は、分析のための資料を作成する基礎分析と、STEP1およびSTEP2の3段階により導かれる。



図II－1　分析フロー

基礎分析は、各景観構成要素および各有機感覚要素に対する被験者の反応結果を5段階の評価基準(「非常に感じる～感じない」の5段階）に基づいて被験者の属性ごとに整理する段階である。

STEP1は、基礎分析で整理された景観構成要素および有機感覚要素に対する被験者の反応結果から各要素の平均評価値と標準偏差を導き、これらより景観認識プロフィールを作成し、被験者の属性ごとの景観特性としての〝夕陽丘らしさ〟を把握する段階である。なお、平均評価値とは、前述の5段階評価基準におのおの1.0～5.0の評価点を与え、各景観構成要素および各有機感覚要素に対する評価点の総計を総被験者数で除した値である。

STEP2は、景観構成要素間および有機感覚要素間の相関係数からバリマックス法によりおのおのの要素のグループ化を試み、景観特性としての〝夕陽丘らしさ〟を把握する段階である。

以上の3段階を通して把握された夕陽丘地区の景観特性について、以下に若干の考察を試みる。

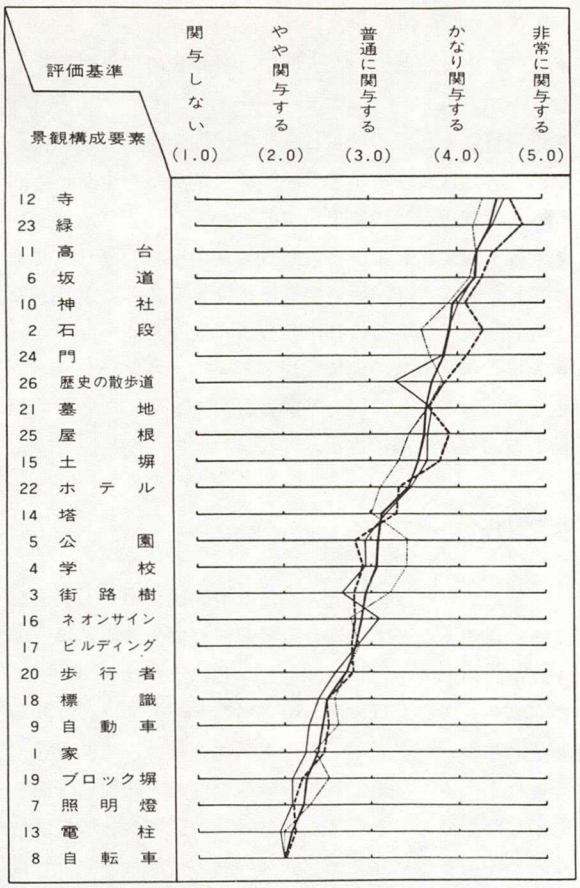
II－4　景観特性としての〝夕陽丘らしさ〟

図II－2および**図II－3**は、おのおの景観構成要素および有機感覚要素に関する被験者の属性別の景観認識プロフィールをオーバーラップした結果を示したものであり、これらは前述のSTEP1に対応するものである。また、**図II－4**および**図II－5**は、STEP2に基づいてバリマックス法により各要素がグループ化された結果を被験者の属性別に示したものである。

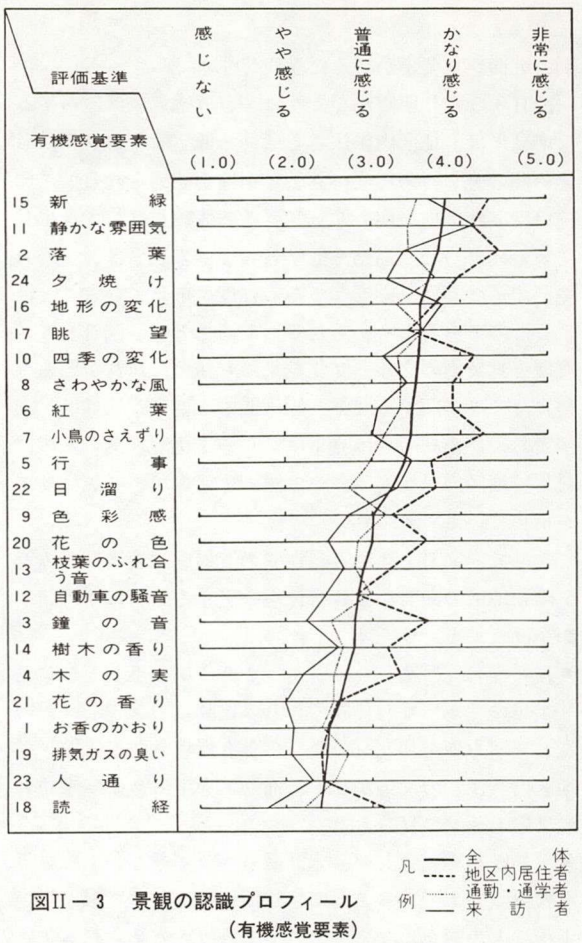
なお、参考までに、バリマックス法によりI～Vまでのローテーションで導かれた各景観構成要素の因子負荷量の一例を**表II－1**に示している。表中の□で囲まれた各要素は、因子負荷量が0.50以上と高いもので、これら

表II－1　バリマックス法による景観構成要素のグループ化－地区内居住者－

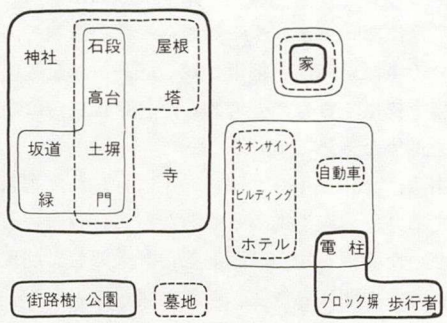
景観構成要素	I	II	III	IV	V
1 家	[0.999]	0.002	0.010	0.010	0.007
2 石段	-0.001	[0.638]	-0.184	-0.044	-0.032
3 街路樹	0.228	0.054	[0.955]	-0.022	-0.030
4 学校	0.078	0.199	0.087	0.078	0.119
5 公園	0.145	0.266	[0.614]	0.116	0.136
6 坂道	-0.035	[0.605]	0.014	-0.075	-0.038
7 照明燈	0.111	-0.010	0.150	0.202	-0.086
8 自転車	0.162	0.042	-0.059	0.079	-0.450
9 自動車	-0.035	-0.212	-0.237	0.096	-0.406
10 神社	-0.021	[0.746]	0.069	-0.045	0.002
11 高台	-0.034	[0.917]	0.012	-0.200	0.007
12 寺	-0.169	[0.846]	-0.029	-0.049	-0.038
13 電柱	0.298	0.071	0.018	0.041	[-0.912]
14 塔	0.031	[0.690]	-0.010	0.136	-0.043
15 土塀	0.048	[0.809]	0.079	0.139	-0.125
16 ネオンサイン	0.221	0.209	-0.078	-0.098	-0.232
17 ビルディング	0.266	0.187	-0.128	0.080	-0.217
18 標識	0.183	0.070	0.008	0.016	-0.472
19 ブロック塀	0.274	0.225	-0.224	0.211	[-0.526]
20 歩行者	-0.031	0.229	0.033	0.115	[-0.669]
21 墓地	-0.034	0.423	-0.268	0.312	-0.142
22 ホテル	0.251	0.134	-0.109	-0.081	-0.247
23 緑	-0.071	[0.535]	0.072	0.016	-0.093
24 門	0.131	[0.614]	0.075	0.535	-0.045
25 屋根	0.118	[0.579]	-0.006	0.790	0.001
26 歴史の散歩道	0.114	0.400	0.091	0.048	-0.244
VARIMAX CRITERION	0.036	0.063	0.034	0.016	0.033



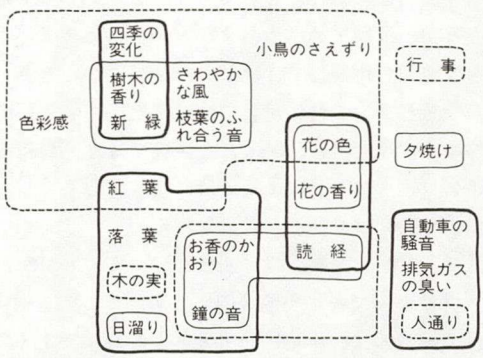
図II－2　景観の認識プロフィール（景観構成要素）



図II－3　景観の認識プロフィール（有機感覚要素）



図II－4　バリマックス法による景観構成要素のグループ結果



図II－5　バリマックス法による有機感覚要素のグループ結果

凡例：地区内居住者／通勤・通学者／来訪者

が図II－4および図II－5に示されたグループ結果に対応している。ここに導かれたグループ結果は、人々の反応の中で何らかの共通の性格を示すものであると考えられる。

以下、図II－2および図II－4から景観構成要素に関する景観特性について、また図II－3および図II－5から有機感覚要素に関する景観特性について考察を試みることにする。

(1)　景観構成要素からみた景観特性

図II－2より被験者の属性による顕著な反応の違いは認められない。このことは、図II－4のグループ結果にも現れている。これら両図より景観構成要素からみた夕陽丘地区の景観特性をまとめると、以下の諸点が挙げられる。

■「石段」、「坂道」、「高台」など地形に関する景観構成要素、「土塀」、「門」など社寺に関するもの、さらには「緑」が、夕陽丘地区の全体景観に大きく関与するものとして認識されていると同時に、これらは別々のものとして認識されているのではなく、一つのものとして認識されている。

■「ホテル」、「ネオンサイン」、「ビルディング」などの景観構成要素は、別の観点から一つのものとして認識されている。しかし、これらに対する人々の反応は普通程度であり、本地区におけるこれらの要素の今後のあり方が示唆されているものといえる。

■一般の市街地において、非常にポジティブな景観構成要素である「電柱」、「照明燈」、「自動車」などが余り関与しないものとして認識されているのは興味深い。これは、社寺、緑、地形等が本地区の景観特性を形成している支配的要素であることを示唆しているものと考えられ

る。

(2) 有機感覚要素からみた景観特性

図II－3より明らかなように、有機感覚要素に対する反応結果は、地区内居住者と通勤・通学者および来訪者との間の感じ方の程度に顕著な相違が認められる。この違いは、地区内居住者が日常生活の体験を通して反応しているのに対し、通勤・通学者および来訪者は、夕陽丘地区の持つ雰囲気を通してある程度反応していることによるものであると考えられる。このことは、図II－5の有機感覚要素のグループ化結果にも顕著に現れている。つまり、寺に関する要素、緑に関する要素が、通勤・通学者および来訪者では見事にグループ化されているのに対し、地区内居住者は、自分達の生活環境を基調に反応を示している。

ここで、図II－3から属性間の有機感覚要素からみた夕陽丘地区の顕著な景観特性を抽出すると、以下の諸点が挙げられる。

■「新緑」、「落葉」、「眺望」、「さわやかな風」、「紅葉」、「小鳥のさえずり」、「花の色」、「自動車の騒音」、「鐘の音」、「樹木の香り」、「読経」の各有機感覚要素に関して、地区内居住者の反応が高く、通勤・通学者および来訪者の反応と極端に異なる。

■「静かな雰囲気」が、来訪者にとって最も強く感じる有機感覚要素であることは興味深い。これは、騒々しい市街地との対比による静けさであろうと考えられる。

■「眺望」は、どの属性においても「かなり感じる」に属しているが、通勤・通学者および来訪者にとっては、市内でも他地区と比較して「眺望」が素晴らしいと感じているのであろう。これに対して、地区内居住者の反応が低いのは、昔は素晴らしかったが現在では地区周辺部に高層建築が建ったことにより、昔に比して悪くなったということを意味していると考えられる。

■本地区は、周囲を幹線道路に囲まれているにもかかわらず、「自動車の騒音」が地区内居住者によって普通に感じられているのは、本地区が大変静かな環境であることを示唆している。

以上の分析を通して、地区内居住者を基調に有機感覚要素からみた景観特性をまとめると、本地区は、『緑の存在によって「新緑」、「落葉」、「四季の変化」、「紅葉」、「小鳥のさえずり」などが感じられるところであり、また、「静かな雰囲気」で、「夕焼け」が美しく、「さわやかな風」が吹き、しかも、「地形の変化」が感じられるところである』といった〝らしさ〟を示すところであるといえよう。

II－5 まとめ
—有機感覚からのアプローチの計画的意味—

以上、夕陽丘地区をケースに、現存する緑および景観を保全する立場から、従来のアプローチとは異なった手法により、現在ある全体景観が人々によってどのように認識されているかを人間の反応行動を通して有機感覚面から考察してきた。この有機感覚からのアプローチに基づいて、景観特性としての〝らしさ〟を客観的に把握することは、以下に示す具体的な景観整備への接近を可能とする。

■人間の感覚に基づいた人間中心の景観の創出が可能となる。

■景観特性としての〝らしさ〟の把握を前提としているため、各地域が保有するアイデンティティを生かした個性のある都市景観の演出が可能となる。

■景観構成要素および有機感覚要素のうち、優れた要素は残して助長させ、悪い要素は排除することにより、長い時間的展望の中での都市景観の育成が可能となる。

■分析のプロセスで地域住民とのコミュニケーションが生じることから、住民を基調としたキメの細かい景観整備の方向性が把握できる。

おわりに

本論においては、最近とくに都市問題の中でも大きな話題や課題となっている都市景観の整備や評価について、大阪市内の事例をとりあげてビヘビアラルラアプローチの立場から考察を行った。中之島のケースでは、時間的展望に基づいた空間や土地の更新性を軸にして、現在、近い将来、遠い将来にわたる景観整備の方向性と手法を明示したものである。また、夕陽丘地区のケースでは、人間と環境との相互関係を人々の反応行動を介して把握することを意図して、有機感覚による景観の評価手法を導いたものである。

ここに論じたビヘビアラルアプローチの都市景観への応用は、最近になってようやく始められた方法論である。これら2つの事例研究は、都市景観の計画、保全等に多面的な示唆を提供するものと考えるが、今後さらに発展的な考察を進めたく思っている。

なお、本論は、1978年および1979年に行われた調査によるものであり、調査を進めるにあたって、いろいろご協力いただいた大阪市総合計画局都市計画課および大阪市公園局企画課の関係各位に、深甚の謝意を表する。

また、本論は、大阪府立大学大学院生の伊藤博、小林孝夫、泉原幸子、藤岡三夫、岩本淳二、田中聡、辻本智子、研究生のキャロル・マンク、清水正克の諸君およびテデプソ設計研究所所長藤田好茂氏との共同調査によるものであり、ここに併せて謝意を表するものである。

参考文献

1）今田　恵：心理学、岩波書店、1952．12
2）大阪市総合計画局：中之島の現況、1978．2
3）大阪府立大学緑地計画工学研究室：みどりとオープンスペースを基調とした中之島構想、1978．3
4）大阪府立大学緑地計画工学研究室：夕陽丘地区景観整備基本計画調査、1979．3
5）久保　貞：都市景観とデザイン、都市問題研究Vo 132、No.2、1980.2
6）久保　貞ほか訳：アーバン・ランドスケープ・デザイン、鹿島出版会、1970
7）芝　裕順：行動科学における相関分析法、東京大学出版会、1972．10
8）三沢　浩ほか：アメリカの広場、A＋U、1973．8

（くぼ　ただし　　大阪府立大学教　授）
（すぎもと　まさみ　　〃　助教授）
（あべ　だいしゅう　　〃　講　師）
（なかせ　いさお　　〃　助　手）
（ひらおか　じゅんいち　　〃　助　手）

＝1980年・新春放談＝

80年代に向けて……建築を語る



石井　和紘氏　　石山　修武氏　　木島　安史氏　　渡辺　豊和氏

■異様さということ

渡辺：それじゃあれですけれども、雑談の感じでいこうと思うんですけれども、まあ石井さんから口火を切ってもらおうと思うんですよ。といっても困るでしょうから「54の屋根」でしたっけ、あの非常にセンセーショナルなことをやることだけで生きがいを感じているような建築家でございますから、まずあの「54の屋根」というか、あれが集落だそうですから、ああいうのはなぜ集落なのか、形の話は別にして、そういうところからやってもらいましょうか。（笑）

石井：えっと今、渡辺さんのおっしゃられた感じのことが非常にこうねじまげられて伝えられているような節がある。自分の、なんかこの人がおっしゃる自分の像、姿なんでそういうのに触れるたびに、なかなかこれは80年代にはいって大変になってきたなというような感じがするんですけれども、なんかのっけから話がどうもかなりきつい話でもうちょっとあとの方がいいんじゃないですか。（笑）

いやなんか今日は、はじめがなんか渡辺さんが、35すぎるまで自転車に乗れなかったていうような、そいで自転車の運転もできないし、オートバイにも乗れないというような、乗れるのは乳母車と三輪車だけだったというような話があったものですから、そういうことで建築論が発展していくのかなあと思っていたんですが、突然そういうようなお話なんですが、ただ補足的に、今たまたまその自分の建物の話がでたものですからその補足的に言わせていただくとしますとですね、今そのセンセーショナルとかっていうふうな、百分の一くらいの可能性でうぬぼれているとすると、ひょっとしたら評価されたんじゃないかっていうような大変きついお言葉を渡辺さんの方からいただいたんですけれども、ただセンセーショナルって言うか異様なものっていいますか、それからなんか見なれないものといいますか、そういう風な形のことを渡辺さんは言っていられて、そういうふうに考えていくと、それは当のご本人の渡辺さんの方がよっぽど、眼がひっくりかえる建物を作っていらっしゃるんで、今さらそういうことについて、アマチュアの自分がどうこう言える立場じゃないと思うんですけれど、ただあの基本的にですね、特に建築みたいなものすごく大昔からあったジャンルの中ではやっぱり一種の異様さというか、そのセンセーショナルっていうかそういうもの、基本的にいうと今までそのごく一般的に存在していたものがですね、周囲との関係をこう若干波長を起こしながら再登場したと、でその再登場したときにある種の見なれないというような感じのことがおこってきて、それがひとつのなんていうか、生命力っていうか、生気っていうか、そのいき込みっていうかそういうものを作るんじゃないかと思うんですよ。だから建築の場合にそういう今おっしゃられた意味でその異様なものの登場のさせ方っていうものが、それぞれの方にそれぞれの方法があって基本的には今おっしゃっておられているような意味では、渡辺さんなんかの方がずっと人を驚かすわけだと思うんですけれども。

渡辺：いえいえ、そんなことないです。

石井：ですからそのへんはあまり遠慮なさらないで、やっぱり基本的にはただ今までは、たとえば渡辺さんの「1½」ですとかそういう建物が出てきたときみんな非常にびっくりしたと、まあ自分なんかもまだ学生だったですけれども雑誌をバタッと床に落としちゃってですね、こういうことでいいんだろうか、というような形が大分してたんですけれども、ただもう今となっては逆にいうとその建築っていう風なもの、ひとつのシステムっていうか組み立て方っていうか、そういうものに対して息吹きを持ち込むためにはですね、やっぱりある程度結果としてそのみなれないというか異様なもの、そういうふうな謗は免れないようなことをやっていかないと、もうとにかくだめじゃないかというような感じがするんですけれども、そのへんについてのその術の巨匠である渡辺さんに少ししゃべってもらわないとこれは。

渡辺：ただひとつ思うことは、70年、79年おわって80年に別になっても人間変わるわけでもないし、時代が変わるわけでもないと思うんですがね。ただひとつだけ前から考えていたのはあの石井さんの「54の屋根」ですか、あれが多分70年代のフィナーレを飾ったんじゃないかと思うんですよ。であの建物いい悪いとかいう話じゃなくてね。多分過剰にね、われわれのね、石井さんにしても石山さんにしても、もちろん木島さんにしてもね、それにぼくの友達毛綱とかああいう連中全部ひっくるめて多分ね、過剰にね表現するってことをやってきたんだと思うんですよね。楽しかったからね、それなりにね。ただこれから、あれもうみんなあきたんじゃないかね。（笑）どうですか石山さん。

石山：いや、あきたというよりも、先日おもしろかったんですけれどもこういうような会がありまして、全く偶然だったんですけれども、ここに渡辺さんを除いた三人で渡辺さんのあのとんでもない「1½」よりもとんでもないと思うんですけれども自宅の、なんていうんでしたか「餓鬼の舎」。

渡辺：ええ。

石山：なんかうちなのか壁なのかわかんないような家に泊められたというか拘束されたというか、あのときの眠り方が面白かったんですよね。石井さんなんてのは、だいたい脂汗かきながらそれでもぐっすり寝てたわけで、ぼくはまあ豊かな気持ちになって非常にぐっすり寝て、木島さんなんか非常に冷静に観察しながらぐっすり寝てたという、だけど三人とも結構ぐっすり寝てて、渡辺さんだけ寝てないんだよね。あすこに。

渡辺：（笑）あああれね、寒いんですよ。

石山：「餓鬼の舎」ですが、寒いだけじゃないでしょう。

渡辺：いやいやあとは健康なんですけどね。

石山：だけどやっぱりいろんな人、建築家の自邸っていうのはちょこちょこ見たりしているんですけれどもあれはとんでもない。建築じゃない一ぼくのもドラム罐、ドラム罐て言われてるから建築じゃないんだけれども一まあほんとに壁の中に強引にすみついているっていうかね。こうジャンカが2メートルくらい隙間があいてて、その中にすみついてるってな感じがあってそれが非常にあたりまえのこうなんていうんですか、ひどい環境の中に建ってるっていうのは結構面白かったですね。

石井：あの、渡辺さんの「餓鬼の舎」って言うのはそれでもあのとき、蒲団を敷いてね、シーツなんかこうやって寝ると頭と足がだいたい壁の間にはさまっちゃうっていうふうな感じで蒲団敷くでしょ。で石山さんのそのドラム罐ていうやつは考えてみるとやっぱり寝袋がないとちょっと怖いっていう感じで蒲団敷いただけじゃちょっとぐっすり寝れないんじゃないかっていうようなところがあるんじゃないかと思うんですけれども。

石山：ぼくのはそれにまた電気毛布がないと寝れないんじゃないかな、寒すぎて。だけどね、あの渡辺さんの家の寒さっていうのはね、精神的な寒さっていう感じもあるわけね。（笑）「あきた」ていうよりも自分でしらけたっていうか、こういうときやっぱりその冒頭であきたなんて言ってもらっちゃ困るわけで、やっぱりそういう自分のうすら寒さにようやく気がついてくれたかと、もう42になるでしょ、そろそろ（笑）そのへんはどうなんですか。先ほどここに来る前に渡辺さんの事務所に寄せてもらいまして、今の渡辺さんの作られるものなんかをだいたい見てるとちょっと、だいぶ「餓鬼の舎」の頃とはちがってこられているような気がするんですけどね。その過剰なものがどうのこうのっていうことに対して、また自分でそれに対して反発一自分でかまえたものにはまた反発していくっていうようなやり方をとってるんじゃないかと思うんだけれども。その辺はどうですか。

渡辺：いゃまあ自分のことは……
自分のことをしゃべっても仕方がないんですけど、ただひとつだけ去年、『新建築』の1月号か2月号に巻頭論文で書かせてもらおうと思ったやつが、あの非常に品が悪いっていうんでね、巻末にされちゃった原稿があるんですよ。それなんていうやつだったかな。とにかくあの石山さんとモン太と書いたんだったかな。でそれは何を思って書いたかと言いますとね、あの「過剰だ」、「あきた」っていうのは、まあいろいろあるとしてもあのどういうの「異様」「ヘンテコ建築」っていうやつがはびこりすぎたって気がしたもんだから、であのヘンテコ建築やるんだったら、まず毛綱と石山しかないだろうというような話を書いたんですよ。であとあの象ですか、象なんか大分異様であるっていうことを書いたつもりなんです、あのとき。石井さんなんて非常にインテリでいらっしゃるし知識は豊富ですから。

石山：そうそう。

渡辺：あの人のことは異様であろうとなかろうと、ちょっと書きにくいと思ってね、いっさい触れなかったんですけどね。もし触れたら何言われるかわかんないからね、恐れおののいてそれは書かなかったんですけれども、ぼくなりに思ったのはまあ、あきたわけではないんだけど、あんまりああやっていろんなものが出てくると、最初やってた話なんてのはみんないろいろあると思うんですけれどもなんとなくね、当然埋没するもんですよね。数が多くなってくるとね。だから少し区別だけつけさせてもらおうかなって気になったんですけどね。そう思ったらその「54の屋根」が出てきてね。ははあ、これでフィナーレを飾ったのかと思ったわけよ。さすがフィナーレ飾るのは石井だなあと思ったわけ。

石山：フィナーレのつもりじゃないところが、本当なんだよね。

渡辺：本人はね、「これからだ」と思ってるところが面白いんだなあ。

石井：いや、なんか強引に無理心中させられそうな気配で、ちょっと木島さん、助けて下さい。

木島：いやこういうときはあんまりしゃべると、どうせろくなことがないだろうと思ったんですけどね。うんやっぱり80年代の建築というまともな題をくっつけて声かけられて、喜んで来たっていうことになると何か言わないといけないでしょうけど、渡辺さんのそのへんのあたりがいまだによくわからないんですよ。この間のときも、なんか突拍子もないこと言うでしょ。で、あ、これほんとうに知らないであんな突拍子もないことを言ってるのかね、知ってるのにね、そのひでエことを言うのかね。このあいだうなされたとしたら建築にうなされたんじゃなくてやっぱりね、渡辺さんのあの発言にうなされてね。なんていうかインドからヨーロッパから日本から、もう味噌も糞もいっしょくたにしちゃってね。でもおれだけはわかってる、つていうことだけは伝わってきた（笑）もしね80年代耐えられるものがあるとすればね、やっぱりあれぐらい味噌も糞も全部一緒にしても、おれだけはわかる。ほかのやつはわかんないっていう大前提にたたないと多分いけないんじゃないかと。ぼく自身もそれほど強くないんだなあって実感したんだけれども、やっぱり石井さんなんかの見ててね、あの親切だなあと、とにかく人にわからせようとする気があってね、成功したかどうかは知らないけれども、その辺が根本的に違うような気がする。だから80年代、やっぱり多分その、他人のことを全くほんとに考えない人一自覚があるかどうかそんなことはわからないんだけれども、そういう人たちが確かに残るだろうと、で、なまじ他人のことを、こういう所でしゃべるときもね、他人がわかってくれるかなあなんて考えるやつはね、まあ80年が最後で90年までは生き残れないんじゃないかっていうのが、ぼくのその戦略がどうか知りませんが、感じるんですよ。

渡辺：なるほどね。

木島：変わらない人がいるでしょ。しゃべらなくなった人が。あれは確かに防衛なんだけれども生き残れるかはわからないと思うんだな。この間の一さっき話が出たんですけど、ぼくは石山さんね、さっきすやすや寝たとかなんとか言ったけど、ぼくは一番あそこに寝て驚いたのは上からダンボールの箱が落っこってこねェかなと思ってね。ぼくは吹き抜けの下に寝かされたのか寝たのか知らないけれども、寝たでしょ。こうはるかかなたの上の方を眺めたらダンボールの箱が……カンチレバーで積み上げてあるわけですよ。何がつまってるのかわからないんだけれども、もしあれが雑誌がつまってドーンと落っこってきたらこれは顔は完全につぶれるなと思って……。

渡辺：そうですよ。実はあれは古雑誌がひっしりつまってるんですよ。

木島：だってあれは重けりゃ落ちないのかな。風で落ちるのかなって、そういうことをすごい考えてね。あの晩は右に行くと石山さんから蹴っとばされそうだし、左に行くと床にダンボールが落ちてきそうでね。どっちにしろこれはダメなんじゃないかと思って寝てたんですよ。あのときは……（笑）

石山：あれ、だけど吹き抜けじゃなくて隙間だと思いましたけどね。渡辺さんの建築って、いつも隙間みたいなとこばっかりやってて、総合的にみても隙間をいつもかいくぐっていくようなスリルっていうのがねースリルっていうのはほめすぎなんですけれどもーまあ、本人はけっこうおびえながらやってると思うんですけれどね。結局、隙間じゃないかって感じがしますね。空間っていうよりも別の呼び方すると隙間とかいわれて、ぼくのなんかだいたいアキマとかいわれて（笑）

木島：さっきのあの石井さんの「54の屋根」なんですけれども、彼のサービス精神っていうかね、それが非常にこう博覧強記っていうか、彼の建築っていうのはだいたい小学校の大総合運動会みたいなところがあって、グランド全体に万国旗がバタバタたなびいていてサービス精神豊かで、そのグランドの中でひとりはいずりまわっているような、そういう建築でもあったような気がするんだけれど。だから80年とか70年とか区切るのはあまり好きじゃないんだけど、彼がどれだけこう、かまえたグランドでひとりではいずり廻っていくのか、その辺はちょっと興味ありますけどね。ま、あのまま走り廻ってたら疲れるだろうという気はあるけど。早く疲れちゃえって気があるけどね。

石井：あの、結構フィナーレっていう感じは自分の中でそれだけまだ死ねないっていう感じなんですよね。だから、それは石山さんに言ったみたいにまだはじまりって言うことだと思うんですけれども、それはもう石山さんなんか今は、つぎ、はどの手でサービスしようかと思っていろいろね、あれしている最中。だから人のことばっかり言ってるんだと思うけどね。

石山：僕、全然サービスするって気はないんだけどな。

石井：いや、それはそれでいいんですけれども、たださっき言った意味で活性化していくっていうその行為自体はですね、ひとつのたとえばなんか論理的なものを、それでいろんなものを、ばらばらになっているやつをなんかシステムを与えるとか、たとえば倫理的なもので人をひっぱっていくとか。たとえばなんていうんですか、ちょうど機械時代のデザインが出てきたときみたいな、ああいう風なものに較べると、今はおとなしく閉塞してしまうような方向をどうしても、ひとついろんなものに対して、網の目がかかっていくときっていうのは、どうしてもそういう方向があるでしょ。それに対してひとつのまあ、異様っていうとちょっとそれは価値を含んでしまう言い方になるわけですけれど、一種の異化、要するに異なるというふうな状況を提示することで、なんかもう一遍生き返らせるっていうか蘇らせるっていうか、そういう行為があるでしょう。と、そういう行為自体っていうのは非常に演出的な行為でもあるわけですね。それはひとつのゼェスチャーっていうかそういうものなんだけど、それはどうしてかというと世の中、閉塞してきたなっていう風な感じが出てきたときに必ず前にそういうことをやってきた人達の行為っていうものに魅せられるということがあるわけですよね。だから何十年前とか何百年前とか、こういう行為に魅せられるっていうところがあって、そういうものをきっかけとして、なんかああいう風なやり方やってるといいなあと、あれはなかなかいいじゃないか、ていうふうになってくるからその異様なものっていう風なもの自体の側のやっぱり一種のその伝播されているものだと思うんですよね。とそのときにはやっぱり違うのは、はじめからなんていうかひとつの主義主張っていうのを明確にかかげてこう旗印を持って、そのときは革命であっても、すぐにそれがひとつの機構になって体制になっていくっていうものに較べると、やっぱりそれは、要するに「演ずる」ということであるし、それがそのサービス精神、サービス精神ていうとえらい第三次産業的な何かカスみたいな感じがしていやな言葉だけれども、どうしてもそういう面っていうのはあるんじゃないですか。だからそれはぼくなんか見てると、その渡辺さんなんていうのは、かなり自分を解体してみせるところまでそういう行為をずっとやってきた人なんじゃないかなと。でそれの中に、その論理的な組み立てとかそういういろいろなものっていうのは、あえて、ないように見せ続けてきた人なんじゃないですか。

渡辺：いやいや、それは無学文盲だからですよ。ただどうなんですかね。どの時代にもちょっとした回帰現象みたいなものがあるでしょう。だから今ぼくね、人の名前をいうのは悪いかも知れませんが、たとえば槇さんなんていうのは今、割といいかっこしてますよね。

ぼく、なぜかしらといつも思うんですけどね、考えてみたらね、あれ磯崎さんがああいうふうなことやっていって、それからあのグリッドのやつですか磯崎さんのね、それに近いようなことやってるんですよね。あの十字形のはいった、何がいいのかなって思っちゃうんですがね。ところがね、学生なんかに聞きますとね、どうもああいう感じというか、もっと極端にいうと丹下さんのね「広島」とかね一広島のこんなひょろ長いやつね、ああいうのが非常にいいの、新鮮に思えるんですって、という話を聞いたことがあるんですよ。で、そんなもんかなと思ったんですが、それは丹下さんのやるのがごく新鮮に見えるとか、それから前川さんがね、どこかの美術館をやって、何の美術館か忘れましたんですけど、ラーメンのビシンとしたやつですけどね。あれの方が新鮮だっていうわけですよ。阪大の子だったかな。で、どうも彼だけじゃなくて、なんかそんな感じってあるみたい。でぼくそれを聞いてね、一昨年の話ですが、去年でしたか槇さんがあんなした形で出てきて、出るってもともとあの人やってますけどね。要するにあの、まあ小綺麗なことやってますよね。で僕ああいうのは単なる回帰現象だろうと思うんですよ。僕はその程度の位置づけで、いいんだろうと思うんですけどね。ただね、商業ジャーナリズム、建築ジャーナリズム的に言うんじゃなくて、ただあのどうも、いろんなたとえば、磯崎さんがね、ヴォールトやるとかね。ああいうのを繰り返しやりますと確かに見る方はいいんですけれども、あきてくるというところがありますよね。やっぱり、はやりすたりに近いでしょうから。根本的には磯崎さんのようにはやりすたりとは違ったことで、ほんとうは処理しているはずですけどね。ただぼく今度「建築美」の2号が1カ月か2カ月たったら出るはずですけど、それで「丹下健三論」てのやってみたんですよ。なぜ丹下さんみたいなね、あれがどうのこうのって話をやってみたかったわけ。でまあ内容はいいませんけれども要するにああいう風に丹下さんていうのは僕の思いでは70年代、70年万博を境にしてね、日本からいなくなってるでしょ。多分、僕は大阪にいるからあんまりくわしいことは知りませんけどね。なぜいなくなったかということを考えてみたわけ。ちょうどあの人ね戦前から戦後にずれ

込むときにね、あれなんですね。非常にこう帝冠様式みたいなやつから、ぱっとこうずれこんでるでしょ、それとフランなんかみてるとコルビジェなんかその当時似てはいますけどね、表現は完全に当時の日本ファシズムの恰好してますよね。そこからぱっと逃げこんでるでしょ。ぼくはそれを逃亡だと言ってるんですよね。時代の逃亡とね。それから今度は空間の逃亡だって書いたんですけどね。あれ「新建築」とかいうんじゃないから自分の、テメエの雑誌だから何書いてもかまへんわけだけどね。で、えんえんと書いたんです。それは要するに、回帰現象というものの持っているある表層の部分ていうの、それをひとりの大作家がね体現してるっていう話に置き換えて書いたんですよ。だから今度の槇さんのね、ああいう一連の建物の仕方というのはね、そういう自覚がなしにね一丹下さんの場合自覚されてると思うんですよねーそういう自覚なしにやられてるんじゃないかな。ちょっとそういう風に思ったんですよ。

石井：あの丹下さんていう、丹下さんなんて言っていいのかわからないけど、丹下先生っていう方がですね。日本のそういう文化的な意味でのひとつの主流的な存在として存在しているか、あるいはまたしえているかだとすればですね、ぼくらがちょうど学校に入ったときにオリンピックプールをやってて、なんか非常にお元気だった頃だったですね。ずっと見てると丹下さんがなぜ文化的に主流かというと、その排除の機構をあの人はもたない人だと思うんです。包摂なんですよ。

渡辺：そうでしょうね。

石井：ただそれをね、渡辺さんとか木島さんとか石山さんみたいに、要するに包摂してるんだぞ、と、おれはそのチリナベだという形でその機構を偽悪的に見せないところは、非常にさえてると思うんですよ。それはね、単純に建築だけじゃなくても、たとえば茶碗とかそういうものみてたってまあとんでもない、ようく見てるととんでもないものでしょ。こうとんでもないきてれつなものですよ、あんなもの。ひねった茶碗なんてのは、あれ茶碗なんだなんて思ったらこっちの方がずっといいじゃないかっていう話があるんだけど。そういうひとつの衝動というかそういうものも捨てないところに日本伝統の主流の持っている強さっていうものがあってね。丹下さんていうのは、だからあのもう一番初めのときからその今言われた帝冠様式とかなんとか戦前のコンペの頃のがあるでしょ。ああいう風なものから戦後の一時だけ非常に排除的な傾向が強くなって、近代化のあれが強くなってきたんだけれども、そのあともう一ぺんそれが復活してきて丹下調になってきちゃって、そいで幸か不幸かその頃の建物っていうのはもう徹底的に嫌われているし、清水の市庁舎なんていうのが東京都庁舎の前にあったんでしょ。あんなのは今度ぶっこわされちゃって——こわされてしまうのかな。

木島：吉武さんの寝室に強盗がはいったでしょ。あれはほかでもない、その丹下さんの清水市庁舎の建てかえのために吉武さんがたずねて行った。それで何の恨みかしらないけれど強盗に出会ってる。近代建築の恨みかもしれないですよ。

石井：だからそういう意味ではね、石山さんなんかはほんとにあくまで異端で生きようという心がけだろうと思うんですけれども、ぼくなんかやっぱり異端やってると食えないからね。やっぱりたまには人に認めてもらいたいなという風に思ったりしてるとですね、丹下さんて人は非常にいいサンプルをね提供してくれてる人ですよ。それで、そうじゃない場合というのは清水の市庁舎みたいなものですよ。こうすごく明快で、品が良くて、おさまりよくて、プロポーションいいんだけど、なぜかあきられちゃうのね。日本人ていうのはもうごった煮のカルチャアーの中にいるんだから、そりゃやっぱりその冴えきった、ひえびえとしたものがいいっていう感じでということも、もちろんあるんだろうけれど、なんかどうもそのへんちょっと違うような気がするんですけどね。

木島：たとえば今の話で、僕はよくわからない所があるのですが、渡辺さんの、学生の気が変わってきているという話ですが、僕は大学にいるから、試験を自分の娯楽の対象としてやることがあるのです。「最近の建築雑誌をよく見とけ」といっておいて、作品名をいっぱい書いておきまして、誰が設計したかなんていうくだらない試験をするわけですよ。（笑）それだけでは取柄がないから「これは」というものを選んで、その建築家の現代建築における位置づけを書けというようにするわけですよ。それで名文句がいっぱい出てくるわけ。たとえば坂倉事務所は「若手新進気鋭」とかね、黒川紀章ー大御所とかね。そうすると渡辺さんなんか真面目だからね、槇の前に磯崎がいたとかね、槇は丹下の所に何カ月いたとかね、ちゃんと歴史的に押さえて言うけどね。建築だってそうだと思うけど、ぱっと見ると坂倉事務所が最近造った作品は新進気鋭といってもひとつもおかしくないと、佐藤武夫の事務所もこれすごく新進気鋭と書いてあるわけですね。それで現時点でスパッと物事を横に切っちゃうと、あってるんじゃないかと思うんです。その意味で、誰が何年に何と何を造って……というようなトレース自身が怪しいものだと。そういったときに気になってくるのは、たとえば社会でいえば区別と差別ということを言いますね。差別はいけないけど区別はいいといってるでしょう。それでね僕は渡辺さんはどうも建築並びに作家を差別しているのではないかと思うのです。現在はね、差別はいけないの、区別はいいの。（笑）それが多分80年代のキーじゃないかという気がするのですよ。だから「槇さん」と「磯さん」の作品の傾向とか、たとえば磯さんが先にやったじゃねえかということは関係ないのであって、大事なことは槇さんのやった建築と磯さんのやった建築に区別する所があるのか、本人が区別する所があるかと、そこが問題で、それを差別にもっていくと議論に乗らないのじゃないか。

石井：まあ渡辺さんは土民と貴族とよく言うね。おれだけは土民でてめえらは貴族だと……。

石山：せん民。選ばれた人ではなくてさげすまれた人なのかなと思ったら。

渡辺：違う違う、逆にさげすまされた人っていうやつね。

木島：だから僕は区別ということには割合ね、石井さんは異様ということを大分やってきたわけだけど、それは多分70年代の異様さという区別の仕方とこれからとは、だいぶん違ってね。言っちゃいけないことかも知れないけれど、この頃吉田五十八になりたいという人が多いわけね。あの吉田五十八になりたいというのはね、よほど微妙な味の区別が出来るようにならないとだめなわけで、僕みたいにがさつに食うやつは「なんだこれ同じじゃねえか」とすぐ思っちゃうわけですよ。要するにちゃちな日本建築と吉田五十八の建築とは、僕から見ると同じなんだけれども、それをちゃんと見極めるようでないと80年代はだめなんじゃないか、もしサービスする気があるとすると、微妙な味の違いをおみせするというのが異様化ということになるのじゃないか。どうですかね。

渡辺：石山さんどう？なるほどと思うけど。

石山：前提として70年代とか、80年代とか区切っていくのは好きじゃないんだけれども、まあ時の流れが非常に異様なものを突出させたというか、異様なものということでまあ話が進んでるんですけど、僕は決してそうではなかったんじゃないか、非常にそういうものが突出したことは突出したんだけれども、それが逆に突出させられちゃったのかも知れないし、ただそれに枠（フレーミング）が出来ちゃったと、そういう時期だったという気がするんですよね。だから逆にいうと、これからもっともっと俗っぽい言葉だけど異様なものに、自分の立場からいったらね、徹底的にそういう狭い道に入っていくのもいいだろうというような所ぐらいじゃないかという気がしますね。

石井：あの石山さんのあれですけど、それは社会というのは日常的な現実の中にとけこますということによって成立しているわけですよ。それは今、石山さんが醒めた、客観的な、なんかこう批評家的な雄々しい発言だったですけどね。そういう語り口でいくとね、それは溶解することによって成立しているわけですからね。そういう石山さんのいった突出しているということのあり方と、それが日常的な現実の中にどういう風に溶解されたか、あるいはそのときに日常的現実がその溶解させなくてよいという風に踏んでしまったというプロセスからというと、必ずそれは2つあるわけですよ。だから逆にいえばもしそれが溶けこまれていってしまっているんだとしたら、それはつぎの手はどういうことになるか、そのときに石山さんから、もっともっと尖鋭化していくんだと言った心強い発言があったわけで、石山さんの背中におんぶしてもらっていこうと思っているわけですけどね。渡辺さんなんかどうですかね。

渡辺：さっき石山さんが事務所へ寄られたんで、ちょっと話したんですけどね。ここ1年間比較的あたり前の建物、僕はもともとあたり前の建物しか造ったことがないので、今さら言うことはないと思うんですけど、昔私が勤めたＲＩＡですけど、そこにいたことを思い出しましてね。ちょっとどういうのか近代的な建築的格好をやってみようと思いましてね。4つほど設計してみたんだけれど面白くないんだ、全然……。それで合わんなと思いましたけれども、とにかくやってみたんですね。石山さんみたいに僕は醒めて、きちんとしないから一辺やってみるんですね。とにかくそれで、いやあ、これはあわんと思うわけですね。それで2年ほど遠廻りしましたよね。やってみていいか悪いかは別にして、餓鬼の舎というんですか、ああいうのは自分の趣味に合うわけね。やっぱりああいうやつをやってゆきたいなと感じてますね。変なこと考えてもしょうがないなという感じしてますね。自分でやってみて、それは自分の実感です。

石井：ですからね、この三人のやっていることは要するに排除はされないだろうと思います。80年代に入って、ただそのときに恐くなってくるのは、それが現実になってくるということがあると思うんですね。

石山：いやね、それはね、現実になっていくというのはまたちがう一つの見方というか、そうじゃない所からもって来てるということがあると思うんですよね。現実からもって来ているという認識があると思うんですよ。たとえば僕のものなんていうのは分かりにくいんですが、渡辺さんの建築というのは冷静に見ると、現実そのものなんですね。大阪周辺の建売住宅団地とかね、見ていると大体渡辺さんみたいな建築が建っているんですね（笑）。だから皆さんお笑いになるけれども、ある意味での誉め言葉でいっているのですよ。だから最初から溶解しているし、最初からそれほど突出してないんだけれども、ただ建築的表相が突出している、突出していると言ってたというようなことだったんだなという気がするんですよ。

木島：その辺が石山さんが自分でもう少し突出しようとしているのとどういう風にからむの？

石山：だからやっぱり突出しようというのは、80年代と分けるのはいやだ、いやだとばかり言っているのでみっともないことおびただしいんだけど、突出しなきゃいけないというのは自分の体質とか自分の体型とか、頭の髪の毛の格好とか、自分の生き方とか、を決めていることがあるでしょう。生き方というとちょっとあまい言葉になっていやだけれども、それと建築の結び付き方というのがかなり建築的スケールじゃない所で問われてくるのじゃないかという気がするんですよ。だから石井君の建築の面白さとか、木島さんの建築の面白さとか、渡辺さんの面白さとかいうのは、僕なんかから見ると、本来なら建築家に向いてない性質の人がね、建築をやったという面白さがあると、雑誌の編集とか、本当は文学やった方がよかったんじゃないだ

ろうか、あるいはその木島さんみたいにプロレスラーになった方がよかったんじゃないかとか（笑）。

木島：自分自身はどうなの。自分だけが残るんですよ。この人は。

石山：私は大工、大工になった方がよかったんじゃないかと……。だから70年代はそういう意味で表現の手段がね、建築という枠を除いて見ると、たとえば渡辺豊和という人間が、表現の手段をなかなかうまくめっけられなかったと、だからいろいろやってたんだと。だから「建築美」というパンフレット、パンフレットというと失礼だけれどまあ雑誌という個人誌を創ったり、石井さんみたいに方々で喋りまくって、ひんしゅくを買ったりとかね。それも一つの表現手段なんだけれども、それが枠がスケールUPしちゃって建築になかなか表現しきれなかった時代じゃなかったかと、そういう風に思うんですよね。だから80年代というのは建築が変わるというよりも、建築の行動の仕方が変わってくるのじゃないか。だから雑誌屋さんとか非常に困るような時代じゃないかと思うんですよ。

渡辺：そうでしょうね。

■仲　買

石井：石山さんの話を聞いていて、僕は随分くちゃくちゃにたたかれているからあれしますとですねえ、要するに異様なもの、それは石山さんは認めないわけ。要するに異様じゃなく現実だと、要するに現実から引っ張り出したものが、現実に帰っていくのはあたり前のプロセスなんだということだと思うけれど、ただ前の時代の人達から見ると、異物という感じで出てきている面というのは、それは石山さんのあの土管建築というのは地上になかったというだけの話で、地中にあって、ごみと下水が流れてたやつが上に上がってきて、それが上に上がって来たから、要するに驚いたというようなものでしょう。ただそこで石山さんの話の中で、現実の中でたちあらわれてきたものが、現実に帰っていくんだという風な穏やかな言い方をしちゃっていいのかというのがあると思うんですよね。それでね、どうしてかというと、なにか異様なものが出てくると、そしてそうでなかったものが、そうすると必ず社会的機構そのものとしては、それは手を結ばせなきゃだめなわけですよ。それはとんでもないことになっちゃうわけですね。そのときに仲介というのかな、取りもちというのか、そういう機構をもってる部分というのが必ず出てくると思うんですよ。ただ僕は石山さんの話の中でそういうニュアンスが響いたから増幅して聞いちゃってる部分があると思うんですけどね。ただ気をつけなければならないのは仲買機構だと思う。要するに現実の中から出たんだから現実に返せばいいといった仲買機構は、石山さんがあえて突っ込んでいこうといった石山さんの発言の方を取りたいんですね。

石山：それはね。それはあなたなりの深読みというか、から廻り読みというかね。（笑）あれが現実であったということを言いたいわけですよね。それを穏やかであり過ぎるというか、もうちょっと徹底的にやっていくんだということとはちょっと布石としては違うんじゃないかと思うんですよ。あれが現実であったんだといった所からやり始めると逆にそういうことがやりやすくなるだろうと、というような所を言ったんじゃないかと思うんです。けど、それはただ僕は方法を言っただけで、石井さんはもうちょっと総合的に把握しようとして言っただけの違いだと思うんですけどね。

石井：石山さんの場合に物のなりたちとして一番ショッキングだったのは、石山さんのドラム管だろうと思うんですよ、豚しか住まないというようなものでしょう（笑）。これはもう建築屋じゃないのじゃないか、建築屋の素地がないから、自動車修理工場みたいなことをやってるんじゃないかとね。というふうに皆思ったわけでしょう。だからそれがね、現実から上ってきたものは現実にかえせと、ようするにカエサルのものはカエサルに返せと言っちゃったらね。やっぱりそれはね、石山さんはそんな風に軟弱なんだとは、ほんとうに時々しかそうは思わないけど、やっぱり非常に危険なことだと。僕は先ほど石山さんが、お前は万国旗のかかっている所で、一人で大運動会をやっていると言ったけれど、僕はそれは非常にうれしい言葉なんですよね。それは帰る場所がないからさ、それは皆を一生懸命、運動会に呼んで来るしか手はないわけだし、まだ10年間ぐらいはいいかなという感じなんですけど、だから絶対ね、仲買という風なのが出てきて、売ったり買ったりすると思うんだなあ。

木島：僕はそういう話の中でね、現実ということを思うんだけど、普通のときには社会という言葉で、多分新聞なりで言っていることと大して変わらないことといっていたり、言い換えたりしているのだと思うのね。だけど一番根本的には石山さんがね、そのドラム管ていうのかなんかを現実として、さっと一般化にすり換えちゃっている所ね、それが僕は危険だと思うんですよ。

石山：僕もそこは危険な「ワナ」だと思うしね。

木島：「ワナ」だったらいいと思うんですよ。本当は現実からとって現実に返したんでもなんでもないじゃないのかと。こうやってしゃべること自身、もうすでに社会性をおびることなんだから、とことん突きつめられると何も出来なくなっちゃうから、どうしてもごまかさざるを得ない。本当は何も一般性のないものである。社会に存在するものは全部社会のものであるというと何も議論も進まないわけで。その中で本当に自分のものでしかないものをね。借用するなりひっくり返すなり、本当はそういうことをやってきてるわけでしょう。皆が。そのくせ後であなた気がついてないけども「あなたのものでもあったのですよ」と、なにか「おれ、金ねえというと、じゃ金貸すからおごれよ」というようなね、ことをやっているような気がしますね。

渡辺：ただこういうことが言えないですか。現実という話をもうちょっとつめるとね。木島さんのザ・ホワイトハウスとかね、雑誌に発表されたときにびっくりしましてね。そのときも変わったことやったというよりも、木島さんどう思ってああいうこと言ったか分かりませんけどね。瞬間にね、女郎屋っていうのかな、中に入ってゆくと面白い建物あるじゃない、ああいう感じを意図してやったのかなと思ったわけですよ。本人はどう思ったか知らないですよ。僕はずっと尊敬し続けていたわけよ。

木島：だからね、あえてほめてもらったついでに言っちゃえば、あの設計を頼んでくれた人は僕も聞いたことないけれども、女郎屋へ一度も行ったことのない実直な僕の友人だと思いますよ。だから「女郎屋」なんていうと、きょとんとするかも知れない。女郎屋へ行くとなると、お金をたくさん持ってね、女郎屋といわない女郎屋に行くんだと思うんだね。だけどね、そういう人と女郎屋へ行く人と多分本質的に何も変わりない。たとえばね、あれは「木造にタイル使えませんか」という所からスタートしているんです。僕はそこですぐ言ったんですよ。「あんたどこの家の便所へいってもタイル張ってあるでしょう」といったの。木造の文化住宅と言おうと何であろうとね。日本の木造建築でタイルは便所で使っている。だからあれは便所のタイルからスタートしているわけですよ。だけど僕だってまさかどこにでもある便所のタイルとか風呂場のタイルを室内に張りめぐらしたいとは思ってないわけですよ。そこからはこっちの勝手にやっているわけでね。だからさっきの石山さんの話の現実とかなんとか言うのは多分にそういう、かたやきれいだと、だけど一般化する努力はしているわけでしょう。だけど結果がね、女郎屋が客にもてなすと同じ行為をね施主に対してしたのと、結果的には女郎屋のようなね、タイルを張ることになっちゃったんだと思いますね。

渡辺：石山さんの言っていることも、こういうことで感じるんだけどね。僕も言われた通りにね、現実をトレースした方が迫力があるのですね。ただトレースする場合も大阪の町で持ってる乱雑なね、僕は東京よりもずっと乱雑だと思うんですよ。その乱雑さを読んでるわけですね。これはだれでもやっていることですけどね。その読んでることの方が自分で考えているよりも迫力があるって言うのかな。より造形的だというのか、より美しいというのか、逆に言うとアートですけどね。それが美しく感じるというのかね。たとえばベンチューリ的だとか、そういう意味じゃなくてね。単純にそうだと思うことあると思うんですね。読み換えとしてね。よっぽどその方がデフォルメされていることの方が多いしね。それを一つの単体にもち込むということはありますよね。その場合に多分、それはごく当たり前の言葉で言うとフィクションだろうと思うんですよね。石井さんのさっきの言ってた仲買人の話。それはね、現実をトレースするとかしないとか言うよりもね、そういう仲買人のような仕組みを創るべきかも知れないけれども、そういうフィクションを仕組みに考えるのかね。それとも現実のままを徹底的にデフォルメして読み換えるかね、といったような違いと思うわけ。僕はね明らかに現実をストレートに読み換えている方に興味がありますね。それと80年代は別としてシャープであるという気がしますね。

石山：意味がだい分違っているので、たとえば石井さん、僕、木島さん、渡辺さんとそれぞれの現実の今、分かるのはスケール感が全然違うし、フレーミングが違うんですよね。そこをちょっと建築的に強引に言い切っちゃうと、たとえば「アノニマス」という言葉に素直な興味をみな寄せてると思いますね。石井君なんかはもっと意識的にやっていると言いたいかも知れないけれども、今のとこ重要なんだけどね。彼がいろんなものを説明するときはそっちの方に寄りかかっていくということがあるからね。その辺の話をした方が、チョット分かりがいいんじゃないかな。

石井：今、石山さんの建物は山谷なんかへ行くとアノニマスになるという所があるかも知れないけれども、なかなかそういうものに返っていくのは、なんかズタズタ切られて帰っていくというかね。そういう迫力があると思うんだけれども、渡辺さんというイメージとまったく結びつかない言葉でね、「現実をストレート……」とかなんとか言ったでしょう。これは大変な時代になってきたなと思うんですよ。今、現実というと庶民的現実をさしていると思うんです。たとえば赤坂離宮のあるあの風景というのは、あれは現実だけれども、現実とは呼ばんと、呼びたくもないという意味で現実像があると。とするとただ、僕はどうもお前は「ひとりで徒競走」と言われた腹いせに言っているんだけど、その社会というのには現実をコントロールする、わけのわからない作業がいっぱいあるでしょう。

石山：それが仲買機構なんだ。

■規範・反規範

石井：いやいやそうじゃなくてね。やっぱり一方で規範みたいなものがあり、他方で反規範みたいなものがある。その両方からぽろっと落っこちた所に避けようのない現実、現実といって胸ときめかせて語る現実じゃあなくて、避けようのない日常というのがドロンとある。それは規範でも、反規範でもない、三角形の頂点のような関係にあると、それは誰かはその三角形の頂点を上へもっていってしゃべりたいという風に思ってるかも知れないけれど、現実には規範、反規範というのがあって、その現実というのがある。すると規範の中で石山さんが建築家の活動の領域が一つ非常にむづかしくなっていくだろう。選択の領域が狭まっていくだろう、という意味で石山さん言っているんじゃないかと思うんだけど、そういう意味で行動的に反規範

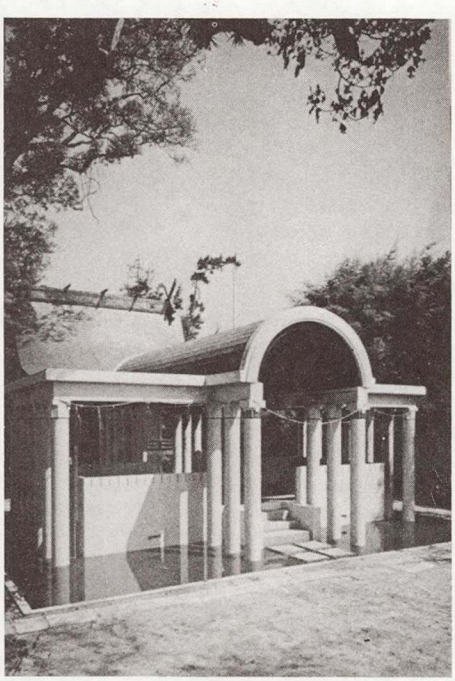
をとっているものに対して、かなりいろんな作用が働いている気がするんですね。ところが社会的に言うと「美」というのがあるんですよ。「建築美」ていうのが。するとね、美の方は美になっちゃうと反規範を取り込む力というのが社会というのはものすごくあると思うんですよ。そのいつまでも反規範で走り続けられるというね。それはね、僕ら学生の頃のスターというのを考えてもね。石山さんなんか、あこがれのスターなんだけど、たとえばジェームス・ディーンなんているでしょう。あの人は完全反規範だったわけだと思うんですよ。ところがあの人は24才で幸いにしていなくなっているでしょう。ところが反規範のままで終わったでしょう。だから70年代で終わっちゃったと思うんですよ。こんどは反規範が追い出されちゃって、僕らは食えなくなっちゃうんじゃないかと、そういうことじゃないんだ、おっかないのは、それはやっぱり食えますよ。結構、ただそれが反規範がいったん、美として転換されたときにはそっちの方がどえらい吸収していく力がある。だから、そういう操作が、いみじくも丹下先生の話が出たわけだけど、日本の伝統の中にはどえらくあってね。

渡辺：仲買というのはそういうことですか。なるほど、なるほど。

石井：これからもそろそろ規範じゃないのという奴があるんじゃないかとね。

木島：僕はその先がよくわかんない。それが恐いのか恐くないのか……の説明かね。

石山：木島さんてのはずい分前にね、たとえば渡辺さんにはちょっと失礼な言い方になっちゃうかも知れないけどね。今のこういう建築を最初にプレゼンテーションしたのは、結構木島さんのあのコンクリートのドラム管みたいなのを屋根に乗っけて、あとマッチ棒みたいなのをぴらぴらとくっつけたのありましたね。何とか神社とかいうのね。建築を見たとき、知的にうつったわけですよね。それなんだけど、本当の木島さんはものすごく肉体派でね。なんかその辺のギャップというのは、ぼく非常に面白くって。たとえば石井君の建築は結構結びついている。非常に分かりがやすいわけ。ショートしている。ショートしているというとおこられるけどね。渡辺さんのも分かりがいいわけね。僕のは非常に分かりにくいと思うけどね。木島さんみたいにちょっと間を置いちゃったような。なんか距離感みたいなのを持って、今日なんか非常に戦後民主主義の典型みたいなこと、おっしゃってるんだけども（笑）その辺が興味ありますよね。



上無田松尾神社　　木島　安史

木島：まあ大分、石山さんもすり替えて言っちゃってるんで、そのさっき出た「アノニマス」という話が出たのでもう一度そこへ引きもどして考えると、石井さんは今、アノニマスということを一回も言わなかったんだけどね。反規範が建築美の中に取り込まれるということは、石山さんが言った「アノニマス」ということを言い換えたわけですかね。関係あるの？

石井：いやどっちかと言うとアノニマスというのは三角形の下の方のあれで……。

石山：彼のいいたいのはさあ……。アノニマスというのは三角形で何かを顕在させるための単なる一つのね。

木島：要するにね、規範があって反規範があるということになりますよね。それはまあ別に問題ないと。反規範も美という所だったらいつでも組み込まれる可能性がある。

石井：そうそう、規範、反規範とも両方とも「まな板」の上にあると。

木島：そこまでは何の問題もないと、僕の解釈から言うと石井さん、まず反規範の旗手になってね。それを建築美というお城にね、ちゃんと入場させる役を自分なりに演じているような気がするわけですよ。

石井：また随分人ぎきの悪いことを言うじゃないですか。

木島：それはすごく感ずるわけ。

渡辺：国家的視点っていう感じね。

石井：それはね、渡辺さんのやつはね、現実の中だと思う。反規範と呼んでいいのかどうかためらうところがあると思う。ところが木島さんの神社と石山さんの幻庵は反規範だと思う。だからくるりっと後ろ姿という感じになっちゃう感じがするんですよ。渡辺さんはもっとストレートにって、あのまんまだと言い出すと、しつこいもんね。どういうのか、阪田三吉っていうのか……。

木島：今言われたのは、要するにばかは加減を知らないというよく知られた言葉がありますよね。現実の中のある一部のものを拡大して見せているわけでしょ。だから利口な人なら限度を知っているのを、限度をはめ外してバアーッとやっちゃう。それで異様になったりなんかしているわけですよ。だから規範と反規範という話の中に実はそれがあって、規範というのは約束事みたいなもので、決して形態ではないわけでしょ。その約束事のある部分だけを取り上げて、ダアーッと引き延ばして見せているところがあるわけですよね。それからもう一つアノニマスにあると思うのは、自分はちゃんと身分相応のことしかやらないわけですよね。そのかわり周りの者を刺激して、またやらせてね、集団としてアノニマスにしていくやり方も一つあると思う。

石井：その辺はね、石山さんは建築の歴史をやってきた人だから、どういう風に思うか聞きたいと思うが、木島さんの上無田神社ってのは、日本神社史の一番新しいところに載ると思う。あれは神社よ。それで立派に説明つくものね。どうしてこういうものが1970年代に神社として現れてきたかっていうことね。

石山：それも九州にね。

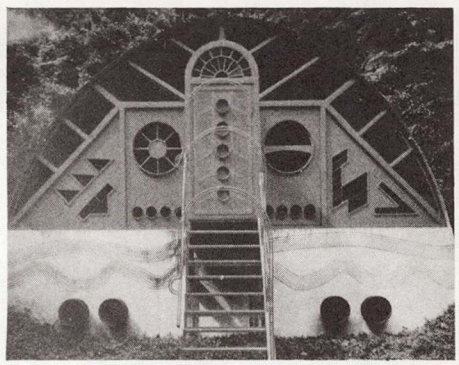
木島：それは仕事をくれる人がそこにしかいないから。（笑）

石山：今はそう言わない方が恰好いいですよ。

石井：今にそういう言い逃れもだんだん出来なくなるんですよ、木島さん。

渡辺：木島さんの話を聞いていたり、お人柄なんかを見ていると、非常に健康でしょ。ところがね、ホワイトハウスとか上無田神社なんかはね、非常に頽廃的ですよね、見た感じはね。そういう意味で私は非常に好きなんですよ。ただ本人見てると全然そんな感じしないのよね。

石山：だから一番最初の丹下さんの話に戻ったり、槇さんがいやだとか……、これちゃんと記録に残るんでしょ……。僕もそういう風に思うんだけど。そういう話と規範というのはあまり結びつかないだろうけれども、気に入らないなあっていうのは、それは規範にもなっていないことなんだろうと思う。渡辺さんの言いたかったのは、要するにムードだけでね、女学生のムードみたいなものだけでフレーミングしたりというのはいやだなあってことを、先ほどから、おっしゃりたかったんだと思うんだけれども。丹下さんの話に戻せば、木島さんが今日面白いと思うのは、丹下さんの弟子なのよね。丹下さんの所で具体的に修業したのは木島さんだけだし、僕なんか見もしなかったし……。



幻庵　　石山　修武

石井：肩抱いたって言うじゃないの、あんた。

石山：変なこと言うなよ。（笑）

石井：なんかね、「新建築」のコンペがあった頃に、石山さんは「新建築」で優勝してるんですよ。だから、丹下さんが審査したときに、非常に評価された人なわけ。ところがねそれが石山さんの石山さんらしいところなんだけど、それを失っちゃうと石山修武がなくなっちゃうし、そういうことだからあまり腹立てない方が言いってのはね、その受賞式のときにね、丹下さんの肩をだいてね、あんたの時代は終わったって言ったらしいんだよね（笑）、そういう人なんですよこの人は。

石山：せっかくね、背広も着て来てるんだしね、もう少しいい恰好もさせてもらいたいんだけども。まあそれは別として、何かその辺の所を抽象論ではなくて具体的に知っておられる木島さんが、丹下さんの所で修業されてあの神社になって来たっていう経過を、小さいスケールとしても面白いんじゃないかと思うんですよ。渡辺さんみたいに東北で生まれてね、裏日本をずうっと歩いて、また大阪に来て、ＲＩＡに行って、それで結構筋道がつくわけよ。起承転結がはっきりしているというか、死ぬまで大体どういう風に行くだろうなっていうことを予測するのは面白いから、何となく分かるんですよね。ところが木島さんはよく分からないの。

渡辺：そうですね。

石山：もちろん自分のことが一番分からないけれど……どうです？

木島：丹下さんの話は、筋道立てて話せと言われても話しにくいんでね。もう少しそれに絡んだところで話すと、たとえば槇さんがここで非難されているというか、少なくとも低く評価されている。だけど実は、槇さんが初めてじゃないんでね、アーキテクトとしては、芦原義信って人を忘れてはいけないんですよ、僕に言わせれば。ちゃんと槇さんの前任者で芦原さんという人がいて、あらゆることをとりしきって来ているわけですよ。丹下さんがどんなに頑張ろうと、建築家協会の会長にはまだなってなかったはずだし、芦原さんがちゃんと会長になったそうだし。何かこう先ほどのどろどろしたところの話でいうとね、そういうのは全部決まっているような気がするわけですよね。常に同じ波長でね。何も今に始まったことではないと……。ただ僕なりの感想でいえば、芦原さんよりは槇さんの方がちょっとデザインがうまいというか、一般受けすると、あるいは若造りであると言ったらいいのかな、そういうところだけの違いなのではないかと思う。そう

いう人達と僕達というか自分というものとか同列で論じられるのかと……。よく思うんだけど、自動車を見ていくと面白いんだけど、たとえば国内で売れる車と外国で売れる車とがあるでしょ、それみたいなもので、芦原さんとか槇さんは一つの系列であって、やっぱり国内販売台数というのは、それは槇さんの名前がローマ字でどれくらい印刷されているのか知りませんけどね、ともかく内容的に言えば、国内販売台数の多いというような感じとね、それから別に海外で名前が知れているってことでなく、ここで問題にしているのは、建築のところでの販売実績っていうか、それとはやっぱり違うんじゃないかと……。で、やっぱりなぜここでそれを議論しなくちゃいけないのか、僕には分からない。磯崎さんをここで議論するっていうのならまだ分かる気がするんですよ。だけど槇さんを云々というのはね、もういいんじゃないかと……建築だって下手な奴が設計するより槇さんの方がうまいんだし、人間は上品だし、会って不愉快なことはないし、要するに全然毒はないでしょ。だからいいじゃないかと、そういう人は大いに健康に生きてくれればよろしいと。むしろ気にするなら渡辺さんをどうするか、生かしておくかどうするかっていう方が、僕にとっては大事というか真剣な話ですよね。丹下さんについては、万博の大屋根をのせるときまで1年半くらい、僕は丹下さんの所にいたんだけど、あの後は、なんというか無害になったんじゃないかと。だからまあ、老後は安易に、楽に過ごして下さいという言い方しか僕はないわけですよ。アラブとかアフリカとかでいろいろ活躍されても、別にそれは、関係ないっていうかそういう気がしますけどね。

渡辺：だからね、個人の話をするとそうなると思うんですけど、まあそれはいいとしましてね、先ほどの話に戻すと、木島さんのやられたものというのは、普通に考えると19世紀末的な印象を受けたわけですよ。だから20世紀末が19世紀末のようになると必ずしも思えませんけれど、パッと見た感じではビアスリーと言ったら言いすぎかも知れないけど、要するにああいう感じね、そういう感じに受け取ったわけ、僕は。だけど……ビアズリーと言ったら言い過ぎかも知れないな（笑）、だけどまあそれはいいとしても、いつも不思議に思うのはね、木島さんはね、非常に物わかりが良くって非常に先生口調だしね、なのにね、なぜ会ったらあんなに世紀末的だっていうのかな（笑）、それだけ面白いですよ、距離があるから。

石山：教育の疑問を象徴的に表しているんだよな。

渡辺：自分ではシコシコと喜んでやっているんだと思うけどね……。

木島：それはもう確かですよね。自分の楽しみだって徹すればいろんなことができるでしょう……。またつまらないことを言うんだけど、僕は設計ってね、紙で書いてるでしょ、そのときすごく楽しいこといっぱいあるわけじゃないですか、たとえば必ず皆がゲラーッと笑うのはね、僕は男便所と女便所を設計するときにね、男便所の大便所と女便所とを向かい合わせるのを、すごく書いているときわくわくするんです。というのは二人とも尻まくって向かい合っているのにね、間に壁があるだけで安心しきっているというのがね……簡単にいうと連れ込み宿屋で鏡一枚おいてね、こうやるともうかりまっせということよりも、もっと現実的で面白いわけですよ。設計者というのはそれをやっているわけですよ。そういう快楽は他にもいろいろあると思うんですよね、で、そういうものを建築はいろいろやればいいじゃないかと……。

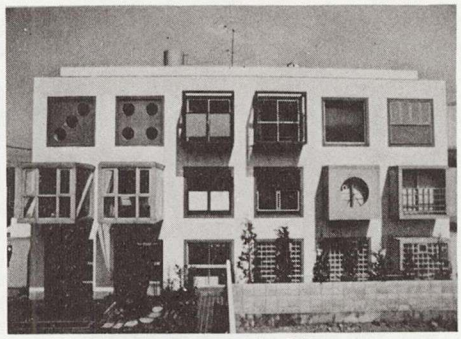
石山：面白いんですよね。たとえばサービス精神というようなこと、木島さんとか渡辺さんのサービス精神というのは、使う言葉のボキャーブラリーでも、たとえば女郎屋とか、男便所とか非常にストレートに、分かりやすい言葉で何かを伝達しようと思っているんですね。それ石井先生のサービス精神というのは、ちょっと違うスタイルがあるわけですよ、非常に直接的なね。その辺の直接性というのは考えられるんじゃないですか。

石井：あのう、それはまあ僕ばかりじゃないと思うんですけれど、今、芦原先生の名前も出たんですけど、やっぱりわれわれはいわゆる設計事務所として、設計業としてやっていくっていう意味の、スタイルもあまりよく知らんし、そういう所にあまり関心ない点があるでしょう。

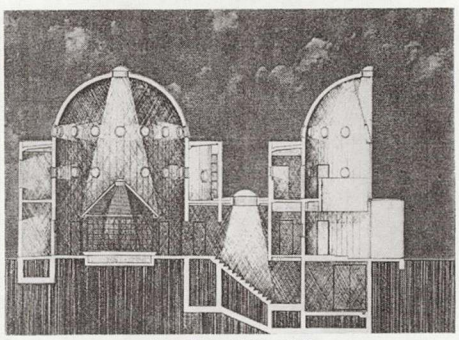
渡辺：ええありますね。

石井：だからね、副業といっては何なんだけど、別の形での自己表現手段というのを、すごく持とう持とうとするわけですよね。それは石山さんに言わせると「お前は建物と一緒に文章が出て行く」とか、たとえば渡辺さんだって「建築美」というのをやったり、いろいろあるでしょ。木島さんだってあの有名な、何ともこうパースみたいなやつをただごてごて書いてある、そろそろこうワンパターン化してきたんじゃないかっていうやつだけども、そういうのもあるし、石山さんだってすぐ流通機構がどうとか。石山さんの場合には反規範として非常に明瞭なんだけど、それはその日本建築家協会っていうものをその存在をこの辺もっていけば脅やかすだろうっていう、その辺、この人はなかなかお利口だからよく分かっているわけよ。要するにお前ら流通機構の前には、けしつぶのようなもんだとか、何かそういう風なことを言ったり、高山建築学校っていうのをやったりとか、バサラっていうのをやったりとか、そういう所がね、何か違うんじゃないですかね。で、そういうのを持たざるを得ないってところがある。それは僕らのことで考えてみると、自分の場合に一番印象的だったのは磯崎さんだったですよ。あの人初めの頃、文章ばっかり書いてたでしょ、建物あまり建てなくてね。そういうのがあって、ああ建築屋ってのは文章書くんだなあって何となく思っていたところがあるんだけど、なかなかこう設計業として一本化して、仕事が終わったらどこかいいバーでも行ってちびちびと飲んでね、それから家に帰ってねっていう、それで事務所の中でも誰がアシスタントで、誰がドラフトでとか階層化もちゃんとしているという風なイメージが全然ないんじゃないですか……。それは先に言った意味での反規範の中でのね美的じゃない方の、要するに存在としての反規範っていうのは相当あつれきが存在するだろうなっていうのは、見ていて分かるような気がするんですけどね、石山さんなんかその辺初めっから好んで構えているようなところがあるわけでしょう。事務所の形態だってそうだもの、そういう意味では……。そういうのはどうなんですかね。

石山：ちょっと僕あまり頭良くないから全部は分からなかったけれども、先に、ちょっと集団化というような言葉が出たんじゃないかと思うんですけど、今、非常に面白いと思うのはまあこれだけ、これだけといっても非常に表層レベルであることは確かなんだけれども、それを認めた上で、作家としての各自、作家っていうものがまだあればね、作家としての各自の仕事、非常に顕在化してきて、フレーミングがされやすくなっているし、各自の努力も非常にフレームを明確にしようとしているところがあると同時に、潜在的に、ある意見では一種の寄り合いというか、それでもやっぱり一緒くたにこの時期にしてみようという風な、意欲というか、ゼスチュアというかね、そういうものが少しずつ芽生えてきているんじゃないかという気がするわけですよ。たとえば自分の仕事と渡辺さんの仕事を一度一緒にしたらどんなものが出てくるのかとかね。それに木島さんの仕事をつけ加えてきたらどうなるんだとか、それに石井さんのやつをフレームとして入れたらどうなるんだとか、ゲームとして考えると非常におもしろいんですよ。だからそれぞれの中で全体像というのは決して出てこないんだけれども、そういうものの関係の中を見ていくと、一瞬こう全部が望めるような幻想があるわけですよ。そこが僕は面白いし、ここ2～3年はそういうところだけを見ていったら面白いという気がするんですよね。



54の窓　石井　和紘



吉岡邸　渡辺　豊和



54の屋根　石井　和紘

木島：確かに今言われたゲームだっていうことは、思い当たる節があるね、自分自身でやっていることも含めてね。

石山：ゲームっていうと、日本人は非常に軽い空騒ぎって言っちゃう欠点をもっていると思うんですけどね。本当のゲームというのは、何かとんでもないものを賭けてやっているときがありますでしょ。

石井：それはその石山さんに対してやると石山さん怒るやないの。

石山：それはそのあなたの性格が悪いからよ。（笑）

渡辺：石山さんね、国家的視点でね、あなたみたいにね規範とか反規範とかさ……。

石井：国家的視点というのはね、ジャルをやっている伊東さんですよ。（笑）

この記事は『新春放談』の記録を一部カットした以外はそのまま掲載いたしました。
なお、紙面の都合により後半の記録は次号（8月号）に掲載いたします。

ゲスト	石井　和紘氏（石井和紘建築研究所　所長） 石山　修武氏（ダムダン空間工作所　所長） 木島　安史氏（熊本大学工学部　助教授） 渡辺　豊和氏（渡辺豊和建築工房　主宰）
と　き	昭和55年1月26日(土) 開会13：15→閉会16：00
ところ	森ノ宮ピロティ小ホール
参加人数	62名
企　画	日本建築協会　若い会員の集い小委員会

構造の頁

72
建築構造と様式

平田　定男

建築様式の外的・内的要因

建築の様式論に関する著書を読んで痛感することは、その範囲が建築の形態論から機能論にまで及んでいて、非常に複雑であることである。またその様式を決定する要素が多岐にわたっていることも、様式論を複雑にしている要素である。建築構造と建築様式を関連させて考える前提として、今回はその様式を建築空間（外部、内部）の造形という範囲を念頭において、考え方を述べたいと思う。

建築の様式を規制する要因として、一般に議論されている要素として、内的要因と外的要因に分けて考える。

内的要因：建築の中の用と美と強さ

外的要因：社会的要因（経済、政治、宗教等）
また地域的風土、民族的伝統

これ以外に建築を制作する建築家の制作意志という要素を、内的要因と考えるか、外的要因と考えるか、その位置づけが必要になる。

建築様式と建築家、建築設計組織

建築様式論の古典としてリーグルの〝様式の問題〟は有名である。芸術作品の形を成立させる要因として、使用目的、材料、技術等は時代とともに変化する内的要因として除外し、制作者の意志という精神要素を要因としてあげる考え方である。

また一方テーヌは様式論において、外的社会的要因を重視して、〝芸術家はいかに強力であろうとも、その発明する所は少ない〟といっている。芸術家を建築家と読みかえれば、建築家は建築の様式を創り出すことには、あまり関係がないという説である。

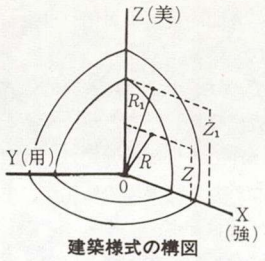
前者は建築家の制作意志を建築様式の内的決定要因と考え、後者は要因として考えないとしている。

建築家の制作意志は建築創造に関係のある要素であることは自明であるが、これを外的内的要因と考えずに、それは、外的要因に影響されて、内的要因をコントロールする因子として、要因の外にある存在として考える。

建築様式の考え方の構図

以上のごとく建築家の制作意志を、内的要因の外におくことを前提とすれば、**次図**のような構図が考えられる。

1：内的要因としては用、美、強さを考え、それをx、y、z軸とする。



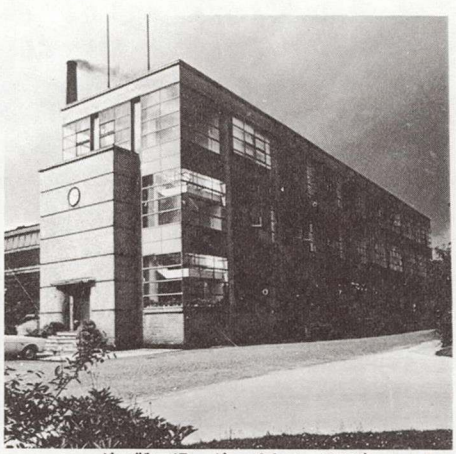
建築様式の構図

2：外的要因として社会的要因を考え、これを原点を中心とした半径Rの球を描き、これが建築の内的要因としての用、美、強さを規制する外的要因の強さの尺度を表す経済的要因と考える。この場合、社会的要因としての政治的要因、宗教的要因は経済的要因に影響を与える因子としてRの中に吸収して考えればよいし、地域的風土の条件は、一応20世紀の科学技術の発達はその要因を普遍的なインターナショナル建築の中に吸収されたと考えて、これも外的要因として除外すれば、前の構図が考えられる。この図において、強さのx軸のスケールと用を表すy軸のスケールを一定にしてRの尺度を$R_1 > R$に拡大した場合を考える。この場合、z軸の美のスケールyzからz_1に移る。つまり経済的尺度で大きくすれば内的要因としての美の尺度は大きくなる。

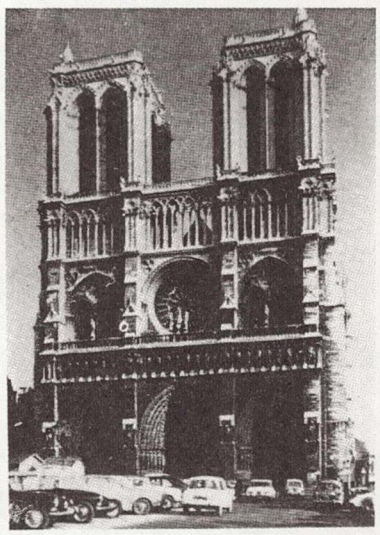
建築様式と外的要因（経済、政治、宗教）

1919年、グロピウスはドイツのワイマールに〝バウハウス〟を設立した。その宣言文の中に〝バウハウスは、造形の近代的媒体として機械を取り入れ、機械と協調してゆく道を探究し……〟とかかれている。グロピウスはファグス靴工場を設計し、やがてヨーロッパやアメリカに、または大正10年にはわが国にも、古い様式を否定したインターナショナルな箱型の建築が都市に姿を現す。また1922年、ペレーはコンクリートのノートルダム寺院を設計したとき、〝最小の材料と最小の労力によって最善のをめざす……〟ことを宣言してコンクリートと取り組んでいる。新しい材料として鉄やコンクリートを生み出したのは、18世紀にイギリスに端を発した産業革命が、より経済的な生産手段をより早く建設することを必要としたことが原因である。いわゆる建築様式の構図の中のRの尺度が縮められたことが原因である。

さらにヨーロッパにおいて、19世紀の終わりから20世紀の初期にかけて、次つぎと華麗なる衣服を脱ぎ去って裸のままの骨格をさらけ出した建物の歴史をたどってみよう。


ファグス靴工場　グロピウス　1911年


ノートルダム寺院
ペレー
1922年


ノートルダム寺院
1250年

パリーのシテ島にある中世のノートルダム寺院を鳥にたとえれば孔雀であろう。17世紀ルイ王朝のルーブル宮は、尊大なる七面鳥である。18世紀のフランスのバロックの建築群は極楽鳥の群れである。彼女は19世紀の資本主義経済の発達による経済的制約によって、その美しい羽根をもぎとられてしまった。その後に見られた姿は、孔雀も、七面鳥も極楽鳥も区別のつかない、骨と肉と皮膚だけの同じ姿であった。この姿がインターナショナルな建築様式であった。20世紀の建築家は、このRの尺度の中で建築の用と美と強さの問題と取り組んだ。

建築に最小限必要な強さが要求され、用としての機能が満たされなければならない。20世紀の建築家はこの縮小されたRの尺度の下で、美を見出すために悪戦苦闘をしなければならなかった。ミースは構造的合理性を追求して、美しさをコントロールしたし、ライトはこの制約の中で用と美と強さを有機的に結びつけて成功した建築家であろう。これらは19世紀まで続いてきた。建築形態の非合理的な感性的な要素が19世紀以後の科学的な合理性にとって変わった歴史の一こまである。

建築様式と内的要因としての構造の問題

建築様式における構造とは、建築を構成する材料とその組み立て方という二つの概念を総合して

考えたい。ゴシックのカテドラルの内部空間を荘厳にするためには、石というマシブな材料を高くつみあげる必要があったし、日本建築の優美さを強調するためには、木材を軽く組み立てる必要があった。それとは別に、構造の機能として要求される要素として、その耐久性および安全性というものが要求される。科学技術の未発達な中世においては、耐久性についての要求はあったが、安全性についての確実な定量的な見通しをたてることはできなかった。定量的な解析ができないために、安全率の高い構法がとられ、大きなマシブな石がつみあげられた。またそれが教会としての荘厳さに通ずるものであった。またその要求に宗教的権威や君主制の権威は、Rの尺度を大きくすることが可能であって、構造的な安全性も、機能的な要素も、美の問題も包含することができた。

しかし18世紀におけるヨーロッパの産業革命は、新しい建築材料として、鉄とコンクリートを出現させ、またそれに応じて、材料の組み方も変わってきた。ピン構造やラーメン構造が建築の主構造形式となったのは19世紀の中頃である。この時代、建築構造が建築様式との間に大きな問題を生じた。すなわち資本主義経済が宗教よりも政治よりも優先する時代になって、最小の材料と最小の労力をもって最大の建築の機能を満足さすために、構造的な余肉をとり去ることが要求された。それが建築に定量的な安全率を要求した。構造計算という科学に裏づけられた技術を駆使することによって、安全性ではなく安全率を確かめなければならなかった。

ここでわれわれは構造と様式の間の大きな問題にかかわらねばならない。すなわち安全率を明確にするためには、その対象となる建築の骨組みは、計算にのる単純なモデルでなければならない。機械はその機能を発揮するためにはこの単純化が行われた。それと同じことを建築に応用しようとしたのが、1919年のバウハウスの巨匠、グロピウスであったことは先に述べた。20世紀は建築を箱型にした。それは単純なモデル化のためであった。われわれはここに一つの矛盾を感ずる。科学が進歩して計算技術が発達したために却って、建築の形態が有機的な美から遠ざからなければならないことである。計算にはのらない複雑なモデルの造形形態がそのシルエットのために人間的で美しいとすれば、科学の進歩が逆に、建築の様式に歯止めをかけることになるのではないかという疑問が生ずる。そのような様式は過去のものだ、20世紀の様式は機械美であるのだ、超高層が現代の美であると片付けてよいのであろうか。これがモダニズムなのだと断定してよいだろうか。

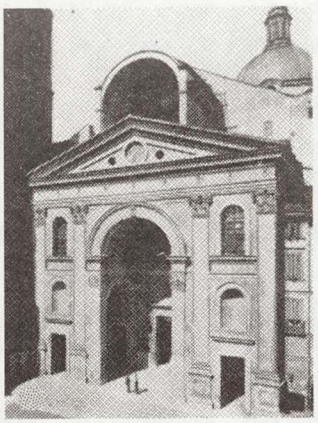
最近、ポストモダニズムということが語られている。現代の様式の後に来る、新しい様式に対して構造はいかに対処すべきであろうか。

ポストモダニズムについて

ポストモダニズムについて考える前に、ゴシックからルネサンスに移行した14～15世紀の様式の変遷について考えてみたい。一般にルネサンスとは文化の再生を意味している。宗教改革と絶対君主制から封建領主制への移行、農業主義から商業主義への移行による、人間的自覚が文化を再生した時代であると言われている。

しかし建築に関して、ゴシックから古典的様式としてのギリシア様式に移行したことが、ルネサンス（再生）であろうか。中世から近代への社会的仕組みの変化、すなわち外的要因の変化が、中世をモダニズムと考え近世をポストモダニズムと考えた場合、再生ではなくて退化ではないかと考えることができるのではないか。

教会の権威の失墜は教会建築の建設費に歯止めをかけたであろうし、封建君主は領民を酷使することはできなかった。装飾豊かなゴシックの様式から、ブルネレスキーのサンタマリア、さらにアルベルチのサン・タンドレア教会のファサードへの移行からは、私は再生ではなくて、むしろデザインの退化の匂いを嗅ぐように思えてならない。



サン・タンドレア
教会
アルベルチ
1470年

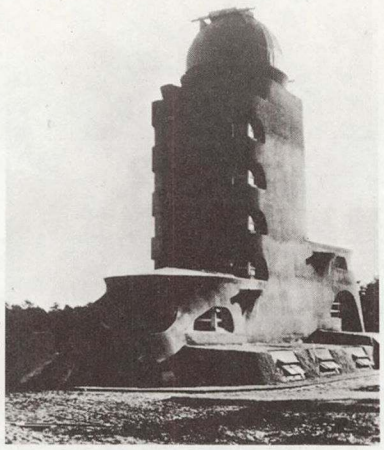
この時代にすでに最小の材料と最小の労力とによって最良の仕事をという思想が芽ばえていたのではないか。

イギリスにおいては近世を通じて最もおそくまで、ゴシック様式が残った国である。ジョン・ラスキンはゴシックの讃美者であったし、テームズ河畔のチャールズ・バリの国会議事堂は1835年～1860年のゴシック様式の代表である。イギリスにおいてなぜゴシックは復活したか。

19世紀はイギリスが植民地をインドに、オーストラリアに、カナダに拡張をし、いわゆるイギリス連合王国を築いた時代であり、1870年はヴィクトリア女王の富めるキングダムの時代である。いわゆる外的要因としてのRの尺度が非常に拡大された時代である。この時代的背景が孔雀のように華麗な装飾をまとった、コジックの様式を復活させ、存続させたとは考えられないであろう。

ルネサンス様式にRの尺度の退化を考え、イギリスのゴシックの様式にRの尺度の拡大を考え、この二つの事柄を基底にして、ポストモダニズムを考えてみよう。むろんこの時流的考え方を、建築の機能の表象のようなむづかしい問題について考えるのではない。またその能力もない。建築の造形の問題に範囲を限っての議論である。

ポストモダニズムが建築の領域において論議され出した背景を、私は21世紀を前にしたRの尺度の拡大とみる。すなわち20世紀も終わりに近づいた現在の情勢は資本主義経済も機能しにくくなってきつつあるような現象がみられ、政治体制も方向を変えなければならないし、科学技術にも反科学が叫ばれ、反省がなされるなど、外的条件の転向がみられる。このことがポストモダニズムとどのようにかかわってゆくであろうか。ルネサンスは中世に対してはポストモダニズムであったが、再生ではなく退化とすれば、現代のポストモダニズムは退化ではなく再生と考えることができるように思われる。この再生した形態がもし表現主義を再生するとすれば、すなわちアインシュタイン塔のような形態や、ガウヂーの形態を指向すると仮定したら、建築の構造はいかに対応すべきであろうか。



アインシュタイン塔
メンデルゾーン
1921年

21世紀の科学技術の真の前進が単純な構造のモデル化ではなく、コンピューターの助けをかりながら複雑な構造モデルへの挑戦を可能にすることが、ポストモダニズムに対する構造の課題であるように思われる。

結び

以上、〝建築構造と様式〟という標題で寄稿したが、読み返してみると、構造にはあまり縁のない事柄を思いつくままに書き流した感じである。恐らく様式論にはなっていない—構造家のタワゴトのようなものである。それでも勇をふるってこの拙文を寄稿したのは何故であるか。

私は現代の時代は21世紀というすぐ近くに来ている未来に向かって、建築家やその組織の中の人々が無経験の世界を予見して、新しい建築の様式を確立しなければならないし、その能力を要求されている時代であると思う。〝無経験の世界においては理論が優位に立つ〟（建築雑誌：昭和52年4月浦辺鎮太郎）のである。いわゆる未経験の人生に向かうためには哲学が必要であるように、ポストモダニズムの様式の確立のためには、様式論に基づく建築設計理論が必要ではないか。

私の建築構造とその様式は論にもなっていないタワゴトのようなものであることは前述した。あえて寄稿したのは、これからの若い人達に、このようなバーバリズム的な勇気を要求したいからである。自分の考え方が間違っているかどうかは、外に発表して他の批判をうけなければ不明のままで終わるであろう。未熟を指摘されて、自分の不明を知ることは恥ではないことは先賢の言葉である。

私の幼稚なる様式論が少しでも刺戟になって、若い建築家の活発な議論が展開されることを願って稿を終わります。

1980年7月1日

（ひらた　さだを　平田建築構造研究所所長）

設備の頁

71 電気配線の耐火壁貫通方法

中島　勅夫

タワーリング・インフェルノ……それは超高層ビルにおける火災がいかに恐ろしいものであるかを映画にしたもので、ビル火災といえばこの映画を思い出すのは、なにも私だけではないと思う。私がこの映画を強烈に憶えているのは、その火災の原因および火災拡大の一大要因となったのが、ビル設備における電線ケーブル類であり、私自身もビル設備のなかでもとりわけ電気設備の設計施工を本職としていることから、身につまされる思いがしたものである。このことは何も単なる仮空の上の話ばかりではなく、過去におけるいくつかの火災においても実証されている事実であるだけになおさらのことであった。

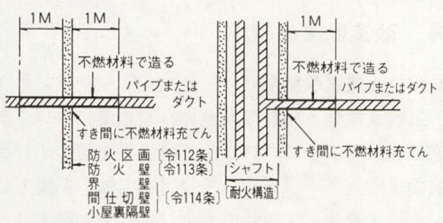
ビル設備における電線ケーブル類というのは、エネルギーや情報を送るため、またビル設備機能を全うする上においても、なくてはならぬものであるが、まかり間違うとビル火災の原因あるいは火災拡大の一大要因ともなりうるという性格を有しており、その施工方法には細心の注意を払わなければならない。

ここではとくに、火災拡大の一大要因とならぬための配慮、すなわち耐火壁貫通部の処理方法について考えてみる。

■法規制にみる耐火壁貫通部の処理

耐火構造もしくは防火構造の壁や床などの貫通部分の処理は、建築基準法の適用範囲に入り、消防法では直接規制していないのであるが、実際には火災予防の見地から、所轄消防署の指導を受けているのが実情である。したがって、法的には建築基準法にのっとって施工してあれば問題はないのであるが、所轄消防署の見解が各地方により多少異なることもあるので、あらかじめ所轄と打ち合わせをしておくことが賢明かと思われる。

建築基準法における処理方法を図示すると**図-1**

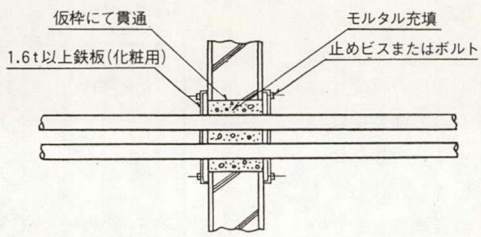


図－1

のごとくとなる。これを基にして、電気配線の工事方法別に処理方法をまとめてみる。

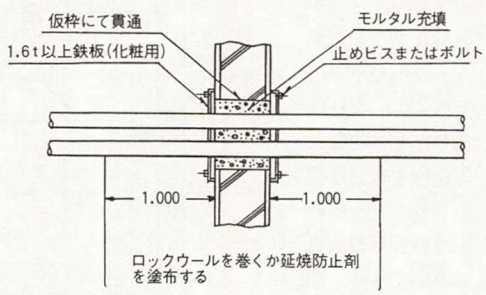
これらの工事方法のうち、一番問題となるのはケーブル工事の場合である。建築基準法においては、ケーブルが直接防火区画を貫通する場合の処理方法については、触れられていないのであるが、

■金属管工事



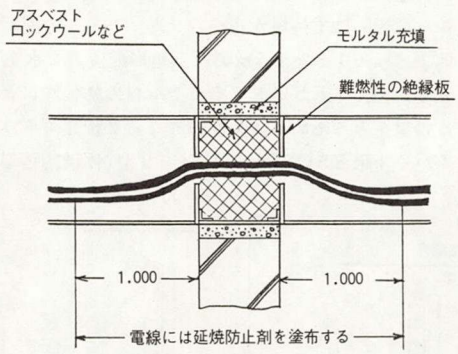
(注1) 床貫通の場合も上図に準ずる。
(注2) 防火壁より3.000以内にジョイントボックスがある場合は、ボックス内より電線管に不燃材(石綿等)を詰め、完全にしゃ断すること。

■合成樹脂管工事



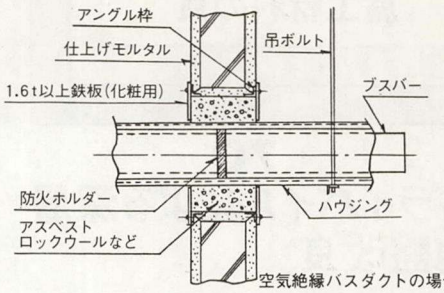
(注1) 床貫通の場合も上図に準ずる。
(注2) 防火壁より3.000以内にジョイントボックスがある場合は、ボックス内より電線管に不燃材(石綿等)を詰め、完全にしゃ断すること。
(注3) 貫通部の両側1mの延焼防止については、耐火構造の床もしくは甲種防火戸で、建築物の他の部分と区画されたパイプシャフト、パイプダクト、その他これらに類するものの中にある部分の場合、または電線管が準不燃材料、難燃材料または硬質ビニル管で造られており、さらに電線管の外径が89mm以下で、肉厚が5.5mm以上である場合は、延焼防止を施さなくともよい(建設省告示第3183号 S.44.7.3)。
(注4) 延焼防止剤による処理の方法については、所轄により認められない場合もあるので注意すること。

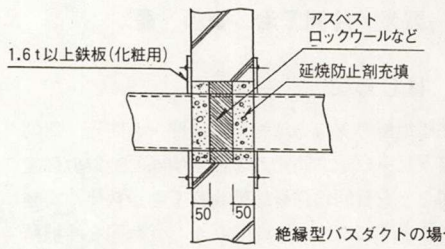
■金属ダクト工事



(注1) 床貫通の場合も上図に準ずる。
(注2) 延焼防止剤による処理の方法については、所轄により認められない場合もあるので注意すること。

■バスダクト工事

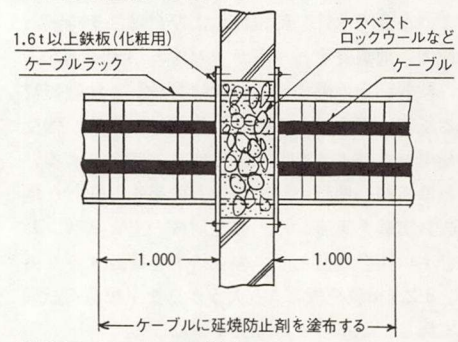




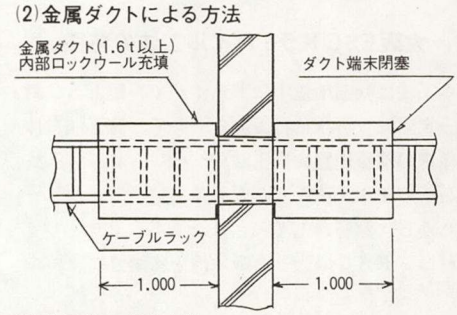
(注) 床貫通の場合も上図に準ずる。

■ケーブル工事

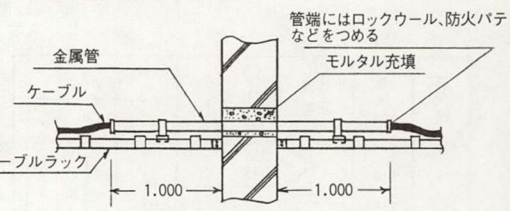
(1)延焼防止剤による方法



(2)金属ダクトによる方法



(3)金属管による方法



(注1) 床貫通の場合も上図に準ずる。
(注2) 延焼防止剤による処理の方法については所轄により認められない場合もあるので注意すること。

法の精神を尊重して、パイプ類と同様に上記のごとく処理すべきである。しかし、ケーブルの場合はパイプ類と異なり、通電時の伸縮、振動、火災に遭遇したときの膨張、熔融などがあるため、モルタルなどでシールしても、長い間にはケーブルとの間に空隙を生じる危険性があり、またモルタルでかためてしまうとケーブルの増改設が困難になるなどの欠点が生じてくる。このため最近では各メーカにおいて、このような欠点を解消するための工法開発が進められ、いくつか製品化されている。まだなお適用範囲および既設電線路における作業性など、さらに検討が必要とされているが、建設省の認定を受けているものの例を、いくつか紹介してまとめとしたい。

- マルチケーブルトランジットによる防火区画貫通部の防火工法 (BCJ 防災－58)
- フレイムマスチックによる防火区画の防火工法 (BCJ 防災－59)

(なかじま のりお　大阪電気暖房KK技術本部主任)

施工材料の頁

70 ドライパイルによる深層地盤改良

杉　智光／片岡宏治／安藤　豊

1．はじめに

基礎地盤の支持力増強と圧密沈下の防止、開削に伴うヒービング防止および掘削底面地盤の強度増加などを目的に深層地盤改良工事が数多く実施されるようになってきた。しかし、軟弱な沖積粘土地盤の深層改良は、粘土の高含水比性および低透水性のために有効な工法が少なく、また改良効果の判定についても的確な方法が見当たらない。

このたび吸水性、膨張性および自硬性を持った粉粒体の地盤安定材（ドライパイル用大阪ESC）を、軟弱粘土地盤にパイル状に打設し、地盤に対する圧密・脱水による改良効果だけでなく、強度を発現したパイルを群状に形成することによる、いわゆる複合地盤としての改良効果をねらった地盤改良実験を実施した。施工前後の土質試験、および主に複合地盤としての支持力を確認するために、ϕ 2.7m載荷板による大がかりな平板載荷試験を実施し、いくつかの知見を得た。

2．大阪ESCドライパイル工法の特徴

本工法は軟弱地盤中にドライパイル用ESC材を一定間隔で群状に打設するもので、施工法自体は従来の深層地盤改良工法（サンド・ドレーン工法、生石灰パイル工法など）と大差ない。

しかし、深層に充てんされたESCドライパイル材は、ESCの大きな吸水性と膨張性によって軟弱土の含水比を小さくし、圧密する一方、ドライパイル材の自硬性によって地盤中にパイル状の硬化体を形成し、いわゆる複合地盤としての改良効果が期待できる新しい工法である。この点が土の圧密を主体とする従来の工法と本質的に異なる。またドライパイル用ESCは、改良目的に応じて膨張性と強度を適宜選択できるので、広範囲な軟弱地盤改良に対応できる。加えて生石灰にみられる急激な発熱現象もなく、安全な施工が可能な材料でもある。

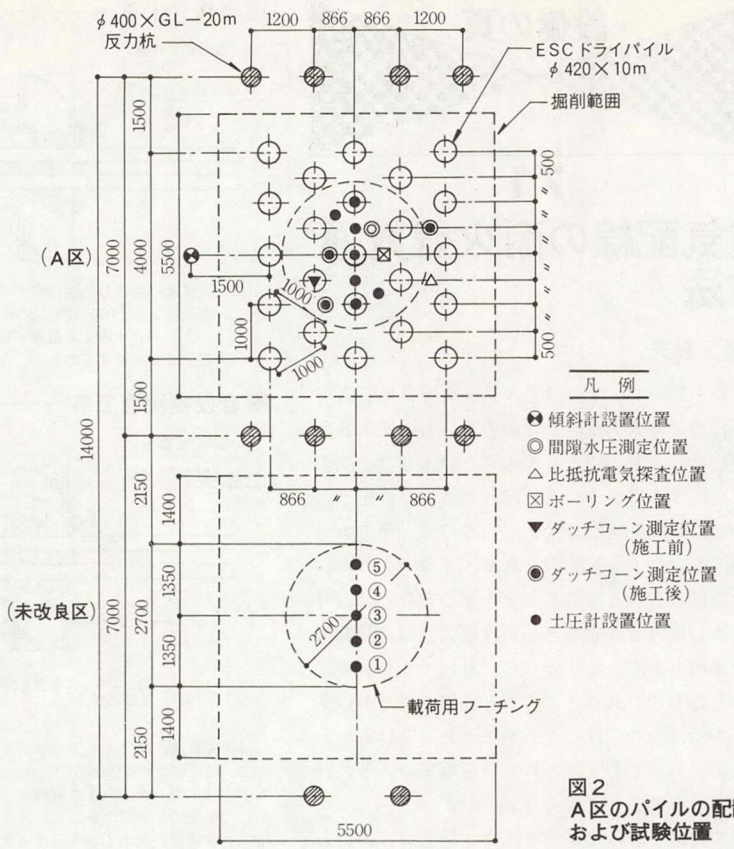


図2
A区のパイルの配置および試験位置

3．施工実験の概要

本実験は、大阪府大東市内のGL−10.5mまでN値3程度、粘着力0.3Kgf/cm² 前後の軟弱な沖積粘土地盤（**図1**）で実施した。

ESCドライパイルの形状はϕ 420㎜×10mとし、複合地盤としての改良効果を検討するため、パイルを意識的に支持層から浮かせた。パイルの配置は、ピッチ1mと1.5mの正三角形配置の2水準とし、加えてESCドライパイル材の膨張性による効果をみるため、膨張性の異なる2種類のドライパイル用ESC｛DP用ESC-Ⅱ型（体積膨張率10%）、DP用ESC-Ⅲ型（体積膨張率30%）｝を使用した。これらの組み合わせにより、A区（Ⅱ型、ピッチ1m）、B区（Ⅱ型、ピッチ1.5m）およびC区（Ⅲ型、ピッチ1m）の3種類の工区を計画し、合計65本のパイルを打設した。パイルの施工は無振動・無騒音工法で行い、パイル1本の施工所要時間は約20分と、良好な施工性が得られた。

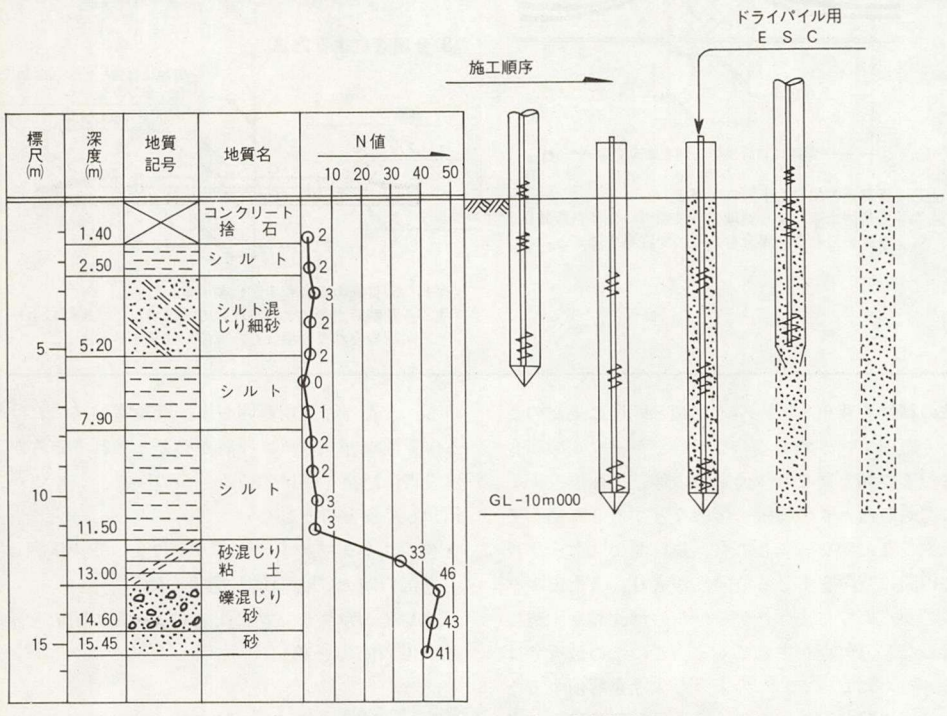


図1　大阪ESCドライパイル実験の土質柱状図と施工要領

改良効果を確認するための試験は、すべて改良前後について行い、その項目は土質試験（含水率、一軸圧縮、三軸圧縮、圧密）、標準貫入試験、横方向K値、オランダ式二重管コーン貫入試験、地盤の変形測定（傾斜計）、間ゲキ水圧測定、比抵抗電気探査および直径2.7mの載荷板による平板載荷試験などである。平板載荷試験は、未改良地盤、および改良地盤（A区、打設後9週間経過）をGL−1.5mまで根切りし、それぞれにϕ 2.7mの円型独立フーチングの載荷板を造成して、土質工学会「クイの鉛直載荷試験基準」B法に準じて実施した（**図2**）。

4．改良効果の確認

4−1．土質試験結果

未改良地盤と施行後4週の改良地盤において実施した土質試験における測定値の平均値および改良効果率（$\frac{\text{改良後}-\text{未改良}}{\text{未改良}}\times 100$：%）を**表1**に示す。含水比、圧縮強度および粘着力に関する改良効果は、各区とも効果率で1～3割前後であり、ドライパイル材料が異なるA区とC区とでは、C区＞A区であり、Ⅱ型（A区）よりもⅢ型（C区）の方が地盤に対する改良効果は大きい。また、同一材料でパイル間隔が異なるA区（ピッチ1m）とB区（ピッチ1.5m）とではA区＞B区であった。

コーン支持力は、ドライパイルの施行により約

1～3倍になる改良効果が認められ、ドライパイル材料のちがいでは、膨張性の大きなⅢ型（C区）がⅡ型（A区）より効果が大であった。

4－2．パイルコアーの強度試験結果

パイルコアーの圧縮強度はⅡ型で300Kgf/cm²前後、Ⅲ型で100Kgf/cm²前後であり、せん断強度はⅡ型で70Kgf/cm²前後、Ⅲ型で40Kgf/cm²前後であり、パイル自体の強度性状はⅡ型がⅢ型を2～3倍上回った。

4－3. 平板載荷試験結果

荷重一沈下曲線（**図3**）と載荷状況より、極限支持力は未改良地盤で91t、改良地盤で287tと判定され、長期許容支持力は未改良地盤で30.3t、改良地盤で95.7tと計算され、3.16倍の改良効果が認められた。また、極限支持力式を用いて算出した極限荷重時の地盤の巨視的にみた粘着力としては3.64倍の改良効果が、荷重一沈下曲線より求めた地盤変形係数は5～8倍の改良効果が、認められた。

表1　土質試験結果

土　質	深度(m)	未改良	改良後（カッコ内効果率%）		
			A　区	B　区	C　区
含水比 W (%)	GL －4.50	48.2	42.2 〔12.4〕	43.4 〔10.0〕	40.9 〔15.1〕
	－6.50	86.1	77.4 〔10.1〕	82.3 〔－4.4〕	74.3 〔13.7〕
	－9.50	87.2	80.6 〔－7.6〕	87.6 〔 0.5〕	76.8 〔11.9〕
圧縮強度 q_u (t/m²)	－4.50	4.51	7.06〔56.5〕	5.80〔28.6〕	6.27 〔39.0〕
	－6.50	3.47	4.83〔39.1〕	4.40〔26.8〕	6.11 〔76.0〕
	－9.50	4.74	5.03〔 6.1〕	5.27〔11.1〕	7.13 〔50.4〕
粘着力 C (t/m²)	－4.50	2.20	2.72〔23.6〕	2.27〔 3.1〕	2.52 〔14.5〕
	－6.50	1.75	2.28〔30.2〕	2.10〔20.0〕	2.85 〔62.8〕
	－9.50	2.30	2.35〔 2.1〕	2.50〔 8.6〕	3.35 〔45.6〕
内部摩擦角 ϕ (°)	－4.50	5°30′	14°24′ 〔161.8〕	13°54′ 〔152.7〕	13°00′ 〔136.3〕
	－6.50	1°30′	4°06′ 〔173.3〕	3°48′ 〔153.3〕	3°30′ 〔133.3〕
	－9.50	2°00′	3°42′ 〔 85.0〕	3°06′ 〔55.0〕	3°30′ 〔 75.0〕

5．おわりに

ESCドライパイル工法は、パイル材料の吸水性および膨張性に加えて、自硬性が期待できる新しい深層地盤改良工法であり、その施工性と改良効果の確認を行うため、今回の施工実験を実施した。

その結果、ドライパイルの施行性は良好であり、

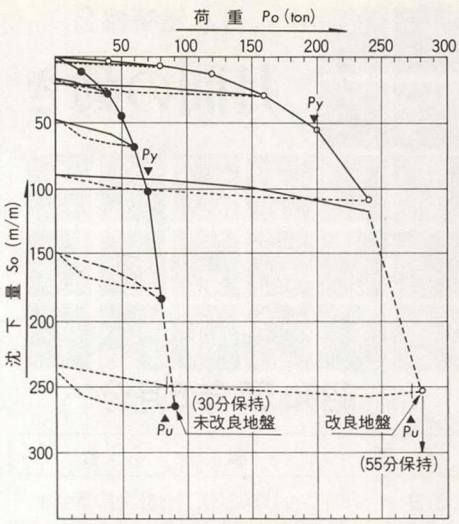


図3　荷重一沈下曲線

また未改良地盤に対する改良効果は平板載荷試験より許容支持力において3.16倍、地盤変形係数において5～8倍であることより、ESCドライパイル工法の有用性が確認された。

なお、同工法はすでに千葉県流山市立長崎小学校地盤改良工事および君津市農道整備工事に使用され良好な結果をおさめ、新東京国際空港公団航空燃料パイプライン第8立坑築造工事に伴う地盤改良に採用され、現在工事中である。

（すぎ　ともみつ　大阪セメント株式会社研究所
かたおか　こうじ　同　上
あんどう　ゆたか　同　上）

大阪ESC（地盤改良固化材）

軟弱地盤の改良に大きな効果〈膨張／脱水〉を発揮！
土質安定剤として巾広い活用を

■大阪ESCの特長

○大きな吸水性　○膨張性
多量のエトリンジャイトを生成し、遊離水を吸水します。水和時に膨張性があり、その効果は長時間にわたって持続します。

○自硬性　○安全性
水和に際して自硬性を発現し、高含水比の場合にもご使用出来ます。
急激な反応による発熱・発じん・悪臭などが発生せず、性状も弱アルカリ性です。

○経済性
経済的な土壌安定剤であり、産業廃棄物用固化材特殊凝固材として特にすぐれています。

■大阪ESCの種類

大阪ESC　（一般の軟弱土壌固化用）
大阪ESC-D（道路用軟弱土壌固化用）
大阪ESC-S（高含水泥土固化用）
大阪ESC-R（高含水泥土急速固化用）
大阪ESC-P（ドライパイル用）

■大阪ESCの用途

道路工事	路床改良・路盤改良・仮設道路改良
構造物基礎工事	建物基礎地盤改良・擁壁基礎地盤改良 水路基礎地盤改良
造成工事	宅地造成地盤改良・グランド造成地盤改良・公園造成地盤改良
泥土処理工事	河川ヘドロ固化・ため池ヘドロ固化・湖床ヘドロ固化・海底ヘドロ固化・下水汚泥固化・産業廃棄物泥土固化
その他の工事	止水壁工事・土留壁工事・グラウト工事 基礎杭周辺固定工事

■大阪ESC工法

浅層地盤改良	ESC工法
深層地盤改良	ESCドライパイル工法 ESCグラウト工法 ESCソイルパイル工法

大阪セメント株式會社

関連製品部

本　社	大阪市北区堂島浜1－4－4	〒530	☎(06) 345-1231
研究所	大阪市大正区南恩加島町7－1－49	〒551	☎(06) 552-1125
大阪支店	大阪市北区堂島浜1－4－4	〒530	☎(06) 345-1234
東京支店	東京都中央区銀座1－13－1（三晃ビル）	〒104	☎(03) 535-3291
名古屋支店	名古屋市中村区広井町3－2－1（東洋ビル）	〒450	☎(052) 582-6511
四国支店	高松市観光通1－4－16（中山ビル）	〒760	☎(0878)34-6464

日本建築協会

月間の動き

昭和55年5月分

理　事　会

21日　11時半～13時20分　　於会館集会室
出席者　塚本会長、福田、足立両副会長ほか15名
議事　(1)　通常総会並びに定時評議員会開催の件
(2)　副会長及び理事の会務分掌の件
(3)　理事会開催日時決定の件
(4)　昭和55年度常設委員会委員委嘱の件
(5)　前年度より引継事項承認の件
(6)　大阪建築防災センター理事1名、大阪住宅センター理事1名、日本建築総合試験所理事2名、建築業務基準委員会委員1名推せんの件
(7)　建築設計と省エネルギーに関する研修会開催承認の件
(8)　建築技術選書講座シリーズ「第5回」「第6回」開催承認の件
(9)　後援名儀使用依頼承認の件
(10)　事務局職員上期賞与支給の件
(11)　会員倍加に協力依頼の件
(12)　四会連合工事請負契約々款改正原案に関する件
(13)　入退会者承認の件
(14)　事業報告、会計報告

会　勢　委　員　会

9日　3時～5時　　於会館集会室
出席者　市川委員長、窪田、小松、村上各委員
議事　建材関係の会費増口依頼、新入会勧誘について

契約々款特別委員会

12日　3時～5時　　於会館集会室
出席者　塚本会長ほか6名
議事　四会連合工事請負契約々款改正原案の検討について

編　集　委　員　会

投稿欄小委員会
6日　4時～6時　　於会館集会室
出席者　小北副委員長ほか5名
議事　7月号以降の企画

委員会
8日　4時～6時　　於会館集会室
出席者　三輪委員長、渡辺・小北・間野各副委員長ほか2名
議事　(1)　5月号＝建築行政と法規特集経過報告
(2)　6月号＝都市景観とアメニティ特集経過報告
(3)　6月号特別企画「最近の防水工法」特集経過報告
(4)　7月号＝屋内体育施設の設備特集報告
(5)　8月号構造特集の企画
(6)　9月号計画特集の企画ー水ぎわのまちづくり
(7)　10月号施工材料特集の企画
(8)　小委員会・分科会報告
(9)　収支状況報告
(10)　そのほか

作品作風小委員会
14日　4時～6時　　於会館集会室
出席者　間野副委員長ほか3名
議事　(1)　新建築調査表作品選定
(2)　6月以降の作品PR状況
(3)　そのほか

8月号編集幹事会
14日　5時～6時半　　於1階編集室
出席者　横井幹事ほか3名
議事　8月号構造特集の企画について

9月号編集幹事会
16日　4時～6時半　　於会館集会室
出席者　富樫幹事ほか4名
議事　9月号「水ぎわのまちづくり」特集の企画

広告企画小委員会
19日　4時～6時　　於会館集会室
出席者　渡辺副委員長ほか4名
議事　(1)　5月号「行政と法規」特集広告収入報告
(2)　6月号「最近の防水工法」特集広告途中経過報告
(3)　7月号「都市景観とアメニティ」特集広告途中経過報告
(4)　8月号「屋内体育施設の設備」特集広告企画
(5)　11月号特別企画「集合住宅」特集広告企画
(6)　そのほか

施工材料分科会
20日　4時～6時　　於会館集会室
出席者　三浦幹事ほか3名
議事　(1)　10月号特集の企画（特集テーマと執筆者の選定）
(2)　「施工材料の頁」の企画
(3)　10月号編集幹事会について

事　業　委　員　会

見学会小委員会
8日　5時半～7時半　　於会館集会室
出席者　正楽井委員ほか3名
議事　(1)　第1回事業委員会の報告
(2)　4月の見学会の実施報告
(3)　6月～7月の企画について
(4)　8月以降の企画について
(5)　そのほか

若い会員の集い小委員会
13日　6時～9時　　於会館集会室
出席者　阪倉副委員長、斎藤幹事ほか10名
議事　(1)　第1回企画「建築家のためのみどり学習会(8)」について
(2)　第2回以降の企画について
(3)　そのほか

広報小委員会
14日　6時～9時　　於会館集会室
出席者　西村副委員長、今野・原見・平川各幹事ほか5名
議事　(1)　第1回事業委員会の報告
(2)　第47回展示写真について
(3)　第48回以降の写真展示企画について
(4)　「建築設計と省エネルギー」の研修会について
(5)　そのほか

委員会
15日　12時半～2時　　於会館集会室
出席者　三品委員長、乾・島田・西村各副委員長ほか1名
議事　(1)　各小委員会の事業報告及び本年度の事業企画について
(2)　そのほか

広報小委員会PR分科会
26日　6時～8時　　於会館3階会議室
出席者　今野幹事ほか2名
議事　(1)　「日本銀行大阪支店」の写真展示について
(2)　「街を緑に・第10回」の写真展示について
(3)　第48回以降の写真展示について

若い会員の集い「建築家に聞く」企画分科会
28日　6時半～10時　　於会館集会室
出席者　ゲスト　柴田正己氏(堺市立工業高校)、太田主査ほか3名
議事　(1)　第2回企画「建築家に聞く」について
(2)　企画内容について
(3)　会誌掲載について
(4)　その他

若い会員の集い小委員会「伝統工芸」分科会
29日　6時半～10時　　於会館3階会議室
出席者　天野主査ほか2名
議事　(1)　「伝統工芸を見る」の企画について
(2)　同上会告原稿の検討

教　育　委　員　会

委員会
9日　6時～8時半　　於会館集会室
出席者　多胡・佐々木正副委員長ほか12名
議事　(1)　昭和55年度正副委員長、幹事の選出
(2)　各小委員会の委員編成について
(3)　本年度の事業企画について
(4)　そのほか

工高生教育小委員会
22日　6時～8時　　於会館3階会議室
出席者　崎山副委員長、辻野・中野両幹事ほか3名
議事　本年度第26回工高生デザインコンクールの設計課題について

講習会小委員会
30日　6時～8時半　　於会館集会室
出席者　佐々木副委員長、藤野幹事ほか6名
議事　(1)　本年度建築工事実務講習会の企画について
(2)　建築技術選書講座シリーズ第5回実施報告ならびに第6回の申込状況報告
(3)　建築技術選書講座シリーズ第7回以降の講座企画について
(4)　そのほか

住　宅　委　員　会

委員会
13日　6時～7時　　於北浜ビジネス会館
出席者　小西委員長ほか11名
議事　(1)　小委員長および小委員会委員選任の件
(2)　次回住宅展の件
(3)　そのほか

建　材　委　員　会

委員会
22日　4時～6時　　於会館集会室
出席者　牧田、山本両副委員長ほか12名、信越化学3名
材料説明　シーラント70(シーリング材)

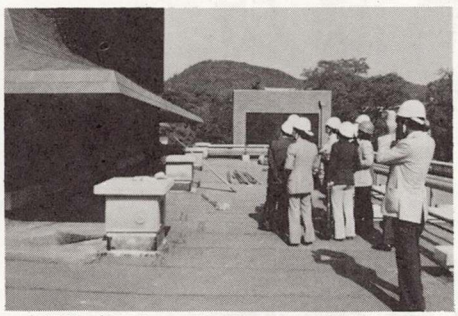
担当：竹島委員

議事　(1)　今後のメインテーマについて
　　(2)　今後の新建材紹介コーナーについて
　　(3)　そのほか

見　学　会

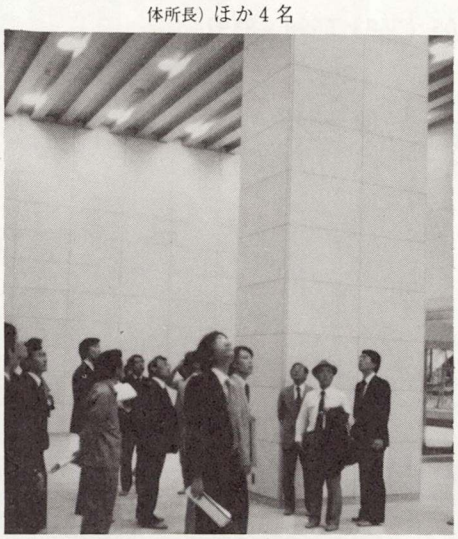
京都パークホテル新築工事を見る

10日　　2時～4時
参加者　34名
設計監理　藤原一建築設計事務所
　　㈱古谷建築設計事務所
施　　工　㈱竹中工務店
当日説明者　藤原　一氏(藤原一建築設計事務所所長)
　　ほか1名



東洋紡ビルディング新築工事の見学会

21日　　2時～4時
参加者　36名
設　計　㈱大林組
監　理　東洋紡エンジニアリング㈱
施　工　㈱大林組　東海興業㈱　共同企業体
当日説明者　内田昭雄氏(大林組・東海興業共同企業体所長)　ほか4名



建築技術選書講座シリーズ　第5回

―ソーラーハウス―

22日　　1時半～4時半　　於薬業年金会館
聴講者　26名
講　師　新日本空調株式会社名古屋支店次長
　　内山　武夫氏

若い会員の集い

建築家のための“みどり”学習会（第8回）
…樹木と花の観察…

(神戸市立森林植物園と兵庫県フラワーセンターを訪ねる)

24日　　8時40分～18時30分
参加者　27名
講　師　神戸市立森林植物園園長　清水忠芳氏
　　兵庫県フラワーセンター次長兼緑化課長
　　松元広美氏



故城戸武男氏
昭和55年5月5日逝去
享年　81才

本会名誉正会員

建築家　城戸武男先生を悼む

黒川建築事務所
黒川　巳喜

城戸武男先生（城戸武男建築事務所代表取締役会長）が、肝臓ガンにより去る5月5日午前1時45分遂にその81才の天寿を全うされました。

告別式は5月7日、遺言により名古屋の自宅において、友人、知己、建築界一般多数参列の下で盛大に、しめやかに行われました。郷里三重県上野町の本宅に祠られる由です。

そもそも入院されましたのは呼吸器疾患であったので、長引くものながら、必ず恢復されると信じていましたが、5月1日に急に御見舞しようと思い立ち、三団体代表が一緒に伺いました。今から思えば、これがいわゆる「虫の知らせ」であったかと思い返されます。

東海病院の病室に至りノックすると、後継社長の加藤氏に室外へ押し出され、面会は差し控えることになりました。

病床に起き上がっておられまして、別に差し迫っているわけではないが、今日はいろいろ遺言めかしい話が多いとのことであったので、一同祈る気持ちにて帰路につきました。

聞き及べば、いよいよ生命の迫ったことを自覚されたのか、その後は点滴注射も断り、泰然自若として死を迎えんとするお覚悟に見受けられた由にて、心をしめつけられる思いがいたします。

生涯を通じて建築家としての立派な態度と言い、まさに格式高き伊賀上野藩の士族の血が流れていたに違いないと思います。

建築家を志し、名古屋高等工業学校建築科を卒業されたのは大正9年であり、武田五一、鈴木禎次両先生の薫陶を受けられ、明治の気骨を持たれた方でした。しかるに惜しいかな、明治の灯がまた一つ消えた思いに感慨無量です。

先生は東海地方における建築設計事務所の先駆者でありまして、建築家の立場を身をもって、開拓されたのであります。その生涯を通じ世に残された作品は数多く、社会に貢献された功績は偉大であります。またあらゆる建築関係団体においては常に指導的役割を果たされました。近くは専業団体の確立の必要を生ずるや、その設立発起人となり、同年末愛知建築設計監理協会の設立の運びとなるに及んで、選ばれて初代会長を引き受けられました。

しかるに創立の困難を経てようやくその基礎作りの整ったところで不幸病臥の身となられ、吾々はそのご恢復を祈念していましたのに残念でなりません。

しかしながら先生の残された種々のご功績は永久に金字塔として光り輝くものと信じます。

また先生は地方文化にも貢献され、晩年郷里上野市に、自らの設計により古陶館を建設し、それを寄進されました。

先生の体は無くなろうとも、ご功績は永遠不滅のものであります。安らかに眠られますよう。

先生の略歴および作品の極めて一部を記し、ご冥福を祈ります。

●略歴抄

明治32年4月29日三重県伊賀上野に生まる。
大正9年　　名古屋高等工業学校建築科卒業
大正9年　　竹中工務店入社。昭和2年設計部主任
昭和8年　　同上退社。城戸武男建築事務所創設
昭和36年　　法人改組、代表取締役社長就任
愛知県文化功労賞・紺綬褒章・黄綬褒章・勲五等瑞宝章、愛知建築士会理事、日本建築協会評議員、日本建築家協会理事東海支部長、その他各団体役員歴任

●建築作品抄

金城学院講堂、徳源寺本堂、天理教愛町分教会神殿ほか、犬山市庁舎、岐阜城天主閣、新岐阜駅ビル、上野市産業会館、岡崎城天主閣、椙山女学園大学校舎ほか、梅屋寺本堂ほか、一宮信用金庫本店、法音寺本堂、日本住宅公団笹川団地、上野総合市民病院、上野市古陶館、その他官公民各種

会　計　監　査

12日、13日の両日、昭和監査法人公認会計士・富島一夫氏によって昭和54年度の会計監査実施。

建　築　クラブ　朝　食　会

13日　　8時～9時半　於大阪グランドホテル
出席者　76名
当日は、国鉄大阪工事局片瀬貴文氏より「ザイールとの十年」についてお話を伺った。

四会連合工事請負契約約款改正委員会

2日　　於日本建築学会(東京)
出席者　建築8団体(本会より塚本・宮秋委員)
議事　四会連合工事請負契約約款改正案について

5月の入会者　(敬称略)

〔団体会員3社〕
九州電気工事㈱大阪支社　四国電気工事㈱大阪支社
東海電気工事㈱大阪支社

〔個人会員23名〕

青木　茂	青木　正文	池上　孝司
石川　良治	大上　哲朗	大川　浩史
嘉積　俊一	兼元　文雄	岸本　幸臣
北川　惇	清水　義夫	砂田　靖
多田　弘志	谷崎　敏邦	遠山　毅
福元　公雄	藤江　正博	本多　友常
近田鬼代見	刃金　国雄	森下　隆生
宮治　長一	山本　善大	

祝 建築と社会700号

暑中お見舞申し上げます 昭和55年盛夏

設計事務所有志



株式会社

A.R.I 建築事務所

代表取締役 亀井晃治

本社事務所 大阪市南区谷町7丁目12-1 新谷町第3ビル2F TEL (06)768-1771(代)
東京事務所 東京都中央区月島4丁目13-3 秀和月島レジデンス108 TEL (03)531-3954
アトリエ 東大阪市上石切町2丁目14−35 TEL (07437)3−6137

株式会社 東建築設計事務所

代表取締役 東 秀保

大阪市北区天神橋3丁目8番3号 マチスビル 電話 06 (358) 5598・3497

株式会社 井上達明建築事務所

代表取締役 井上達明

〒530 大阪市北区鶴野町1番3号 (安田ビル) 電話 06 (372) 2821(代)

株式会社 伊東建築設計事務所

代表取締役 竹原永一郎

〒556 大阪市浪速区幸町通2−6(清光ビル) 電話(562)4343〜5

株式会社 伊藤建築設計事務所

取締役社長 伊藤鑛一

本 社 名古屋市中区錦3丁目3-6(名古屋日経ビル) 電話〈052〉951-1110(代)
東京事務所 東京都千代田区神田美土代町7(久保ビル) 電話〈03〉294-6061(代)

株式会社 泉沢建築設計事務所

代表取締役　泉　沢　哲　史

〒530 大阪市北区西天満4丁目12番2号(オオシマビル) TEL (06) 364-9071(代)

株式会社 浦辺建築事務所

代表取締役所長　浦　辺　鎮　太　郎
取締役副所長　松　村　慶　三

大阪市北区梅田1丁目12番39号・新阪急ビル　電話06 (341) 1727
東京事務所　電話 03(263) 9758　福岡事務所　電話 092(761)2206

株式会社 久米建築事務所

取締役社長　永　井　賢　城

本　社　東京都港区西麻布1丁目13番11号　電話03 (403)0251大代表
大阪事務所　大阪市北区堂島浜1丁目4番27号　堂島中町ビル　電話06 (344)2096代　表

株式会社 小西設計

取締役社長　小　西　　岬

本　社	大阪市西区立売堀1丁目12番16号	電話(532)4051代表
大阪事務所	大阪市西区阿波座1丁目15番15号(第一協業ビル)	電話(532)4051代表
東京事務所	東京都千代田区神田鍛冶町3－3(大木ビル内)	電話(256)9301代表
広島事務所	広島市中区大手町2丁目7番1号(三葉ビル)	電話(46) 0144

株式会社 篠田川口建築事務所
株式会社 協同設備事務所

代表取締役社長　川　口　喜代枝

名古屋市東区泉1丁目21番21号　TEL 962－7581(代)　TEL 971－2255(協同)

株式会社 昭和設計

建築・都市・上下水道
調査計画・設計監理

代表取締役社長　岡　本　行　善
代表取締役副社長　林　　唯　夫

本社事務所	大阪市西区新町1丁目5番7号 四ツ橋ビル	TEL代表 532－3421
神戸事務所	神戸市葺合区八幡通4丁目2番17号 久徳ビル	TEL078－251－0651
東京事務所	東京都港区赤坂3丁目12番5号 赤坂田町ビル	TEL 03－583－2086

株式会社 創美設計

代表取締役　中原英雄

大阪市北区末広町3番21号 星和地所扇町ビル6階 TEL大阪(06)312−3587代表

株式会社 大建設計

取締役社長　千原大五郎

本　　社　東京都港区新橋1丁目10番7号(大和銀行新橋ビル)　東　京(572)4595(代)
大阪事務所　大阪市西区江戸堀1丁目12番8号　安田生命大阪ビル　大　阪(441)9351(代)
名古屋事務所　名古屋市中区栄4丁目6番15号名古屋日産生命館ビル　名古屋(261)8531(代)
九州事務所　北九州市小倉北区紺屋町9番1号　明治生命小倉ビル6階　小　倉(521)4285(代)
分　　室　室蘭

株式会社 竹内建築事務所

代表取締役　内藤一真

大阪市南区長堀橋筋2丁目35の1(日亜ビル)　電話 (211) 2706 (代)

株式会社 東海設計

代表取締役社長　小坂忠勝

本　　社　名古屋市中区栄3丁目7番1号(伊勢町ビル)　〒460 TEL 052-261-2651(代表)
東京事務所　東京都中央区京橋1丁目14番4号(東信ビル)　〒104 TEL 03 -561-0815(代表)

東西建築サービス株式会社

取締役社長　布袋國雄

本　　社　大阪市東区横堀2−48　電話 202−3626
東京事務所　東京都中央区日本橋馬喰町2-1-1　電話 663−1765
(住友銀行 浅草橋ビル6階)
出張所　名古屋・広島

株式会社 東畑建築事務所

代表取締役社長　東畑謙三

本　　社
大阪事務所　大阪市東区伏見町5丁目19　電話 大阪(06)202-0391
東京事務所　東京都千代田区永田町2(永田町ビル)　電話 東京(03)581-1251
名古屋事務所　名古屋市中村区名駅3(堀内ビル)　電話 名古屋(052)571-8471
九州事務所　北九州市小倉北区魚町1−4−21　電話 小倉(093)541-6531
(北九州清和ビル)

株式会社　内藤建築事務所

代表取締役会長　内藤資忠
代表取締役社長　片山光生

本　社　〒606京都市左京区中大堰町１８９番地　電話075(781)4111代
事務所・出張所　青森・東京・松本・静岡・名古屋・京都・奈良・大阪
高知・福岡

株式会社　長田建築事務所

長田正雄

〒542 大阪市南区上汐町３－59　ケーエスビル　電話 768－6121

株式会社　日建設計

取締役社長　安藝元清
大阪本社代表　小菅滋夫
土木業務所代表　藤谷憲男

〒541　大阪市東区横堀２丁目３８
電話 06-203-2361(大代表)

有限会社　村野，森建築事務所

大阪市阿倍野区阿倍野筋２－３－８　電話(624)０９２６代表
研究室　大阪市南区心斎橋筋１－４３　電話(253)０８７５代表
東京事務所　東京都中央区日本橋茅場町２－３　電話(669)５６５１代表

株式会社　安井建築設計事務所

代表取締役社長　佐野正一

本　社　大阪市東区島町２丁目７番地　電話 06(943)1371(大代)
支　社　大阪・東京・名古屋・神戸・福岡

祝 建築と社会700号

暑中お見舞申し上げます 昭和55年盛夏

建設業者有志



株式会社 あめりか屋

取締役社長 前野慶太郎

本 社 〒530 大阪市北区中之島4丁目3番25号 電話 代表 (444) 1501番



株式会社 淺沼組

取締役社長 淺沼茂夫

本 社・大阪市天王寺区東高津町８番地の１ 電話 大代表 (768) 5222
東京本社・東京都新宿区荒木町５番地 電話 代表 (357) 0261
支 店・名古屋・札幌・仙台・広島・福岡



株式会社 新工務所（アタラシ）

取締役社長 新昭一

本 店・大阪市北区曽根崎２丁目８番７号 電話 代表 大阪(313)1331番
支 店・東京都千代田区猿楽町２丁目１番１４号 電話 代表 東京(291)3741番
支 店・名古屋市中区大須４丁目１番71号(時計ビル) 電話 名古屋 (262)1725番



安藤建設株式会社大阪支店

常務取締役支店長 岡幸夫

大阪市福島区福島６丁目３番２１号 電話 代表 (453) 2190
本 社・東京都中央区八重洲2丁目2番7号 電話 大代表 (272) 7411
支 店・名古屋・仙台・静岡・九州・広島・横浜・札幌
営業所・千葉・横浜・水戸・盛岡・新潟・神戸・京都・沼津・札幌・宇都宮・北九州・熊本



株式会社 井上組

取締役社長 井上福蔵

本 社 大阪市都島区網島町６番２５号 大阪(351)0530 (352)4031～4
出張所 神戸市生田区加納町３丁目２番地 電話 神戸(33) １７８０

株式会社 今西組

取締役社長　今西壽雄

本　社　大阪市天王寺区上本町７丁目２番地ノ１　電話06(779)３３６１
支　店　東京都新宿区内藤町１番地　電話03(354)０５８１
営業所　京都・神戸・西宮・奈良・埼玉

株式会社 大林組

取締役社長　大林芳郎

東京本社・東京都千代田区神田司町２丁目３番地　電話 大代表 (292) 1111番
本　店・大阪市東区京橋３丁目３７番地　電話 大代表 (943) 1131番
支　店・札幌・仙台・横浜・北陸・名古屋・神戸・広島・四国・福岡

株式会社 奥村組

取締役社長　奥村俊夫

本　社　大阪市阿倍野区松崎町２の２の２　電話 大阪(06)621－1101(大代表)
東京本社　東京都港区元赤坂１の３の10　電話 東京(03)404－8111(大代表)
支　店　札幌・仙台・浦和・東京・横浜・千葉・名古屋・大阪・神戸・広島・高松・北九州・福岡

鹿島建設株式会社

取締役社長　石川六郎
取締役支店長　奥村吉朗

本　社　東京都港区元赤坂１－２－７　電話 03 (404)3311(大代)
大阪支店　大阪市南区鰻谷西之町６　電話 06 (245)2311(大代)

株式會社柄谷工務店

取締役社長　柄谷順一郎

本　社　尼崎市玄番南之町４番地　電話大阪 06(411)１４５１(代)
営業所　大阪・西宮・神戸・高砂・豊田・三田

株式会社 近畿建設

取締役社長　川崎敬三

本　社　大阪市西区江之子島1丁目2番2号　電話　大阪06 (448)5601代
滋賀支社　滋賀県栗太郡栗東町岡１９３の１　電話　07755 (２)1361～２

近鉄住宅建設株式会社

取締役社長　木梨正夫

〒542　大阪市南区谷町9丁目1番地　電話　大阪 06 (763) 2581代表

株式会社 熊谷組大阪支店

取締役会長　牧田甚一
取締役社長　熊谷太一郎
専務取締役大阪支店長　星野晴彦

本社　東京都新宿区津久戸町17番1号　電話 (260) 2111番(大代表)
大阪支店　大阪市都島区片町2丁目10番5号　電話 (352) 1151番(大代表)

甲南建設工業株式会社

代表取締役　原精一

大阪市淀川区十三本町2丁目4番28号　電話(06)308—1551大代表
尼崎市南武庫荘2丁目7番23号　電話 (06)427—9631代表
東京都千代田区神田須田町1—18(共同ビル)　電話 (03)253—4455代表
神戸市葺合区八幡通4丁目2番8号(松井ビル)　電話 (078)221—6293代表
堺市宿屋町東3丁1番19号　電話 (0722)29—0088
福岡市博多区博多駅前3丁目2番8号(住友生命ビル)　電話 (092)471—7271
名古屋市熱田区富江町1111　電話 (052)681—6745

株式会社 鴻池組

取締役社長　鴻池藤一

本社
大阪本店　大阪市東区北久宝寺町4—27　電話 大阪(244)3500(ダイヤルイン受付台)
東京本店　東京都千代田区神田駿河台2-3-11　電話 東京(296)7700(ダイヤルイン受付台)
支店　名古屋・広島・福岡・鹿児島・松江・仙台・高松・札幌・横浜・神戸・京都・金沢

佐藤工業株式会社

取締役社長 佐藤欣治・常務取締役大阪支店長 小町谷武司

本社・東京都中央区日本橋本町4—8　電話　東京(661)1231(大代)
大阪支店・大阪市東区北浜1—25　電話　大阪(203)7221(代表)
支店・東京・名古屋・北陸・札幌・福岡・仙台・広島・横浜・四国

清水建設株式会社

社長　野地紀一
副社長大阪支店長　木下正利

本社　東京都中央区京橋2—16—1　電話03(535)4111
大阪支店　大阪市西区土佐堀1—3—37　電話06(443)5431
支店　名古屋・広島・高松・福岡・金沢・仙台・札幌

よりよい住環境づくりをめざして

住友建設株式會社

常務取締役大阪支店長　楠本昌造

大阪支店　大阪市東区北浜5丁目22番地(新住友ビル2号館)電話 06(220)8712
本　店　東京都新宿区荒木町13番地　電話 03(353)代表5111番

株式会社 **錢高組**

取締役社長　錢高善雄

本社・大阪支社　大阪市西区西本町2丁目2-11　電話 大阪06(531)6431(大代表)
東京支社　東京都千代田区一番町31番地　電話 東京03(265)4611(大代表)
支店　札幌・仙台・千葉・横浜・北陸・名古屋・広島・四国・福岡
営業所　釧路・帯広・苫小牧・函館・青森・盛岡・秋田・山形・福島・水戸・宇都宮・前橋・浦和・多摩・甲府・富山・金沢・福井・長野・岐阜・静岡・津・大津・京都・神戸・和歌山・徳島・松山・高知・松江・岡山・山口・北九州・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄

大成建設株式会社

取締役社長　佐古一
専務取締役大阪支店長　原田眞三

本　社　東京都新宿区西新宿1丁目25番1号 新宿センタービル　TEL東京(348)1111大代表
大阪支店　大阪市東区本町4丁目27番地　TEL大阪(262)1131大代表
支　店　東京・名古屋・福岡・札幌・仙台・広島・横浜・新潟・高松

大幸建設株式会社

取締役会長　大沢幸平
取締役社長　大沢博

本社　大阪市西区新町1丁目4番21号　電話 06(538)0881代
本社分室　大阪市東区今橋五丁目二番地　電話 06(203)0373代
東京支店　東京都渋谷区渋谷二丁目十番七号　電話 03(407)7426代
名古屋支店　名古屋市中村区若狭町一ノ二五　電話052(581)7376代
松江営業所　松江市和多見町一七五　電話0852(21)3747代
出張所　富山・仙台・滋賀・兵庫・広島・福岡・静岡

株式会社 竹中工務店

取締役社長　竹中統一

本　店　大阪市東区本町4丁目27　電話 大阪(252)1201番(大代表)
支　店　北海道・東北・東京・名古屋・広島・九州
営業所　千葉・横浜・静岡・金沢・京都・神戸・岡山・高松・北九州

鉄建建設株式会社大阪支店

西日本業務担当常務取締役　児島章

常務取締役支店長　金子越郎

大阪市大淀区天神橋7丁目1－10(天六阪急ビル)　電話(358)0321(代表)
本社・東京都千代田区三崎町二丁目五番三号　電話東京(262)3411(代表)

戸田建設株式会社 大阪支店

取締役支店長　山　口　道　博

大阪市西区西本町1丁目13—47(新信濃橋ビル)　電話06—531—6561(大代表)
本社東京都中央区京橋1丁目7—1
支店　東京・関東・横浜・名古屋・札幌・仙台・広島・四国・九州

東洋興業株式會社大阪支店

取締役副社長 大阪駐在　小松英二
常務取締役 支店長　田中巖夫

本　社　東京都千代田区大手町1—5—4　電話 東京 (212) 3261
安田火災大手町ビル
大阪支店　大阪市北区堂島浜2-2-8 東洋紡ビル　電話 大阪 (348) 5611
支　店　東京・名古屋・仙台・札幌・福岡

人間の環境を豊かにするヒューマナイザー

東急建設株式会社

取締役社長　八木勇平
常務取締役 支社長　平田順次郎

大阪支社　大阪市北区堂山町1-5　大阪合同ビル　電話06(313)1371(代表)
本　社　東京都渋谷区渋谷1—16—14　電話03(406)5111(大代表)

飛島建設株式会社 大阪支店

取締役支店長　熊谷良訓

大阪市東区島町2丁目28番地　電話　大阪 (942) 2481(代表)
本社　東京都千代田区九段南2丁目3番28号 電話 東京 (263)3151(大代表)
支店　札幌・仙台・東京・横浜・名古屋・北陸・四国・広島・福岡
営業所　神戸・和歌山・京都・滋賀・堺・奈良・姫路

日本建設株式会社

取締役社長　生田重政

本　社　大阪市東区安土町4—5　TEL (261) 7591—8 〒541
支　店　東京・大阪・名古屋・福岡・広島・仙台・札幌・四国・沖縄

明日をささえる

西松建設

本　社　東京都港区虎ノ門1—20—10　電話03(502)0211

野村建設工業株式会社

取締役社長　岩本義心

本　社　大阪市東区高麗橋2丁目9番地　電話(202)4791代表
東京支店　東京都千代田区大手町2丁目1番1号　電話(241)4171代表

株式会社 間組大阪支店

取締役支店長　森　隆雄

大阪市東区瓦町5丁目20番1号　電話(201)2751(大代表)
本　店・東京都港区北青山2丁目5番8号　(405)1111番(大代表)
支　店・東京・大阪・名古屋・福岡・仙台・北陸・札幌・広島・高松・海外工事局

株式会社 長谷川工務店

代表取締役会長　長谷川武彦

大阪支社　大阪市東区平野町5－40　電話06(203)5611
本　社　東京都港区赤坂3丁目21番20号　電話03(586)5451

未来をひらく フジタ工業

常務取締役大阪支店長　志賀修一

大阪市北区堂島2丁目1番16号　電話(345)代表7671
本社・東京都渋谷区千駄ケ谷4－6－15
支店・東京・横浜・名古屋・大阪・広島・高松・福岡・札幌・仙台
海外・リマ・カラカス・サンパウロ・キトー・ロサンゼルス・グアム・クウェート

不二建設株式会社

取締役社長　山口吾郎
取締役副社長　山口慎一郎

本　社　大阪市西区西本町3丁目1番9号　〒550 電話 06(541) 5534代表・9301代表
東京都新宿区西新宿4丁目5番2号　〒160 電話 03(377) 5171 代表
支店・出張所　名古屋・福岡・札幌・仙台・静岡・大垣・四日市・京都・広畑・広島・大分

不動建設株式会社

取締役社長　庄野勝

大阪本社　大阪市東区平野町5－30　電話 06(201)1121
東京本社　東京都台東区台東1－2－1　電話 03(831)9111



株式会社 藤木工務店

取締役社長　藤木鐵三

本　社・大阪市東区両替町1丁目13　電話 06(944) 1468(代)
大阪本店・大阪市東区両替町1丁目13　電話 06(944) 1468(代)
支　店・東京都新宿区三栄町23の4　電話 03(357) 1611(代)
倉敷市鶴形1丁目10の32　電話 0864(22) 3330(代)
高松市丸ノ内11の13　電話 0878(51) 7272(代)
京都市右京区西院寿町13　電話 075(311) 4131(代)
福岡市博多区博多駅南4丁目18の2　電話 092(441) 6585(代)
営業所・埼玉・多摩・静岡・名古屋・宇治・岡山・徳島・新居浜・熊本



真柄建設株式会社大阪支店

常務取締役支店長　佐々木孝治

大阪支店　大阪市淀川区宮原4丁目4番50号　電話 大阪(06) 393−1171(代表)
東京本社　東京都千代田区麹町5丁目1番地　電話 東京(03) 263−1211(代表)
支店・営業所　東京・名古屋・金沢・富山・福井・京都・大津・神戸・新潟・福岡



株式会社 松村組

取締役社長　松村雄二

本　社・大阪市北区天満2丁目1番33号　電話 大代表 大阪(353)1131
支　店・東　京・名　古　屋・札　幌・仙　台・広　島・福　岡



三井建設 株式会社 大阪支店

取締役大阪支店長　森川祐二

大阪支店　大阪市北区中之島3−4−18(三井ビル2号館) TEL 06−443−1321
本　店　東京都千代田区岩本町3−10−1　TEL 03−863−3111



村本建設株式会社

代表取締役　村本豊嗣

本　店　奈良県北葛城郡広陵町安部547　電話 大和高田 (55) 1151(代表)
大阪本社　大阪市天王寺区上本町9丁目49　電話 大阪 (774) 2111(受付案内台)
東京支店　電話 東京(238)2111(受付案内台)　名古屋支店　電話 名古屋(241)1511(代)
福岡支店　電話 福岡 (711)9251　三重支店　電話 津 (26) 2949



望月建設株式会社

取締役社長　望月小太郎

本　社　大阪市北区曽根崎新地1丁目1番23号　電話 大阪 (344) 8651(代表)

株式会社　森　組

取締役社長　森　幸彦

本　社　大阪市東区横堀2丁目14番地　電話　201－2761(代)
支　店　東京・名古屋・九州・札幌・奈良
営業所　仙台・新潟・横浜・滋賀・京都・神戸・広島・熊本・高松

株式會社 米田工務店

取締役会長　米田治郎兵衛
代表取締役　米田良男

本　社　〒543 大阪市天王寺区逢阪上ノ町7　TEL 大阪(06)771-7771代表

綜合建設業・一級建築士事務所・宅地建物取引業

株式会社 薮内工務店

本　社　大阪府貝塚市鳥羽183－1　電話 (0724) 33－2001(代)
営業所　大阪・堺・西宮・和泉
展示場　大阪府貝塚市三ツ松招山1726番地

祝 建築と社会700号

暑中お見舞申し上げます　昭和55年盛夏

建材・設備工事・報道印刷業者有志

社団法人 大阪府測量業協会

会長　後藤　静

〒530 大阪市北区東天満2丁目6－7　TEL 06 (354) 0740

クリーンエアのコンサルタント

アイエム換気工業株式会社

代表取締役　松岡晃一郎

本　社　大阪市浪速区芦原町1183　TEL (06)561－3901代
東京営業所　東京都荒川区西日暮里6-42-8飯田ビル1階　TEL (03)894－8831

青盛建材株式会社

取締役会長　青盛繁男
取締役社長　青盛巖

広島市中区舟入幸町19番10号　電話 0822—92—3200
福岡・岡山・松江・下関・徳山・鳥取

株式会社 梅彦

取締役社長　松永嘉一郎

営業所　大阪市北区中崎西2丁目1番3号　電話 06 (312) 6171代
茨木工場　茨木市豊川3丁目1番6号　電話0726 (43) 5185代

防煙・防火は OMATA で…… OK!

小俣シャッター工業株式会社大阪支店

代表取締役社長　小俣茂
取締役大阪支店長　栗栖千宣

大阪支店　大阪市北区天神橋2—5—3 (第5新興ビル)　電話大阪 (353) 7377代
本社工場　東京都北区東田端1－4－1　電話東京 (893) 5211代

大阪装飾株式会社

取締役社長　蜷川智造

本社　大阪市西区京町堀1丁目13番24号　電話 06 (444) 1410 (代)
営業所　東京都港区西新橋2－26－1　電話 03 (437) 2577 (代)
神戸市生田区下山手通2－15 (聯合ビル)　電話078 (321) 2009 (代)

須賀工業株式会社

取締役社長　須賀孝

本店 大阪市西区土佐堀1丁目2番30号 電話 (06) 441—5171
支店 東京・大阪・横浜・名古屋・京都・神戸・広島・福岡・札幌・千葉・静岡・金沢・高松・仙台

よりよき環境へ技術で挑む

株式会社 精研

取締役会長　木内清三
取締役社長　和田正八郎

本社　大阪市南区瓦屋町3番丁68番地 (オートセンタービル) 電話768-5031(代)
東京支店　東京都千代田区九段南2丁目2番5号 (九段ビル) 電話262-3241(代)

東西アスファルト事業協同組合
西日本床工事事業協同組合

株式会社 **タテバヤシ商店**

代表取締役　舘林彦四郎

〒601 京都市南区西九条大国町37　電話（075）681－7221(代)

東亜印ルーフィング

東亜工業株式会社

本　社　〒581 大阪府八尾市南太子堂6丁目4番27号　電話0729－94－5682
営業所　東京・名古屋
工　場　大阪・東京・和歌山

東亜アス防水工事スーパーシート工法
合繊不織布・TNコート使用のメンブレン防水

建設省計振発第55号認可 **東亜アスファルト防水事業協同組合**

〒581　大阪府八尾市南太子堂6丁目4番27号　電話　0729—91—1536

株式会社 **西原衛生工業所大阪店**

代表取締役社長　伴　一郎

大阪市大淀区中津6丁目8番4号　電話 大阪（458）3531番(代)

大阪で唯一の

株式会社 **日刊建設新聞社**

代表取締役　中山豊雄
代表取締役　中山敏夫

大阪本社　大阪市東区高麗橋1丁目3（東洋ビル）　電話 202－6861(代表)
役員室　大阪市東区高麗橋詰町26（ユニ高麗橋）　電話 941－6847(代表)

日刊建設産業新聞・日刊建産速報

株式会社 **日刊建設産業新聞社**

取締役社長 花村茂彦

大阪支社　大阪市東区淡路町1丁目14(八千代ビル)　電話06(231)8171(代)
神戸支局　神戸市葺合区八幡通4丁目2－25　電話078(291)0541～2
京都支局　京都市上京区河原町丸太町東入俵屋町460　電話075(211)1911
本　社　東京都板橋区板橋町1丁目48－8　電話03(961)1691(代)

株式会社 日刊建設通信新社関西支社

取締役関西支社長　山口哲雄

大阪市西区京町堀1－6－23　エハラビル　電話（444）4451代表
本　社・東京都港区西新橋2－11－4　電話（502）8581代表

マルエス印▲ルーフィング▲シングル

日新工業株式会社 大阪支店

大阪支店長代理　中田勝

本社営業所　東京都足立区千住東2－23－4　☎東京(882) 2424 (代)
大阪支店　大阪市西区新町1丁目12番22号　☎大阪(533)3191大代表
出張所　名古屋・広島・福岡・札幌・山形・工場／東京・埼玉・山形

日本アスファルト防水工業 協同組合
関西支部

大阪市西区新町1丁目12番22号　日新工業株式会社大阪支店内
電話（533）3191大代表

活字のない印刷

日本写植印刷株式会社

代表取締役　神田都義

本　社　〒545 大阪市阿倍野区阪南町7－5－30　電話06(606)1111代
日本写植センター　〒892 鹿児島市名山町4－7　三宝ビル　電話0992 (26) 4371
津山写植センター　〒708 津山市大手町8番5号模範店会館　電話08682(4)1771
沖縄写植センター　〒900 南風原村兼城　沖縄印刷団地　電話0988 (55) 6100

阪急電気工事株式会社

取締役社長　宇治正豊

本　社　大阪市淀川区新北野1丁目4番21号　電話　代表 06 (302)0231

富士造園土木株式会社

技術とアイデアの富士

代表取締役　金岡昭雄

本　社　宝塚市山本東2丁目6番17号電話宝塚0797-88-0501～6
大阪営業所　大阪市北区天神橋5－3－19　電話06－351－5471

ビニロイド　防水　責任施工
アコシート　防水　責任施工
ACロアP35　責任施工
防熱工事設計施工
プラスオール
コーキング　製造販売

三星産業株式会社

〒550 大阪市西区京町堀１－10－17(大栄ビル)　Tel.〈443〉9721(代)
〒101 東京都千代田区神田小川町3-28(三東ビル)　Tel.〈292〉1961(代)
出張所：札幌　〈721〉6031・6307　仙台〈21〉5366(代)
名古屋〈931〉4574・3393　福岡〈78〉3361(代)

三協アルミニウム工業株式会社代理店
日立化成工業株式會社代理店
新明和工業株式會社代理店

ムツミ産業株式会社

代表取締役　傳馬正明

〒550 大阪市西区靭本町１丁目17番15号　電話 (06) 大代表 441－0378番
出張所：東京・広島　工場：大津・竹原

M.Y

営業品目　建築金物、装飾金物、金具金物、
其他諸金物別注設計製作、オリジナル金属製家具

株式会社 山本金属製作所

取締役社長　山本正治

〒542 本社・本社工場　大阪市南区西賄町25　TEL(761)0127代
〒570 守口工場　守口市浜町2－1　TEL(993)7192代

四ツ橋
装美建材
金属建材

株式会社 山建建材

No.1販売部・No.2施工部

本社　大阪市西区四ツ橋筋四ツ橋角　電話 541－1861～8
東店　東大阪市金物町3番1号　電話 723－2277～8
山建ソービ　大阪市西区南堀江1(立花通)　電話 541－2152～3

デザインされた環境づくり

UNION

株式会社ユニオン

取締役社長　立野一郎

本社　大阪市西区南堀江2-13-22　〒550　電話 06(532)3731(代)
東京営業所　東京都墨田区石原4-3-1　〒130　電話 03(625)8131(代)
名古屋営業所　名古屋市東区車道町3-1　〒461　電話052(935)6021(代)
虎ノ門ショールーム(17森ビル1F)東京都港区虎ノ門1-26-5　〒105　電話 03(508)2558(代)

◀「建築と社会」誌バックナンバーのおしらせ

バックナンバーがそろっております。購入ご希望の方は日本建築協会まで(電話06−231−9648)お申し込み下さい。バックナンバーはすべて¥650です。なお、郵送料は実費いただきます。年間購読(12冊¥9,000・送料当方負担)のお申し込みも応じます。

＊印は欠号

巻号	昭和48年（54集）	昭和49年（55集）	昭和50年（56集）	昭和51年（57集）	昭和52年（58集）	昭和53年（59集）	昭和54年（60集）	昭和55年（61集）
1	建築教育	歴史的環境保全	図書館	証言'76−建築デザインの動向	＊デザインの動向−部分と全体	デザインの動向−新旧のコントラスト	＊転換期の再開発	80年代の都市と建築−まちづくりの歴史と展望
2	泉北ニュータウンのコミュニティ施設	明日の建築はどうなるか	東海の新建築	建築基礎構造の問題点	兵庫県−その風土と建築・建築界	水	大阪南港ポートタウン	今後の省エネルギー＊の趨勢／建築金物
3	大阪大林ビルディング	保養所作品	＊インテリア	＊医療施設	日本建築協会60周年記念号・ニュータウンの管理	医療施設−病院建築と情報システム	商業空間	最近の銀行建築／安井建築設計事務所作品集
4	レジャーと施設	既成市街地の住宅地整備の方策	PC板を使用した工業化住宅	床工法と材料	コンクリートの品質管理と行政指導の方向	外壁塗装材料	コンクリートのひびわれ	住宅の耐久性
5	大阪国際ビルディング	北摂ニュータウン計画	社会・建築・法	建築防災と法	日影規制と法	電波障害と建築	日影規制	建築行政と法規
6	老人コミュニティ	建築生産と流通機構の変容	都市の景観と施設	市街地整備	身障者施設	組合方式による集合住宅計画	ホテル建築と情報システム	最近の防水工法
7	住宅−建築家のすまい	＊ビルの省エネルギー化	建築とプレストレストコンクリート	工場建築と設備	照明設備	住宅設備	農村施設の変貌	都市景観とアニメニティ
8	＊新用途地域制と環境	高層プレハブ住宅の構造設計	生活排水処理施設のあり方	鉄骨構造のジョイント	埋立地における構造問題−大阪南港と芦屋浜を例として	新しい耐震設計	建物の終局強度の検討	屋内体育施設の設備（予定）
9	構造と施工	＊みどり	＊人間環境としてのターミナル	＊集住体のハードとソフト	日本住宅公団と建築作品	CAD−設計とコンピュータ	庄内のまちづくり	水ぎわのまちづくり（予定）
10	仕上と材料	＊屋根防水工事の失敗例とその対策	騒音対策と防音材料	結露防止対策と断熱材料	ミニ乱開発から計画的ミニ開発へ	＊一般号	80年代のインテリア	今後の外装吹付仕上材（予定）
11	第20回青年技術者	第21回青年技術者	第22回青年技術者	第23回青年技術者	建築における省エネルギー化	第25回青年技術者	第26回青年技術者	第27回青年技術者（予定）
12	＊ヨーロッパのまちづくり	ビル防災に関する12章	集合住宅の設備	＊設備からみた建築の問題点	第24回青年技術者	ビル環境	建設業の労務事情	

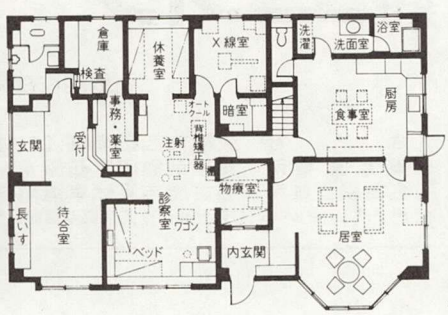
池田有隣・船越暉由 著

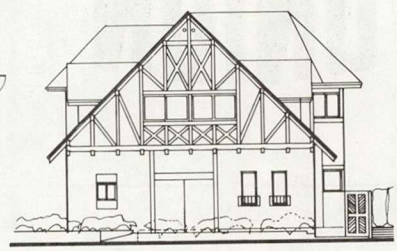
建築技術選書13　日本建築協会60周年記念出版

医院・診療所の計画と設計

多くの事例詳細，医療行為の実態調査をもとに，計画から施工までのプロセス上の問題点をあげた，設計者・施工者・建築主のそれぞれに役立つ手引書







目次

1　医院・診療所の性格
2　診療所の基本計画
3　計画・設計の手法
4　診療行為の解析
5　設計·施工の進め方

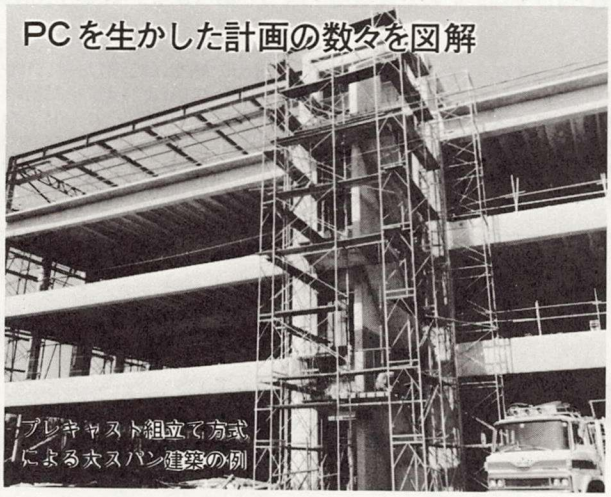
A5　160頁　1000円

学芸出版社　京都市下京区木津屋橋通西洞院東入　☎075−343−0811

建築技術選書 15　　企画 日本建築協会

PC建築の話

A5・160頁・1000円　　下伊豆隆三 著



〈目次〉　すばらしいPC建築　　第一編　PCの構造計画　はり構造　トラス構造　アーチ構造　キャンティレバー構造　ラーメン構造　PC構造による耐震要素　格子ばり構造　床構造　折版構造　シェル構造　つり屋根　PCくい　舗装・鉄道用まくら木など　バックアンカー　海洋構造物など　原子炉の圧力容器　　第二編　PCの基本事項　PC構造のジョイント　プレストレス力の与え方　付 代表的PC定着法等

〈目録進呈〉

建築技術選書

建築技術選書 16　　企画 日本建築協会

石垣と石積壁

A5・160頁・1000円　　窪田 祐 著



〈目次〉　石垣用石材　　石垣の構成形式 各部の名称 整層積 乱層積 乱整層積 乱積 くずれ積　　石垣の種類 野石積 間知石 雑割石積 割石積 切石積 特殊積　　石垣の役石・特殊勾配 隅角部 天端 下端 笠石 特殊勾配　　擁壁に関する法令等　　RC造擁壁と化粧石垣 化粧石垣擁壁の設計例 RC造擁壁　　石垣の施工 石の選別 根掘 土台木 胴木 裏込 練積と空積　　石垣の設計例 低い石垣 高い石垣　　石積壁 施工 設計例

〈目録進呈〉

学芸出版社　京都市下京区木津屋橋通西洞院東入　☎075-343-0811

にぎわいを設計する

ショッピングセンターの計画

建築技術選書18　西脇顕正 著

生き生きとした都心型商業施設の手引き

都市の中のにぎわいは人が集まり，そこに情報性・娯楽性・文化性が生れることにある．本書は従来の味気ない郊外型ショッピングセンターから脱皮するモデルとして，都心型商業施設をとりあげ，いかににぎわいを設計するか，そのイメージ・手法を明らかにした．とくに区分所有方式による複合商業ビルの可能性と問題点については詳述した．

A5・144頁・1000円

主要目次：街と店舗のかかわりあい　1.商業施設開発の背景別分類　流通機構の変化から　都市再開発事業の産物　商店街の近代化を目ざして　その他　2.調査・企画　客がなくては成り立たない　商いは場所である　客の求めるものは何か　イメージプランの役割　複合化の検討　開発の採算性　商業集積度　3.商業施設とは　商店街の原型　商店街の種類と商店の性質　4.基礎プラン　社会計画　生態計画　5.店舗の配置　店舗の業態　業態構成　業種　業種構成と配列　適正面積　6.建築計画のポイント　施設内の面積配分　柱間隔と天井高　エスカレータなど　集客装置と内装の雰囲気づくり　什器備品のモジュール　バックルームの役割　施設のメンテナンス　7.設備計画のポイント　空調設備方式の決め方　照明の選び方と光源　一般建築設備　8.環境計画のポイント　外構計画　サイン計画　9.区分計画のポイント　再開発事業による商業施設の特性　区分所有方式から生れた建築機能設備計画　共有空間管理　ディベロッパーとテナントの工事区分と財産区分　10.商業施設の関連法令

---

16 石垣と石積壁

地方を歩くと素朴に築かれた石垣の美しさが印象深い．すばらしい石垣の伝統を現代に生かすために，建築関係者が知っておくべき知識を，デザインを中心に約 300枚の図・写真によってずばり示す．　A5・160頁・1000円　窪田祐著

17 基礎と地盤の手ほどき

基礎や地盤の思わぬ事故で工事が難行したり，建物が使用に耐えなくなることは少なくない．本書は建築技術者に分りやすいよう，土や水の基本的な考え方から実際の設計例まで順序だてて解説する．　A5・144頁・1000円　中堀和英著

〈目録進呈〉

学芸出版社　京都市下京区木津屋橋通西洞院東入

地震考

総合天井システム〈Jライン工法〉〈ALTS工法〉

耐震・耐火そして軽量化を誇る総合天井システム〝Jライン工法〟〝ALTS工法〟は当社独自の照明灯ユニットおよびアルミ製Tバーを建物のモジュールに配列し、天井仕上げ材と一体化したシステム天井です。空調、照明、防災機器、スピーカーなどの設備ゾーンとの組み合せ、さらに間仕切、ブラインドBOXなどの取り付けも可能にした多機能を誇っております。（PAT. 6件）

奥村重兵衛株式会社

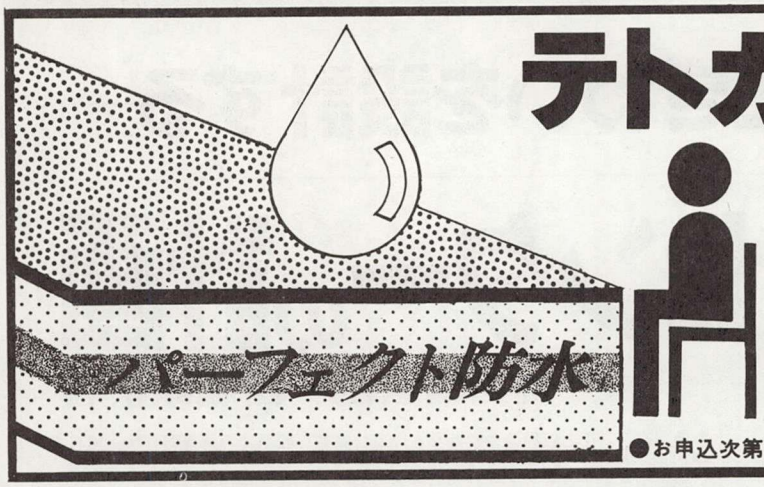
本　社　大阪市北区西天満5丁目3番7号　〒530 電話(06) 312－4131㈹
東　京　東京都港区新橋4丁目2番第29森ビル　〒105 電話(03) 437－3361㈹
福　岡　福岡市博多区住吉2丁目16番27号　〒812 電話(092)291－0459㈹
名古屋　名古屋市西区倹町2丁目1番6号　〒451 電話(052)522－5436㈹
仙　台　仙台市本町2丁目1番8号第1広瀬ビル　〒980 電話(0222)65－6568㈹
沖　縄　沖縄県那覇市壺川119番地　〒900 電話(0988)53－6850㈹

室谷

内装不燃材

室谷商事株式会社

本社　神戸市生田区北長狭通4－1　（英和ビル）
電話　神戸(331) 0881～3
支店　大阪市北区西天満2丁目6番8号(堂ビル5階)
電話　大阪(364) 2031～4
倉庫　神戸市葺合区八幡通1－5(電話221 2923)



テトカッパー防水層

防水専業の研究・経験から生れたすくない資源のパーフェクトな防水層です。
この防水層は（一層防水）施工するだけで、防水は完璧です。
温度変化に伸びがなく、柔軟性に富み、耐酸、耐薬品性に優れ、腐蝕しません。

カッパー防水帯　コーパータイト　新工法
オクロン防水帯　プレノテクト吹付工法

●お申込次第カタログ進呈

奥山化工業株式會社

本　社　東京都中央区銀座8－4－9　電話 03 (571) 2703
大阪事務所　大阪市淀川区東三国6－1－41　電話 06 (391) 1081－2
埼玉営業所　埼玉県桶川市東1－6－10　電話 0487(74)2845－6
厚木出張所　神奈川県厚木市金田字宮畑259　電話 0462 (21) 6092
名古屋出張所　名古屋市南区若草町33　電話 052 (811) 3660
九州出張所　佐賀県諸富町　電話 0952 (47) 2945

腐らない・燃えない・軽い

ケミカラーオーシマメタル

屋根材・壁　材・谷樋棟包水切りに
スタンダードメタルの　大島応用化学　東大阪市新庄（745)5121～5

空気調和・給排水・衛生・防災設備　設計・施工

株式会社 朝日工業社

本　社　東京都港区浜松町1-25-7　電話 (434)6171(大代)
大阪支社　大阪市淀川区加島1-58-59　電話 (302)2271(代)
支　店　北海道・東北・名古屋・中国・九州
営業所　釧路・函館・盛岡・横浜・静岡・京都・神戸

空気調和設備
衛生設備 設計施工

三建設備工業株式會社

大阪支店　大阪市北区紅梅町3番5号　電話 (352)1131 (代)
本　社　東京都中央区日本橋蠣殻町1-35-8　電話 (667)3431 (大代)
支　社　名古屋・仙台・札幌・広島・福岡・金沢・新潟・横浜

空調・衛生
防災・汚水処理 設計施工

株式会社 大阪城口研究所

取締役社長　城口庸平

大阪市北区角田町2番15号 電話 大阪372局7151(代)
京都市東山区大和大路正面上ル 電話 京都561局4944(代)
神戸市生田区下山手通六ノ一 電話 神戸341局5892

空気調和・衛生設備 設計施工

株式会社 三晃空調

取締役社長　齋藤博

本　社　大阪市北区西天満3丁目13番20号　電話 06−363−1371
東京本店　東京都新宿区西新宿　新宿住友ビル　電話 03−344−1911
大阪本店　大阪市北区西天満3丁目13番20号　電話 06−363−1371
支　店　名古屋市中村区下笹島町11−2　電話052−581−8571
広島市中区紙屋町1丁目2番22号　電話0822−47−4535
福岡市中央区大名2丁目4番22号　電話092−761−3795
出張所　仙台・横浜・福井・京都・神戸・松江・高松・沖縄

電気・空調・衛生・防災・産業廃水設備
設計施工

大阪電気暖房株式会社

本　店　大阪市西区江戸堀1丁目10番17号 〒550 電話(441)8231
本　社　東京都中央区銀座2丁目2番17号 〒104 電話(535)5251
支　社　大阪・東京・名古屋
支　店　札幌・仙台・金沢・広島・福岡
営業所　新潟・天理・岡山・高松・熊本
出張所　帯広・青森・秋田・盛岡・前橋・千葉・横浜・静岡
富山・福井・豊田・京都・神戸・徳山・鹿児島・那覇
海外支店　シンガポール

空調衛生・冷凍冷蔵・地盤凍結

よりよき環境へ技術で挑む——

株式会社精研

本　社　大阪市南区瓦屋町3番丁68番地(オートセンタービル2階)
郵便番号542　電話 大阪(06) 768−5031番
東京支店　東京都千代田区九段南2丁目2番5号(九段ビル8階)
郵便番号102　電話 東京(03) 262−3241〜4番

空気調和設備
給排水・衛生水道
電気設備
厨房
環境衛生施設
荷役運搬機械
化学鉱山機械

三機工業 株式会社大阪支店

取締役社長　各務節
大阪支店長　稲畠和治

大阪市東区北浜2丁目22番地　電話 大阪(202) 代表3071
本　店　東京・日比谷・三信ビル
支　店　名古屋、福岡、札幌、広島、仙台、北陸
出張所　横浜、四国、静岡、豊田、岡山、金沢

新日本空調株式会社

大阪支店　大阪市北区堂島浜1丁目2番6号 (新大ビル)
電話 (06) 344−6031 (代)
本　社　東京都中央区日本橋本石町4-2(三井第二別館)
電話 (03) 279−5671 (大代)
名古屋・九州・広島・札幌・東海村・北陸・大分

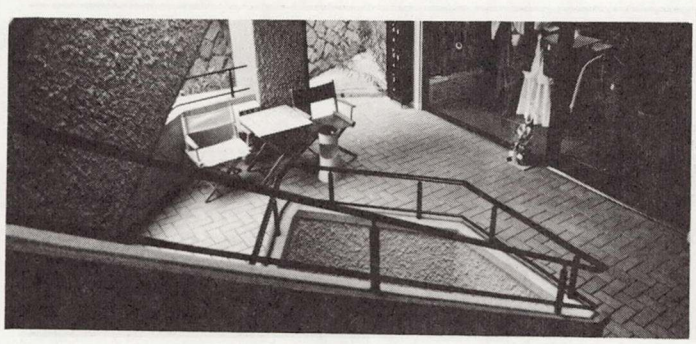
■給排水衛生　■冷暖房
■空気調和設備　■その他管工事一切の設計・施工

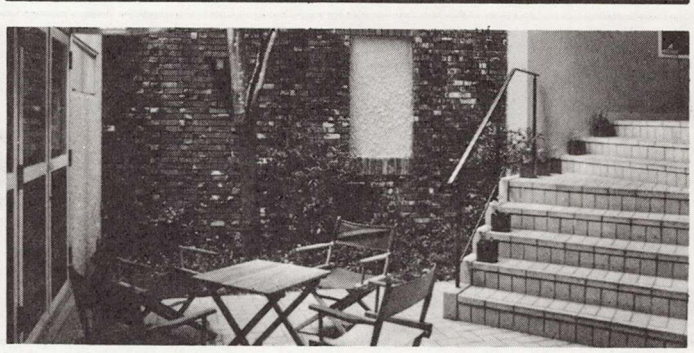
斎久工業株式会社

本　社　東京都千代田区大手町2-6-2 (日本ビル)
電話 03-(270)-7411(代)
大阪支社　大阪市北区中之島4-2-38　電話 06-(443)5041(代)
支　店　札幌・岡山
営業所　仙台・千葉・名古屋・金沢・高松・広島・福岡
出張所　福井・倉敷・苫小牧

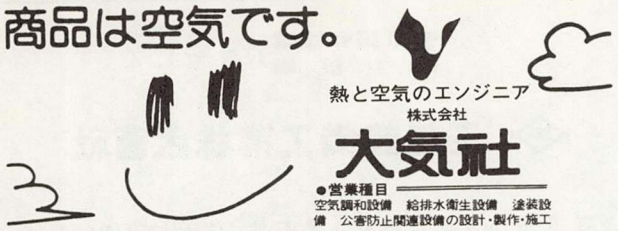
cleanair
一年中 秋のすがすがしさ!

創業1901
須賀工業株式会社
大阪市西区土佐堀1丁目2番30号TEL.06−441−5171(大代表)〒550





商品は空気です。



熱と空気のエンジニア
株式会社
大気社

●営業種目
空気調和設備　給排水衛生設備　塗装設備　公害防止関連設備の設計・製作・施工

本社・東京支店　東京都新宿区西新宿2-6-1　☎03－344－1851(大代)　大阪支店☎06－448－5851(代)
名古屋支店☎052－211－1535(代)　九州支店☎092－431－2147　営業所：札幌・仙台・横浜・京都
神戸・広島　出張所：新潟・金沢・大宮・静岡・豊田・岡山・松山・熊本・鹿児島・沖縄・バンコク

空調・衛生・防災設備　設計並施工

日本管工業株式会社

本社及京都支店　京都市南区西九条豊田町20番地の1
電話(681) 5101～5・夜間専用(691) 1045
大阪支店　大阪市北区天満1-5-20　電話(06)352－3501(代)
三重支店　津市栄町2－111　電話(0592)26－3610(代)
四日市営業所　四日市市西末広町　電話(0593)53－7431(代)
滋賀営業所　大津市打出浜13－15　電話(0775)22－9738(代)
名古屋営業所　名古屋市中川区百船町　電話(052)363－0681(代)

空気調和　搬送機設備
給排水衛生　設計施工

第一工業株式会社
大阪支店

大阪支店　〒530 大阪市北区西天満3丁目6番14号
電話　06－364－6661(代表)
本　社　〒100 東京都千代田区丸の内3丁目3番1号
電話　03－211－8511(代表)

Carrier
冷暖房はCARRIERキャリア

東洋キャリア工業(株)デストビューター関西地区
日本冷熱工産株式会社
本社及大阪営業所　吹田市豊津町40番38号
電話大阪 (384)1201～7

MODAIR
空気調和設備
換気・除塵設備　設計施工

東洋熱工業株式会社大阪支店

大阪市西区靭本町3－1－27　TEL(443) 8071
本社　東京都中央区京橋2丁目9　TEL(562) 1351
支店　名古屋・福岡

営業種目
空気調和・衛生設備工事・設計・施工

平山工業株式会社

大阪市西区江戸堀1丁目22番7号
☎06－441－1994・443－0331

空気調和・衛生設備
ガス設備・ガス住宅設備　設計・施工
大阪ガス指定工事会社
大阪ガス設備機器特約店

大晃設備株式会社

本社　大阪市北区西天満5-11-12　電話 06－313－1846
ガス工事部 大阪営業所　大阪市北区西天満5-11-12　電話 06－313－1846
ガス工事部 枚方営業所　枚方市甲斐田東町9番3号　電話0720－49－2128
設備部　大阪市北区西天満5-11-12　電話 06－313－1846
設備部 京都営業所　枚方市甲斐田東町9番3号　電話0720－49－2128

空気調和設備・給排水衛生設備・上下水道施設
環境衛生施設・公害防止施設／設計・施工・監理

山田工業株式会社

本社　大阪市西区京町堀1－6－8　電話 06(443)8161(大代表)
(環境装置事業部専用)　電話 06(447)0831　(代表)
分析センター　大阪市淀川区三津屋南1-1-35　電話 06(308)1491
支店　東京・名古屋・福岡
営業所　京都・神戸・姫路・広島・高松・松山

給・排水・衛生・消火・暖冷房設備

株式会社 西原衛生工業所大阪店

大阪市大淀区中津6丁目8番4号　電話大阪(458)3531番
支店・営業所　福岡・京都・広島・天理・川西

活字のない印刷

日本写植印刷株式会社

代表取締役　神田都義

本社　〒545 大阪市阿倍野区阪南町7-5-30　☎06(692)1111代
日本写植センター　〒892 鹿児島市名山町4-7 三宝ビル　☎0992 (26) 4371
津山写植センター　〒708 津山市大手町8番5号 模範店会館　☎08682 (4) 1771
沖縄写植センター　〒900 南風原村兼城　沖縄印刷団地　☎0988 (55) 6100

FUTABAYA DECORATORS,LTD



建築物船舶等造作工事、家具建具・室内装備工事
内外装飾織物・窓掛敷物壁紙類一式／**設計施工**

(創業大正7年)

二葉屋装備工業株式会社

取締役会長　若林繁吉
大阪府摂津市東別府3丁目7番8号
電話 大阪 (06)349－9193代表
大阪府知事建築業者許可(般－48)第12064号

電気・計装工事 設計施工

栗原工業株式会社

取締役社長 栗 原 信 英

大阪市北区角田町1-1 東阪急ビル TEL06-313-1101
支 店 東京・名古屋・舞鶴・京都・天理
大阪南・神戸・広島・四国・九州

電気設備 設計施工

朝陽電気株式会社

代表取締役 山 本 博 三

本 社 大阪市北区中之島3－2－4 朝日ビル
TEL 大阪06（385）1361（代）
本社営業所 吹田市垂水町3－34－6
TEL 大阪06（385）1361（代）
京都営業所 京都市右京区西京極葛野町21
TEL 京都075（311）1185（代）
福岡出張所 福岡市中央区薬院1－14－8
TEL 福岡092（771）6168

電気工事設計施工

株式会社 三 興 社

代表取締役 坪 井 大

本 社 大阪市北区西天満2丁目6－8（堂ビル7階）
電 話（361）3671（代）
支 店 東京都中央区日本橋箱崎町20番5号
電 話（671）1478（代）
出張所 川崎・相模原・堺・福山

電気設備工事設計施工

東光電気工事株式会社

大阪支社

常務取締役支社長 姉 川 正 男

大阪市東区高麗橋五丁目二八番地 電話大阪（202）0325～9番
本 社 東京都千代田区西神田1丁目4番5号
支 社 札幌・仙台・丸ノ内・名古屋・福岡
営業所・出張所 全国主要都市20ヶ所

電気・暖冷房・空調工事設計施工

三宝電機株式会社

取締役社長 嘉 納 伝 三

本 社 大阪市北区西天満2丁目6－8（堂ビル3階）
電 話（364）1471（代）
支 店 東京都港区新橋2－1S（ニュー新橋ビル7階）
電 話（504）0231
支 店 名古屋市北区城見通2丁目20番地
電 話（991）5131（代）
営業所 神戸・堺・千葉・宇都宮・熊本

電気工事設計施工

富士電業株式会社

取締役社長 田 中 実

本 社 大阪市西区北堀江上通1丁目65
電話大阪（538）1171代表
営業所 東京・名古屋・広島・福岡

総合設備工事〈設計・施行〉
建築・電気・アンテナ・送電線・プラント・計装・空調・土木

太陽工藤工事株式会社

取締役社長 小 林 四 郎

本 社 大阪市福島区福島7－22－8
TEL（06）452—1151（大代）
事業所 東京・名古屋・大阪・広島・福岡

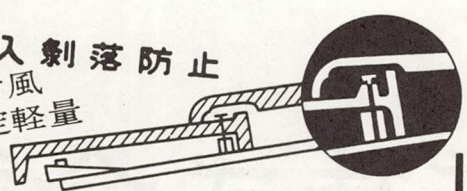
電気・計装・空調工事 設計施工

ヤマト電気エンジニアリング株式会社

取締役社長 山 本 永 造

本 社 大阪市北区西天満5丁目1番3号
TEL 06—364—3056（代）
支 店 東京・神戸・広島・岡山
事業所 名古屋・岡山・札幌・苫小牧・浜松・滋賀
京都・高砂・三原・徳山・松山・新居浜・福岡・沖縄

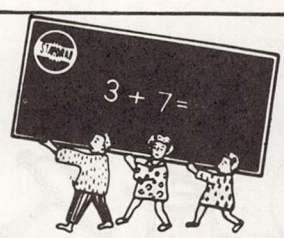
雨水浸入剝落防止
耐震耐風
安定軽量



ナニワ緩勾配瓦

3寸緩勾最適軽量水止付（空葺）瓦

ナニワ瓦株式会社
大阪市浪速区元町一丁目七四 電話641五〇六五



Standard Board&Slate

フタバ黒板

〒547 大阪市平野区加美北3－4－5 TEL 大阪06（792）5858(代)

耐酸ツボ各種
陶器、ガラス製品卸問屋
セトモノのデパート



源八橋セトモノ百貨店をご利用下さい。

株式会社 吉田芳雄商店

本 店 大阪市北区南森町2-1-6 電話(361)3450・(364)2345
源八橋店 大阪市北区同心2－1－31 電話(358)1790・1838

社寺数奇屋用瓦……**大仏瓦**
床・壁内外装用瓦……**大仏敷・貼瓦**
内外装用窯変美術タイル……**大仏タイル**
新発売…古代土器調高温〆タイル……**大仏古代タイル**

株式会社 大 仏

本 社 京都市東山区今熊野大仏池田町9の9 075(541)3344(代)
東京営業所 東京都新宿区西早稲田3丁目23番8号 03（202）7801(代)
早稲田セントラルビル1F
工 場 京都清水・山城・瀬戸

奉仕感謝の店
タイル工事施工
株式会社 川岸窯業商店
本　社　大阪市西区西本町1－13－33(靱本町バス停前)
電話　大阪 06(532)代0461　〒550
天理営業所　天理市丹波市町新町50

株式会社 矢橋大理石商店
大阪支店
大阪市東区高麗橋2丁目9　野村ビル5階　電話 大阪(202)4905

営業品目　建設省認定の防火材料
セメント系吹付材　ソリジットスタイン　基材同等　0003号
特殊リシン吹付材　エバウォール　基材同等　0003号
アクリル系吹付材　エバーサンド　基材同等　0004号
ヒル石吹付材　エバテックス　基材同等　0004号
合同特許建材工業株式会社
本　社　大阪市東住吉区駒川町3－54　電話 (06)702－7814～7
東京事業所・名古屋出張所・高松出張所・福岡出張所

華美をきらった(誕生)アダルト感覚
アースウェイブカーテン
ラグジュアリーカーペット
日本フェアトーン株式会社
〒540●大阪市東区錦屋町1丁目34番地●ヤリヤマチビル
TEL 06(943)6481(代)

リバコ
壁装
カーテン
カーペット
株式会社 小川商店
大阪営業所　〒531　大阪市大淀区大淀南1－1－16　TEL 06－458－1872～6
本　社　〒105　東京都港区西新橋2－6－1　TEL 03－503－5301代
東京営業所　〒150　東京都渋谷区松涛2－18－2　TEL 03－465－8611代
札幌出張所　〒064　札幌市中央区南十四条西6行啓グランドハイツ905号　TEL 011－512－7689

カーテン・壁装材
新たにショールームが完成!
皆さまのお越しを お待ちいたしております。
株式会社 フジエテキスタイル 大阪支店
〒541　大阪市東区平野町3－6－1
平野町センチュリービル1F
TEL 06－227－0291

■給排水衛生　■冷暖房
■空気調和設備
■その他管工事一切の設計・施工

斎久工業株式会社

本　社－東京都千代田区大手町2-6-2(日本ビル)　電話東京 (270)7411(代表)
大阪支社－大阪市北区中之島4-2-38　電話大阪 (443)5041(代表)
支　店－札幌(231)5756・岡山(24)5486
営業所－仙台・千葉・名古屋・金沢・高松・広島・福岡
出張所－福井・倉敷・苫小牧

「信頼」と「誠実」を施工に
ONS
無振動基礎工法
鋼パイル
拡大・シュー
地盤改良
大口径杭
山留工法
日東工業(株)
基礎杭と土留のコンサルタント
本社・大阪(06)264-1000(代)
支店・東京(03)662-2871(代)
営業所・名古屋(052)951-7165(代)
工場・大阪・奈良・千葉・徳島・島根

膨張材 小野田エクスパン
防錆剤 ラスナイン
小野田セメント株式会社
本部 東京都江東区豊洲1-1-7 TEL 531-4111
大阪支店 大阪市北区梅田1-8-17 TEL 341-8331
支店 札幌・仙台・東京・名古屋・大阪・高松・広島・福岡

営業種目
●防水工事 塗布防水・シート防水・モルタル防水
●樹脂注入接着工法 各種樹脂注入接着補修工事
●亀裂補修工事 各種樹脂注入・充填・コーキング
●シーリング工事 シリコン・チオコール・ウレタン・アクリル
●吹付工事 アクリル・リシン・弾性タイル・その他
◇建設業許可 大阪府知事許可(般-53)第51225号
◇日本シーリング工事業協会々員
大阪市北区末広町3-21
晃和地所扇町ビル201S
TEL 06(315)0701
㈱特殊技研

建設業界をアシストする
ポゾリス
■コンクリート用混和剤 ■無収縮グラウト材
■鉄筋コンクリート用防せい剤 ■工業用特殊床材
製造元 日曹マスタービルダーズ株式会社
販売元 ポゾリス物産株式会社
本社/東京都港区六本木3-16-26 ☎03-582-8811
大阪営業所/大阪市東区北浜3-7 ☎06-202-3294

デンカCSA デンカセメント
セキサンパイル(S M.AC.PC.RC)
カネライトフォーム.ALC.鋼材
建築材料一式
浜宗産業株式会社
代表取締役 濱岡 浩
本社 〒629-31 京都府竹野郡網野町字網野
TEL (07727)2-2220(代)
舞鶴営業所 〒624 舞鶴市福来160-1
TEL (0773) 76-0133(代)

省エネルギー時代の断熱用シート防水材
日立バイナリーシートP
日立バイナリーシートPは,日立防水シートに発泡ポリエチレンを独自の貼り合わせ技術で積層した,二重構造の断熱兼用二重防水シートです。
日立電線株式會社 本社 東京都千代田区丸の内2丁目1番2号(千代田ビル)

デンカCSAファミリー製品
●デンカCSA ……コンクリートのひびわれ防止に
(膨張性混和材)
●デンカタスコン ……鉄骨ベース、逆打部の充填モルタルに
(グラウト用無収縮材)
●デンカキューデックス ……コンクリート軀体の漏水補修に
(止水・補修用急硬セメント)
●デンカES ……地盤補強用薬液注入
(土質安定用急硬材)
●デンカΣ1000 ……コンクリートパイルの早期出荷とハイモメント製造用に
(製品用超高度混和材)
電気化学工業株式会社
近畿地区販売店
金森藤平商事株式会社
TEL 大阪(06)332-6861
TEL 東京(03)272-8501
光洋物産株式会社
TEL 大阪(06)252-6000
小浦産業株式会社
TEL 大阪(06)443-6181
株式会社 トーゴー
TEL 滋賀・守山(07758)3-2381

発明賞に輝く各種特許235件所有

特許 鈴木シャッター

65年の歴史最高の技術最大の生産

防煙火・防災・防盗

鈴木式防煙火シャッター・リンググリル®シャッター・
ステンレスシャッター・アルミニュームシャッター・
40・ピーアップ®シャッター・汎用シャッター
その他特殊シャッターの製造
アフターサービスの完璧

鈴木シャッター販売株式会社

大阪市北区茶屋町5番2号 電話大阪(06市外局番)371代表4151～6
北陸営業所 金沢市長田町119番地 電話金沢(0762市外局番)65－5135～6
神戸営業所 神戸市長田区大橋8-4-7 電話神戸(078市外局番)611－7971
631－2021

防火・防煙から避難装置まで
建築防災の総合メーカー

豊かな経験
最新の技術

東洋シャッター

東洋シャッター株式会社

本社：大阪市東区両替町1－12 日生ビル ☎(943)6571代表
東京・横浜・盛岡・郡山・水戸・浜松・岡崎・名古屋・富山・大津・京都・堺・神戸・広島・福岡他全国主要都市

建築技術の出版案内

建築構造問題快答集★

同編集部 編

目次構成／1.荷重および外力 2.応力解析 3.基礎構造 4.鉄筋コンクリート造 5.鉄骨造 6.鉄骨鉄筋コンクリート造 7.木構造その他

■A5・430頁 定価3,800円・送料200円

新版 建築工事検査の実際

亀田 泰弘 監修

現場経験の浅い技術者でも工事検査の責任をはたせるよう，現場に即した試験・検査の技術を懇切ていねいに解説した初の工事検査方法指導書。

■上巻 B5・453頁 定価6,000円・送料250円
■下巻 B5・535頁 定価7,000円・送料250円
上下揃(都内送料350円 地方送料500円)

建築工事 失敗の実例にまなぶ

同編集部 編

建築工事で起こりがちな事故や失敗を未然に防ぐための好資料。調査・着工段階から設備工事までの失敗例225例を収録。それぞれの原因と対策を解説した実用書。執筆者55名。

■B5・279頁 定価3,600円・送料200円

溶接読本

井上 博 著

建築設計の実務に携わる著者が過去の貴重な体験をもとに，主として親しみやすさと読みやすさに重点をおいて執筆した設計者と現場マンのためのわかる溶接の入門書。

■B5・149頁 定価2,900円・送料200円

配筋読本

井上 博・北小路 宏 共著

納まりやすく施工しやすい配筋を旨として基礎，スラブ，壁と順を追って配筋方法を示すとともに，配筋検査で見られる欠陥について正しい手直し方法を優先順位に解説。

■B5・162頁 定価3,200円・送料200円

改訂 最新場所打ぐい工法

北中 克己 著

工期と工費を狂わせ，くい性能をも大きく左右するトラブルの数々――それらの実例や現実的な対応策，設計および施工管理のポイントを的確に示した異色の書。

■A5・325頁 定価3,500円・送料200円

月刊 建築技術

建設省建築研究所 監修

昭和55年 No.348 8月号の内容 定価 ¥780

●流動化コンクリートの施工
(戸田建設)毛見 虎雄ほか

●ダニの発生現状と建物との関係
(熊本大学)野田 和之

●海外における建築保全の動向
(電電公社)猪瀬 善文

●6～8階建壁式構造の設計要領
(住宅公団)荒川総一郎ほか

●建築企画：マンション(上)
(企画協会)福田禮一郎

●わかる設備(3)
(設計事務所)井上 博

●構造設計メモランダム(6)
(日建設計)堀井 昌博ほか

建築経済統計図表●フォトニュース●トピックス●建築家の良識●読者コーナー●海外の話題●建材の動向 その他

直接購読ご希望の場合年間予約金 ¥9,360(送料共)

全国書店18日一斉発売！ 最寄りの書店にご注文下さい。

〒160 東京都新宿区北新宿1-8-1 中島ビル8F 有限会社 建築技術 振替口座 東京0-72417番 ☎東京(363)4211(代)

設備合理化に貢献する

SK式グリーストラップ

（ステンレス製）

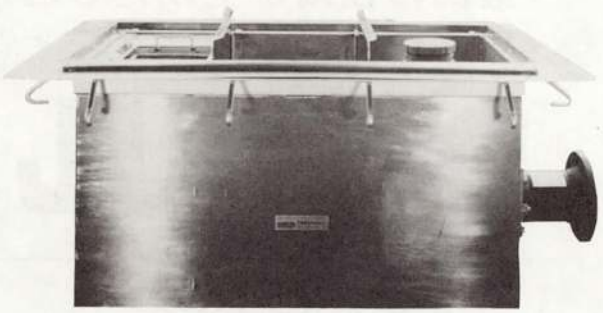


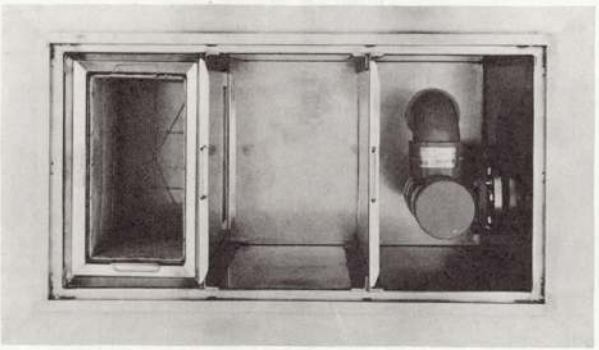
厨房の汚水に含まれているグリース分は配管設備を著しく損傷します。したがって損傷を防ぐには配管設備の手前において阻集するのが配管設備を長く使用するコツです。SK式グリーストラップはこのグリースを阻集するばかりでなくトラップ・マンホール・受カゴ・スライド板・排水管（フレキシブルジョイント）に至るまでセットになっていますので突貫工事にも充分間に合います。又、従来の鋳鉄製・鉄筋防水モルタル製のものは重量的にみても取付日数がかかり大幅な人件費が必要ですが、SK式グリーストラップは軽量で簡単に取り付けができ、据付費が大幅に低減されます。又、残渣は受カゴで取り除き、トラップ本体はスライド板により仕切ってあります。これを取り外す事により清掃が簡単にできます。特に各部品が腐食しないので大変衛生的です。又、サイズが豊富にありますからお店の大きさ、種類に合わせて無駄なく選定でき大変経済的です。

弊社は日本で初めてグリーストラップの規格化を図り既に全国的に発売致しております。

これらの製品は設計事務所・建設業社・設備業社を始め各方面から多くの引合を頂き、弊社もたゆまぬ研究を続けております。又、規格品の在庫も多く持ち皆様の需要にお答えしております。尚、規格外の製作も致しております。

SK-100S標準型





SK型：1層式(桝)／2層式／3層式／床置式／土間用

●実用新案特許　第1196331号

《おもな納入実績》

札幌全日空ホテル／札幌グランドホテル／厚別副都心商業センター／青森グランドホテル／仙台ターミナルビル／新潟新堀地下街／新東京国際空港／筑波学園都市／津田沼北口再開発／東武デパート／迎賓館／第一ホテル／三井物産大手町ビル／安田火災海上新本社ビル／野村不動産新宿ビル／新宿センタービル／池袋サンシャインシティ／西武デパート浜松／豊橋ファミリープラザ／名古屋ターミナルビル／千里レジャーセンター／吉本ダイヤビル／阪急グランドビル／大阪駅前市街地改造ビル／国鉄吹田駅前市街市再開発ビル／三宮市街地再開発ビルA棟／広島ステーションビル／鳥取一番館／高松ワシントンホテル／徳島大学／平和会館新博都ビル／西日本新聞渡辺ビル／福岡天神地下街／沖縄西武オリオンホテル／他

《営業品目》

SK式グリーストラップ／SK式ガソリントラップ／雨排水トラップ／散水栓ボックス／バルブボックス／他ステンレス製品加工全般

設　計・製　作・販　売

※カタログ・資料ご希望の方は大阪営業所へご一報下さい。

SHIMODA

製造発売元

下田機工株式会社

大阪営業所／〒532 大阪市淀川区西中島4－5－9(浅井ビル)　☎ 06(304)5481㈹

本　　社／〒130 東京都墨田区東駒形4－6－9(和幸ビル)

特許・耐酸被覆鋼板
耐久建築屋根・外壁材料

オリエンタルメタル

錆びない！ われない！ 燃えない！

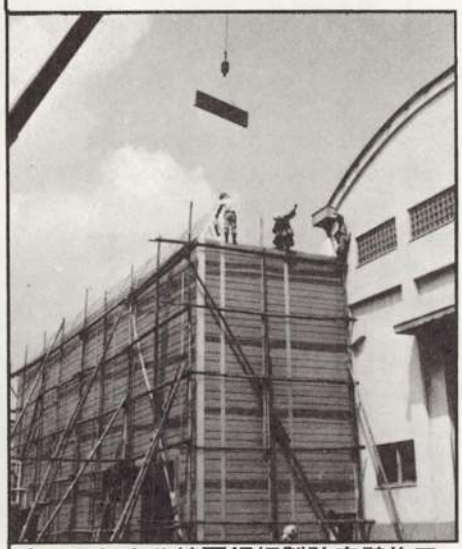
長尺物・色彩豊富・責任施工

品　種
- オリエンタルカラースーパーメタル(CSPM)
- オリエンタルスーパーメタル(SPM)
- オリエンタルメタル(OPM)
- オリエンタルスチールライト(STL)
- オリエンタルサンセラム(SS)

波板規格　S小波・S大波・V波・ボックス波・Wジャンボ波・Vデッキ
SVジャンボ波・其の他

用　途　平板・波板・棟包・雨押類・谷樋・竪樋・軒樋
各種換気装置〔モニター・ベンチレーター・ムーバー・エキゾスター(強制)〕
ホーンタイト(防音壁)・スチールシングル・其の他

※ カタログを御請求下さい


オリエンタル被覆鋼板製防音壁施工

オリエンタルメタル製造株式会社

大阪本社　〒660　尼崎市昭和南通り3－26　松本ビル　電話大阪(06)412－5131(代)
営業本部　〒660　尼崎市長洲稲川新田44　電話大阪(06)488－1081(代)
支店及工場　大阪・九州・名古屋・広島・東条・刈谷
姫路(東洋建材工業．株)
東京本社及工場　〒335　蕨市塚越5丁目6番32号　電話 蕨(0484)42－3115(代)
支店及工場　東北

建築に新しい時代を拓く内・外壁材！

旭化成建材 ヘーベルライト®

- 年中快適
- クラックが入らない
- 耐火パネル
- 工期の短縮化


◀ヘーベルライト使用木造住宅
(大阪府高石市・G邸)

最高の技術が生みだした
新しい素材

ヘーベル

ZONOLITE

■吸音吹付化粧材
耐火・防火・断熱・結露防止

ゾノライト

プラスター(PA)
モルタル(MA)
コンクリート(EA)
モノコート(MK)

(法定防火材・建設省認定・基材同等第0003号)

(株)新興建材工業所

〒550 大阪市西区南堀江4－32－11　☎(06)538－2951(代)
責任施工　工事部　直通☎(06)541－5755
(建設業　大阪府知事許可《般－52》第20210号)

明石支店 〒673　明石市西新町2-12-14　☎078(922)0007(代)
高槻営業所 〒569　高槻市宮田町2-1-29　☎0726(96)2889
中国営業所 〒742　柳井市宮本浜(柳井総合卸センター内)
☎08202(2)5211

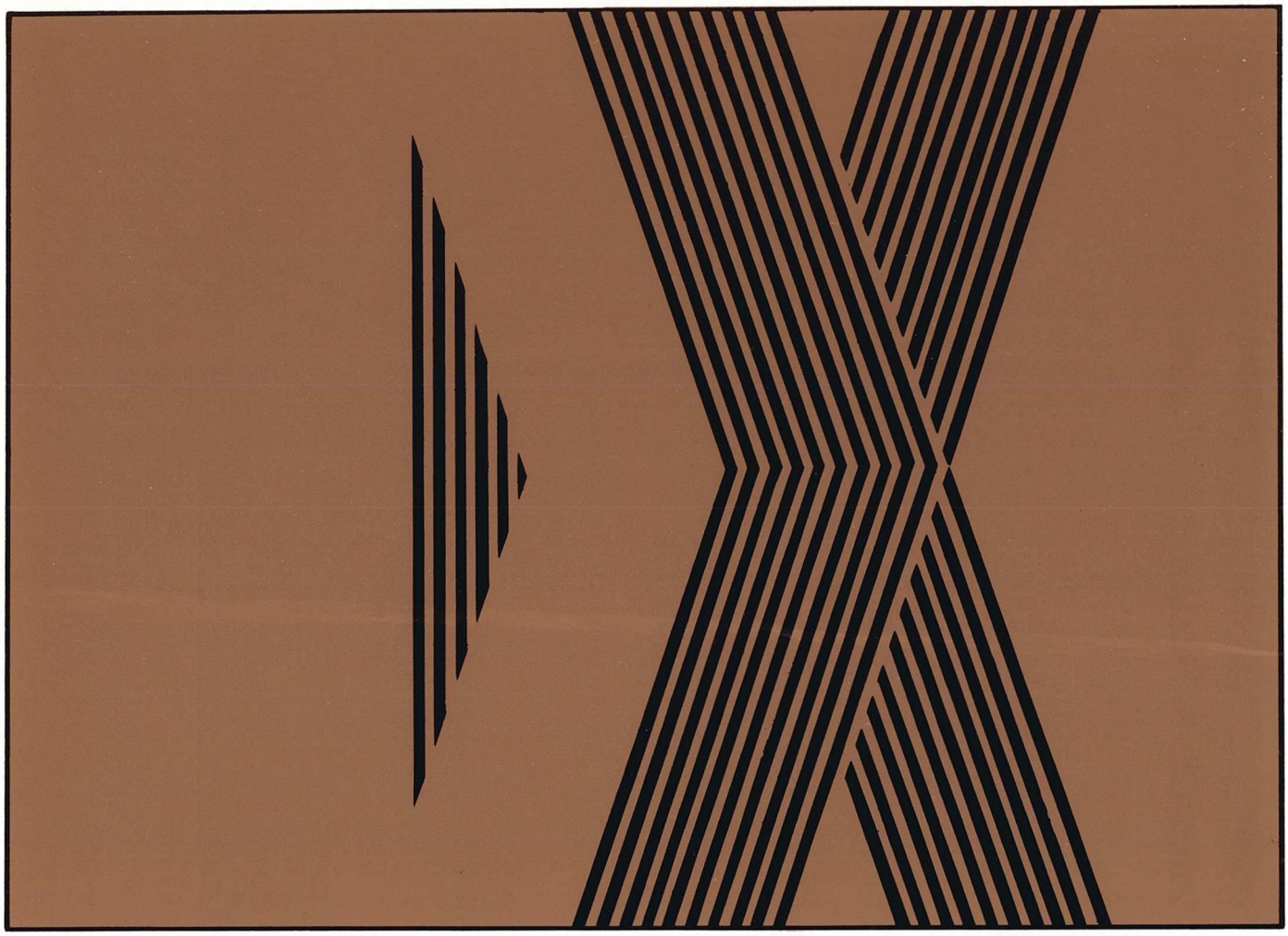
今日のくらしをささえ
明日をひらくエネルギー
――原子力発電



美浜原子力発電所

関西電力

建築と社会　第61輯第7号
昭和55年7月25日発行（毎月1回25日発行）
昭和24年3月19日第3種郵便物認可
社団法人　日本建築協会　〒541　大阪市東区北浜3　37　電話大阪06(231)9648・9649・9640　振替口座大阪三九九七五番
（表紙デザイン・楠田一夫）
定価七五〇円



既設防水層の改修に最適!!

プレノコートDX防水工法

常温ゴムアスファルト塗膜防水

プレノコートDX防水工法とは……

- ●安全・無公害の常温工法です。
- ●合成繊維を基材とした分厚い本格的なゴムアスファルト塗膜防水工法です。
- ●硬化剤の使用により、強制造膜ができます。
- ●既設防水層の補修用に適しています。
- ●通常使用範囲内での低温脆化、高温流動がありません。

マルエス S 日新
日新工業
日新工業株式会社
本社・東京営業所 ■ 東京都足立区千住東2-23-4 ☎ (882)2424(代表)
大阪支店 ■ 大阪市西区新町1－12－22 ☎ 06(533)3191(代表)
営業所 ■ 九州 ☎ 092(451)1095 ■ 名古屋 ☎ 052(741)6257
■ 札幌 ☎ 011(281)6328
出張所 ■ 広島 ☎ 0822(21)1019 ■ 仙台 ☎ 0222(63)0315
工場 ■ 埼玉 ■ 山形 ■ 北海道